・・・目　　次・・・

（３月８日）

告　　示 …… 1
応 招 議 員 …… 1
議 事 日 程 …… 3
本日の会議に付した事件 …… 4
出 席 議 員 …… 5
欠 席 議 員 …… 6
議会事務局職員出席者 …… 6
説明のために出席した者 …… 6
開会、開議宣告 …… 7
会議録署名議員の指名 …… 7
会期の決定 …… 7
議長の諸般の報告 …… 7
市長の行政報告 …… 7
市長の施政方針説明 …… １３
厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査報告 …… ２５
産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告 …… ２９
国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告 …… ３０
長崎県病院企業団議会議員の報告 …… ３１
長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告 …… ３３
陳情第５号 …… ３５
議案第３号 …… ３７
議案第４号 …… ５２
議案第５号 …… ５２
議案第６号 …… ５２
議案第７号 …… ５２
議案第８号 …… ５２
議案第９号 …… ５２
議案第１０号 …… ５２
議案第１１号 …… ５２

議案第１２号 …… ５２
議案第１３号 …… ６０
同意第１号 …… ６４
同意第２号 …… ６５
同意第３号 …… ６５
同意第４号 …… ６５
同意第５号 …… ６５
同意第６号 …… ６６
同意第７号 …… ６６
散　会 …… ６７

（３月９日）

議　事　日　程 …… ６９
本日の会議に付した事件 …… ７１
出　席　議　員 …… ７２
欠　席　議　員 …… ７３
議会事務局職員出席者 …… ７３
説明のために出席した者 …… ７３
開議宣告 …… ７４
議案第１４号 …… ７４
議案第１５号 …… ７４
議案第１６号 …… ７４
議案第１７号 …… ７４
議案第１８号 …… ７４
議案第１９号 …… ７４
議案第２０号 …… ７４
議案第２１号 …… ７４
議案第２２号 …… ７４
議案第２３号 …… ７４
議案第２４号 …… ７４
議案第２５号 …… ７４
議案第２６号 …… ７４

議案第２７号 …… ８８
議案第２８号 …… ８８
議案第２９号 …… ８８
議案第３０号 …… ８８
議案第３１号 …… ８８
議案第３２号 …… ８８
議案第３３号 …… ８８
議案第３４号 …… ８８
議案第３５号 …… ８８
議案第３６号 …… ８８
議案第３７号 …… ８８
議案第３８号 …… ８８
議案第３９号 …… ８８
議案第４０号 …… ８８
議案第４１号 …… ８８
議案第４２号 …… １１０
議案第４９号 …… １１０
議案第５０号 …… １１０
議案第４３号 …… １１２
議案第４４号 …… １１３
議案第４５号 …… １１３
議案第４６号 …… １１３
議案第４７号 …… １１５
議案第４８号 …… １１６
議案第５１号 …… １１７
議案第５２号 …… １１８
議案第５３号 …… １１８
議案第５４号 …… １１８
議案第５５号 …… １２０
議案第５６号 …… １２０
議案第５７号 …… １２０
議案第５８号 …… １２０

議案第５９号 …… １２０
議案第６０号 …… １２０
議案第６１号 …… １２０
陳情第１号 …… １２３
散　会 …… １２３

（３月１１日）

議　事　日　程 …… １２５
本日の会議に付した事件 …… １２５
出　席　議　員 …… １２５
欠　席　議　員 …… １２５
議会事務局職員出席者 …… １２５
説明のために出席した者 …… １２６
開議宣告 …… １２６
　市政一般質問 …… １２７
　　１８番　大部　初幸君 …… １２７
　　１番　脇本　啓喜君 …… １３７
　　６番　松本　暦幸君 …… １４８
散　会 …… １５８

（３月１２日）

議　事　日　程 …… １５９
本日の会議に付した事件 …… １５９
出　席　議　員 …… １５９
欠　席　議　員 …… １５９
議会事務局職員出席者 …… １５９
説明のために出席した者 …… １６０
開議宣告 …… １６０
　市政一般質問 …… １６１
　　２０番　中原　康博君 …… １６１
　　１２番　三山　幸男君 …… １７３
　　１０番　小宮　教義君 …… １８５

２番　黒田　昭雄君 …… １９９
１６番　大浦　孝司君 …… ２１１
散　会 …… ２２１

（３月２４日）

議　事　日　程 …… ２２３
本日の会議に付した事件 …… ２２４
出　席　議　員 …… ２２６
欠　席　議　員 …… ２２６
議会事務局職員出席者 …… ２２６
説明のために出席した者 …… ２２６
開議宣告 …… ２２７
対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告 …… ２２７
議案第１３号 …… ２２８
議案第３号・第２１号・第２３号・第４２号・第４９号・第５０号・第４３号～第４５号・第４７号 …… ２３１
議案第３号・第１４号～第２０号 …… ２３６
議案第３号・第２２号・第２４号～第２６号・第４６号・第４８号 …… ２３９
陳情第１号 …… ２４３
議案第６２号 …… ２４４
議案第６３号 …… ２４５
同意第８号 …… ２４６
発議第１号 …… ２４７
発議第２号 …… ２４９
発議第３号 …… ２５１
常任委員会の閉会中の所管事務調査について …… ２５８
発議第４号 …… ２５８
閉　会 …… ２６１
署　名 …… ２６２

対馬市告示第10号

平成22年第１回対馬市議会定例会を次のとおり招集する

平成22年２月26日

市長　財部　能成

１　期　日　　平成22年３月８日

２　場　所　　対馬市議会議場

○開会日に応招した議員

脇本　啓喜君	黒田　昭雄君
小田　昭人君	長　　信義君
山本　輝昭君	松本　暦幸君
齋藤　久光君	堀江　政武君
小宮　教義君	阿比留光雄君
三山　幸男君	初村　久藏君
糸瀬　一彦君	桐谷　　徹君
大浦　孝司君	小川　廣康君
大部　初幸君	兵頭　　栄君
中原　康博君	島居　邦嗣君
作元　義文君	

○３月９日に応招した議員

○３月11日に応招した議員

○３月12日に応招した議員

○３月24日に応招した議員

○３月８日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君

○３月９日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君

○３月11日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君

○３月12日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君　　桐谷　　徹君

○３月24日に応招しなかった議員

阿比留梅仁君

平成22年　第1回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第１日）

平成22年３月８日（月曜日）

議事日程（第１号）

平成22年３月８日　午前10時00分開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　市長の施政方針説明

日程第６　厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第７　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第８　国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告

日程第９　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第10　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第11　陳情第５号　永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める陳情について（総務文教常任委員会付託の閉会中の継続審査）

日程第12　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

日程第13　議案第４号　平成２１年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）

日程第14　議案第５号　平成２１年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第15　議案第６号　平成２１年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）

日程第16　議案第７号　平成２１年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第17　議案第８号　平成２１年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）

日程第18　議案第９号　平成２１年度対馬市公共用地先行取得特別会計補正予算（第１号）

日程第19　議案第10号　平成２１年度対馬市風力発電事業特別会計補正予算（第１号）

日程第20　議案第11号　平成２１年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第４号）

日程第21　議案第12号　平成２１年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）

日程第22　議案第13号　平成２２年度対馬市一般会計予算

日程第23　同意第１号　対馬市教育委員会委員の任命について

日程第24　同意第２号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第25　同意第３号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第26　同意第４号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第27　同意第５号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第28　同意第６号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について

日程第29　同意第７号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　議長の諸般報告

日程第４　市長の行政報告

日程第５　市長の施政方針説明

日程第６　厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第７　産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

日程第８　国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告

日程第９　長崎県病院企業団議会議員の報告

日程第10　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

日程第11　陳情第５号　永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める陳情について（総務文教常任委員会付託の閉会中の継続審査）

日程第12　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

日程第13　議案第４号　平成２１年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）

日程第14　議案第５号　平成２１年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第15　議案第６号　平成２１年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）

日程第16　議案第７号　平成２１年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第３号）
日程第17　議案第８号　平成２１年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）
日程第18　議案第９号　平成２１年度対馬市公共用地先行取得特別会計補正予算（第１号）
日程第19　議案第10号　平成２１年度対馬市風力発電事業特別会計補正予算（第１号）
日程第20　議案第11号　平成２１年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第４号）
日程第21　議案第12号　平成２１年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）
日程第22　議案第13号　平成２２年度対馬市一般会計予算
日程第23　同意第１号　対馬市教育委員会委員の任命について
日程第24　同意第２号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について
日程第25　同意第３号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について
日程第26　同意第４号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について
日程第27　同意第５号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について
日程第28　同意第６号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について
日程第29　同意第７号　対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について

出席議員（21名）

１番　脇本　啓喜君	２番　黒田　昭雄君
３番　小田　昭人君	４番　長　　信義君
５番　山本　輝昭君	６番　松本　暦幸君
８番　齋藤　久光君	９番　堀江　政武君
10番　小宮　教義君	11番　阿比留光雄君
12番　三山　幸男君	13番　初村　久藏君
14番　糸瀬　一彦君	15番　桐谷　　徹君
16番　大浦　孝司君	17番　小川　廣康君
18番　大部　初幸君	19番　兵頭　　栄君
20番　中原　康博君	21番　島居　邦嗣君
22番　作元　義文君	

欠席議員（１名）

７番　阿比留梅仁君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	橘　清治君	次長	渋江　雄司君
参事兼課長補佐	長野　元久君	副参事兼係長	國分　幸和君

説明のため出席した者の職氏名

市長 …… 財部　能成君

副市長 …… 大浦　義光君

副市長 …… 齋藤　勝行君

政策補佐官 …… 松原　敬行君

地域再生推進本部長 …… 永尾　榮啓君

観光物産推進本部長 …… 本石健一郎君

総務企画部長 …… 平山　秀樹君

総務課長 …… 桐谷　雅宣君

市民生活部長 …… 近藤　義則君

福祉保健部長 …… 扇　　照幸君

農林水産部長 …… 比田勝尚喜君

建設部長 …… 斉藤　正敏君

水道局長 …… 阿比留　誠君

教育部長 …… 大石　邦一君

美津島地域活性化センター部長 …… 長郷　泰二君

豊玉地域活性化センター部長 …… 中村　敏明君

峰地域活性化センター部長 …… 大川　昭敬君

上県地域活性化センター部長 …… 武田　延幸君

上対馬地域活性化センター部長 …… 川本　治源君

消防長 …… 阿比留　健君

会計管理者 …… 糸瀬　良久君

監査委員事務局長 …… 主藤　繁明君

農業委員会事務局長 …… 永留　秋廣君

―――――――――――――――――――――――――――――――――

午前10時00分開会

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。阿比留梅仁君より体調不良のため欠席の届け出があっております。

ただいまから平成２２年第１回対馬市議会定例会を開会いたします。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（作元　義文君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第８１条の規定によって、小田昭人君及び長信義君を指名します。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第２．会期の決定

○議長（作元　義文君）　日程第２、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、お手元に配付いたしております会期日程案のとおり、本日から３月２４日までの１７日間とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は、本日から３月２４日までの１７日間に決定しました。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第３．議長の諸般報告

○議長（作元　義文君）　諸般の報告。日程第３、議長の諸般の報告を行います。

諸般の報告は、お手元に配付のとおりであります。

以上で諸般の報告を終わります。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第４．市長の行政報告

○議長（作元　義文君）　日程第４、市長の行政報告を行います。

市長から行政報告の申し出があっておりますので、これを許します。市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　おはようございます。本日、ここに平成２２年第１回対馬市議会定例会を招集しましたところ、議員の皆様には御健勝にて御出席賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本定例会において御審議願います案件は、平成２１年度一般会計補正予算等１０件、平成２２年度一般会計予算等１４件、条例の廃止、制定及び一部改正２０件、辺地に係る公共的施

設の総合的な整備計画１件、指定管理者の指定１件、市有財産の無償譲渡及び貸しつけ２件、公有水面の埋め立て１件、市道の認定及び廃止７件、長崎県市町村総合事務組合等の規約変更３件、同意７件、合わせて６６件の案件について、御審議をお願いするものでございます。

内容につきましては、後ほど担当部長等に説明させたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

審議に先立ち、１２月定例会以降の主な事項につきまして、概略御報告申し上げます。

まず地域再生推進本部関係でございます。

長崎県離島基幹航路の運賃低廉化対策についてでありますが、長崎県離島基幹航路であります博多壱岐対馬航路については、平成２２年１月からフェリー及びジェットフォイルの運賃に新たな割引制度が適用され、運航されています。また、国県の補助航路である比田勝博多航路においては、対馬市の単独補助事業として同様の割引制度を実施しています。

本年２月１５日までの利用実績は、博多壱岐対馬航路で、特定疾患割引、後期高齢者割引の福祉関係で１３１名、学生割引の教育関係で２３４名、身体障害者の自動車航送割引で１名の計３６６名であり、博多比田勝航路では、福祉関係で２７名、教育関係で２名の計２９名の利用となっています。

平成２２年度以降につきましては、長崎県離島基幹航路運賃低廉化協議会において、アンケート調査や各航路の利用実績等をもとに、今回の割引制度を検証し、継続の方向で内容を検討することとなっております。

壱岐対馬航路公共交通総合連携事業についてであります。

壱岐対馬航路活性化協議会では、利用者ニーズに配慮した運行ダイヤの見直し及び壱岐対馬が連携した観光客の航路利用を促進する新たな観光ルートの形成に向け、関係機関と連携して事業の推進を図っているところであります。本年１月２６日に開催した壱岐対馬航路活性化協議会の開会前に、壱岐市と対馬市の観光協会長が、観光力向上宣言書を、両市長立ち会いのもと署名が行われました。

また本年２月１６日からの２泊３日の日程で、関東関西等の旅行会社のエージェントを招き、「古代史ぎっしり」壱岐と、「大陸の窓口」対馬のモニターツアーを実施したところであります。

平成２２年度事業として、博多壱岐対馬航路のジェットフォイルの博多港早着と比田勝港延伸のダイヤ（案）が了承され、本年６月２６日から７月１６日の２１日間、実証実験の運航を行うこととしています。

対馬空港の運用時間の変更と、対馬長崎便の一部運休についてであります。

平成２１年１２月２５日に国土交通省航空局から報道発表があっておりますが、本年４月１日から対馬空港の運用時間が変更となり、現行の午前８時から午後７時３０分までが、午前７時

３０分から午後８時３０分と、午前３０分、午後１時間の延長となり、トータル１３時間の運用となる予定であります。また運用時間の延長に伴い、本年４月１日からオリエンタルエアブリッジ、対馬長崎線の運航時間が変更になる予定であります。

なお、使用機材の法定定期点検に伴い、本年４月１４日から１０月１５日までの間に７０日間の一部運休が予定されており、１日２往復のダイヤとなる見込みとなっております。

国際チャーター便の運航状況についてでありますが、平成２１年7月２１日から対馬と韓国大邱間の運航を開始いたしましたコリア・エクスプレス・エアーは、平成２１年１０月９日から路線を、対馬と韓国金浦間に変更し、現在まで運行を継続いたしております。昨年１２月末までの運航便数は１０２便、利用者数は６６８名となっており、搭乗率は概算で３６．４％でございます。

なお、国際チャーター便の継続に伴い、入出国審査場の整備や待合室の改修など、対馬空港第一ビルの改修が、対馬空港ターミナルビル株式会社により行われております。

次に、構造改革特区の提案についてであります。

ジェットフォイルによる比田勝博多航路は、平成２０年１１月、利用者の減少や燃油価格の高騰により、繁忙期（５月の連休、盆、年末年始）、この繁忙期を除き、運休となっており、運航再開の見込みが立っていない状況であります。

このようなことから、比田勝港の沿岸を航行し、博多港から釜山港を結ぶＪＲ高速船の活用についても視野に置きながら検討すべく、比田勝港寄港に係る問題点、課題等の整理を行い、国際航路に国内航路利用客が混乗するための法的規制の特例措置を受けることができるような特区提案を平成２１年１１月１２日に内閣府に行ったところであります。

対馬市の提案を受けまして、関係省庁（税関、入国管理所、動植物検疫、厚生労働省の検疫所）からの回答が、平成２２年1月１２日までにありました。

今回の提案に対しまして、農林水産省からの回答を除き、財務省、法務省、厚生労働省からの回答では、国内、国外の旅客船利用者の接触を遮断する方法を行いましても、寄港地、すなわち比田勝港における入出国手続及び検査等の緩和、免除を行うことは適当でなく、特区提案として受け入れることは困難であるとの回答がありました。

理由といたしまして、船舶及び乗下船方法の変更を行いましても、国内と国際航路利用者の接触を遮断し、旅客や乗組員による密輸品等の受け渡し、隠匿行為、検疫感染症の空気感染など完全に阻止し、確実に担保することは実務上不可能であるとの判断から、特区としての対応は不可能であるとの回答がございました。

この国際線航路の比田勝港寄港につきましては、移動距離や時間を考えますと、対馬北部の生活を支える上で重要な交通手段であると認識しており、今後も国際線航路事業者の意向や長崎県、

ＣＩＱなどの関係機関とも協議しながら、対馬北部の方々が乗船できないものか研究していくこととしております。

次に、観光物産推進本部関係で、国際交流事業関係についてであります。

１３回目を迎えます対馬市・影島区行政セミナーについて、昨年１２月９日から１１日の日程で、「生涯学習」をテーマに、釜山広域市影島区において実施をいたしました。対馬市から１０名、影島区から１３名の参加交流が行われ、生涯学習施策について相互に理解を図ることができました。

次に、ホームステイ事業ですが、本年１月２５日から２月１日の１週間にわたり、ソウルの韓国航空専門学校から１３名の学生を迎え、実施をいたしました。日本文化の体験学習を取り入れながら、対馬の受け入れ先の御家庭の皆様に御協力をいただき、国際交流の輪を広げていただきました。

また国際交流推進事業の一つとして、観光物産推進本部及び上対馬観光物産事務所に国際交流員をそれぞれ１名ずつ配置しております。１２月以降の業務として、出張講義「韓国語講座」を９カ所開設したほか、ホームステイ事業での通訳及び翻訳等の業務を行い、市民の皆様に国際交流への理解を広く啓蒙できたと思っております。

また嬉しい一報が入りました。本年２月、朝鮮通信使縁地連絡協議会会長であります松原一征氏が、長年の日韓交流に御尽力いただいたことに対し、韓国政府から民間外国人に授与する最高の勲章、「修交勲章崇禮章」を受章され、日韓友好の橋渡し役として、対馬市民にとってもひとつの誇りを得たように思っている次第です。

物産ＰＲ活動についてであります。

対馬の特産品のＰＲを図るため、「対馬グルメフェア」を本年２月４日から１１日まで開催し、対馬の新鮮な海産物、乾物などを即売いたしました。また１１日には対馬産養殖マグロ「トロの華」の解体、試食会を実施し、盛会のうちに終わることができました。あわせて補助事業を有効に活用し、ラジオ・テレビ等にＰＲをかけ、対馬の観光、物産のＰＲが十分実施できたと思っております。

同時に新商品の売り込みを図り、「対馬せん」でできた麺を「孝行麺」の商品名で、対馬ソバと同時に試食、即売会を実施し、モニタリング調査を行うことで、今後の特産品として推奨できるよう検証を図っております。

次に、観光事業についてであります。

ふるさと財団「ｅ資源活用事業」の一環として、本年１月７日、交流センターにおいて、「らしさを活かした地域力の創造」をテーマに、観光をてこにした地域振興力と、観光育成の手順についての講演会を開催し、対馬らしさを生かした観光力資源の活用を図るなど、有意義な講演会

を実施することができました。

さらに、ふるさと財団と商工関係者との懇談会では、対馬の特性を生かした振興策について懇談会が持たれ、今後の対馬の振興発展策に一石を投じていただきました。

そのほか、対馬観光を、韓国だけではなく日本国内のエージェントにも売り込みを実施し、対馬の自然を生かした観光ＰＲを行いました。トレッキング・シーカヤック等を取り入れた観光プログラムを、関東・関西地区へ積極的に売り込みを図りました。あわせて、対馬のよさを理解いただくため、体験型モニタリングツアーを実施し、対馬観光の再発見を図っているところでございます。

上対馬観光物産事務所の事業では、北部地区のトレッキングコース整備として、比田勝八十八カ所巡りコース、西泊の権現山から殿崎コースの整備を始めているところでございます。

次に、海山交流宣言の調印についてであります。

昨年１２月１３日、熊本県山江村において、山江村との間で海の幸と山の幸、お互いの特産品を交流の架け橋に、地域間交流を目的として「海山交流宣言」の調印を交わしました。この調印は、九州内陸部の山江村が「物産館ゆっくり」のリニューアルにあわせ、対馬コーナーを常設し、対馬の海産物を販売することで物産館への集客の起爆剤となることを期待されたものであります。

また四方を海に囲まれた対馬市が、単に「物産館ゆっくり」内で、対馬市の海産物を販売するのではなく、物産交流を機に、人や文化を通してお互いの魅力や価値を高め、そして自然体の交流が地域活性化につながればと期待しております。

なお、その後、アジ、サバ、スルメ等の水産加工品をメインに受注があっており、徐々に人、物の交流が広がりつつあります。

次に、福祉保健部関係でございます。

対馬食エコフェスタの開催についてでありますが、本年１月１７日、「シャインドームみね」において、地産地消をテーマとした「対馬食エコフェスタ」が開催されました。このフェスタは食育の理解を関心を深めることとあわせて、地球温暖化防止を図ることを目的に、対馬市保健環境連合会、対馬市食育推進協議会、それに対馬市保健所地区協議会が合同で主催したもので、およそ６００人を超える方々が参加されました。

西部中学校の生徒による勇壮な海神太鼓で幕をあけ、午前中、舞台では地もん料理コンクールの表彰、「対馬の地産地消を考える」を題材としたパネルディスカッション、午後からは環境衛生課が中心となり、ＥＭ菌の活動事例発表、元気野菜コンテストなど多彩な催しが行われました。パネルディスカッションにおいては、市議会を代表して、産業建設常任委員長にもパネラーとして御参加いただきました。

同じく午後、室内では、市内２０団体からのブースの展示、また室外では農林水産物を販売す

る「軽トラ市」、「鮮魚即売会」、イノシシ肉を使った「カレー販売」と地もんを使った食材の数々に多くの人が詰め掛けました。「食育と環境」という難しいテーマであったにもかかわらず、これだけ盛況のうちに開催できましたことは、恵まれた天候とあわせ、主婦層を中心とする数多くの団体から御協力、御支援をいただいた賜物であります。

参加者からは、よいイベントだったとの声も多く、今後「環境王国」を推進していく上でも満足できるフェスティバルであったとの印象を持ちました。これからもさまざまな分野にこの効果が波及するものと期待をしております。

次に、農林水産部であります。

森里海連環シンポジウムの開催についてでありますが、この１月２３日に「対馬から林業再生を考える」と題して、森里海連環境シンポジウムを開催いたしました。来賓に山田農林副大臣を初め、島田林野庁長官、沖九州森林管理局長ほか多数出席のもと、９３５人という交流センター始まって以来の来場者数を記録し、また多くの女性の方々にも参加いただきました。

内容は、Ｃ・Ｗニコル氏の「サケが森をつくっていた―森里海連環の気づき―」と題しての基調講演の後、５人の方々にそれぞれの立場から林業再生についての貴重な講演がありました。

これを今後の対馬における林業再生のきっかけとし、自然環境との調和を実践すれば、そのことによって農林水産業振興ができるものと期待をしております。

次に、消防本部関係でございます。

小型動力ポンプ等の配備について。消防設備の配備については、小型動力ポンプを５台、小型動力ポンプ積載用軽トラックを２台、消防ホース２００本を購入し、各分団へ配備いたしました。

消防ホースにつきましては、島内９５個分団に１３５台の車輌を配備しておりまして、消防車輌の装備の標準化を測ったものでございます。これにより、消防団の士気も一層高まり、地域住民の皆さんにもさらに安心していただけるものと思っております。

このページには記載をしておりませんけども、実は昨日、長崎県との共催により、男女共同参画フェスタが昨日１３時から１７時にかけまして行いました。

約１８０名の参加をいただき、関西のほうから男の家事の料理研究家、吉田先生を招いて講演をいただいた後、市民劇団が初めての講演を行ったところであります。

市民が脚本を書いた「絆」という演目を劇団員が演じたわけでございますが、会場内には静かなる感動にひたっていたのではないかというふうに思っております。新たに対馬におけるソフトパワーを構築することも大事だというふうに思いましたし、また男女共同参画社会構築に向けて、今後も頑張っていきたいというふうに思っております。

以上で、行政報告を終わらせていただきます。

○議長（作元　義文君）　以上で、行政報告を終わります。

市長の施政方針について、訂正の申し出があっております。各議員へ配付しております訂正箇所の正誤表のとおり、議長が訂正の許可をいたしております。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第５．市長の施政方針説明

○議長（作元　義文君）　日程第５、市長の施政方針説明を議題とします。

市長の説明を求めます。市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　平成２２年度の一般会計予算及び特別会計予算の御審議をお願いするに当たり、予算編成方針とその概要を御説明申し上げ、市政運営につきまして所信を申し述べます。

私は、２２年度の対馬振興のキーワード、生き残り策のキーワードは、都市との「隔たり差の顕在化」だと考えております。

私は実体験として都会の殺伐とした雑踏の中を歩むにつけ、今まで以上に対馬のよさを感じています。そのような中、昨年末より取り組んでいる環境という分野は、最も際立った切り口だと認識しています。

この２年間、出張の際に、移動中のバスや電車の車窓から、高速道路のインターチェンジ付近に幾つも幾つも林立する工場の屋根を眺めてきました。今の世界的な不況の中、回復基調を見せない日本のデフレ不況のことを差し引いても、対馬が１００キロ以上九州本土と離れていても、陸続きであるならば、市民の皆さんが待ち望んでいらっしゃる大量雇用が可能な工場の誘致も可能なのだがと歯ぎしりをする思いで車窓から流れていく風景を悔しく眺めてきました。しかし、地勢的なことを悔やんでも何も始まりません。先人たちはこの環境のもとで懸命に対馬を輝かせるために歯を食いしばってきたのです。

平成２２年度の１年間も、この苦しい状況が一気に好転するとは、国レベルの経済状況を評する専門家たちの口から発せられることはありません。

かつての論調では、ある意味、国が組み立てる予算の伸びや設備投資減税などの施策が経済のパイを大きくすると信じられていましたが、その政策手法も今の時代に有効に機能しなくなりました。そうなると、国にもっぱら依存してきた地方の施策はひとり立ちしなくてはいけなくなります。またひとり立ちのスピードを早めなくてはいけない状況も生まれています。

今まさに、新政権与党である民主党は、公共事業依存を脱却するため「コンクリートから人へ」を標榜し、公共事業予算を前代未聞の前年比約８０％という大幅な削減を断行しました。さらに２３年度をめどに、国庫補助金の一括交付金化を目指しています。

対馬のような地方がどのように背伸びしても大東京のようにはなれませんし、対馬がどうあがいても、福岡との距離は縮まりません。ならば、その状況をしっかり受けとめて、身の丈に合った施策を市民とともに展開していく必要があるのです。「身の丈に合った施策展開」こそ「都会

との隔たり差を際立たせること」につながると確信をしています。都会生活と田舎暮らしとの隔差があればあるほど、魅力は倍増するものと考えます。

「隔差」とは「隔たり差」であり、垂直方向ではなく水平方向での距離であり、同列に立つ人間生活の本来あるべき姿の両極に「都会」と「田舎」は位置し、生活の本質的な豊かさのバロメーターとして確立されるものと思っています。

ややもすると「貧しさ」と「田舎」は観念的に同列視されていたかもしれません。「貧しさ」からは市民皆様で力と思いを一緒にして脱する努力は怠りませんが、「田舎」を際立たせることに気づき、あえて努力をしていかなければならないと考えます。

今まさに地方は変わらなければなりません。行政だけが変わるのではなく、市民の意識も変わってもらわねばなりません。地方という「田舎」にとって、今回の国の施策を自立に向けた追い風と考えれば、打つ手はあると考えます。

かつての対馬のことを振り返りますと、島内経済のパイを膨らますことに盲目的に走っていたのではないかと反省せざるを得ない部分があります。その年の「予算の多寡」しか興味なく、公共事業費の伸びだけを論じていたのではないでしょうか。市民の皆さんにお示しする予算書の様式も、国から「省令」として示され、項目の中に「前年度」として額を記入し、前年対比が一目瞭然な様式です。私はこの様式自体が「高度成長時代の残渣」であると考えます。

最近の国政の状況を眺めますと、地方側に対しては国にもだれにも依存しない態勢を早急に構築するよう迫られているのだと切実に感じます。さまざまな事象が地方自治体の周辺には起こっています。ところがいまだに市民の心の中には、難題が降りかかったときや困ったことが起こったときには、国会議員にお願いし、官僚を通じて国を動かせばどうにかなるとの旧来型の手法の範疇を越えていないように感じます。

昨年の政権交代は、この旧来型に対して「NO」を突きつけたことであり、後戻りできない状況を生み出したのです。

人に頼むということは、自然としがらみを生み出します。頼まれたほうは「貸し」が、頼んだほうには「借り」が、自然発生的にわき上がってくるのが人間の本質であり、それもまた政治の一面でもあるとは考えます。しかし、この貸借関係に縛られることをわかった上で、いつまでも旧来の陳情型システムを続けていては、対馬そのものが脱皮できないと思えてなりません。そして、新しい郷土はつくり出せないと考えます。

しかし、新しい郷土の創造には大前提がそこには存在します。それは「対馬が一つになって取り組む」という前提です。陶山訥庵先生が先頭に立って行った「猪追い詰め」のときのような一体感だと思います。

先生は、イノシシに悩まされていた農民を救うため、徳川綱吉が発した生類憐みの令の御時世

にもかかわらず、幕府にはたくみな言い回しで９年の年月を要しながらも８万頭にも上るイノシシをせん滅されました。そのとき、対馬は島民こぞって「猪追い詰め」に参加した。そして島民の執念が実ったのです。島民が一つになって事に当たった結果だったのです。その後は安心して農業が営まれたと伝え聞いています。

まさに対馬が一つになって取り組んだ約３００年前の心が今の時代に再現できるかどうかにかかっているのです。その大前提の素地づくり施策が昨年４月から本格稼動しました「地域マネージャー制度と市民協働」であります。対馬島内に一体感を醸成しなければいけません。

ところで、今の時代は「お金の使われ方」が注目されています。ましてや１カ月ほど前のニュースでは、関東方面のダムの撤去工事が始まったと報じていました。治山ダムの当初建設目的であったダム建設地点後背地の山林がよみがえったので十分に目的は達成した。よって、「撤去決定」をしたそうです。

治山ダムは森林崩壊防止や復活そのものが本来の目的であり、その地域における公共事業関連産業の維持ではないのです。公共事業費を論ずるのではなく、どの分野に地方自治体の成長戦略の基本を設定するのかが論議されるべきであります。そして予算に成長戦略が表現されるべきであるのです。

この島には、全国のどの地域・どの地方と比べても遜色ない、いや勝っている歴史と文化と自然に根差したさまざまな産物がありますが、大量消費や画一化に対応できなかったり、一手間への取り組みが不足したりできなかったりを繰り返してきました。

しかし、今や時代は食材に対する考え方は変わってきています。こだわりや少量容認でかつ安心安全なものをもとめる風潮に一変したと考えます。日を当てられていない隠れたままの地元の品物があるはずです。まだまだ地産の中に見過ごされている資源が眠っているのではないかと思います。それらを掘り起こすのが市民相互の目であり、感覚であります。

そのため、昨年４月から大都市情報の受発信の拠点として福岡事務所を開設し、消費動向や時代の流行をキャッチし、取捨選択して情報を島にフィードバックすることから始め、さらに対馬の認知度を高めるために奮闘してきたところです。

そのような中、昨年からは小規模雇用でも島内の方々から起業家が生まれることが島の活性化につながるとの考えのもと、新規ビジネス応援事業制度を設け、熱い思いで取り組まれる市民、企業化の支援をおこなってきました。

また、喫緊の課題であります雇用問題に対処していくため、ことしも国が昨年から示している制度を、島内事業所のアイデアなどを募りながら、市民にとって有効な雇用が創出できるように最大限の努力をしていきます。

今年度も市民と地域マネージャーとの協働の中から、市民みずからが立ち上がるように支援し

ていく予定であります。そのためには市民、行政、企業、それぞれの責務を明確にするまちづくり基本条例もしくは住民基本条例なるものの整備に着手していかなければならないと考えております。

また、昨年末に認定いただいた「環境王国」という称号の真の確立を目指して、環境という分野の施策展開を重点的に取り組み、対馬の基層財産である自然の保全に努め、効用を高める予定であります。隔絶された島だからこそ、また森林資源も豊富で、生物などの生態系も他地域にはない資源を有しているからこそ取り組みやすく、また効果が見えやすい環境下にあると認識しています。

対馬が変わる大きなチャンスを、世界各国が私たち対馬にプレゼントしてくれているという前向きな考え方で臨みます。

また昨年から取り組んでいます対馬からの観光品などの推奨基準に照らした原産地表示を明確にしながら、トレーサビリティーを確立し、推奨マークと相まって環境王国のエンブレムを冠した産品が市場で注目されるように、市も高い意識で取り組んでいきます。

さらに、対馬の子供たちに地産地消を学校給食の場から体験できるように、生産者と関係機関との協議の場を持ちながら、２２年度中のシステム構築を行うよう努めていきます。

またその動きと連動するように、森林、人里、海の３点をセットで、よりよい環境づくりに取り組んでいきます。また対馬の主たる産業である漁業にとっての森や人里のかかわり方を真剣に考えながら、「対馬市森づくり条例」制定に向け動き出します。

我々大人は、次世代を担う子供らに何を残すか。今現在汗をかいている人たちにどのように支援していけばよいのか。行政が担わねばならない懸案事項は幅広く深いものがあります。しかし、現時点での社会現象すべてにおいて、手詰まり感を感じずにはおれません。

そのような中でも、我々大人には責務が課せられています。それは次の世代にこの対馬をよりよい状況で手渡す責務です。そのために「環境」という切り口からの島の維持や振興が必要であります。次の世代の担い手であるかわいらしい子供らが楽しげな笑い声と笑顔を失わせないようにしなければと考えています。

私は子供たちに対しては、予算編成では「あえて聖域を設けていきたい」と申し上げましたとおり、普通建設事業費等を除いて積み上げますと、昨年度当初予算から今年度当初予算までの間に、金額にして２４億４，５００万円余り計上してきたところであります。すべての要求にこたえることは不可能でありますが、要求額に対して９７％以上を予算化してまいりました。

ところで、特に年末から下島、上島、それぞれで話題を振りまいたツシマヤマネコの生息環境維持のために、民間団体と共同歩調をとる考えであります。また高速道路無料化施策と連動した「海の国道」としての位置づけの中で、交通運輸への国のかかわり方を明確にするべく、全国の

離島に所在するすべての自治体と連携し、積極的な行動を展開していきます。

さらに、周縁部や国境に接した離島が果たしていく国土形成上の存在意義を国民みんなで論議していただくべく、国境離島新法制定の働きかけを議会とともに行っていく考えであります。

新年度予算の編成におきましては、喫緊の諸課題に積極的に取り組む必要があることから、生活者の安心と安全を守り、また雇用創出を目指すための生活対策事業、農林水産業を中心とした地場産業の育成事業、対馬の未来を担う青少年に関する各種事業等につきましては、可能な限り計上したところであります。

以下、対馬市総合計画に定めるまちづくりの目標に沿って編成いたしました平成２２年度予算の内容について御説明申し上げます。

まず国の予算編成においては、貴重な税金の用い方を現在の国民のみならず、未来の国民に対して責任を持つことを掲げ、「コンクリートから人へ」、「新しい公共」、「未来への責任」、「地域主権」、「経済成長と財政規律の両立」という５つの基本理念によって予算を編成することとし、平成２２年度は子育て・雇用・環境・科学・技術に重点を置き、「人間のための経済」を目指し、中長期的に我が国の経済社会が持続的な発展を遂げるために、予算の効率化と財政の健全化を図ることとしております。

そうした中、地方財政においては、地方財政規模の抑制に努めても、引き続き大幅な財源不足の状況にあります。社会保障関係経費は大きく増加する傾向にあり、地方財政の借入金残高は、平成２２年度末には２００兆円と見込まれております。今後その償還負担が高水準で続くところであり、将来の財政運営が圧迫されることが強く懸念されているところであります。

そのため地方公共団体においては、簡素で効率的な行政システムを確立するため、徹底した行財政改革を推進し、歳出の徹底した見直しによる抑制と重点化を進め、歳入面でも自主財源の積極的な確保策を講じるなど、効率的で持続可能な財政への転換が急務であるとされております。

本市におきましても、自主財源である税収は一般会計予算のほぼ1割であり、予算の５０％を占める地方交付税は、合併による優遇措置が合併後１０年間とされていることから、平成２６年度から段階的に減少され、平成３１年度からは一本算定での算出となり、現在での算出方法では約２５％が減額となる見込みであります。

また本市の実質公債比率は、平成２０年度決算では、地方債の発行に際し、知事の許可が必要とされる１８％を下回り、１７．０％になったものの、一般会計予算の地方債残高は、平成２１年度末見込みで５６０億円を超し、類似団体と比較しても非常に多い状況であり、将来に向けた中長期的な取り組みが必要となっております。

このような状況を踏まえ、平成２２年度予算編成に当たりましては、政府予算の基本的な考え方や地方財政収支見通しの概要等も考慮し、対馬市独自の施策を限られた財源の中で可能な限り

取り入れたものとしております。

さらに対馬市行財政改革大綱に基づく新しい地方の時代に対応した事務事業の見直しや民間委託等を推進し、行政の効率化と歳出の見直しによる財政の健全化に努め、対馬市総合計画の「アジアに発信する歴史海道都市」の実現と、「創造と交流のニューフロンティア・アイランド」を目指すとともに、住民福祉の向上を図ることを基本方針としております。

その結果、平成２２年度の予算規模は、一般会計で２７７億５，４００万円、診療所特別会計で３億６，８７５万１，０００円、公共用地先行取得特別会計で３８７万２，０００円、国民健康保険特別会計で５５億６，３１３万１，０００円、老人保健特別会計で１６１万４，０００円、後期高齢者医療特別会計で３億３，５７８万５，０００円、介護保険特別会計で３１億５，５７２万２，０００円、介護保険地域支援事業特別会計で１億２，０７４万５，０００円、特別養護老人ホーム特別会計で４億７，４７６万１，０００円、簡易水道事業特別会計で９億２，７２４万３，０００円、集落排水処理施設特別会計で２，３６０万円、旅客定期航路事業特別会計で３，６５３万１，０００円、風力発電事業特別会計で３，２７０万円を計上し、一般会計予算と１２の特別会計予算の総額は、３８７億９，８４５万５，０００円であります。

地方公営企業法の適用を受けます水道事業会計は、収益的収入２億４，００８万４，０００円、収益的支出２億３，４３４万４，０００円、資本的収入１億４，９５４万５，０００円、資本的支出１億７，９２２万２，０００円としております。

次に、予算の概要について御説明申し上げます。

まず一般会計予算でありますが、前年度予算額より２．０％減の２７７億５，４００万円としております。

歳入予算の主な内容としまして、市税につきましては、前年度に比べ、１．６％の減を見込んでおります。

地方譲与税、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金等につきましては、平成２１年度の交付見込み額の８５％としております。

地方交付税につきましては、０．９％の増としております。平成２２年度は地方財政対策として、１兆１，０００億円が増額されたことにより、地方交付税の総額は６．８％程度伸びる見込みでありますが、配分方法等が不透明な状況にあることなどを考慮して計上しております。

繰入金につきましては、財源不足の補てん及び繰り上げ償還の財源とするため、財政調整基金を２億２，０００万円、減債基金５億４，０００万円を取り崩すなど、７億７，０００万円を計上しております。

市債につきましては、辺地対策事業債、過疎対策事業債、合併特例事業債等の財源補てんのある市債並びに一般財源不足に対応するため、地方財政法第５条の特例として発行する臨時財政対

策債を計上しております。

次に、歳出について御説明申し上げます。本市を取り巻く財政状況が依然として厳しいことを認識し、経費の抑制と事務事業の見直しを行うことにより、引き続き財政の健全化を推進することとしております。

まず性質別にその概要を御説明いたします。

人件費につきましては、毎年定年退職者等が見込まれているところでありますが、定員の適正化計画に基づき、人件費の抑制に努めております。

扶助費につきましては、子ども手当が創設されたことにより、大幅に増加する見込みであります。

公債費につきましては、繰り上げ償還等の実施により増加しております。

普通建設事業につきましては、約２６億６，０００万円を計上しております。

建設事業につきましては、公債費の増加を抑えるために、毎年建設事業を抑制しているところでありますが、一昨年からの地域活性化・生活対策臨時交付金事業などの臨時交付金事業では、ソフト事業も展開しながら生活基盤対策事業等を進めてまいりました。平成２１年度補正予算第７号において、国の第２次補正予算による地域活性化・きめ細やかな臨時交付金事業に６億３，０００万円を予定しているところであります。

物件費につきましては、経費の一層の節減・合理化を図っておりますが、全体として１０％の増となっております。その主な要因は、漂着物処理委託料、農家所得パワーアップ事業、地域ブランド商品開発販路開拓事業などであります。

積立金につきましては、合併振興基金に５億円を積み立てることにしております。

次に、対馬市総合計画の６つの施策の大綱ごとに歳出予算の内容を御説明いたします。

まず施策の大綱第１の「創造的な産業と次世代の担い手を育む人とまち」では、地場産業の振興と観光との連携、商業集積の高度化・魅力向上、ＵＩターン等の定住化対策の推進を重点施策としております。

産業基盤整備のため、林道開設事業、漁港・漁場整備事業等、各産業の基盤施設整備の充実を図ります。資源管理・環境保全対策として、耕作放棄地解消サポート事業、磯焼け対策事業のほか、海洋保護区の設定を目指した取り組みを行います。また有害鳥獣から農林産物を守るため、総合的な被害防止対策を進めてまいります。

定住化対策の促進では、漁業の担い手確保推進事業のほか、島外転出者の呼び戻しを含めたＵＩターンを促進するため、希望者に対する島内視察や体験ツアー等の田舎暮らし促進事業を支援してまいります。

地域経済の活性化や若者の島内定住では、新たな雇用の創出等を促進するため企業誘致を行っ

ているところですが、引き続き積極的に進めていく必要があります。

施策の大綱第２の「豊かな自然との調和を図り、地球環境にやさしい人とまち」では、かけがえのない自然環境の保全、資源循環型社会の構築、自然を生かした生活環境の魅力化を重点施策としております。

対馬の豊かな自然は、美しさだけにとどまることなく、私たちの生業の根幹でもあります。今日の環境問題は、地球規模の問題であることは言うまでもありませんが、この自然環境を守ることこそ対馬の生命線であることを深く認識し、日韓の大学生や地域のボランティア等の参加をいただいて実施しております漂着ごみ海岸清掃や、ＥＭ菌の普及推進活動、ごみ等の不法投棄パトロール事業を行うほか、資源循環型社会の構築を図るため、合併処理浄化槽及び生ごみ堆肥化容器設置に対する助成を引き続き行います。

さらに長崎県等と研究を進めております「カーボンオフセット事業」につきましては、将来にわたり、全市をあげて取り組まれるよう事業趣旨の啓発を図りながら、対馬市森林づくり条例の制定も目指していきたいと考えます。

また国の天然記念物に指定されておりますツシマヤマネコや、ヒトツバタゴ等を初め、対馬の固有種やその他の貴重な野生動植物の保護につきましても、対馬野生生物保護センターや地域の皆様と連携し、保護・保存活動を推進してまいります。

施策の大綱第３の「固有の歴史文化を発信し、交流の活発な人とまち」では、韓国を初めとする東アジア都市との国際交流の促進、独自の地域資源を生かした交流人口の拡大、広域交流を支える交通アクセスの強化を重点施策としております。

国境を越えた文化交流を充実するため、対馬アリラン祭り、国境マラソン大会、対馬ちんぐ音楽祭の三大イベントを初め、日韓交流写真・美術展の開催、影島区との行政交流、ホームステイによる韓国との教育交流事業を支援するほか、国内的にも離島留学生ホームステイ事業、姉妹都市との交流事業を行うとともに、ホームページや福岡事務所を活用し、対馬の新鮮な情報を発信してまいります。

また観光地環境整備プロジェクト事業、自然体験学習施設の充実など、観光客の受け入れ体制の基盤整備を行い、ネイチャーガイド・観光ガイドの養成やおもてなし講座も実施して、来て・見て・心安らぐ「ひととき」をお持ち帰りいただく施策を展開してまいります。

施策の大綱第４の、「地域が連携して支える教育・文化の充実した人とまち」では、安心して学べる学校教育環境の構築、地域資源を生かした生涯学習の充実、芸術・文化活動の振興を重点施策としております。豊かな心や確かな学力を育み、だれもが安心して学べる教育体制を構築するため、心の教室相談員・介助補助員の充実を図ります。また少子化に伴い、学校の適正規模・適正配置について、引き続き地域の皆様と協議を図りながら積極的に取り組んでまいります。

また安心安全な子供の活動拠点を設け、地域の皆さんの参加を得て、文化活動や交流活動を推進しております放課後子ども教室推進事業を引き続き実施するほか、本年度から学校に適応できない子供たちを支援する適応指導教室を支援します。

地域の豊かさは経済だけではありません。文化の豊かさの追求も貴重な行政課題であり、文化施設の充実と生涯学習や、地域づくり活動を積極的に支援していく必要があります。つしま図書館を初めとする図書の充実、また公会堂事業や公民館活動を支援するとともに、一流の芸術・文化に触れる機会を提供する公演事業、青少年劇場の開催事業等を実施してまいります。

さらに、対馬の貴重な歴史文化を後世に伝えるための、「対馬まるごとデジタルアーカイブ事業」を実施します。

施策の大綱第５の「思いやりと健やかさを育む健康・福祉の人とまち」では、医療、救急体制の充実、保健福祉サービスの充実、スポーツ・健康増進施設の充実、住民の社会参加支援システムの構築を重点施策としております。

地域における子育て支援事業、次世代育成支援事業を実施するほか、放課後児童健全育成事業等を支援してまいります。

また公立病院は、地域における基幹的な医療機関として、地域医療の確保に重要な役割を果たしております。必要な医療を安定的に提供していくため、長崎県病院企業団病院、診療所の機能分担・強化に努めるほか、施設の老朽化や医師不足が問題となっている病院問題につきましては、今日の緊急課題であることを深く認識し、関係機関と十分な協議を深めてまいります。急速な高齢化の進展や、疾病構造の変化に伴い、健康への関心がますます高まっておりますが、市民の健康づくりを推進するため、生涯スポーツ活動や食育活動を推進します。

そのほか今日的な課題として、自殺対策事業を実施するほか、地域福祉ネットワーク事業、福祉のまちづくり推進事業、シルバー人材センターの運営を支援してまいります。

施策の大綱第６の「快適な暮らしを支える生活基盤の整った人とまち」では、身近な道路交通ネットワークの整備事業、安全で質の高い住環境の整備を重点施策としております。

道路交通ネットワークの構築につきましては、市民の要望も強いところでありまして、国・県道の整備を初め、島内をスムーズに移動できる道路交通の整備を促進します。また島内交通の利便性を確保するため、引き続き公共交通機関のあり方を検討しているところであり、本年度も新たに１路線を追加しております。

安全で質の高い住環境の整備を図るため、市営住宅の維持補修、汚泥再生処理センターの建設を進めるほか、橋梁点検、修繕計画を策定いたします。

ＣＡＴＶ事業につきましては、市民の皆様と情報を共有できるようその整備・充実を図ります。

以上が、対馬市第１次総合計画の６つの施策大綱に基づく各種事業であります。今後とも、対

馬市総合計画によるまちづくりの推進とあわせ、市民との協働、地域マネージャー制度の充実を図りながら、新しい時代に対応した簡素で効率的な組織運営、安定した財政運営の確立に全力で取り組んでまいります。

次に、特別会計予算につきまして、御説明申し上げます。

診療所特別会計予算では、市民の健康保持に必要な医療を提供するため、直営診療所１３診療所を運営する経費及び公設民営診療所１０診療所の管理に要する費用を計上しております。

患者数につきましては、常勤医師を配置する豊玉及び上県管内の直営診療所の増を見込んでおり、それに伴い、診療収入及び医業費費用の増を見込んでおります。また豊玉診療所については、診療報酬の改正に伴い、新たにX線電算システムを導入する経費を計上しております。

なお、歳入不足見込み額は、７，０４９万６，０００円となり、この相当額を一般会計から繰り入れて予算を編成しております。

次に、公共用地先行取得特別会計につきましては、まちづくり交付金事業用地取得のため、特別会計を設けましたが、その起債償還利子として、歳入歳出３８７万２，０００円で編成しております。

国民健康保険特別会計につきましては、対前年比４．９％増の歳入歳出それぞれ５５億６，３１３万１，０００円で編成しております。国民健康保険税につきましては、一般被保険者分の医療保険給付分現年課税分一人当たり約５万７，０００円、後期高齢者支援金分現年課税分が約１万７，０００円とし、両方で前年度の一人当たり調定額とほぼ同額で算定しております。

また介護納付金分現年課税分を国県支出金等を差し引いた額で算定し、一人当たりで調定額約１万７，５００円とし、予定収納率を勘案して計上しております。

被保険者一人当たりの療養給付費については、過去の給付実績等をもとに算出し、一般被保険者分が一人当たり１９万５，０００円、退職被保険者分が一人当たり２１万５，０００円程度を見込んで計上しております。

また、その他の歳入歳出につきましては、国、社会保険診療報酬支払基金、国保連合会等の数値をもとに概算により計上しております。

国民健康保険財政調整基金からの繰入金につきましては、歳出総額からすべての歳入見込み額を差し引いた額を国保税に計上する厳しい社会状況の中、税負担が急激に増加することが考えられますので、基金からの繰入金として９，３９８万２，０００円を計上しております。

平成２２年度現年度分の国民健康保険税率につきましては、国民健康保険運営協議会にお諮りし、その答申を受け、決定したいと存じます。

老人保健特別会計につきましては、後期高齢者医療制度により、平成２０年３月診療分までの請求に係る医療費及び事務費等の計上となります。平成２２年度は、平成２１年度実績に基づき、

歳入歳出それぞれ１６１万４，０００円を計上しています。

後期高齢者医療特別会計につきましては、高齢者医療の確保に関する法律に基づき施行された後期高齢者医療制度により、平成２０年度から特別会計が設けられました。制度の運営は、長崎県後期高齢者医療広域連合が行い、市町は保険料の徴収や申請・届け出の受付簿の窓口事務を行っております。

運営に係る財源は、公費５割、現役世代からの支援金であります後期高齢者支援金４割、被保険者からの保険料１割であります。平成２２年度は、対馬市の平均被保険者数５，３３５人と見込み、歳入歳出それぞれ３億３，５７８万５，０００円を計上しております。

介護保険特別会計予算につきましては、平成２１年度から２３年度の第４期介護保険事業計画及び前年度実績により、給付費の増加を予測し、対前年度比較１億３，１４０万１，０００円増額し、歳入歳出それぞれ３１億５，５７２万２，０００円で計上しております。そのうち、介護予防事業費・包括的支援事業費８，８５６万１，０００円を法定拠出分として、介護保険地域支援事業特別会計に繰り出します。

本市の高齢化率は、２８．８％となっており、要介護認定者も年々増加し、介護サービス等に係る給付費も増加の一途をたどっており、負担と給付のバランスを考慮しながら長期的に安定した介護保険制度の保持に努める必要があります。

介護保険地域支援事業特別会計につきましては、平成１８年４月に施行された改正介護保険法で定められた地域支援事業を実施するために、地域包括支援センターを設置しており、その運営に必要な経費として１億２，０７４万５，０００円を計上しております。

第４期介護保険事業計画策定に伴い、地域支援事業の事業規模が保険給付費見込み額の３％を上限として設定され、人件費等の財源不足補てんのため一般会計からの繰り入れが必要となっております。

地域包括支援センターには、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員を配置し、多職種連携により、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その地域の保健医療及び福祉の増進を包括的に支援することを目的として設置されております。

特別養護老人ホーム特別会計につきましては、対前年度比マイナス１．０％の歳入歳出４億７，４７６万１，０００円で編成しております。浅茅の丘、日吉の里の施設運営総額に対しましては、入所者の介護度に応じて算出した介護給付費収入、自己負担金収入等の歳入財源不足額１億２，０８４万７，０００円を一般会計から繰り入れて計上しております。

簡易水道事業特別会計は、対前年度比マイナス１８．８％で、歳入歳出９億２，７２４万３，０００円で編成しております。これは国の公債費負担の軽減対策として、平成１９年度から３年間実施いたしました公的資金補償金免除繰り上げ償還が昨年度で終了したため、繰り上げ償

還元金と交際費利子が削減されたものであります。

運営方針として、歳入の主である水道料金につきましては、未集金の処理、適正な水道料金の設定を初め、施設の統廃合や広域監視システムの集中管理の推進、民間技術等の積極的な活用等、合理的かつ効果的な施設管理運営を図り、経営改善を推進してまいります。

集落排水処理施設特別会計につきましては、歳入歳出２，３６０万円で編成しており、施設の管理費及び公債費を計上し、必要な財源といたしまして、使用料のほかに一般会計繰入金、繰越金、加入金等の諸収入を予定しております。

運営方針として、加入率のアップに取り組むことで使用料の増収を図りつつ、合理的かつ効率的な施設管理運営を行い、経営改善に努めてまいります。

旅客定期航路事業特別会計につきましては、歳入歳出３，６５３万１，０００円で編成しておりますが、利用客が年々減少傾向にあり、厳しい運営を余儀なくされております。定期航路の必要性も十分認識しながら、その合間を利用した浅茅湾の周遊観光の利用が安定していることから、自然豊かな対馬をＰＲすることで観光産業の一助として運営していきたいと考えております。

風力発電事業特別会計につきましては、世界的に地球温暖化等自然環境保全の機運が高まる中、対馬市の自然エネルギー発電のシンボルとして、対馬の環境保全及びＰＲの一役を担っております。

しかしながら、電気事業債の元利償還に加え、経年劣化による修繕費等もかさみ、財政調整基金も取り崩すようになりましたが、今後は維持管理の充実を図りながら、売電収益を向上させ、健全な運営を目指していきたいと考えております。

水道事業会計につきましては、地方公営企業として、一般会計から独立して運営し、経営に関する費用は経営に伴う収入で賄うことになります。

収益的収支は黒字でありますが、資本的収支については、２，９６７万７，０００円の不足を見込んでおります。この不足分につきましては、当該年度分損益勘定留保資金等で補てんすることとしております。

以上、平成２２年度の市政の主要施策を申し述べました。限られた財源の中から緊急性及び必要性により厳しい選択を行い、事務事業の推進に努めることにしておりますが、政策課題はまだまだ山積しております。

未曾有の不況という荒波の中、だれも同じ時代の船に乗っています。まだどこにもたどり着けなく漂っていても、逆風をものともしない確たる意志で市民がつながらざるを得ないこのとき、まさに市民がともに連帯できたときの舳先で、今こそ逆風を切り進めれば新天地に到達します。確たる意志をもつため、あすの種をまくのは今このときしかないのです。希望を持って、あすの種を各人の胸の中で温め続けなければなりません。そして希望を持って努力をしながらあすを待

っている者には、必ず夜明けは訪れます。

今の対馬に大切なことは、先の見えない時代だからこそ連帯し、信じるしかないのです。国任せではなく、自分たちから何ができるのかを考えながら生き抜いていく気構えを島民みんなと構築し、島の再生に立ち向かうことを宣言します。

最後に、私のこの１年に期待し、鼓舞激励する意味で送られた２句を紹介し、施政方針とします。

「向かい風　ものともせずに　進みゆく　猛虎のごとき　君であれかし」

「維新とは　かくあるものか　時宜を得て　君平成の　竜馬とならん」

以上であります。

○議長（作元　義文君）　以上で、施政方針説明を終わります。

暫時休憩します。開会を１１時２０分から。

午前11時11分休憩

……

午前11時20分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第６．厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

○議長（作元　義文君）　日程第６、厚生常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。

厚生常任委員長の報告を求めます。厚生常任委員長、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　厚生常任委員会所管事務調査の報告を行います。

平成２１年第２回対馬市議会定例会において、会議規則第９８条の規定により、閉会中の事務調査の承認を得ておりました当委員会の調査の内容とその概要を、同規則１０３条の規定により報告いたします。

当委員会は、２月１６日午後１時３０分より、豊玉地域活性化センター３階小会議室において、全委員出席のもと市長部局より近藤市民生活部長、平間環境衛生課長並びに河野環境衛生課参事兼課長補佐の出席を求め、対馬中部汚泥再生処理センターの建設計画、対馬市一般廃棄物最終処分場閉鎖の方針について、現地調査を含め、説明を受けたところであります。

まず計画の概要と経過については次のとおりであります。

対馬中部クリーンセンター（し尿処理施設）は、平成４年２月に供用開始され、峰、豊玉町を対象としたし尿処理場であります。処理能力は、当初１日当たり１１キロリットルでありましたが、平成１３年に能力のアップを図り、１日当たり１２キロリットルとし、一般し尿１０キロリットル、浄化槽汚泥２キロリットルとなっております。

建設現地は、志多浦地区でありますが、建設後１７年が経過し、施設の老朽化が進む中で、対馬市は更新に伴う新規建設計画を進めることを決定し、平成２１年1月２７日に対馬中部汚泥再生処理センター建設検討委員会を立ち上げ、現在まで幹事会４回、委員会４回、地元説明会２回が開催されたとの報告を受けております。

新設の建設予定地は、既存施設の近辺に計画されており、約４，５００平方メートルの敷地が見込まれ、施設の処理能力は１日２３キロリットルとし、中部地区は１７キロリットル、美津島町の一部６キロリットル、その内訳は、一般し尿１２キロリットル、浄化槽汚泥１１キロリットルとなっております。

処理方式については、現在検討中であります。また処理水の放流については、土壌蒸発散施設（無放流方式）を採用の予定としております。これによる概算事業費は、１８億2，６９５万円が見込まれ、平成２２年から２３年度に測量、地質調査、環境アセスメント調査、基本設計、用地買収、発注仕様書作成業務を完了の上、建設工事は平成２４年度着工し、平成２６年１２月に完成を予定しているものであります。

次に、対馬市一般廃棄物最終処分場施設の閉鎖について説明を受けたところであります。

当施設は、平成７年から中部地区を対象に一般廃棄物の処理が行われたところでありますが、当初の計画では埋立の高さは１０メートルとしておりましたが、現在では９メートルの高さの位置にあります。これに覆土を１メートル行う計画としており、平成２２年３月末日をもって受け入れを終了するとのことであります。埋立面積６，１００平方メートル、埋立容量は２万９，１００立方メートルに上り、閉鎖後は覆土処分工事や、２年間に及ぶ水質検査が義務づけられているとのことであります。閉鎖はやむを得ないものと思われますが、今後は多くが民間業者による処理となることから、中部地区管内の住民への周知を図るようお願いするものであります。

対馬中部汚泥再生処理センター建設計画の説明を受け、当委員会として次の２点についてさらなる検討をお願いします。

１点目は、南部地区の厳美清華苑の年間管理費は多額に及んでおります。根拠としては、同規模の処理場の類似した他の自治体の管理費と比較した場合、割高となっております。新施設については、処理方式の決定と年間管理費の関連について、くれぐれも慎重なる検討をお願いするものであります。

２点目として、本計画は地元志多浦地区の皆様へ、今後さらなる詳細な説明と十分な理解を得られ、期待どおりの建設計画が進むことを望むものであります。

以上、厚生常任委員会の調査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　委員長に尋ねます。

２ページの貝口の最終処分場だろうと思います。このことが、今年の３月をもって受け入れを終了するとのことであります。今後いろいろとまた最終処分場が中央にはないとできないんじゃないかなと私は思うんです。このことにつきまして、委員会等では何も話は出なかったものか、説明を願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　厚生常任委員長、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　住民の意向はあるかもしれません。で、説明の中では、そのことには担当部局よりはございませんでしたが、何しろ受け入れ許容が限界に来たということで、同施設を新たにほかの候補地でやるという方針がないという市の方針を最終決定であると、このような判断でございましたから、それはやむを得ないというふうに委員会として理解をいたしまして、新たなその要望についての対応ということはございませんでした。よろしいでしょうか。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　やはりですね、安神まで運びましても、安神にも対馬島内のを持っていけば、すぐに満タンになってくると思います。こういった広範囲な対馬市でありますので、今後委員会としましても、行政といたしましても中央に最終処分場の場を設けていただきたいと、検討していただきたいと存じます。

○議長（作元　義文君）　厚生常任委員長、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　今の件でですね、担当課長、課長補佐、どなたか、どっちかだと思います。中部だけのことではおかしいんじゃないかと、北部の上県、上対馬の皆さんが、クリーンセンターへの搬入搬送をする中で、その辺の理解はしてほしいというような行政上の御意見がございました。ですから、まあそんなもんだろうというふうな解釈でありました。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１４番、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　委員長にお尋ねいたします。

報告書の２ページの中ほどですね、平成２２年から２３年度に測量地質調査、環境アセス、こういうものが計画されてあるように報告を受けて書いてありますけど、私、過去から考えますと、厳美清華苑の故障、事故、そういうことを考えますと、もう少し急ぐ必要があるんじゃないかと思いますけども、委員会のほうではそのような質問、検討はなされなかったんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　厚生常任委員長、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　受け入れの能力不足とか、あるいは故障でシステムがとまって、多大な損害を被った、これは過去の厳美清華苑の実態だと認識しております。

それで、この中に、２３年度までに発注仕様書作成業務、これで処理能力の処理方式を決定す

るという非常に最終場面だと思います。私はこの発注使用書作成業務、この段階がすべてを決すると見ております。このことで総力を挙げてチェックをされて、行政のいわゆる市の担当部局、理事者含めて、このチェックを十分にしてくださいよというのが今回の委員会のすべての思いでございます。

早くしてもおそくしてもこの能力を正確にやはり見る、あるいは先々の観光増、あるいは住民の過疎化による減少を含めた中でいろいろな考えがございます。そしてまた美津島の厳美清華苑の加重を、加重負担をこの中部に一部寄せる。これを６キロリットルとしている計算。果たしてこれでいいものか。この辺を十分にこの２３年度の能力の決定、ここに集中していただければ、私は解決するものと思っております。

それと参考ですが、処理方式の中で厳美清華苑の方式は、高負荷脱窒素処理方式の上に、膜分離方式という、そういうふうな施設の中身でございます。その後、膜分離の膜というのが、７５０施設の中に仕組まれておると。これが１枚４万円するという中で、これが経費が係る上に、非常に無理がきかない。物理的に１５０％の許容があった場合に、いわゆるその受け入れがあった場合に無理ができない。１２０％ぐらいで、これが植わっておると。そこらあたりを十分検討してくださいということでございますので、委員会としては、これ以上のことについては行政の判断に委ねたいということで、糸瀬議員の質問については終わりたいと思います。よろしいでしょうか。

○議長（作元　義文君）　１４番、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　私、くどいようですけど、厳美清華苑が事故が起こりまして、何千万というお金かけたやないですか。あれが今でも９０％が９５％ぐらいの稼働率でいけばいいですけど、既に１１０％から１２０％ぐらいのオーバーワークを、負荷をかけとるわけですから、そういうのはもう３年も４年も前からわかっとったことですからね、もう少し厳美清華苑については、非常に大浦委員長は努力された経緯を私たちも十分理解しておるんですけど、どうしてもう少し早く計画を行政側はできなかったかということをお尋ねしておるわけです。

○議長（作元　義文君）　厚生常任委員長、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　過去の話で非常に当初の見込みが誤っておったということはこれは事実でございます。その辺は指摘をし、失敗のないように、そしてその現在も調整をされておることは聞いておりますが、今回の中部の建設が美津島、厳原の負荷分を引き取るというふうな計画でございますから、ここで調整をやるということは非常に最終的な行政の対応としてはやむを得ないということで、これを容認すると、支援するというふうな解釈を持っております。

で、今、糸瀬議員のお話のとおり、その人口、あるいは人口割り、あるいはその一般し尿と汚泥処理の浄化槽の取り扱い、非常にもう今変わっています。ですから、担当課長から説明の中で

は、一般し尿と浄化槽の汚泥の取り扱いがほぼ互角です。１２キロリットルの一般処理に対して、浄化槽の汚泥が１１キロ、これは今までに過去にないですね。バランスです。ですからそこは相当配慮された検討委員会のレベルは、かなり高いものと私は判断しております。

私からこの委員会での話の範囲では、以上なことが話の範囲でございました。

以上、終わります。

○議長（作元　義文君）　いいですか。ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第７．産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告

○議長（作元　義文君）　日程第７、産業建設常任委員会の閉会中の所管事務調査報告を行います。

産業建設常任委員長の報告を求めます。産業建設常任委員長、小川廣康君。

○議員（１７番　小川　廣康君）　産業建設常任委員会の所管事務調査報告を行います。

平成２１年第２回対馬市議会定例会において、会議規則第９８条の規定により、閉会中の所管事務調査の承認を得ておりました当委員会の調査の内容とその概要を会議規則第１０３条の規定により報告いたします。

当委員会は、平成２２年１月１５日、豊玉地域活性化センター３階会議室において、全委員出席のもと、市長部局より、比田勝農林水産部長、斉藤建設部長、島居北部建設事務所長並びに担当職員の出席を求め、可決された事業予算について、その事業の執行状況を把握するため調査をいたしました。

今回は、農林水産部の所管事業と、建設部並びに北部建設事務所につきましては、所管事業と受託事業について、１月１２日を基準日として、その執行状況を調査をいたしました。

水道局の所管事業につきましては、事前に資料の提出を求めたところ、７月補正による１件のみでありましたので、今回は調査対象外といたしました。

まず、農林水産部の事業では、２８カ所で約７億３，５９６万円が未契約であります。そのうち平成２０年度繰り越しを含む７月補正予算までの事業が１８カ所で、約５億１，１３３万円が未契約となっております。

建設部につきましては、建設課と北部建設事務所において、所管事業、受託事業合わせて２６カ所、約１４億７，９４１万円が未契約で、そのうち平成２０年度繰り越しを含む７月補正予算までの事業が１８カ所、約９億２，８８７万円が未契約であります。いずれの事業も７月の国の第１次補正予算、地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業による予算づけの箇所が多く、建設部においては所管事業はもとより、所管外事業も受託せざるを得なく、事務的におくれたこ

とがうかがえます。

また、受託事業のうち、久田小学校教室等床補修工事については、工期等から夏休み中期間しか対応できないので、現時点でも協議中であります。

本予算は、７月３０日提出の平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第３号）により可決された予算でありますが、年度内執行は困難であると思慮されます。このことは委託部署においても、予算要求の段階で建設部と協議をしていれば回避できたものと思われます。

この経済危機対策関連事業は、その目的に沿って早めに執行すべきものであります。今回は事業が集中した段階で、職員の増員等により対応したにもかかわらず、５４カ所、予算額で約２２億1，５３７万円が未契約となっております。このことは、本市の経済に与える影響は甚大であります。このことを全職員が認識し、可決された予算は早く発注をしていただきたい。そのためには事業を委託する部署においては、予算要求の段階から建設部と協議し、予算可決後は速やかに委託されるよう望みます。

今回は、各地域活性化センターに配分された事業については調査対象外といたしましたが、それぞれ各自精査されることを望みます。

以上で、産業建設常任委員会の調査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第８．国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告

○議長（作元　義文君）　日程第８、国県道路整備促進特別委員会の閉会中の調査報告を行います。

国県道路整備促進特別委員長の報告を求めます。国県道路整備促進特別委員長、齋藤久光君。

○議員（８番　齋藤　久光君）　それでは、国県道路整備促進特別委員会の調査報告いたします。

国県道路整備促進特別委員会の調査内容について、会議規則第４５条の規定により報告をいたします。

本委員会は、平成２２年２月２５日、議員全員協議会終了後、豊玉地域活性化センター３階会議室において、委員全員出席のもと、作元議長も出席され、市長部局より松原政策補佐官、永尾地域再生推進本部長、斉藤建設部長並びに担当課長等の出席を求め、第３回の委員会を開催いたしました。

今回は、まず国道・県道整備促進について建設部との意見交換を行い、本委員会の活動の具体策や方向性等について協議をいたしました。対馬市管内の国県道路の平成２１年度事業の実施概要等について説明を受け、本委員会としては国道・県道の事業実施箇所や、改良が必要な未改良

区間の現地調査を早急に実施する必要があるとの結論に達し、担当部局と連携して取り組んでいくことといたしました。

次に、離島航路の改善について、地域再生推進本部との意見交換を行い、本委員会の活動の具体策や方向性等について協議しました。航路改善に関するこれまでの市の取り組みや現況等についての説明の中で、新聞等で報道され話題となっております「高速カーフェリー」についての委員の意見が集中し、本委員会でも提案者である「壱岐・対馬フェリー株式会社」との意見交換を図りたいということになり、早急に調整することといたしました。

今回の委員会では、対馬市管内の現況をしっかりと把握し、長崎県新知事の誕生を機に、今後は対馬振興局、市長部局との連携を密にして、本市の経済の再生と活性化及び市民生活の利便性を図るため、農林水産業の振興に直結する航路の問題等も含めて、早期の国道・県道の整備促進とあわせて、海の国道である離島航路の抜本的な改善を求め、取り組んでいくことを申し合わせました。

以上で、国県道路整備促進特別委員会の調査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第９．長崎県病院企業団議会議員の報告

○議長（作元　義文君）　日程第９、長崎県病院企業団議会議員の報告を行います。

長崎県病院企業団議会議員の報告を求めます。長崎県病院企業団議会議員、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　長崎県病院企業団議会議員の報告を申し上げます。

平成２１年１２月２４日に招集されました長崎県病院企業団議会の第１回定例会の議案審議について報告します。

午後１時から長崎市のホテルニュー長崎会議室において、１１人の議員出席のもとに、５件の議案について慎重なる審議が行われたのであります。

御承知のとおり、本年度４月１日から長崎県離島医療圏組合病院事業は、長崎県病院企業団病院事業へ組織編成がなされ、これに伴う議会の構成は五島市議会議員２名、新上五島町議会議員２名、対馬市議会議員２名、島原市議会議員１名、南島原市議会議員１名、雲仙市議会議員１名、県議会議員２名及び県職員３名、合計１４名となっております。当日は、対馬市からは糸瀬一彦議員と私の２名の出席でありました。

定例会の審議内容については次のとおりであります。

第２８号議案、長崎県病院企業団の債権管理に関する条例について、企業団が有する債権の徴

収、または債権の放棄を含めた管理体制及び企業長の責任について、明確に定め新たな条例を制定するものであります。

第２９号議案、平成２１年度長崎県病院企業団病院事業会計補正予算について、今回の補正は資本収入４，３８８万円の増額、建設改良費を中心とした支出１億２，８６５万２，０００円の増額補正であります。

島原病院の電子カルテシステム導入、８病院の新型インフルエンザ指定入院医療機関設備整備、上五島病院多目的デジタルエックス線ＴＶシステムの更新に伴う増額が主な理由であります。

なお、１２月補正を見込んだ病院企業団の資本的収支は、収入合計３３億５，９７７万２，０００円、支出合計４９億５，３９６万９，０００円で、収支差１５億９，４１７万円の赤字となります。

第３０号議案、平成２０年度長崎県離島医療圏組合病院事業欠損金の処理計算書について、病院企業団事業に移行する前に、２０年度までに累積による欠損金、五島市病院事業会計１９億１，８９２万１，０００円、新上五島町病院事業会計５億１，１８５万４，０００円、対馬市病院事業会計７３０万７，０００円、合計２４億３，８０８万３，０００円については、建設改良積立金６億３，２４９万７，０００円、資本剰余金１８億５５８万６，０００円を充当し精算するものであります。

認定第１号、平成２０年度長崎県離島医療圏組合病院事業会計決算の認定について。

五島市中央、富江、奈留を含めた五島市病院事業会計は１億５，８００万円の赤字、上五島、有川、奈良尾を含めた新上五島町病院事業会計は５，４００万円の赤字、対馬いづはら、中対馬、上対馬を含めた対馬市病院事業会計は、１，５００万円の赤字となっております。実態は厳しいものとなっておりますが、対馬市においては大変努力の跡が見られるものと思われます。

報告第２号、企業長先決事項報告（長崎県病院企業団企業長の給与等に関する条例の一部を改正する条例）。

特別職である企業長の期末手当を県の特別職と同様に、６月期に０．１５月分、１２月期０．１月分を減額するものであります。

以上、条例議案１件、予算議案１件、事件議案１件、認定議案１件、報告議案１件につきましては、慎重なる審議の結果、いずれも原案のとおり可決・承認されたことを報告します。

以上で、長崎県病院企業団議会議員の報告を終わります。

○議長（作元　義文君）　これから報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

昼食のため、暫時休憩します。午後は１時から開会いたします。

午前11時57分休憩

……

午後０時59分再開

○議長（作元　義文君）　大部初幸議員より早退の届け出があっております。

再開します。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１０．長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告

○議長（作元　義文君）　日程第１０、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告を行います。

長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告を求めます。２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員報告書。

長崎県後期高齢者医療広域連合議会の活動及び活動内容について、次のとおり報告します。

平成２２年２月１９日、長崎県市町村会館において、第１回定例会が招集されました。

初めに、議会運営委員会の委員選任についてが議題となり、議員の改選等による欠員であり、議長が議会に諮り議長指名において松浦市の議員が指名されました。

議案審議に入り、議案第１号、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例、議案第２号、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療制度臨時特例基金条例の一部を改正する条例、議案第３号、平成２１年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第１号）、議案第４号、平成２１年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）、議案第５号、平成２２年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計予算、議案第６号、平成２２年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計予算、議案第７号、長崎県後期高齢者医療広域連合職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び長崎県後期高齢者医療広域連合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例、議案第８号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について、議案第９号、長崎県市町村総合事務組合規約の変更についての９議案が提案され、いずれも慎重審議の結果、原案のとおり可決されました。

次に、報告第１号、専決処分の報告及び承認を求めることについて（長崎県後期高齢者医療広域連合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例）につきましても、慎重審議の結果、原案のとおり承認されました。

議案内容について報告いたします。

議案第１号、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例につきましては、平成２２年度及び平成２３年度の保険料率並びに平成２２年度の保険料軽減について、必要な事項を定める条例改正であります。

議案第２号、長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療制度臨時特例基金条例の一部を改正する条例につきましては、平成２２年度の保険料軽減措置の継続に伴い、基金により財源を補てんすることについて必要な事項を定める条例改正であります。

議案第３号、平成２１年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算（第１号）につきましては、歳入歳出それぞれ１，２８６万２，０００円を追加するものです。

歳入の主なものは繰越金であり、歳出の主なものは総務費であります。

議案第４号、平成２１年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）につきましては、歳入歳出それぞれ２３億７，１７８万１，０００円を追加するものです。

歳入の主なものは、国庫支出金１２億５，７６４万３，０００円、繰越金１８億３，４０７万３，０００円であり、歳出の主なものは保険給付費３億９，１５０万９，０００円、基金積立金１３億４，２０９万８，０００円であります。

議案第５号、平成２２年度長崎県後期高齢者医療広域連合一般会計予算につきましては、歳入歳出それぞれ２億９，５８２万１，０００円と定めるものであります。

歳出の主なものは、分担金及び負担金２億２０７万円、国庫支出金３，０８７万１，０００円、繰入金３，２００万１，０００円であり、歳出の主なものは、総務費２億２，９０５万６，０００円、民生費６，１７４万円であります。

議案第６号、平成２２年度長崎県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療特別会計予算につきましては、歳入歳出それぞれ１，９３８億９，２３３万４，０００円と定め、歳入の主なものは、市町支出金２８６億８９７万７，０００円、国庫支出金６６６億３，１７３万円、県支出金１６４億２，９６７万８，０００円、支払基金交付金７９９億９，８３４万円であり、繰入金１３億７，９１４万２，０００円、繰越金８億３，２００万円であり、歳出の主なものは、総務費３億４，２１６万８，０００円、保険給付費１，９２３億４，００６万８，０００円、県財政安定化基金拠出金１億７，６６２万９，０００円、保険事業費３億３０４万１，０００円、予備費６億９，８００万４，０００円であります。

議案第７号、長崎県後期高齢者医療広域連合職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び長崎県後期高齢者医療広域連合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例につきましては、人事院勧告に基づき、必要な事項を定める条例改正であります。

議案第８号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少については、平成２２年３月３１日に佐世保市への編入合併に伴い、北松浦郡江迎町及び鹿町町が廃止され、また平成２２年３月３０日をもって、鹿町・江迎給食衛生一部事務組合、佐世保広域圏北部じんかい処理一部事務組合及び松浦地区消防組合が解散するため、長崎県市町村総合事務組合を組織する

組合市町村から、これらの市町村及び組合を減じるものであります。

議案第９号、長崎県市町村総合事務組合規約の変更については、平成２２年３月３１日をもって、南高北東部環境衛生組合が本組合退職手当事業から脱退するため、長崎県市町村総合事務組合の共同処理する団体に変更が生じるものであります。

報告第１号、専決処分の報告及び承認を求めることについて（長崎県後期高齢者医療広域連合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例）については、平成２１年１２月に支給された期末手当、勤勉手当の支給割合の引き下げについて、長崎県後期高齢者医療広域連合職員の給与に関する条例を改正する必要が生じたために、専決処分をされた報告であります。

以上で、長崎県後期高齢者医療広域連合議会議員の報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１１．陳情第５号

○議長（作元　義文君）　日程第１１、総務文教常任委員会に付託し、閉会中の継続審査としておりました陳情第５号、永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める陳情についてを議題とします。

本案について、総務文教常任委員長の審査報告を求めます。総務文教常任副委員長、初村久藏君。

○議員（１３番　初村　久藏君）　委員長病欠のため、副委員長の初村が報告いたします。

総務文教常任委員会審査報告書、平成２１年第４回対馬市議会定例会の初日において、会議規則第３７条の規定により、本委員会に付託され閉会中の継続審査となっておりました案件については議長あて報告しており、既に皆様のお手元に配付されております。その経過と結果を同規則第１０３条の規定により報告いたします。

当委員会は平成２２年３月２日、全委員出席のもと、豊玉地域活性化センター３階会議室において慎重に審査をいたしました。その結果を報告書の２ページから報告をいたします。

陳情第５号、永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める陳情については、平成２１年第４回定例会の最終日の報告にも触れましたように、平成１７年１１月７日受付の陳情第９号、永住外国人住民の地方参政権確立のための意見書採択を求める陳情について、対馬市議会は永住外国人の地方自治体参政権確立に関する意見書（案）を採択し、平成１７年１２月１６日、地方自治法第９９条の規定により、意見書を内閣総理大臣・法務大臣・外務大臣・総務大臣あて提出している経過を踏まえ、対馬市議会のあり方を問われる重要な問題でもあ

り、拙速に結論を出すことなく、さらなる検討が必要ではないかということで、再度継続審査とし、慎重に議論すべきであるという意見と、この問題は今回採決をし、委員会の意思を決定すべきだという意見があり、議論の結果、採決することとなり、陳情第５号は賛成多数により、採択すべきものと決定いたしました。

以上で、総務文教常任委員会の委員長報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。――賛成討論ですか。反対討論ですか。（「賛成討論」と呼ぶ者あり）反対討論の方ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　反対討論なしと認め、賛成討論お願いします。９番、堀江政武君。

○議員（９番　堀江　政武君）　陳情第５号、永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める陳情について、賛成の立場で意見を述べさせていただきます。

この永住外国人への地方参政権付与については、以前より国、地方においても論議がなされてきたところでありますが、問題も多く、現在までこの法案は成立してこなかったところであります。

一つには、憲法第１５条では、公務員を選定し、及びこれを罷免することは国民固有の権利であるとされ、憲法違反であると言われているところであります。

また、第９３条第２項では、地方公共団体の長、その議会の議員及び法律の定めるその他の議員は、その地方公共団体の住民が直接これを選挙するとあります。この「地方公共団体の住民」というところで解釈が分かれてきたところでありますが、地域住民も国民には間違いなく、最高裁においても住民とは日本国民を意味するとされ、地方だからといって参政権を付与することは憲法上問題があると思われます。その国にはその国の文化、歴史や教育環境があります。帰化して日本国籍を取得しないということは、自国の文化、歴史や考え方を尊重し、推進していくことだと思います。

このような永住外国人の方々が自分たちの考え方を理解してくれる方々を組織を挙げて支援することになれば、少なからず行政に影響を与えることになり、民族間の対立を受けることが考えられます。このように地方に大きな不安を与えることが予想される参政権は必要なのでしょうか。

また、国と地方が選挙権を別々に取り扱い、地方だけに参政権を付与することが、果たして国や地方にとって最善の政策なのでありましょうか。私は、そうは思いませんし、むしろ国と地方は一体であるべきだと考えます。永住外国人の方々には帰化して日本国籍を取得していただき、

日本人として堂々と選挙権を持っていただきたいと思う次第であります。よって、陳情第５号、永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める陳情について賛成するものであります。

以上。

○議長（作元　義文君）　ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　これで討論を終わります。

これから、陳情第５号、永住外国人の地方参政権付与を反対するように日本政府に求める陳情についてを採決します。

この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は採択であります。

お諮りします。陳情第５号を採択することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、陳情第５号は採択することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１２．議案第３号

○議長（作元　義文君）　日程第１２、議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　ただいま議題となりました議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

今回の補正は地域活性化きめ細かな臨時交付金事業、同じく公共投資臨時交付金事業及び各種事業費の決定等による調整が主なものでございます。

１ページをお願いいたします。

平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）は、次に定めにところによることを規定し、第１条第１項歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ７億２，１８０万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３３８億９，０３０万７，０００円とするものであります。

第２項歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページから６ページにかけての「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

第２条繰越明許費は地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用する

ことができる経費を８ページから１３ページにかけての「第２表　繰越明許費」によるとするものであります。

第３条地方債の補正は、地方債の変更を１４ページから１５ページにかけての「第３表　地方債補正」によることを定め、地方債の限度額を４５億９，３３０万円に変更いたしております。

次に、歳入歳出補正予算の内容について主なものを御説明いたします。

まず、歳入でありますが、２０ページをお願いいたします。

１款市税、１項市民税、２項固定資産税、４項市たばこ税、７項入湯税はその収入見込みにより増減をいたしております。

２２ページをお願いいたします。１０款地方交付税、１項地方交付税は普通交付税を３億４，０６１万２，０００円増額しております。

１２款分担金及び負担金は１項分担金及び２項負担金は、事業費確定による増額、減額をいたしております。

２４ページをお願いいたします。１３款使用料及び手数料、１項使用料は６目土木使用料６２９万円の増額が主なものであります。

１４款国庫支出金、１項国庫負担金、１目民生費国庫負担金は８，５９８万３，０００円を減額いたしております。４節生活保護費負担金８，３１４万５，０００円の減額が主なものであります。

２６ページをお願いいたします。２項国庫補助金は１目総務費国庫補助金で、公共投資きめ細かな臨時交付金を６億２，０９１万９，０００円計上し、経済危機対策臨時交付金を４７１万４，０００円減額しております。

２目民生費国庫補助金で、地域生活支援事業及びセーフティネット支援対策等事業費補助金、子育て応援特別手当及び事務取扱交付金など、４，５６４万円を減額いたしております。

６目土木費国庫補助金は事業確定による減額、８目教育費国庫補助金は３節中学校費補助金で、豊玉中学校校舎及び屋内運動場耐震化事業に伴い、３，３４４万２，０００円を増額し、その他事業費については確定による減額であります。

２８ページをお願いいたします。１５款県支出金、１項県負担金は２７８万４，０００円減額しております。

２項県補助金、１目総務費県補助金は事業費確定による３，５１０万１，０００円の減額、２目民生費県補助金は老人福祉施設スプリンクラー設備緊急整備事業補助金２，４９９万６，０００円の増額が主なものであります。３目衛生費県補助金は事業確定による７６８万９，０００円の減額であります。

３０ページをお願いします。４目農林水産業費県補助金は有害鳥獣被害防止対策事業補助金４２５万円、森林整備地域活動支援交付金４４１万７，０００円の増額、地域活性化きめ細かな

臨時交付金事業７，９５０万円の計上が主なものであります。

５目商工費県補助金は３１万２，０００円の減額、６目土木費県補助金は町並み景観整備事業補助金に４１万５，０００円増額、８目教育費県補助金は県公立小中学校適正規模化支援交付金を１１万６，０００円計上し、文化財保護整備事業補助金を９５万８，０００円減額しております。

９目災害復旧費県補助金は農地農業用施設災害復旧事業補助金１０万３，０００円、林業施設災害復旧事業補助金４９６万６，０００円を増額いたしております。

３項委託金は、１目総務委託金は２節徴税費委託金１，２７３万９，０００円の増額、４節選挙費委託金で衆議院議員選挙費委託金１，０５７万８，０００円の減額が主なものであります。

３２ページをお願いいたします。１６款財産収入、１項財産運用収入は教員住宅貸付収入の減額であります。２項財産売り払い収入は家畜導入牛売り払い収入２３０万９，０００円を増額いたしております。

１７款寄附金、１項寄附金、一般寄附金と指定寄附金で６２０万円の増額であります。

１８款繰入金、２項基金繰入金は振興基金繰入金７０万円の増額であります。

３４ページをお願いします。２０款諸収入、５項雑入は主なもので市町村振興協会基金配分金５，０００万円の増額であります。

２１款市債、１項市債は事業費の決定によりまして、３６ページをお願いいたします。７，１８０万円を減額いたしております。

続きまして、歳出について御説明いたします。

３８ページをお願いします。１款議会費、１項議会費は備品購入費８万７，０００円を減額しております。

２款総務費、１項総務管理費、１目一般管理費は職員健康診断委託料など２３０万円を減額いたしております。２目文書広報費は１５節工事請負費４８２万６，０００円の増額であります。３目財政管理費は振興基金積立金として７０万円を増額しております。５目財産管理費の主なものは事業確定による補正でありますが、地域活性化きめ細かな臨時交付金事業による集会施設の改修工事４，８２８万６，０００円を計上いたしております。

４０ページをお願いいたします。７目企画費、９目出張諸費、１０目諸費は移動通信用鉄塔整備工事など、事業費決定による減額をいたしております。

２項町税費、２目賦課徴収費は１３節委託料を１５１万２，０００円減額しております。

４２ページをお願いします。４項選挙費は衆議院議員選挙執行経費の確定による減額であります。５項統計調査費は２目指定統計費、３目地籍調査費に係る事業費決定により、４１万８，０００円を増額しております。

３款民生費、１項社会福祉費は１目社会福祉総務費、１９節通所サービス利用促進事業の増額、

２０節扶助費の住宅手当緊急特別措置費等１，４３３万３，０００円の減額、５目老人福祉費は１９節負担金補助及び交付金、後期高齢者医療広域連合負担金９０５万円の減額、２０節扶助費養護老人ホーム入所措置費１，０００万円の増額が主なものであります。

４４ページをお願いします。２項児童福祉費、１目児童福祉総務費は１９節負担金補助及び交付金の子育て応援特別手当３，６４６万８，０００円の減額が主なものであります。２目児童福祉施設費は１５節工事請負費、僻地保育所の維持補修工事４４４万２，０００円、１８節備品購入費２０６万１，０００円増額いたしております。

４６ページをお願いいたします。３目児童措置費は子ども手当のためのシステム変更委託料５２５万円を計上しております。２０節扶助費で児童手当等４５万５，０００円減額しております。４目母子福祉費は扶助費７００万円を減額しております。

３項生活保護費は４，４７５万円を減額しております。

４款衛生費、１項保健衛生費は１目保健衛生総務費、１９節負担金補助及び交付金の長崎県病院企業団負担金１億６，８８０万４，０００円の増額。２目予防費は１３節委託料で１，４３２万９，０００円の減額。

４８ページをお願いします。８目斎場建設費で事業費確定により６，７４４万６，０００円の減額などが主なものであります。

２項清掃費は事業費確定による３，１１３万４，０００円の減額であります。

６款農林水産業費、１項農業費、２目農業総務費は事業確定による減額です。３目農業振興費は５０ページをお願いいたします。１９節負担金補助及び交付金、イノシシ捕獲補助金１，７００万円、有害鳥獣被害防止対策事業補助金２，３０２万４，０００円の増額が主なものであります。４目畜産業費は家畜導入事業基金積立金を２５７万１，０００円増額しております。５目農地費は臨時交付金事業により、１５節工事請負費２，９７７万９，０００円を増額いたしております。

２項林業費、２目林業振興費２億１，６８５万２，０００円を増額しております。これは事業費確定による減額でもありますが、５２ページをお願いいたします。１５節工事請負費の維持補修工事２億３３７万４，０００円、１９節負担金補助及び交付金のしいたけ生産推進補助金１，４０１万４，０００円、森林整備地域活動支援交付金４９４万３，０００円の増額が主なものであります。

３項水産業費は１目水産業総務費及び２目水産業振興費は事業確定による減額、３目漁港管理費は漁港施設の維持補修費等２２０万２，０００円の増額であります。４目漁港建設費は漁港整備経費６，１５０万円の増額であります。

５４ページをお願いいたします。７款商工費、１項商工費、２目商工振興費は１３節委託料５７１万７，０００円の減額、３目観光費は４，５９５万１，０００円の増額であります。１５節

工事請負費２，８５８万７，０００円の増額が主なものであります。

５６ページをお願いいたします。１９節負担金補助及び交付金の国民宿舎上対馬荘の精算補助金２，８９０万８，０００円の計上など、４，１０２万６，０００円を増額しております。

８款土木費、２項道路橋梁費、２目道路維持費は１５節工事請負費で市道の維持補修工事費９，０３５万６，０００円の増額が主なものであります。３目道路新設改良費は１５節工事請負費７，３２５万３，０００円の増額が主なものであります。

３項河川費、２目河川維持費として９８２万２，０００円増額いたしております。

５８ページをお願いいたします。３目河川改良費は事業確定による２９５万円の減額であります。

４項港湾費、１目港湾管理費は２２２万４，０００円の減額、２目港湾建設費は１５節工事請負費の比田勝港湾関連施設整備工事５，０００万円、厳原国際ターミナル改修工事２８０万円の増額が主なものであります。

５項都市計画費は事業確定により４８０万円を減額しております。

６項住宅費は１５節工事請負費４，０６７万３，０００円の増額が主なものであります。

６０ページをお願いいたします。９款消防費、１項消防費は３目消防施設費の消防団拠点施設建設工事、消防庁舎建設工事等により２億３，６８４万９，０００円を増額しております。

６２ページをお願いいたします。１０款教育費、１項教育総務費は５，７３７万１，０００円増額しておりますが、教育施設整備基金積立金６，０００万円の計上がその主なものであります。

２項小学校費は６４ページをお願いいたします。ＩＣＴ環境整備備品購入費など事業費の決定により５，７４２万６，０００円を減額いたしております。

３項中学校費はＩＣＴ環境整備備品購入費など事業費の決定により、６６ページをお願いします。７，３０４万７，０００円を減額しております。

４項幼稚園費は１５節工事請負費の維持補修工事など９６３万４，０００円を増額しております。

５項社会教育費、２目公民館費は４４７万５，０００円の減額。

６８ページをお願いします。３目文化財保護費は金石城跡環境整備工事など１，５６０万円を増額しております。

６項保健体育費は２，１３７万５，０００円を増額しております。２目体育施設費の維持補修工事９２８万１，０００円、用地購入費１，２３２万３，０００円の増額が主なものであります。

７０ページをお願いいたします。１１款災害復旧費、１項農林水産施設災害復旧費は事業確定による１，０４５万５，０００円を、２項公共土木施設災害復旧費につきましても、事業費確定により４，４４８万円を減額しております。

７２ページから７３ページにかけまして、補正予算給与費明細書を添付いたしておりますので御参照方お願いいたします。

以上で提案理由の説明を終わります。

よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　ただいまから、議案第３号に対する質疑を行います。質疑ありませんか。１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　５７ページ、観光費の国民宿舎上対馬荘の清算補助金２，８９０万８，０００円に係ることでお尋ね申し上げます。

条例の中に施設の土地含めて、もちろんその手続の条例が出ておりますが、とりあえず赤字と借入金全額を今議会において承認いただいて清算ゼロにするというふうな方針は聞いておりました。この中で、借入金が約２，００５万８，０００円、残りは退職手当等で１４５万、それから一般の未納支払い相当が６８０万相当と聞いております。

その中で、従業員が正職員が４名、パート６名、この方々の処遇はどうなるのかということについて、まず、理事者のほうからでも結構ですが、担当の部署の部長さん、いずれかにせよ、説明をまず聞いて次に質問入りたいと思います。お願いします。

○議長（作元　義文君）　上対馬地域活性化センター部長、川本治源君。

○上対馬地域活性化センター部長（川本　治源君）　お答えいたします。

現職員の処遇についてでございますが、公募の中で継続して雇用するという条件をつけておりますので、基本的にはそのまま雇用されるものと、このように思っております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　公募の条件の中でそういうふうなことと今初めて確認をとったわけですが、あくまでも努力をするというふうなことなのか。途中で経営が悪化すればいろいろなことがあるでしょう。その辺について若干聞きたかったことが一つと。

対して上対馬振興公社の場合の清算時においては、とりあえず従業員の就職の確保はできたと、このように確認はするわけですが。

片や、美津島の振興公社において私が知っとる限り、ことしまで事務局長をされた方は首になると、結果的には。雇用がなくなったというふうに聞いております。その辺のところがなぜそういうふうなことになったのか。これは前後しますが、美津島振興公社の取り扱いと異論はありますが、同じ振興公社の中でこういうふうなことが起きていることについて、理事者のほうから答弁を願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、上対馬のほうと美津島の公社の職員の処遇が違うんではないかという話ですが、一応これは受けておりました業務の関係、その性質上そういうことが今起こっているというふうに私は理解をしております。

この上対馬、そうですね、旅館業を次の経営の方にお願いをするという場合、そこのノウハウとかいう部分も含めて、その職員さんも極力雇っていただくという条件でありますが。それと、美津島の行っておりました業務の関係を考えますと、そのあたりの差でどうしてもそういうことが起こってしまっているというふうに御理解をいただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　時間的にこのやりとりは、次の一般質問でゆっくりしたいと思います。いずれにせよ、予算のあり方が適正な事務把握をしておらなかった市の執行の、私は幾らかミスもあっておると思います。それにつきましては、あさっての一般質問でゆっくり御意見を賜りますが、とりあえず上対馬荘については、とられた公募のいわゆる指定管理者が努力をしてその１０人の雇用については努力していくということで約束されたと。こういうふうなことでよろしいですね。そういうことですね。

以上で質問を終わりますが、何かあればなんですが。そういうことですね、一応。いいですか。雇用については間違いなく。

○議長（作元　義文君）　はい、そういうふうだそうです。いいですか、部長。今、大浦議員の質問。

○上対馬地域活性化センター部長（川本　治源君）　お答えいたします。

公募の中でそういう条件をつけておりましたので、継続雇用という方向になると、このように思いますが。

○議長（作元　義文君）　次、ほかに。１３番、初村久藏君。

○議員（１３番　初村　久藏君）　どうも関連でございますけども、今の件で国民上対馬荘の清算補助金、私の記憶では昨年度が約1，８００万ぐらいの赤字でございました。それで、今年度清算金で2，８００万。約1，０００万ぐらい増えてるわけですけど。今年度の赤字が２１年度ですか、赤字が増えたもんか、職員の退職金等とか、いろいろ明細がわかれば簡単に説明をお願いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　上対馬活性化センター部長、川本治源君。

○上対馬地域活性化センター部長（川本　治源君）　清算金の内訳について御説明をさせていただきます。

１月までの各商店への未払い額がございますし、２月と３月分の各商店への支払い予定額、それと電気料、水道料、それからパート職員の手当賃金等で６８０万円を要します。それから、職

員の４名の退職金、これは退職金差額でございますが、１４５万円。それと、借入金の返済額が累計額で2，０６５万8，０００円、合計で2，８９０万8，０００円ということでございます。

○議長（作元　義文君）　ほかに。１７番、小川廣康君。

○議員（１７番　小川　廣康君）　１点だけ確認をしときたいと思いますが、この補正予算については各常任委員会に分割されて審査されると思いますが、１点だけ市長に確認をとっておきたいと思います。審査の材料にしたいと思いますが。

今回のこの第７号については、それぞれ工事請負費等が減額あるいは追加がなされております。各款ごとにですね。その中で、私１点だけ市長に確認しときたいんですが、この入札制度のあり方。例えばその入札参加条件、私は以前このように理解してたんですが、例えば１０年以上対馬に支店を置く、そしてまた８名以上の社員といいますか、従業員を常時雇用しているというのが条件だと私は記憶してるんですが。

この要件を見てみますと、この「または」という解釈の仕方によって、大きく変わってくるんじゃないかなと思っております。引き続き、１０年以上支店等を有していること、または８名以上という文面ですね。これをどのように解釈されておるのか。この両方ともジョイントしなきゃいけないのか。もしくは１０年以上であれば、１０年以上市内に支店なりを構えておけば２人でも３人でも従業員がおればいいのか。そこらあたりの判断をまずお聞かせ願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今おっしゃられました１０年以上、または８名以上という要件でございますが、これはよくアンドとかオアで言いますと、オアのほうでございまして、「もしくは」という２つの条件をそれぞれクリアするということではなくて、いずれかをクリアするというふうな意味で、「または」という表現を使っております。

○議長（作元　義文君）　１７番、小川廣康君。

○議員（１７番　小川　廣康君）　そういうことで、この「または」というこの解釈の仕方が私は２つとも、「また」、「また」というほうに理解しとったもんですから、そこのところ確認をしたい。まずそういう今の市長の考え方では、１０年以上対馬市内に支店を構えておけば２人でも３人でもいいという解釈に多分なろうかと思います。

そういうことで、先ほど本会議の冒頭に市長のほうから、約４５分間にわたる施政方針を聞かせていただきました。その中で、大綱の第１の中に島内定住で新たな雇用の促進を目指す、また企業誘致も行ってまいりますということでうたわれておりますが。

私はこの今先ほど申し上げました、この入札参加条件、これを私はもう少しこの２つの要件をセッティングできないものかなと。例えば、このままでいきますと、今のままでいきますと、１０年以上対馬市内に営業所なり支店を置いておくと、１人か２人での社員の従事者でもいいと

いう解釈になろうと思います。そうしますと、この１０年以上となりますと、今７年、８年、市内に営業所構えてる企業もあるかと思いますが、そういう方々が１人か２人かの営業所長しかいない会社でも、この入札に参加ができるという仕組みになってくるだろうと思います。これから言いますとですね。多分そうだろうと思います。

ですから、私は先ほどこの定住促進あるいは企業誘致等をいろいろ言われますが、やはり今ある地元の業者といいますか、今非常にせっぱ詰まっております。２３年度についてはもう約２０％の建設事業が削減しとりますが、このあたりの市長の考え方をもう一度私はお聞かせ願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今の件につきましては、先週業界団体の代表の方が市役所のほうを尋ねてまいりまして、ほぼ同様の要望をされて帰ったところであります。これにつきましては、今おっしゃられる定住という部分、それから逆に定住をとめてしまう、入ってくる人たちをとめてしまう部分も逆にあろうかとも思います。しかし、出て行く人をとめるという側面もあると感じておりまして、いずれにしましても研究課題にさせていただこうということで、その場は納得して帰っていただいたということで、いましばらく時間をいただければと思っております。

○議長（作元　義文君）　１７番、小川廣康君。

○議員（１７番　小川　廣康君）　最後になりました。ぜひ私はそういう方向でここ数年は経済が安定するまで私はやっていただきたいと、このように考えております。

対馬市内に支店なり支社なりを設置して、そして、余りうまくいかなければ、帰るところがある人はいいんですよ。例えば本社が長崎、福岡、どこにある、市外になる、帰る場所がある人はいいんですが。やはり対馬で事業をされている方、この方々のやはり社員の定住促進あるいは人口流出に歯どめをかけるためには、２２年度限られたこの予算の中ですが、やはり必至に頑張っておられるということをまず理解をしていただきたい。そして、早急にこの問題については私は方針を出していただきたいと思います。これは私だけがそういうふうな勘違いしてたのかどうかわかりませんけど、私は１０年以上あるいは８人以上というセッティングしなければ要件がないと理解しとったもんですから、そこあたりがちょっと私の認識不足でございました。

要は、私はいつか本会議でも紹介議員となって要望いたしましたように、特にこの緊急的な事態ですので、県の基準に沿って、私はこの当分の間、経済が安定するまでやっていただきたいなということをお願いして、あと細部にわたっては委員会のほうで慎重に審査をさせていただきます。

以上です。

○議長（作元　義文君）　ほかに。１４番、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　ちょっとお尋ねします。５１ページの上段のほうのイノシシについてお尋ねしたいと思います。

市長、先ほど所信表明の施政方針演説の中で、５ページ、陶山訥庵の話がされました。私も全くそのような思いで考えるわけですけど、これは２回ほど一般質問いたしまして、今回補正が４，０００万ほど組んであるんですけど。私が１１月ぐらいに確認したときには、シカが１，２００頭ぐらい、イノシシが２千五、六百頭というような数字で記憶しておりましたけど、これ最終的には恐らく６，０００頭ぐらいになるんでしょうかね。それから、ワイヤーメッシュ、その他緊急雇用対策で１億五、六千か、１億７，０００万ぐらいになると思うんですけど。

今後はやはりこの捕獲したものを何か商品化でもして、雇用につなげるような形で抜本的なこの考え方があるのかないのか、そこら辺をお尋ねしたいと思います。そして、最終の見込み頭数、シカが何頭、イノシシが何頭と、そういう頭数までわかれば教えていただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　２点ありましたが、１点目の分については私のほうから、２点目については担当部長のほうから答弁します。

イノシシの利活用のお話でございましたが、以前、このイノシシの問題については毎回議論に当然なるわけですけども、今、島内このような形で被害がたくさん出てるという中で、実際利活用という問題を当然考えていかなくてはいけないとは思いますが。

ちなみに佐賀県の武雄市のほうでありますが、事例を取り上げますと、共業体の方々がその利活用のための施設を国・県・市の補助金を受けて整備をし、次の販路を見つけていくというふうなことに取り組まれているというふうに、武雄の樋渡市長のほうからも聞いておりますが、そのような、できれば形を民間のほうでやっていただくことが、最も販路というものが見えるのかなというふうにも思っております。また、既存の方も当然いらっしゃいます。既存の方も含め、そのあたりの利活用の方向を私どもと民間の方々と一緒になって考えていかねばならないというふうに考えております。

○議長（作元　義文君）　農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君）　２点目のイノシシ及びシカの最終的な見込み頭数ということでございますけども、まずこの１月末の現在でイノシシが４，７９７頭でございます。これを３月のこの補正で１，７００頭お願いいたしまして、６，２００頭程度になるんじゃないかということでお願いをいたしております。

次に、シカでございますけども、シカにつきましてはこの１月末現在で１，４４３頭、これは当初お願いしておりました１，７００頭の予算の中で落ち着くものと考えております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１７番。失礼、１４番、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　多少はいいですよ。この前から私がお願いしておりましたように、考えてみれば金額にしてみれば６，２００頭ということですから、６，２００万。それから、ワイヤーメッシュあたりが、あれでも億に近い予算化をしていただいておるわけですけど。

市長、私があのときにもお尋ねしましたように、農作物の被害だけじゃなくて、今は上から下まで走られて時々気づかれると思いますけど、落石注意ということが書いてありますけど、上のほうは国県道に石が転んできとるわけですね。あれは交通事故として今まで何回かはシカとぶつかった、イノシシとぶつかったというのはあっておると多分市長も聞いてあると思います。これがやっぱり人身事故につながったときにはやっぱり管理責任等々問われるような形になりますので、雇用対策の一環としてでも、改めて国や県からお金を引き出して、一つの対馬の企業誘致やなくて、雇用を生む方向で、幾らかみんなで、８，０００頭から９，０００頭ぐらいの固体が１年間取得されるわけですから、それを犬のドッグフードとか、それから動物園等のえさとか、そういうものに有効活用できるようなことを抜本的な研究機関、プロジェクトか何か、それはどうですかね。つくる気はないでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　最初ののり面の落石のお話がございました。

実は、先週の木曜日でしたか、金曜日でしたか、内山の中腹にありますグリーンウェイブを私視察に行きまして。というのも、今大浦議員がおっしゃられるように、イノシシがのり面を荒らしていると。あ、糸瀬議員申しわけございません。先ほど１７番議員と言われたから、もう頭の中、そっち側に目が向いておりました。申しわけありません。済みません。糸瀬議員がおっしゃられるように、そういう話を聞いたもんですから、実際見に行きました。偶然にも今おっしゃられることと同じことだなと思いましたが、すごい状況が確かに起こってます。

今、久根のほうから通っております職員が、毎朝その落石を片づけてから実は出勤しているような状況があります。それはカヅラの根をイノシシが掘り繰り返して、それでのり面がもうすごい傷みぐあいです。このような状況が起こりますと、確かに車両通行中もそうですが、さまざまな問題が起こってくるんだろうなあというふうに、もうすぐわかるような状況でありまして。私どももこれはどういう形で手を打とうかというふうに、基盤整備課の職員と次なる手のことを今協議を早速したところであります。できれば経費がかからなくて、物事をやる方法はないかなということで、害虫駆除剤を使うとか、いろんなことも考えていかんばいかんというふうなことも含めて、イノシシの問題については取り組む予定をしております。

もう１点目のイノシシの肉の利活用の問題でございますが、七、八千頭すべての肉が使われるとは到底思いませんが、そのうちの運ぶ時間等の関係で、使える肉も当然あろうかと思います。

以前の新聞にも出てたんですが、このイノシシ肉の利活用について、なかなか日本の中で需要が伸びないというふうな表現も新聞報道でされてたのを見ております。ある意味、違うものにかえながら、先ほど言われた動物園の飼料に使えんかとかいうお話もありました。そのあたりについては、庁舎内的にも、そして外部の人等とも話し合いを進めていき、その可能性というものについて研究はしていくのはいささかも問題ないと思っておりますので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１４番、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　前向きの答弁で非常にうれしいわけですけど、何とか新しい部長も若々しい部長が誕生しておりますので、期待をかけておりますので、市長、特命で研究をするように言うてくださいよ。よろしく。これは島民みんな見てますけど、本当に期待してありますよ。よろしく。

○議長（作元　義文君）　大体この辺で終わりたいと思うんですが。（「まだある、まだある」と呼ぶ者あり）まだたくさんありますか。（「私もある」と呼ぶ者あり）そしたら、休憩してやりましょうかね。委員会に回したいと思うんですが。（「やりましょうや、あと２人だけ」と呼ぶ者あり）そしたら、２人だけ。１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　観光費に関連をして、市長にお尋ねをいたします。

まず、今月３月５日の読売新聞に、３月４日と５日、韓国の国会議員３０人、補佐官ら２０人、合わせて５０人の方が対馬を訪問されたということが読売新聞に載っておりました。この中で、対馬においでになることは大変結構なことなんですが、韓国の国会で、２００８年の７月に対馬の領有権を主張された議員が含まれていたという記事が載っておりました。

私がお尋ねしたいのは、市の幹部と接触があったかなかったか、まずそれをお尋ねをいたします。

そして、次に、これは１月の中旬ごろでしたけども、同じく韓国からの観光客の中で、釣りを目的に来られる人が結構いらっしゃるんですね。ある地区の人から外国人がまきえを使う釣りは禁止されているはずだと。市はどういう対策をしてるのかというような電話がありました。

私も早速市役所に出向き、農林部長を訪ねたわけですが、ちょうどその日に限って組合長会があっておりまして、部長あるいは水産振興課長はいらっしゃいませんでした。で、１月２５日の臨時議会の折りに、比田勝部長にお話をして、何とか取り締まりの強化を国に求めてほしいというようなことを申し上げました。そしたら、比田勝部長より、市長が出張の際に水産庁に取り締まりの強化を訴えるように予定をしているということでありましたので、その経過を教えてほしい。

３点目は、３月５日の西日本新聞に、「壱岐・対馬フェリー」この会社が壱岐市と対馬市に対

して提案した公設民営化方式の高速カーフェリーの導入について、壱岐の白川市長は受け入れられないというような表明をされたと。これは壱岐市と対馬市との間で航路対策委員会等もあると思うんですが、対馬市と十分協議をした結果そういうことになったかどうか、そのあたりをお伺いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１点目の３月４日、５日ですか、５０名に上る方々が対馬を韓国のほうから訪れられて、その中に２００８年７月に対馬を韓国領土だと領有権を主張されている――あれは国会に提案されたままで終わっているあの分ですかね、それに同意された議員が含まれているかという、それとその方々と接触をしたかということですが。正直言って、私自身は全く連絡もあっておりませんし、今担当の部長のほう、副市長のほうに何か連絡があったかという話で今聞きましたが、何もあってないし、接触もしてないということですので、そのように御理解ください。

それと、外国人まきえ禁止の問題とか、釣り客のトラブルの問題ですね。これについて島内の釣り客の方からお話を私自身も聞きました。それで、恐らく６点ほど、いろいろあったんですが、正確な日にちはちょっと覚えてませんが、１月２８日でしたか、２９日でしたか、私上京した際に水産庁の沿岸取り締まり課でしたか、何かちょっと正確な課名はお許しください、の課長さん並びにほかの担当する部署の方々５人ほどだったと思いますが、その方に今のお話を聞いた内容というのをきちんとお伝えをしたところであります。その後の動きについては正直言いまして、それ言ったからどうなったというとこまでは至ってはおりませんけども、その実情についてはお伝えをしたところであります。

ちなみにその際に、その課長さんのほうから、その１週間ほど前に対馬をその課長さんは訪れてありましたので、副大臣のほうからもその旨、同じ同様の趣旨のことを指示が出ているということで、関係課、そういう方向で取り組んでいきたいというお話をいただいて終わっている状態です。

それと、白川壱岐市長ですかね、の公設民営化の高速フェリーの話を撤退といいますか、のらないという話については対馬市とそのあたりの協議はされているのか。一応この提案を株式会社壱岐・対馬フェリーさんですか、のほうからお話、説明は当然私どもも受けておりますが、それについて話にのる、のらないの協議を両市では別段これは正直言ってやっておりません。それぞれの市の考え方というのがあろうと思いますので、そこまで踏み込んだ話はせずに終わっておりますし、会社のほうからは事業計画の提案を受けたということで、後の判断はそれぞれがやるというふうになっています。そういう状況であります。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　１点目の韓国の議員団の訪問について、市長以下幹部職員の接触がなかったということであれば、その件はそれでいいんじゃないかと思ってます。

２点目の韓国の観光客の釣りに対することですけども、比田勝部長あるいは中村水産振興課長が留守のときに担当者に聞きまして、海上保安部に市役所のほうから連絡して、場所はここだということで取り締まりを要請してほしいというようなお話もしましたが、水産庁からの指示がなければ海上保安部は取り締まることはできないんだというような私に対しての説明でした。

韓国の釣り客が釣り上げる量というのも１人１日１０キロ以内ということが決まってるんじゃないかと、実際はそれ以上水揚げといいますかそれ以上の魚を釣り上げているよと。その辺も詳しく調査してほしいというようなそういう内容でしたので、その辺も具体的に私もお願いしたつもりしてます。

でも、あくまでも水産庁から来るよりは、例えば厳原に海上保安部が常時いるわけですから、いつもかつもそういう観光客の釣りのことを取り締まるわけにはいかないでしょうけども、なるだけ地元漁民とあるいは地元の遊漁船などとトラブルがないように、市のほうも今後も万全の体制で取り締まりを強化するように求めてほしいと思ってます。

３点目のことは、これは一般質問でも同僚議員が通告をしておりますので、協議がなかったならそれぞれ壱岐市は壱岐市の考え、対馬市は対馬市の考えがあって壱岐の市長が受け入れられないという表明ですので、これは壱岐市をどうこう私が申し上げることもできませんのでそれはそれで結構ですので、後は同僚議員が一般質問でまた質問されると思います。

２点目の韓国の観光客の釣りに関することだけは市長あるいは部長以下、本当に真剣に取り組んでほしいという要望をして私の質問を終わります。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　１７番議員の関連でちょっとお尋ねしたいんですが、入札の制度ですね、建設業者の。先ほどの説明ですと、１０名または８名以上の従業員がおって、そして営業所とか支店があるものということですよね。基本的には１０人おろうが１００人おろうが対馬の業者じゃないわけですから、島外業者なんですから、こういう業者に仕事させる必要はないというのが私の基本です。なぜかというと、１７番議員も言っとったけども、どんどんつぶれよるんだから、支店はつぶれても本店があるんですよ。そういうところにさせる必要はないのが基本ですが、それで、去年の議会でしたか、総務だと思うんですが、たしか長崎県建設業協会対馬支部とそれと対馬建設業組合、こちらのほうから要望書が出ておりました。その要望書の内容は、地元でできる業者だけにしてくれと、島外業者は省いてくれよというふうな要望書が出て、本議会で可決しとるんですよね。その要望書の中に支店の業者も入っとるわけですよ、要望書の中に。可決した分の中に。２業者か３業者がおると思いますよ。自分たちが全会一致で決めたそうです

から、自分たちが対馬市から仕事をいただかなくてもいいですよということを、その名簿がそこの中に入っとるわけですから２業者か３業者。自分たちがしませんよと言っとるんだから、その２業者、３業者はこの２１年度の公共事業から省くと。向こうはそうしてくれと言いよるんだから、省くという考えはございませんか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　以前の要望書のそのあたりの内容について今把握私もしかねる部分がございますので、今私も即答はちょっとできません。しっかりそのときの要望書の真意というものをこちらで確かめたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　たしか去年の中ほどだと思いますそういう話があって、そして議会で議決したのは。真意とかそういうものじゃなくて、その出した業者がメンバーの中に二、三人おるわけですから業者が。自分たちは対馬市の仕事はしたくないということを出したわけだから、その業者を調べて、調べればすぐわかりますから名簿見て、外すと。そうすることによってまた対馬の業者も少し助かるかもしれんじゃないですか。出したものはしてやらんといかんですよ。市長はいつか専決処分で２億３，７００万を印鑑をぱっと押したぐらいで、できるんだからやろうと思ったら。外すように。

以上。

○議長（作元　義文君）　いいですか、答弁は。（「要りません」と呼ぶ者あり）

質疑なしでいいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております議案第３号は、会議規則第３７条第１項の規定によって、お手元に配付しております議案付託表のとおり各常任委員会に付託することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３号は、各常任委員会に付託することに決定しました。委員長報告は３月２４日に行います。

暫時休憩します。２時３５分から。

午後２時21分休憩

……

午後２時35分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１３．議案第４号

日程第１４．議案第５号

日程第１５．議案第６号

日程第１６．議案第７号

日程第１７．議案第８号

日程第１８．議案第９号

日程第１９．議案第１０号

日程第２０．議案第１１号

日程第２１．議案第１２号

○議長（作元　義文君）　日程第１３、議案第４号、平成２１年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）から、日程第２１、議案第１２号、平成２１年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）までの９件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。福祉保健部長、扇照幸君。

○福祉保健部長（扇　　照幸君）　ただいま一括して議題となりました議案のうち、議案第４号から議案第８号までの５件につきましては福祉保健部の所管でありますので、続けて説明をさせていただきます。

まず、議案第４号、平成２１年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）について御説明申し上げます。

今回の補正は繰越明許費の設定、事務費の調整及びへき地診療所運営補助金返納金の増額が主なものでございます。

１ページをお願いします。平成２１年度対馬市の診療所特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ５０１万５，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億７，７３２万９，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

第２条で、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、４ページ及び５ページの「第２表　繰越明許費」によるとするものであります。

豊玉診療所の排水管破損復旧工事等の診療所維持補修事業の繰越限度額を７７万２，０００円と定めるものでございます。

歳入について御説明いたします。１０ページをお願いします。１款診療収入１項外来収入は３０万円を減額しております。

３款県支出金１項県補助金は、へき地医療対策費補助金及びへき地診療所設備整備費補助金を１５８万6，０００円減額しております。

４款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を６９０万1，０００円増額しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。１款総務費１項施設管理費は５６１万5，０００円を増額しております。医師派遣等委託料の減額、豊玉診療所排水管破損復旧事業等の維持補修工事費の増額、及びへき地診療所運営費補助金の返納金７３９万9，０００円の増額が主なものです。

２款医業費１項医業費は、診療所の医業用機具使用料を６０万円減額しております。

続きまして、議案第５号、平成２１年度対馬市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）について御説明申し上げます。

今回の補正は、保険給付費の一般被保険者療養給付費の増額が主なものでございます。

１ページをお願いします。平成２１年度対馬市の国民健康保険特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ7，０６７万1，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ５６億4，８１６万1，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び3ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

歳入について御説明いたします。８ページをお願いします。３款国庫支出金１項国庫負担金は、療養給付費等負担金等4，２９６万8，０００円を増額しております。２項国庫補助金は普通調整交付金を1，４５５万8，０００円増額しております。

４款療養給付費交付金１項療養給付費交付金は、療養給付費等交付金を４７６万円増額しております。

６款県支出金１項県負担金は、特定健康診査等負担金を１７１万9，０００円増額しております。２項県補助金は普通調整交付金を７２７万9，０００円増額しております。

１０ページをお願いします。９款財産収入１項財産運用収入は、財政調整基金利子を６万8，０００円増額しております。

１０款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を６８万1，０００円減額しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。１款総務費１項総務管理費は、国保被保険者証カード発行機保守委託料の減額等６８万１，０００円を減額しております。

２款保険給付費１項療養諸費は、一般被保険者療養給付費等１億２，１３９万８，０００円を増額しております。２項高額療養費は、一般被保険者高額療養費等７５４万３，０００円を増額しております。

４款前期高齢者納付金等１項前期高齢者納付金等は２４万６，０００円を減額しております。

１４ページをお願いします。５款老人保健拠出金１項老人保健拠出金は９８万２，０００円を減額しております。

７款共同事業拠出金１項共同事業拠出金は、保険財政共同安定化事業拠出金等３，１０１万５，０００円を減額しております。

８款保健事業費１項特定健康診査等事業費は、特定健康診査委託料の減額等６５３万６，０００円を減額しております。

９款基金積立金１項基金積立金は、財政調整基金積立金を６万９，０００円増額しております。

１６ページをお願いします。１２款予備費１項予備費は１，８８７万９，０００円を減額しております。

続きまして、議案第６号、平成２１年度対馬市後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）について御説明申し上げます。

今回の補正は、保険料の増額に伴います後期高齢者医療広域連合への納付金の増額が主なものでございます。

１ページをお願いします。平成２１年度対馬市の後期高齢者医療特別会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ８２２万４，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３億１，６７３万６，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

歳入について御説明いたします。８ページをお願いします。１款後期高齢者医療保険料１項後期高齢者医療保険料は２３３万８，０００円を増額しております。

５款繰入金１項一般会計繰入金は、保険基盤安定繰入金等一般会計からの繰入金を５８８万３，０００円増額しております。

７款諸収入５項雑入は、前年度還付未済金を３，０００円増額しております。

歳出でございますが、１０ページをお願いします。１款総務費１項総務管理費は、後期高齢者

医療システム改修業務委託料等９万７，０００円を減額しております。

２款後期高齢者医療広域連合納付金１項後期高齢者医療広域連合納付金は、保険基盤安定負担金等８３２万１，０００円を増額しております。

続きまして、議案第７号、平成２１年度対馬市介護保険特別会計補正予算（第３号）について御説明申し上げます。

今回の補正は、保険給付費の増額が主なものでございます。

１ページをお願いします。平成２１年度対馬市の介護保険特別会計補正予算（第３号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ３，６５９万１，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３１億２，７８９万５，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。８ページをお願いします。３款国庫支出金１項国庫負担金は、介護給付費負担金を７３１万７，０００円増額しております。２項国庫補助金は調整交付金を２９２万５，０００円増額しております。

４款支払い基金交付金１項支払い基金交付金は、介護給付費交付金を１，０９７万７，０００円増額しております。

５款県支出金１項県負担金は、介護給付費負担金を４５７万４，０００円増額しております。

７款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金を４５７万４，０００円増額しております。１０ページをお願いします。２項基金繰入金は、介護給付費準備基金繰入金を６２２万４，０００円増額しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。２款保険給付費１項介護サービス等諸費は、介護サービス給付費を２，５０７万９，０００円増額しております。３項その他諸費は、審査支払手数料を６万円増額しております。５項高額医療合算介護サービス費は１，１４５万２，０００円を増額しております。

最後に、議案第８号、平成２１年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）について御説明いたします。

今回の補正は繰越明許費の設定、嘱託職員報酬等の減額及び施設改修工事費の増額等が主なものでございます。

１ページをお願いします。平成２１年度対馬市の特別養護老人ホーム特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算の補正は、第１条で、歳入歳出

予算の総額から歳入歳出それぞれ１６１万１，０００円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ6億2，５１７万4，０００円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び3ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

第２条で、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、４ページ及び5ページの「第２表　繰越明許費」によるとするものであります。

特別養護老人ホームのスプリンクラー整備事業等４件の繰越事業費の繰越限度額を５，８３２万９，０００円と定めるものでございます。

歳入について御説明いたします。１０ページをお願いします。３款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計繰入金を１６１万１，０００円減額しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。１款民生費１項社会福祉費は１６１万１，０００円を減額しております。１目特養浅茅の丘管理費及び２目特養日吉の里の嘱託職員の報酬等の減額、３目施設管理費の特別養護老人ホームひとつばたごの舗装整備工事費の増額等が主なものでございます。

１４ページ及び１５ページに補正予算給与費明細書を添付しております。

以上、議案第４号から議案第８号までの５件について説明をさせていただきました。御審議の上、御決定くださいますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　建設部長、斉藤正敏君。

○建設部長（斉藤　正敏君）　議案第９号、平成２１年度対馬市公共用地先行取得特別会計補正予算（第１号）について御説明申し上げます。

今回の補正は、土地所有者であります西日本電信電話株式会社と買収契約を締結するため、数回にわたり協議を重ねてまいりましたところ、双方とも合意に達し、平成２２年2月１２日付で用地買収契約を締結いたしました。別紙箇所図のとおりであります。このことにより予算額との差額が生じましたので、その差額を減額補正するものであります。

予算書１ページをお願いします。平成２１年度対馬市の公共用地先行取得特別会計補正予算（第１号）は、次に定めるところによるものとし、歳入歳出予算の補正は、第１条で、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3，４６４万3，０００円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億5，９００万円とするものであります。

第２項で、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページから3ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によるとするものであります。

第２条、地方債の補正は４ページから５ページの「第２表　地方債補正」によることを定め、地方債の限度額を１億５，９００万円とするものであります。

歳入について御説明いたします。１０ページをお願いいたします。２款繰入金１項他会計繰入金でございますが、補正前の額から４万３，０００円を減額いたしております。

４款１項市債でございますが、補正前の額から３，４６０万円を減額いたしております。公共用地先行取得等事業債の減額でございます。

次に、歳出について御説明いたします。１２ページをお願いいたします。１款都市整備費１項市街地整備費でございますが、補正前の額から３，４６４万３，０００円を減額しております。

以上で説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　上県地域活性化センター部長、武田延幸君。

○上県地域活性化センター部長（武田　延幸君）　ただいま一括して議題となりました議案第１０号、平成２１年度対馬市風力発電事業特別会計補正予算（第１号）について、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

今回の補正は、４月から１２月までの売電実績に基づく売電収益の見直し、並びに電気主任技術者の変更に伴う報酬等の減額が主なものでございます。

１ページをお開き願います。平成２１年度対馬市の風力発電事業特別会計補正予算（第１号）は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の補正は、歳入歳出予算の総額から歳入歳出それぞれ２００万円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４，６４６万円とするものでございます。

第２項、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページから３ページにかけての「第１表　歳入歳出予算補正」によるものとするものでございます。

補正予算の内容につきまして主なものを御説明申し上げます。

まず歳入でございますが、８ページをお開き願います。１款売電事業収益１項営業収益１目売電収益４８０万円の減額でございますが、４月から１２月までの売電実績及び１月から３月までの見込みによる減額でございます。

次に、３款繰入金１項基金繰入金１目基金繰入金２７９万８，０００円の増額でございますが、これは売電収益及び一般管理費等の見直しによる減額分を財政調整基金から繰り入れるものでございます。

次に歳出でございますが、１０ページをお開き願います。１款電気事業費１項営業費１目一般管理費１８２万７，０００円の減額でございますが、電気主任技術者、嘱託職員でございますが、昨年の５月からかわりました。それに伴う報酬、共済費等の減額が主なものでございます。

次に、３款諸支出金１項基金費１目基金費２８万１，０００円の増額でございますが、これは積立金利子額を基金に積み立てるものでございます。

次に１２ページをお開き願います。４款予備費１項予備費１目予備費でございますが３７万円を減額いたしております。

１４ページから１５ページにかけまして補正予算給与費明細書を添付いたしておりますので御参照方お願い申し上げます。

以上で提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　水道局長、阿比留誠君。

○水道局長（阿比留　誠君）　ただいま一括して議題となりました議題のうち、議案第１１号、議案第１２号の２件は水道局所管の議案でございますので、続けて御説明いたします。

まず、議案第１１号、平成２１年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第４号）について御説明いたします。

平成２１年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第４号）は、次に定めるところによります。

第１条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ７９万８，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ１１億６，６３６万２，０００円と定めるものであります。

第２項、歳入歳出予算補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算補正」によります。

第２条、地方自治法第２１３条第１項の規定により、翌年度に繰り越して使用することができる経費は、４ページの「第２表　繰越明許費」によります。

それでは補正の内容について歳入から御説明いたします。８ページ、９ページをお願いいたします。２款使用料及び手数料１項使用料１目水道使用料３００万円の減額は、水道使用料の収入見込み額の修正であります。

６款繰入金１項他会計繰入金１目一般会計繰入金１５３万２，０００円は、主に建設費分の追加であります。

７款繰越金１項繰越金１目繰越金５７６万６，０００円は、前年度繰越金の追加であります。

８款諸収入１項雑入１目雑入３５０万円の減額補正は、水道管移設補償の精算による減額であります。

１０ページ、１１ページをお願いいたします。歳出でございますが、１款簡易水道費１項水道管理費１目一般管理費４６万８，０００円の減額補正は、臨時雇用賃金の減額であります。２目施設管理費５０万円の減額補正は、維持補修工事費の減額及び光熱水費の増額によるものであり

ます。２項水道建設費１目水道建設費１７６万６，０００円の追加は、東地区地下水ポンプ改修工事であります。これは鶏知地区です。

以上が議案第１１号、平成２１年度対馬市簡易水道事業特別会計補正予算（第４号）の概要であります。

続きまして、議案第１２号、平成２１年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）について御説明をいたします。

第１条、平成２１年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）は、次のとおり定めるものであります。

第２条、平成２１年度対馬市水道事業会計予算第４条本文括弧書「資本的収入額が資本的支出額に対し、不足する額４，９６６万１，０００円は、当年度分消費税資本的収支調整額１６７万６，０００円、当年度分損益勘定留保資金４，７９８万５，０００円で補てんするものとする」に改めるものであります。

それでは、補正の内容について収入から御説明をいたします。４ページ、５ページをお願いいたします。１款資本的収入１項負担金１目他会計負担金１，４１０万円は、地域活性化きめ細かな臨時交付金事業の追加及び地域活性化経済危機対策臨時交付金事業の減額精査補正によるものであります。２項補償金１目補償金の２８５万円の減額補正は、水道施設移転補償金の減額であります。

次に支出でございますが、１款資本的支出１項建設改良費２目施設整備費８４０万円は、委託料及び工事請負費の精算によるものと、地域活性化きめ細かな臨時交付金事業によります砥石渕浄水場倉庫築造事業の追加によるものであります。

３目拡張工事費８，８２０万円の減額は、当初、小浦ダム水源から砥石渕浄水場までの導水管布設計画でありましたが、地域活性化生活対策臨時交付金事業によります厳原地下水開発工事によりまして、砥石渕知首川沿いに有望な水源、１日取水量約１，０００トン、この１，０００トンという量が開発されましたため、あえて小浦ダムの水を砥石渕まで導水する必要はないとし、厳原中学校前より砥石渕浄水場までの配管工事をとりやめ、小室トンネルから北厳原浄水までの連絡管で結ぶ工事のみを実施し、緊急時互いに水が給水できるよう行うものであります。

以上で議案第１１号、議案第１２号の特別会計補正予算の概要について説明をさせていただきました。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから９件に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題となっております議案第４号から議案第１２号までの９件は、

会議規則第３７条第２項の規定により委員会付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第４号から議案第１２号までの９件は委員会付託を省略することに決定しました。

これから一括して討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

議案第４号、平成２１年度対馬市診療所特別会計補正予算（第４号）から、議案第１２号、平成２１年度対馬市水道事業会計補正予算（第２号）までの９件を一括して採決します。各案は原案のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、各案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２２．議案第１３号

○議長（作元　義文君）　日程第２２、議案第１３号、平成２２年度対馬市一般会計予算を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　ただいま議題となりました議案第１３号、平成２２年度対馬市一般会計予算について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

一般会計の予算説明を申し上げます前に、お手元に配付いたしております当初予算参考資料によりまして、平成２２年度当初予算の概要を御説明申し上げます。

まず、当初予算比較表についてであります。

１ページをお願いをいたします。一般会計を始め診療所特別会計ほか１１特別会計の平成２２年度当初予算額と前年度当初予算額を掲げております。一般会計２７７億5，４００万円、前年度に比べ2．０％の減、診療所特別会計３億6，８７５万1，０００円で4．４％の増、公共用地先行取得特別会計３８７万2，０００円で９８．０％の減、国民健康保険特別会計５５億6，３１３万1，０００円で4．９％の増、老人保健特別会計１６１万4，０００円で８７．６％の減、後期高齢者医療特別会計３億3，５７８万5，０００円で6．１％の増、介護保険特別会計３１億5，５７２万2，０００円で4．３％の増、介護保険地域支援事業特別会計１億2，０７４万5，０００円で４．１％の増、特別養護老人ホーム特別会計４億7，４７６万1，０００円で１．０％の減、簡易水道事業特別会計９億2，７２４万3，０００円で１８．８％の減、集落排水処理施設特別会計２，３６０万円で前年度と同額です。旅客定期航路事業特別会計３，６５３万

１，０００円で１．６％の増、風力発電事業特別会計３，２７０万円で３２％の減、以上一般会計予算を初め診療所特別会計予算ほか１１の特別会計の予算総額は３８７億９，８４５万５，０００円となっております。

次ページをお願いいたします。次に、特別会計繰出金等についてでありますが、一般会計から特別会計へ繰り出す合計金額は１４億５，０９６万１，０００円で、前年度に比べ２．３％の減となっております。

次ページ以降、平成２２年度一般会計歳入歳出予算の対前年度比較表を添付いたしております。歳入内訳比較表、目的別内訳比較表及び歳出性質別比較表につきましては、説明を省略させていただきますので、後ほどごらんいただきたいと思います。

それでは、平成２２年度一般会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお願いいたします。平成２２年度対馬市の一般会計の予算は、次に定めるところによることを規定し、第１条第１項、歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ２７７億５，４００万円と定めるものであります。

第２項、歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページから８ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

第２条、地方自治法第２１２条第１項の規定による継続費の経費の総額及び年割額は１０ページ、１１ページの「第２表　継続費」によることを定めております。

第３条、地方自治法第２３０条第１項の規定により起こすことのできる地方債は、地方債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法を、同じく１０ページ、１１ページの「第３表　地方債」によるとしようとするものであります。

第４条、地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金は、借り入れの最高額を８０億円と定めようとするものであります。

第５条、地方自治法第２２０条第２項ただし書きの規定により、歳出予算の款項の経費の金額を流用できる場合は、同条第１号で各項に計上した給料、職員手当及び共済費、賃金に係る共済費を除きますが、そういった係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用とすると定めようとするものであります。

２ページをお願いいたします。第１表歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額を御説明申し上げます。

まず、歳入でございますが、１款市税２７億９，３４４万４，０００円の内訳は、１項市民税１１億９，８９９万９，０００円、２項固定資産税１２億５，３３５万５，０００円、３項軽自動車税８，６０１万８，０００円、４項市たばこ税２億４，６５４万円、５項鉱産税７万２，０００円、６項入湯税８４６万円であります。

２款地方譲与税２億３，４０３万円の内訳は、１項地方揮発油剰余税５，８００万円、２項自動車重量譲与税１億６，９００万円、３項特別とん譲与税３万円、４項航空機燃料譲与税７００万円であります。

３款利子割交付金８００万円は、１項利子割交付金であります。

４款配当割交付金１７０万円は、１項配当割交付金であります。

５款株式等譲渡所得割交付金５０万円は、１項株式等譲渡所得割交付金であります。

６款地方消費税交付金２億７，８００万円は、１項地方消費税交付金であります。

７款自動車取得税交付金３，３００万円は、１項自動車取得税交付金であります。

８款国有提供施設等所在市町村助成交付金１，０９０万円は、１項国有提供施設等所在市町村助成交付金であります。

９款地方特例交付金３，６００万円は、１項地方特例交付金であります。

１０款地方交付税１４９億５，７３８万１，０００円は、１項地方交付税であります。

１１款交通安全対策特別交付金２７０万円は、１項交通安全対策特別交付金であります。

１２款分担金及び負担金１億９，３３３万４，０００円の内訳は、１項分担金５６４万６，０００円、２項負担金１億８，７６８万８，０００円であります。

１３款使用料及び手数料３億２，６５３万４，０００円の内訳は、１項使用料２億８８８万８，０００円、２項手数料１億１，７６４万６，０００円であります。

４ページをお願いいたします。１４款国庫支出金２８億６，１１４万４，０００円の内訳は、１項国庫負担金２０億３，３７０万６，０００円、２項国庫補助金８億１，７３６万１，０００円、３項委託金１，００７万７，０００円であります。

１５款県支出金２４億７，８３３万円の内訳は、１項県負担金５億５，７３９万４，０００円、２項県補助金１７億４，６５６万８，０００円、３項委託金１億７，４３６万８，０００円であります。

１６款財産収入８，８８９万６，０００円の内訳は、１項財産運用収入７，１２４万円、２項財産売払収入１，７６５万６，０００円であります。

１７款寄附金６０万円は１項寄附金であります。

１８款繰入金７億７，００２万４，０００円は２項基金繰入金であります。

１９款繰越金１億円は１項繰越金であります。

２０款諸収入８，５２８万３，０００円の内訳は、１項延滞金加算金及び過料３０万円、２項市預金利子１００万円、３項貸付金元利収入２，０８３万４，０００円、５項雑入６，３１４万９，０００円であります。

２１款市債２４億９，４２０万円は、１項市債であります。

歳入合計を２７７億5，４００万円といたしております。

６ページをお願いいたします。次に歳出でございますが、１款議会費１億６，６２２万６，０００円は、１項議会費であります。

２款総務費３９億1，０２７万円の内訳は、１項総務管理費２９億８，３９５万7，０００円、２項徴税費２億８，３２３万９，０００円、３項戸籍住民基本台帳費１億5，９３６万９，０００円、４項選挙費８，８８９万3，０００円、５項統計調査費３億６，８０８万４，０００円、６項監査費２，６７２万８，０００円であります。

３款民生費６２億２，４０９万円の内訳は、１項社会福祉費２８億６，０５５万９，０００円、２項児童福祉費１７億４，３１５万3，０００円、３項生活保護費１６億1，９８９万６，０００円、４項災害救助費４８万２，０００円であります。

４款衛生費３３億３，３４０万７，０００円の内訳は、１項保健衛生費１５億２，８５６万４，０００円、２項清掃費１８億４８４万3，０００円であります。

６款農林水産業費２１億５，７６９万円の内訳は、７ページをお願いいたします。（発言する者あり）はい。７ページをお願いいたします。７款商工費でございます。３億７，８７５万６，０００円です。これは１項商工費であります。

８款土木費、土木管理費、道路橋梁費、河川費、港湾費、都市計画費、住宅費、合わせて１４億3，５３７万3，０００円であります。

９款は消防費９億５，５１０万円であります。

１０款教育費は教育総務費、小学校費、中学校費、幼稚園費で１９億９，２０５万円であります。

８ページをお願いいたします。１２款公債費７１億７，１１７万９，０００円であります。１３款諸支出金は９８５万９，０００円であります。１４款予備費は２，０００万円であります。歳出合計２７７億５，４００万円といたしております。

１０ページをお願いいたします。第２表継続費につきましては、４款衛生費２項清掃費の対馬中部汚泥再生処理センター整備計画支援事業についての事業費の総額を５，１００万円とするものであります。

「第３表　地方債」につきましては、一般廃棄物処理事業債から臨時財政対策債までそれぞれ限度額を定め、限度額合計を２４億９，４２０万円といたしております。

１８６ページ、１８７ページに特別職の給与費明細書を、１８８ページ、１８９ページに一般職の給与費明細書の総括表を、１９０ページから１９３ページにかけまして給料及び職員手当の状況等を、１９４ページから１９９ページにかけまして債務負担行為で翌年度以降にわたるものについての前年度末までの支出額または支出額の見込み及び当該年度以降の支出予定額等に関す

る調書を、２００ページ、２０１ページにかけまして地方債の前々年度末における現在高、並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書を添付いたしております。御参照方をよろしくお願いをいたします。

以上で提案理由の説明を終わります。何とぞ慎重に御審議の上、適正なる御決定を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第１３号、平成２２年度対馬市一般会計予算については、委員会条例第６条の規定により、平成２２年度一般会計予算審査特別委員会を設置し付託の上審査をしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１３号は、平成２２年度一般会計予算審査特別委員会を設置し付託の上審査することに決定しました。

再度お諮りします。ただいま設置されました平成２２年度一般会計予算審査特別委員会の委員については、委員会条例第８条第１項の規定に基づき、議長を除く議員２１名を指名したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議長を除く２１名を平成２２年度一般会計予算審査特別委員会委員に選任することに決定しました。

委員長、副委員長互選のため、委員会条例第１０条の規定により、平成２２年度一般会計予算審査特別委員会を議員控室に招集します。

暫時休憩します。

午後３時26分休憩

……

午後３時27分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

平成２２年度一般会計予算審査特別委員会の委員長、副委員長決定の通知を受けておりますので報告します。委員長に糸瀬一彦君、副委員長に阿比留光雄君、以上のとおりです。

平成２２年度一般会計予算審査特別委員長の審査報告は３月２４日に行います。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２３．同意第１号

○議長（作元　義文君）　日程第２３、同意第１号、対馬市教育委員会委員の任命について同意を求める件を議題とします。

本件について提案理由の説明を求めます。市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ただいま議題となりました同意第１号、対馬市教育委員会委員の任命について提案理由を御説明いたします。

現教育委員の村井成枝氏が、平成２２年４月３０日をもって任期満了となりますので再任いたしたく、議会の同意をお願いするものでございます。

同氏につきましては改めて紹介するまでもなく、議員皆様御存じのとおり現在教育委員として活躍されており、実務経験、人格識見ともに申し分なく教育委員として適任でございます。なお、任期は平成２２年５月１日より平成２６年４月３０日までの４年間となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております同意第１号は、会議規則第３７条第２項の規定により委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、同意第１号は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから同意第１号、対馬市教育委員会委員の任命について同意を求める件を採決します。この採決は起立によって行います。本件はこれに同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、同意第１号、対馬市教育委員会委員の任命について同意を求める件は、同意することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２４．同意第２号

日程第２５．同意第３号

日程第２６．同意第４号

日程第２７．同意第５号

日程第２８．同意第６号

日程第２９．同意第７号

○議長（作元　義文君）　日程第２４、同意第２号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任についてから、日程第２９、同意第７号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任についてまでの６件を一括議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ただいま議題となりました同意第２号から同意第７号までにつきましては、いずれも対馬市固定資産評価審査委員会委員の任期満了に伴います委員の選任についてでございますので、続けて提案の御説明をいたします。

現委員は、皆さんともに平成２２年４月３０日をもって任期が満了いたしますので、後任の委員を選任したく、議会の同意をお願いするものでございます。

同意第２号及び同意第３号の中村忠康氏、前川佐久美氏、並びに同意第５号から同意第７号の阿比留義教氏、川本惣宏氏、古藤好郎氏の各氏につきましては、ともに任期満了に伴い再任をお願いするものでございます。また、同意第４号の佐伯武久氏につきましては、現委員の阿比留晴二氏の任期満了に伴い、同氏の後任として佐伯武久氏を適任と考え選任するものでございます。同氏は平成１６年３月に豊玉郵便局を退職されるまで３５年間勤められ、人望も厚く広く信頼を寄せられている方でございます。

いずれの方におきましても、人格識見とも申し分なく、固定資産評価審査委員会委員として適任と考え、地方税法第４２３条第３項の規定により、議会の同意をお願いするものでございます。なお、任期は平成２２年５月１日より平成２５年４月３０日までの３年間となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題となっております同意第２号から同意第７号までの６件は、会議規則第３７条第２項の規定により委員会付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、同意第２号から同意第７号までの６件は委員会付託を省略することに決定しました。

これから同意第２号から同意第７号までの６件について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。

これから同意第２号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件を採決します。同意第２号は原案のとおり同意することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。したがって、同意第２号は同意することに決定しました。

これから同意第３号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件を採決します。同意第３号は原案のとおり同意することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、同意第３号は同意することに決定しました。

これから同意第４号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件を採決します。同意第４号は原案のとおり同意することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。したがって、同意第４号は同意することに決定しました。

これから同意第５号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件を採決します。同意第５号は原案のとおり同意することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。したがって、同意第５号は同意することに決定しました。

これから同意第６号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件を採決します。同意第６号は原案のとおり同意することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。したがって、同意第６号は同意することに決定しました。

これから同意第７号、対馬市固定資産評価審査委員会委員の選任について同意を求める件を採決します。同意第７号は原案のとおり同意することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数です。したがって、同意第７号は同意することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で本日の議事日程はすべて終了しました。

あしたは定刻より本会議を開き、議案上程を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後３時36分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――

平成22年　第１回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第２日）

平成22年３月９日（火曜日）

議事日程（第２号）

平成22年３月９日　午前10時00分開議

日程第１　議案第14号　平成２２年度対馬市診療所特別会計予算

日程第２　議案第15号　平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算

日程第３　議案第16号　平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算

日程第４　議案第17号　平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

日程第５　議案第18号　平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算

日程第６　議案第19号　平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

日程第７　議案第20号　平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

日程第８　議案第21号　平成２２年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

日程第９　議案第22号　平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算

日程第10　議案第23号　平成２２年度対馬市風力発電事業特別会計予算

日程第11　議案第24号　平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算

日程第12　議案第25号　平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

日程第13　議案第26号　平成２２年度対馬市水道事業会計予算

日程第14　議案第27号　対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例

日程第15　議案第28号　対馬市自家用有償バス運行に関する条例の一部を改正する条例

日程第16　議案第29号　対馬市長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例

日程第17　議案第30号　対馬市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

日程第18　議案第31号　対馬市手数料条例の一部を改正する条例

日程第19　議案第32号　対馬市スクールバスの運行及び管理に関する条例の一部を改正する条例

日程第20　議案第33号　対馬市コミュニティーセンター条例の一部を改正する条例

日程第21　議案第34号　対馬市歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例

日程第22　議案第35号　対馬市犬取締条例の一部を改正する条例

日程第23　議案第36号　対馬市農林集会施設等条例の一部を改正する条例

日程第24　議案第37号　対馬ふるさと伝承館条例の一部を改正する条例
日程第25　議案第38号　対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例
日程第26　議案第39号　対馬市営航路船舶使用料条例の一部を改正する条例
日程第27　議案第40号　対馬市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例
日程第28　議案第41号　対馬市火災予防条例の一部を改正する条例
日程第29　議案第42号　対馬市国民宿舎条例を廃止する条例
日程第30　議案第43号　対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例
日程第31　議案第44号　対馬市ネコ適正飼養条例
日程第32　議案第45号　対馬市教育施設整備基金条例
日程第33　議案第46号　対馬市厳原港国際ターミナル条例
日程第34　議案第47号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について
日程第35　議案第48号　対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定について
日程第36　議案第49号　市有財産の無償譲渡について
日程第37　議案第50号　市有財産の無償貸与について
日程第38　議案第51号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（女連漁港）
日程第39　議案第52号　長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について
日程第40　議案第53号　長崎県市町村総合事務組合の規約変更について
日程第41　議案第54号　長崎県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び長崎県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約について
日程第42　議案第55号　市道の廃止について（内山２号線）
日程第43　議案第56号　市道の認定について（内山２号線）
日程第44　議案第57号　市道の認定について（内山６号線）
日程第45　議案第58号　市道の認定について（内山７号線）
日程第46　議案第59号　市道の認定について（久田１７号線）
日程第47　議案第60号　市道の認定について（久田１８号線）
日程第48　議案第61号　市道の認定について（堂ノ内線）
日程第49　陳情第１号　核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の陳情について

本日の会議に付した事件

日程第１　議案第14号　平成２２年度対馬市診療所特別会計予算

日程第２　議案第15号　平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算

日程第３　議案第16号　平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算

日程第４　議案第17号　平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

日程第５　議案第18号　平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算

日程第６　議案第19号　平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

日程第７　議案第20号　平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

日程第８　議案第21号　平成２２年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

日程第９　議案第22号　平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算

日程第10　議案第23号　平成２２年度対馬市風力発電事業特別会計予算

日程第11　議案第24号　平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算

日程第12　議案第25号　平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

日程第13　議案第26号　平成２２年度対馬市水道事業会計予算

日程第14　議案第27号　対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例

日程第15　議案第28号　対馬市自家用有償バス運行に関する条例の一部を改正する条例

日程第16　議案第29号　対馬市長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例

日程第17　議案第30号　対馬市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例

日程第18　議案第31号　対馬市手数料条例の一部を改正する条例

日程第19　議案第32号　対馬市スクールバスの運行及び管理に関する条例の一部を改正する条例

日程第20　議案第33号　対馬市コミュニティーセンター条例の一部を改正する条例

日程第21　議案第34号　対馬市歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例

日程第22　議案第35号　対馬市犬取締条例の一部を改正する条例

日程第23　議案第36号　対馬市農林集会施設等条例の一部を改正する条例

日程第24　議案第37号　対馬ふるさと伝承館条例の一部を改正する条例

日程第25　議案第38号　対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例

日程第26　議案第39号　対馬市営航路船舶使用料条例の一部を改正する条例

日程第27　議案第40号　対馬市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例

日程第28　議案第41号　対馬市火災予防条例の一部を改正する条例
日程第29　議案第42号　対馬市国民宿舎条例を廃止する条例
日程第36　議案第49号　市有財産の無償譲渡について
日程第37　議案第50号　市有財産の無償貸与について
日程第30　議案第43号　対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例
日程第31　議案第44号　対馬市ネコ適正飼養条例
日程第32　議案第45号　対馬市教育施設整備基金条例
日程第33　議案第46号　対馬市厳原港国際ターミナル条例
日程第34　議案第47号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について
日程第35　議案第48号　対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定について
日程第38　議案第51号　漁港区域内公有水面の埋立てについて（女連漁港）
日程第39　議案第52号　長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について
日程第40　議案第53号　長崎県市町村総合事務組合の規約変更について
日程第41　議案第54号　長崎県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び長崎県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約について
日程第42　議案第55号　市道の廃止について（内山２号線）
日程第43　議案第56号　市道の認定について（内山２号線）
日程第44　議案第57号　市道の認定について（内山６号線）
日程第45　議案第58号　市道の認定について（内山７号線）
日程第46　議案第59号　市道の認定について（久田１７号線）
日程第47　議案第60号　市道の認定について（久田１８号線）
日程第48　議案第61号　市道の認定について（堂ノ内線）
日程第49　陳情第１号　核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の陳情について

出席議員（21名）

１番　脇本　啓喜君	２番　黒田　昭雄君
３番　小田　昭人君	４番　長　　信義君
５番　山本　輝昭君	６番　松本　暦幸君
８番　齋藤　久光君	９番　堀江　政武君

10番　小宮　教義君	11番　阿比留光雄君
12番　三山　幸男君	13番　初村　久藏君
14番　糸瀬　一彦君	15番　桐谷　　徹君
16番　大浦　孝司君	17番　小川　廣康君
18番　大部　初幸君	19番　兵頭　　栄君
20番　中原　康博君	21番　島居　邦嗣君
22番　作元　義文君	

欠席議員（１名）

７番　阿比留梅仁君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	橘　　清治君	次長	渋江　雄司君
参事兼課長補佐	長野　元久君	副参事兼係長	國分　幸和君

説明のため出席した者の職氏名

市長 ……	財部　能成君
副市長 ……	大浦　義光君
副市長 ……	齋藤　勝行君
政策補佐官 ……	松原　敬行君
地域再生推進本部長 ……	永尾　榮啓君
観光物産推進本部長 ……	本石健一郎君
総務企画部長 ……	平山　秀樹君
総務課長 ……	桐谷　雅宣君
市民生活部長 ……	近藤　義則君
福祉保健部長 ……	扇　　照幸君
農林水産部長 ……	比田勝尚喜君
建設部長 ……	斉藤　正敏君
水道局長 ……	阿比留　誠君
教育部長 ……	大石　邦一君

美津島地域活性化センター部長 …… 長郷　泰二君
豊玉地域活性化センター部長 …… 中村　敏明君
峰地域活性化センター部長 …… 大川　昭敬君
上県地域活性化センター部長 …… 武田　延幸君
上対馬地域活性化センター部長 …… 川本　治源君
消防長 …… 阿比留　健君
会計管理者 …… 糸瀬　良久君
監査委員事務局長 …… 主藤　繁明君
農業委員会事務局長 …… 永留　秋廣君

午前10時00分開議

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。阿比留梅仁君より、体調不良のため欠席の届け出があっております。

お手元に配付の議事日程第２号により、本日の会議を開きます。

日程第１．議案第１４号
日程第２．議案第１５号
日程第３．議案第１６号
日程第４．議案第１７号
日程第５．議案第１８号
日程第６．議案第１９号
日程第７．議案第２０号
日程第８．議案第２１号
日程第９．議案第２２号
日程第１０．議案第２３号
日程第１１．議案第２４号
日程第１２．議案第２５号
日程第１３．議案第２６号

○議長（作元　義文君）　日程第１、議案第１４号、平成２２年度対馬市診療所特別会計予算から日程第１３、議案第２６号、平成２２年度対馬市水道事業会計予算までの１３件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。福祉保健部長、扇照幸君。

○福祉保健部長（扇　　照幸君）　おはようございます。ただいま一括して議題となりました議案のうち議案第１４号から議案第２０号までの７件につきましては、福祉保健部の所管でありますので続けて御説明をさせていただきます。

まず、議案第１４号、平成２２年度対馬市診療所特別会計予算について、御説明申し上げます。

１ページをお願いいたします。平成２２年度対馬市の診療所特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算は第１条で歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ３億６，８７５万１，０００円とするものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は２ページ及び３ページの第１表歳入歳出予算による、とするものであります。

歳入について御説明いたします。８ページをお願いします。

１款診療収入１項外来収入は、直営診療所の国民健康保険診療報酬収入等２億５，７２２万６，０００円を見込んでおります。

２款使用料及び手数料１項手数料は、診断書等の証明手数料を１７８万３，０００円見込んでおります。

３款県支出金１項県補助金は、へき地医療対策費補助金を２，５６５万１，０００円計上しております。

４款繰入金１項他会計繰入金は、職員の人件費等赤字補てん分として一般会計からの繰入金７，０４９万６，０００円を計上しております。

１０ページをお願いします。５款繰越金１項繰越金は、前年度繰越金を５０万円計上しております。

６款諸収入１項雑入は、予防接種委託料、事業所健康診査委託料収入等１，３０９万５，０００円を計上しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。

１款総務費１項施設管理費は、２億３，２７１万４，０００円を計上しております。

一般職員８名、臨時職員７名分の人件費、嘱託医師謝礼。

１４ページをお願いします。医師派遣等委託料、診療所医師研究等補助金及び施設の維持管理経費等を計上しております。

２款医業費１項医業費は、医療用器具のリース料、X線電算システム、機械器具購入費、注射器等の医業用消耗機材費及び医薬品等の医業用衛生材料費等１億３，６０３万７，０００円を計上しております。

１８ページから２２ページにかけまして給与費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１５号、平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算について御説明申

し上げます。

１ページをお願いします。平成２２年度対馬市の国民健康保険特別会計予算は、次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算は第１条で歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ５５億6，３１３万1，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページから５ページにかけましての「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

第２条で地方自治法第２３５条の３第２項の規定による一時借入金につきましては、借り入れの最高額を５億３，０００万円と定めるものであります。

歳入について御説明申し上げます。１０ページをお願いいたします。

第１款国民健康保険税１項国民健康保険税は、一般被保険者国民健康保険税及び退職被保険者等国民健康保険税を１３億1，０９５万8，０００円計上いたしております。

１２ページをお願いします。２款使用料及び手数料１項手数料は、督促手数料を５０万円計上しております。

３款国庫支出金１項国庫負担金は、療養給付費後期高齢者支援金、介護納付金等にかかる国費分の負担金を１１億5，９１６万5，０００円計上しております。２項国庫補助金は、普通調整交付金、介護従事者処遇改善臨時特例交付金等５億３，１３５万5，０００円を計上しております。

１４ページをお願いします。４款療養給付費交付金１項療養給付費交付金は、退職被保険者の給付に伴う社会保険診療報酬支払基金からの交付金で、８，５５２万4，０００円を計上しております。

５款前期高齢者交付金１項前期高齢者交付金は、保険者間において前期高齢者にかかる医療費の不均衡を調整するために交付されるもので９億２，２９０万1，０００円を計上しております。

６款県支出金１項県負担金は、高額医療費共同事業負担金等４，０５１万2，０００円を計上しております。２項県補助金は普通調整交付金及び特別調整交付金を２億７，９２３万円計上しております。

１６ページをお願いします。８款共同事業交付金１項共同事業交付金は、高額医療費共同事業交付金及び保険財政共同安定化事業交付金を７億３７３万8，０００円計上しております。

９款財産収入１項財産運用収入は、財政調整基金等の利子４０万6，０００円を計上しております。

１０款繰入金１項他会計繰入金は、保険基盤安定繰入金等一般会計からの繰入金を３億７，６４５万円計上しております。２項基金繰入金は、財政調整基金繰入金を９，２１８万2，０００円計上しております。

１８ページをお願いします。１１款繰越金１項繰越金は、前年度繰越金等６，０００万

１，０００円を計上しております。

歳出でございますが、２２ページをお願いします。

１款総務費１項総務管理費は、一般の管理事務費のほか、医療システムプログラム修正委託料、レセプト点検等の嘱託職員報酬、レセプト点検事務共同事業手数料等２，３２７万２，０００円を計上しております。

２４ページをお願いします。２項徴税費は嘱託職員報酬、納税組合交付金等２，１５８万１，０００円を計上しております。３項運営協議会費は国保運営協議会委員報酬等２１万４，０００円を計上しております。

２６ページをお願いします。２款保険給付費１項療養諸費は一般被保険者療養給付費、退職被保険者等療養給付費、一般被保険者療養費等３１億３，３６３万２，０００円を計上しております。２項高額療養費は、一般被保険者高額療養費は一般被保険者高額療養費、退職被保険者等高額療養費等３億６，１８７万７，０００円を計上しております。

２８ページをお願いします。４項出産育児諸費は、出産育児一時金９０人分及び支払い手数料を３，７８１万９，０００円計上しております。５項葬祭諸費は葬祭費を２２０万円計上しております。

３款後期高齢者支援金等１項後期高齢者支援金等は、後期高齢者医療制度に対する支援金及び事務費拠出金等６億９，４０１万９，０００円を計上しております。

３０ページをお願いします。４款前期高齢者納付金等１項前期高齢者納付金等は支払基金から交付される前期高齢者交付金に対する納付金と事務費拠出金で１６３万３，０００円を計上しております。

５款老人保健拠出金１項老人保健拠出金は、老人保健への事務費拠出金を４万４，０００円計上しております。

６款介護納付金１項介護納付金は介護保険制度に対する納付金２億９，８６０万６，０００円計上しております。

７款共同事業拠出金１項共同事業拠出金は、高額医療費共同事業医療費拠出金及び保険財政共同安定化事業拠出金を８億２，７７３万５，０００円計上しております。

３２ページをお願いします。８款保健事業費１項特定健康診査等事業費は、特定健康診査、特定保健指導に関する事業費４，７８７万５，０００円を計上しております。

９款基金積立金１項基金積立金は、財政調整基金積立金を４０万７，０００円計上しております。

３４ページをお願いします。１０款公債費１項公債費は、一時借入金利子を１００万円計上しております。

１１款諸支出金１項償還金及び還付加算金は国庫支出金返納金等６３４万８，０００円を計上しております。

１２款予備費１項予備費は、１億４８６万６，０００円を計上しております。

３６ページから３９ページにかけまして給与費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１６号、平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお願いします。平成２２年度対馬市の老人保健特別会計予算は次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算は第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ１６１万４，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は２ページ及び３ページの第１表歳入歳出予算によるとするものであります。

平成２０年度から施行されました後期高齢者医療制度の開始により、本年度末をもって本特別会計は廃止となる予定でございます。本年度は過誤請求等により未支給となっております医療費及び事務費の支出となっております。

歳入について御説明申し上げます。８ページをお願いします。

１款支払基金交付金、２款国庫支出金、３款県支出金につきましては科目のみを設定しておりますが、これは医療費の負担金等は次年度に精算されることになったためでございます。このため事務費、医療給付費等の財源は、次の４款繰入金１項一般会計繰入金を１６０万円計上しております。支払い基金交付金、国費等の負担分は次年度に一般会計の雑入で受け入れる予定でございます。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。

１款総務費１項総務管理費は事務費を１０万３，０００円。

２款医療諸費１項医療諸費は医療給付費等１３０万８，０００円を計上しております。

１４ページをお願いします。４款予備費１項予備費は２０万円を計上いたしております。

続きまして、議案第１７号、平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算について御説明を申し上げます。

１ページをお願いします。平成２２年度対馬市の後期高齢者医療特別会計予算は次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算は第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ３億３，５７８万５，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの第１表歳入歳出予算による、とするものであります。

歳入について御説明申し上げます。８ページをお願いします。

１款後期高齢者医療保険料１項後期高齢者医療保険料は、特別徴収保険料及び普通徴収保険料を１億８，８７７万８，０００円見込んでおります。

５款繰入金１項一般会計繰入金は、事務費繰入金及び保険基盤安定繰入金を１億４，６２３万２，０００円計上しております。

１０ページをお願いします。７款諸収入２項償還金及び還付加算金は、後期高齢者医療広域連合より受け入れる保険料還付金等３７万１，０００円を計上しております。５項雑入は保険料の還付処理が完了しなかった保険料の還付金の受け入れ等４０万１，０００円を計上しております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。

１款総務費１項総務管理費は、職員２名分の人件費、広域連合事務費負担金及び一般事務費等３，７８４万８，０００円を計上しております。

２款後期高齢者医療広域連合納付金１項後期高齢者医療広域連合納付金は保険基盤安定負担金及び保険料納付金を２億９，７４６万６，０００円計上しております。

１４ページをお願いします。３款諸支出金１項償還金及び還付加算金は保険料の還付金等３７万１，０００円を計上しております。

４款予備費１項予備費は１０万円を計上しております。

１６ページから２０ページにかけまして給付費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１８号、平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお願いします。平成２２年度対馬市の介護保険特別会計予算は次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算は第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ３１億５，５７２万２，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は２ページから４ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明を申し上げます。１０ページをお願いします。

１款保険料１項介護保険料は第１号被保険者にかかる特別徴収保険料、普通徴収保険料等４億４，５６４万９，０００円を見込んでおります。

３款国庫支出金１項国庫負担金は、介護給付費にかかる国庫負担金５億２，２３７万５，０００円を計上しております。２項国庫補助金は、普通調整交付金、地域支援事業交付金等２億８，２２３万６，０００円を計上しております。

１２ページをお願いします。４款支払基金交付金１項支払基金交付金は、第２号被保険者にかかる保険料で支払基金からの介護給付費交付金及び地域支援事業支援交付金を８億９，５６０万４，０００円を計上しております。

５款県支出金１項県負担金は、介護給付費等の県負担金４億３，８４８万３，０００円を計上しております。２項県補助金は、介護予防事業包括的支援事業にかかる地域支援事業交付金１，５４９万８，０００円を計上しております。

６款財産収入１項財産運用収入は、介護給付費準備基金利子等５５万３，０００円を計上しております。

１４ページをお願いします。７款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金４億９，２５２万円を、２項基金繰入金は介護給付費準備基金繰入金及び介護従事者処遇改善臨時特例基金繰入金を６，２７９万９，０００円計上しております。

歳出でございますが、１８ページをお願いします。

１款総務費１項総務管理費は、職員給与等の人件費、一般事務費等７，３９９万９，０００円を計上しております。３項介護認定審査会費は介護認定審査委員の報酬。２０ページをお願いします。意見書作成手数料、認定審査委託料等３，５８８万円を計上しております。５項計画策定委員会費は計画策定にかかる経費を２８万円計上しております。

２款保険給付費１項介護サービス等諸費は、介護サービス給付費及び特例介護サービス給付費を２４億１，６９４万１，０００円計上しております。

２２ページをお願いします。２項介護予防サービス等諸費は、介護予防サービス給付費及び特例介護予防サービス給付費を３億３３４万３，０００円計上しております。３項その他諸費は審査支払手数料を３７８万５，０００円計上しております。４項高額介護サービス等費は、高額介護サービス費負担金等を６，１２３万３，０００円を計上しております。５項高額医療合算介護サービス費は、高額医療合算介護サービス費負担金等１００万円を計上しております。６項特定入所者介護サービス等費は、特定入所者介護サービス費負担金等、２４ページをお願いします。１億６，９５４万３，０００円を計上しております。

４款基金積立金１項基金積立金は、介護給付費準備基金積立金等５５万５，０００円を計上しております。

６款諸支出金１項償還金及び還付加算金は過年度分保険料払戻金等６０万２，０００円を計上しております。

８款地域支援事業費１項介護予防事業費の２，９５２万円及び２項包括的支援事業任意事業費の５，９０４万１，０００円は介護保険地域支援事業特別会計への繰り出し金を計上しております。

２６ページから３２ページにかけまして給付費明細書を添付いたしております。

続きまして、議案第１９号、平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお願いします。平成２２年度対馬市の介護保険地域支援事業特別会計予算は次に定

めるところによることを規定し、歳入歳出予算は第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ１億２，０７４万５，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの第１表歳入歳出予算によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。８ページをお願いします。

１款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金及び介護保険特別会計からの繰入金を９，２４６万５，０００円計上しております。

２款繰越金１款繰越金は、前年度剰余金を１０万円計上しております。

３款諸収入１項サービス事業収入は介護予防支援事業収入等２，８１８万円を計上しております。

歳出でございますが、１０ページをお願いします。

１款地域支援事業費１項地域支援事業運営費は、地域包括支援センター３カ所の運営に要する経費として嘱託職員、一般職員の人件費、事務費、社会福祉協議会より専門職として派遣いただいております職員５名分の給与費の負担金等９，０９６万２，０００円を計上しております。

１２ページをお願いします。２項介護予防事業費は特定高齢者把握事業委託料等７７５万５，０００円を計上しております。３項包括的支援事業費任意事業費は在宅歯科診療補助金等６０万８，０００円を計上しております。

２款介護予防支援費１項介護予防支援サービス事業費は、介護予防支援事業に対す委託料を２，１４２万円計上しております。

１４ページから２０ページにかけまして給与費明細書を添付いたしております。

最後に、議案第２０号、平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお願いします。平成２２年度対馬市の特別養護老人ホーム特別会計予算は次に定めるところによることを規定し、歳入歳出予算は第１条で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ４億７，４７６万１，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は、２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。８ページをお願いします。

３款繰入金１項他会計繰入金は、一般会計からの繰入金１億２，０８４万７，０００円を計上しております。

４款繰越金１項繰越金は前年度繰越金を１００万円計上しております。

５款諸収入１項介護給付費収入は浅茅の丘及び日吉の里における短期入所生活介護収入、施設

介護サービス収入等3億２５７万5，０００円を見込んでおります。２項自己負担金収入につきましても、浅茅の丘及び、１０ページをお願いします。日吉の里の施設介護サービス費、食事サービス費、住居費等の自己負担金収入等5，０３０万3，０００円を見込んでおります。３項雑入は浅茅の丘の自動販売機設置料を計上いたしております。

歳出でございますが、１２ページをお願いします。

１款民生費１項社会福祉費は、１目で特養浅茅の丘にかかる嘱託職員、一般職員等の人件費、事務費、施設管理にかかる経費等２億２８８万7，０００円を、１４ページをお願いします。２目で特養日吉の里に係る人件費、事務費、施設管理費等２億４９７万8，０００円をそれぞれ計上し、両施設で4億７８６万5，０００円の管理費を計上いたしております。

１８ページをお願いします。２款公債費１項公債費は地方債の償還金元金及び利子を6，６８９万6，０００円計上しております。

２０ページから２６ページにかけまして給与費明細書を、また、２８ページ及び２９ページに地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書を添付いたしております。

以上、議案第１４号から議案第２０号まで7件の特別会計予算の概要について説明をさせていただきました。御審議の上、御決定くださいますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　豊玉地域活性化センター部長、中村敏明君。

○豊玉地域活性化センター部長（中村　敏明君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第２１号、平成２２年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算について御説明申し上げます。

１ページをお開き願います。平成２２年度対馬市の旅客定期航路事業特別会計の予算は次に定めるところによります。

歳入歳出予算第１条第１項歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ3，６５３万1，０００円と定めるものであります。

第2項歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は2ページから3ページの「第1表　歳入歳出予算」によるものであります。

歳入について御説明申し上げます。８ページをお開き願います。

１款事業収入１項事業収入の３１１万9，０００円は、旅客運賃及び貨物運賃を計上いたしております。

２款国庫支出金１項国庫補助金の1，６６３万5，０００円及び3款県支出金１項県補助金の６８０万6，０００円は、赤字航路事業に対する国及び県からの補助金であります。

４款繰入金１項他会計繰入金の９８５万9，０００円は、一般会計からの繰り入れでございます。

１０ページをお願いいたします。５款財産収入１項財産運用収入は基金利子１万２，０００円、６款の繰越金は前年度繰越金１０万円を計上いたしております。

次に、歳出について御説明申し上げます。１２ページをお開き願います。

１款総務費１項総務管理費の２，８５１万円は、嘱託員の報酬、職員及び船員の人件費並びに旅費、旅客船協会等の負担金を計上いたしております。

１２ページから１５ページの２款施設費１項施設費の７９２万１，０００円は旅客船の運行に必要な燃料費、建造から２３年を迎え、老朽化が進む渡海船の修繕料が主なものでございます。そのほかにも船舶保険料や渡海船をドック入居する際の代替船舶の傭船料などを計上いたしております。

１４から１５ページの４款に予備費として１０万円を計上いたしております。

１６ページ以降には給与費明細書を添付いたしておりますので御参照方お願いいたします。

以上で説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　建設部長、斉藤正敏君。

○建設部長（斉藤　正敏君）　一括議題となっております議案第２２号、平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算について御説明申し上げます。

本予算は２１年度にまちづくり事業用地として先行取得するため公共用地先行取得等事業債を借り受けました償還金利子支払いのための予算であります。

１ページをお願いいたします。平成２２年度対馬市の公共用地先行取得特別会計の予算は次に定めるところによることを規定し、第１条第１項歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ３８７万2，０００円と定めるものであります。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は２ページから３ページの「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明いたします。８ページをお開き願います。

２款繰入金１項他会計繰入金３８７万2，０００円は、一般会計からの繰り入れでございます。

次に歳出について御説明申し上げます。１０ページをお願いいたします。

１款公債費１項公債費３８７万2，０００円は、まちづくり事業用地の買収のために借り入れた市債に対する償還金利子であります。

以上で説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　上県地域活性化センター部長、武田延幸君。

○上県地域活性化センター部長（武田　延幸君）　ただいま一括して議題となりました議案第２３号、平成２２年度対馬市風力発電事業特別会計予算について、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

１ページをお開き願います。平成２２年度対馬市の風力発電事業特別会計の予算は次に定めるところによることを規定し、第１条第１項で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ３，２７０万円とするものでございます。

第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は２ページから３ページにかけての「第１表　歳入歳出予算」によるとするものであります。

歳入について御説明申し上げます。８ページをお開き願います。

１款売電事業収益１項営業収益１目売電収益３，２４３万７，０００円は過去の売電事業実績をもとに売電収益を算定し、計上いたしております。

２款財産収入１項財産運用収入１目利子及び配当金１６万３，０００円は財政調整基金利子でございます。

４款繰越金におきまして前年度繰越金１０万円を計上いたしております。

続きまして、歳出について御説明申し上げます。１０ページをお開き願います。

１款電気事業費１項営業費１目一般管理費１，５２４万４，０００円は風力発電施設の適正な維持管理に必要な経費を計上いたしております。主なものといたしまして、１節報酬におきまして嘱託職員電気主任技術者でございますが、その報酬３１８万１，０００円を、１１節需用費におきまして修繕料２１０万円を、１２節役務費におきまして保険料２２２万７，０００円を、１３節委託料におきまして施設点検業務委託料４９１万４，０００円を計上いたしております。

次に２項営業外費用１目消費税でございますが、４６万７，０００円を計上いたしております。

次に次のページ、１２ページをお開き願います。

２款公債費１項公債費１目元金におきまして償還金元金１，４２５万９，０００円を、２目利子におきまして償還金利子７３万円を計上いたしております。

次に、３款諸支出金１項基金費１目基金費におきまして財政調整基金積立金１５０万円を計上いたしております。

また、４款予備費におきまして５０万円を計上いたしております。

１４ページから１５ページにかけまして給与費明細書を、１６ページから１７ページに地方債の前々年度末における現在高並びに前年度末及び当該年度末における現在高の見込みに関する調書を添付いたしておりますので御参照方、お願いいたします。

以上で説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　水道局長、阿比留誠君。

○水道局長（阿比留　誠君）　一括して議題となりました議題のうち議案第２４号、議案第２５号、議案第２６号の３件は水道局所管の議案でございますので、続けて御説明いたします。

まず、議案第２４号、平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算について御説明いたしま

す。

１ページをお願います。平成２２年度対馬市の簡易水道事業特別会計の予算は次に定めるところによります。第１条第１項で歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ９億２，７２４万３，０００円と定め、第２項で歳入歳出予算の款項の区分及び当該区分ごとの金額は２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によります。

第２条地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、４ページの第２表地方債によります。

第３条一時借入金は借り入れ限度額を１億５，０００万円と定めております。

予算の概要を御説明いたしますので、８ページをお願いいたします。

歳入でございますが、１款分担金及び負担金１４９万６，０００円は水道加入金でございます。

２款使用料及び手数料４億５，２１４万円は水道使用料が主なものであります。

３款国庫支出金１億２，０５０万円は簡易水道整備事業補助金。

５款財産収入２６万８，０００円は財政調整基金利子であります。

１０ページをお願いします。６款繰入金２億３８９万４，０００円は公債費、償還金などに対する一般会計からの繰入金。

７款繰越金１，１２４万５，０００円は前年度からの繰越金。

８款諸収入１，７２０万円は市道など整備事業に伴う水道管移設補償金。

９款市債１億２，０５０万円は簡易水道改良事業債であります。

次に、歳出について御説明いたします。１２ページをお願いします。

１款簡易水道費１項水道管理費１目一般管理費１億７，３１４万５，０００円は、職員の人件費水質検査料、検針及び料金徴収業務委託料、消費税納付金などです。

１４ページの２目施設管理費１億１，１７５万４，０００円は水道施設の維持管理経費が主なものであります。２項１目水道建設費は２億７，２９２万９，０００円で、簡易水道整備事業にかかる経費を計上し、施設整備を計画的に実施するものであります。

１６ページをお願いします。２款公債費３億６，８６１万５，０００円は長期債の元利償還金及び一時借入金の利子を計上しております。

１８ページをお願いします。３款予備費８０万円を計上しております。

２０ページからは給与費明細書などを添付しております。

以上が議案第２４号、平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算の概要であります。

続きまして、議案第２５号、平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算について御説明をいたします。

１ページをお願いします。平成２２年度対馬市の集落排水処理施設特別会計の予算は次に定め

るところによります。第１条歳入歳出予算の総額は歳入歳出それぞれ２，３６０万円と定め、第１項款項の区分ごとの金額は２ページ及び３ページの「第１表　歳入歳出予算」によります。

予算の概要を御説明いたします。６ページをお願いします。

歳入でございますが、１款使用料及び手数料２２４万２，０００円は下水道使用料。

３款繰入金２，１２８万７，０００円は、一般会計からの繰入金。

４款繰越金１，０００円は前年度繰越金。

５款諸収入７万円は下水道加入金であります。

次に、歳出を御説明いたします。８ページをお願いします。

１款下水道事業費１項下水道管理費１目一般管理費２０万３，０００円は下水道使用料、使用水量の検針及び集金委託料など。２目施設管理費６４６万３，０００円は処理施設の維持管理費が主なものであります。

２款公債費１，６９３万４，０００円は、長期債償還元金利子を計上しております。

１０ページは地方債の調書を添付いたしております。

以上が、議案第２５号、平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算の概要であります。

最後に、議案第２６号、平成２２年度対馬市水道事業会計予算について御説明をいたします。

１ページをお願いします。第１条平成２２年度対馬市水道事業会計予算は次に定めるところによります。第２条業務の予定量は給水戸数６，３７０戸、年間総排水量２０６万４８８立方メートル、１日平均給水量は５，６４５立方メートルであります。

主要な建設改良事業は１億５，９００万円。その概要は施設整備事業１，６００万円、これは尾浦簡易水道増補改良事業１億４，３００万円を予定しております。

次に、第３条で水道事業収益２億４，００８万４，０００円、水道事業費用２億３，４３４万４，０００円と予定額を定めております。

第４条で資本的収入を１億４，９５４万５，０００円、資本的支出を１億７，９２２万２，０００円と予定額を定めております。資本的収入額が資本的支出額に対し、不足する額２，９６７万７，０００円は当年度分消費税、資本的収支調整額４２２万５，０００円、当年度分損益勘定留保資金２，５４５万２，０００円で補てんするものであります。

２ページをお願いします。第５条で企業債、起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法について定め、第６条で一時借入金の限度額を１億円と定め、第７条は予定支出の各項の経費の流用について定め、第８条は議会の議決を得なければ流用できない経費の指定を、第９条は棚卸資産の購入限度額を１，０００万円と定めるものであります。

以上、地方公営企業法第２４条第２項の規定により提案するものであります。

４ページから予算に関する説明書、また、１９ページから参考資料として予算補足資料を添付

いたしております。

以上で議案第２４号、議案第２５号、議案第２６号の特別会計予算の概要について説明をさせていただきました。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　これから各案に対する一括質疑を行います。質疑ありませんか。１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　議案第２０号について１点だけお尋ねをいたします。

特別養護老人ホーム、市長が１２月定例会の冒頭に行政報告の中で、２２年度中に民間に経営委託するように準備作業にとりかかっているというようなお話をしております。その準備はどこまで進んでいるのか。大体２２年度中に何月ごろに民間に浅茅の丘を経営移譲されるのか、お尋ねをいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１２月に申し上げましたのは、２２年度中に経営移譲するために２３年度からの経営移譲に向けて２２年度から動き出しますというふうに申し上げたところでありまして、そのあたりの認識がちょっと１年違うのかなと。２２年度中に移譲ということではございません。２３年度からということで考えて進めております。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　私の認識不足もあったかもわかりません。

ただ、私は２２年度中に移譲するというような話を聞いたことがありましたので、そのことだけが頭に残っていたのかもわかりません。

浅茅の丘は例えば、今準備されて２３年度から民間に経営移譲する。じゃあ、日吉の里についてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、浅茅の丘の分をまず、進めていきたいと思っておりますが、その当然、職員さんもまだおられますので、そのあたりを見ながら物事を進めていきたいと思っております。

今、日吉の里の民間移譲への年次というのは、まだ、職員の意向等も十分に考えなくてはいけませんので明言は避けたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　最後ですので。例えば、２３年度から浅茅の丘を民間委託する。現在、浅茅の丘には大体市の職員あるいは嘱託職員を含めて三十五、六名の方がいらっしゃるのかなあという気がしております。民間移譲されるのは市の方針でもう決定をしているということですので、私が今さらどうこう言う必要はありませんが、そこで仕事に従事されている方をなる

だけ最大限雇用していただけるような委託先を見つけてほしい。そうでないと、特老で今、入所されている方が介護職員なり、何なりの方がすべて入れ替えますとやはり不安に思うことがあると思いますので、入居者第一で民間移譲の話は進めてほしいと私から要望して質問を終わります。

○議長（作元　義文君）　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

議案第１４号から議案第２６号までの１３件を、会議規則第３７条第１項の規定によりお手元に配付の議案付託表のとおり各常任委員会に付託します。各常任委員長の審査報告は３月２４日に行います。

暫時休憩します。開会を１１時１０分から。

午前10時57分休憩

……

午前11時10分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１４．議案第２７号

日程第１５．議案第２８号

日程第１６．議案第２９号

日程第１７．議案第３０号

日程第１８．議案第３１号

日程第１９．議案第３２号

日程第２０．議案第３３号

日程第２１．議案第３４号

日程第２２．議案第３５号

日程第２３．議案第３６号

日程第２４．議案第３７号

日程第２５．議案第３８号

日程第２６．議案第３９号

日程第２７．議案第４０号

日程第２８．議案第４１号

○議長（作元　義文君）　日程第１４、議案第２７号、対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例から、日程第２８、議案第４１号、対馬市火災予防条例の一部を改正する条例までの

１５件を一括して議題とします。

各案について、提案理由の説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　ただいま一括して議題となりました総務企画部関係の議案第２７号から議案第３０号までの４件と、議案第３８号の１件、合計５件につきましてその提案理由と内容を御説明いたします。

まず、議案第２７号、対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例につきまして、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

このたびの改正は、平成２１年度におきまして対馬市厳原町上槻２３５番地及び豊玉町佐保５１番地３並びに上対馬町唐舟志４０２番地２の３地区に整備しております移動通信用鉄塔施設が平成２２年３月２５日をもって完成する予定でありますので、当該施設である対馬市移動通信用鉄塔施設上槻、佐保、唐舟志の三つの無線基地局を追加いたしたく当該条例の一部を改正するものであります。

以上、簡単ですが提案理由の説明を終わります。

続きまして、議案第２８号、対馬市自家用有償バス運行に関する条例の一部を改正する条例について、提案理由とその内容を御説明申し上げます。

本案は、対馬市が対馬交通株式会社へ行っております路線バスの赤字補てんの縮減も視野に入れ、地域の需用に応じた市民の生活に必要なバス等の旅客運送の確保、特にお年寄り、子供たちといわゆる交通弱者に対しての交通手段確保のために、仁位廻線、仁位小鹿線及び峰志越線同様に市が所有しますバスを利用して、市が実施しております対馬市自家用有償バス運行事業に新たに鰐浦比田勝循環線を追加しようとするものであります。

新規路線は比田勝及び上対馬病院を起終点とし、鰐浦経由の時計回り及び反時計回りで循環する路線で、それぞれ２便、１日４便の運行となります。

また、利用される住民の利便性を考慮し、渚の湯まで系統を延長しております。

普通使用料につきましては、現在運行しております対馬市自家用有償バス仁位廻線ほか２路線を含めた島内バス料金と均衡をとった料金設定としておりますが、比田勝及び上対馬病院からの循環につきましては、鰐浦比田勝循環線の一番高い料金であります鰐浦から西泊間の５４０円にあわせた料金設定としております。

附則で条例の施行日を平成２２年５月１日と定めようとするものであります。

以上で提案理由の説明を終わります。

続きまして、議案第２９号、対馬市長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

平成１６年の合併以来、当市は非常に厳しい財政状況が続いております。そのため財政の早期

立て直し、健全化に向けた取り組みの一つとして平成１９年度より市長を初めとする常勤特別職及び一般職の給与を削減してまいりました。当初の計画では最大で４年間、平成２２年度までの削減も視野に入れ、単年度ごとにその時点での財政状況を検証し、また、削減に伴う財源については公債費の繰り上げ償還に充てることとし、平成２１年度まで削減を継続してまいりました。

その結果、一般職で平成１９年度は２億６，０００万円、平成２０年度は２億４，０００万円、平成２１年度は１億８，０００万円、３年間で６億８，０００万円の削減を実施できる見込みであります。

この削減に伴う財源で、平成１９年度からの３年間で１１億５，０００万円を繰上償還し、実質公債比率も平成１９年度の１８．３％をピークに平成２０年度は１７．０％、平成２１年度は１４．６％の見込みであります。国が定める基準の１８．０％を下回ることになり、危機的な財政状況は脱出することができたと考えております。

これにより給与削減については、所期の目的を達成したと判断し、一般職については削減を平成２１年度で終了することとしますが、依然厳しい財政状況が続いていることに変わりはなく、特別職については平成２２年度も引き続き給与削減を行うよう所要の改正を行うものです。

改正内容について申し上げます。特別職の給料を平成２２年４月から平成２３年３月までの１年間、市長は合併当初から１５％削減し６８万円に、副市長、教育長は１０％削減し、それぞれ５５万１，０００円、５３万１，０００円にしようとするものです。なお、副市長、教育長については１０％削減された給料月額が現条例において規定されているため、今回提出する特例条例での改正はありません。

以上、簡単ではございますが説明を終わります。

続きまして、議案第３０号、対馬市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について、その提案理由と内容を説明申し上げます。

時間外労働の割り増し賃金率の引き上げ等を内容とする労働基準法の一部を改正する法律が平成２２年４月１日に施行されます。これを踏まえ、公務において特に長い超過勤務を強力に抑制し、また、こうした超過勤務を命ぜられた職員に休息の機会を与えるため、月６０時間を超える超過勤務にかかる超過勤務手当の支給割合を引き上げるとともに、当該支給割合の引き上げ分の支給にかえて、正規の勤務時間においても勤務することを要しない日、または時間――代休になりますけれども、規定することができる制度を新設するよう。また、自宅にかかる住居手当については廃止するように、昨年８月に人事院勧告がなされています。本市においても人事院勧告にかんがみ、所要の改正を行うものです。

また、自動車等を使用して通勤する場合の通勤手当の支給額を引き下げ、国に準ずるよう所要の改正を行うものです。

また、教育委員会事務局に指導主事を設置しておりますが、この指導主事は長崎県の県費負担教職員である教員を充て、学校における教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的な指導を行っており、給与面においては県費負担教職員に準じて支給しております。今般、県費負担教職員の教員特別手当の改正があり、それに準じた支給内容とするよう所要の改正を行うものです。

改正内容について説明申し上げます。

第１条は対馬市職員の給与に関する条例の一部改正でございます。第１６条は自宅にかかる住居手当を廃止するよう改正するものであります。第１７条は自動車等を使用して通勤する場合の通勤手当の支給額を国に準ずるよう改正するものです。第１９条は教育委員会の指導主事に支給される教員特別手当の最高限度額について、県費負担教職員に準ずるよう改正するものです。第２０条は時間外労働の割り増し賃金率等に関する労働基準法の改正を踏まえ、時間外勤務手当の支給割合等について定めるものです。

第４項は月６０時間を超える時間外勤務にかかる時間外勤務手当の支給割合を１００分の１５０、深夜につきましては１００分の１７５に引き上げるものです。第５項は第４項の支給割合の引き上げ分の支給にかえて代休を指定され、勤務しなかったときは時間外勤務手当の支給割合の引き上げ分の支給を要しないことを定めるものです。第６項は再任用、短時間勤務職員において正規の勤務時間を超えて７時間４５分に達するまでの間の勤務について、第５項を適用させる場合の引き上げ分の算出方法を定めるものです。

別表第５は、教育委員会の指導主事に支給される教員特別手当を県費負担教職員に準ずるよう改正するものです。

第２条は対馬市職員の勤務時間休日及び休暇に関する条例の一部改正でございます。第９条には、時間外労働の割り増し賃金率等に関する労働基準法の改正を踏まえ、月６０時間を超える時間外勤務を行った職員に対して時間外勤務手当の支給割合の引き上げ分にかえて、時間外勤務代休時間を指定できる制度を定めたものです。第２条及び第１７条は第９条の２を超えたことによる関係条文の改正です。第３条は対馬市職員の育児休業等に関する条例の一部改正でございます。

育児短時間勤務職員及び任期つき短時間勤務職員について、月６０時間を超える時間外勤務を行った場合の給与条例の適用を定めるものです。

第１５表の表関係は育児短時間勤務職員について、第１８表の表関係は任期つき短時間勤務職員について、それぞれ月６０時間を超える時間外勤務にかかる時間外手当の支給割合を１００分の１５０、深夜の場合は１００分の１７５に引き上げ、引き上げ分の支給にかえて代休を指定され、勤務しなかったときは時間外勤務手当の支給割合の引き上げ分の支給をしないこと。また、７時間４５分に達するまでの間の勤務についての引き上げ分の算出方法を定めたものであります。

なお、附則について施行日を平成２２年４月１日といたしております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。

最後になりますけれども、議案第３８号、対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例について、その提案理由と内容を説明申し上げます。

本案の厳原町浅藻にある浅藻公園及び上県町鹿見にある鹿見公園は市の管理する公園でありますが、これまで対馬市公園等設置条例に規定されていないため、新たに対馬市公園等施設条例に追加するものであります。

以上、簡単ですが、提案理由の説明を終わります。

以上、総務企画部関係５件につきまして、よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　消防長、阿比留健君。

○消防長（阿比留　健君）　一括議題のうち、議案第３１号及び第４１号につきましては消防本部の所管となっておりますので２案について続けて説明をさせていただきます。

まず、議案第３１号、対馬市手数料条例の一部を改正する条例について、改正の趣旨を御説明申し上げます。

今回の改正は条例で定める手数料のうち、危険物許認可の取り扱いについてかかるものでございます。昭和５２年以前に設置され、平成６年基準に適合しない容量１，０００キロリットル以上の屋外タンク貯蔵所並びに平成１１年基準に適合しない容量１，０００キロリットル未満５００キロリットル以上の屋外タンク貯蔵所には耐震性を図るため、タンク本体と基礎地盤面についてそれぞれの容量により新基準に適合される期日が示されておりましたが、現下の経済状況、石油製品受給調整により、その貯蔵取り扱いを休止中の施設については、新基準適合日を貯蔵取り扱いを再開する日の前日までとする危険物の規制に関する政令の改正がありました。同時に地方公共団体の手数料の標準に関する政令に規定する総務省令で定める金額等を定める省令が、平成２１年１１月１日付で改正施行されました。今回の改正はこの二つの政治省令改正を受け、所要の改正をお願いするものでございます。

附則で施行期日を公布の日としております。

続きまして、議案第４１号、対馬市火災予防条例の一部を改正する条例について、改正の趣旨とその内容を御説明申し上げます。

今回の改正は、平成２０年１０月に大阪市浪速区で発生した死者１５人、重軽傷者１０人を出しました個室ビデオ店火災により国の予防行政に関する検討会、全国消防長会予防委員会での審議検討の結果、個室型店舗における避難管理として個室型店舗における外開き戸の自動閉鎖措置にかかる火災予防条例の一部改正案がとりまとめられ示されましたので、対馬市においても所要

の改正を行うものであります。

改正の内容は、火災予防条例第３７条の２の次に個室型店舗の避難管理として第３７条の３を設け、個室型店舗の類避難管理の方法を定めております。附則の第１項に施行期日を第２項に既存の対象物の猶予期間を定めております。

よろしく御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　教育部長、大石邦一君。

○教育部長（大石　邦一君）　一括議題となりました議案のうち議案第３２号から議案第３４号の３件につきましては教育委員会の所管でございますので、順を追ってその提案理由と内容を御説明申し上げます。

まず、議案第３２号、スクールバス運行及び管理に関する条例の一部を改正する条例についてでございますが、第３条第１４号を津柳三根の前に鹿見から久原、女連を加えようとするものでございます。

また、１９号として内山から久田を、２０号として豆酘瀬から佐須瀬、豆酘を。２１号で浅藻から豆酘を。また、２２号で河内から大浦、比田勝を加えようとするものでございます。

附則で条例の施行日を平成２２年４月１日と定めようとするものでございます。

次に、議案第３３号、対馬市コミュニティーセンター条例の一部を改正する条例についてでございますが、第２条の表に対馬市安神公民館、対馬市厳原町安神４１０番地を加えようとするものでございます。

旧厳原町と安神地区の間で一般廃棄物処理施設建設にあわせた約束で建設されていたものを今回追加しようとするものでございまして、附則でこの条例は公布の日から施行しようとするものでございます。

次に、議案第３４号、対馬市歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例についてでございますが、厳原町郷土館解体に伴い、第２条から厳原町郷土館の項を削り、第６条中「別表のとおりとする」を「無料とする」に改め、別表「第６条関係」を削ろうとするものでございます。

附則で条例の施行日を平成２２年４月１日と定めようとするものでございます。

なお、参考として一部改正条例、新旧対照表の２６ページから２８ページに新旧対照表を載せております。

以上、簡単でございますが、説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　市民生活部長、近藤義則君。

○市民生活部長（近藤　義則君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第３５号、対馬市犬取締条例の一部を改正する条例について、その提案理由を御説明申し上げます。

長崎県におきましては動物愛護及び管理に関する法律の改正に伴い、動物が命あるものであることを踏まえ、動物を終生飼養続けることを目的として長崎県動物愛護管理推進計画が作成されております。この計画の一つに安易な引き取りを減らし、犬、猫の引き取り頭数を平成１８年度を基準として平成２９年度末までに半減を目標といたしております。それに伴いまして長崎県では動物の愛護及び管理に関する法律第３５条第１項の規定に基づきまして犬、猫の飼い主がやむを得ず飼養できなくなった場合の引き取りについては適正な飼養管理及び譲渡を推進するため、長崎県手数料条例が改正され、平成２２年度から犬、猫の引き取りが有料化されることと所有者から犬及び猫の引き取りは県の指定場所で引き取りを行うよう規定されております。対馬市の指定場所は厳原保健所及び対馬市役所上県地域活性化センターの２カ所が指定されたことに伴いまして所要の改正を行おうとするものであります。

附則で条例の施行日を平成２２年４月１日と定めようとするものであります。

以上、簡単でございますが提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　上県地域活性化センター部長、武田延幸君。

○上県地域活性化センター部長（武田　延幸君）　ただいま一括して議題となりました議案第３６号、対馬市農林集会施設等条例の一部を改正する条例につきまして、提案理由とその内容について御説明申し上げます。

今回の改正は、上県地域活性化センター管内の深山地区集会施設、恵古地区集会施設の両施設につきまして同条例別表より削除するものでございます。

その内容につきまして御説明申し上げます。両施設の建設に際しまして、用地は地元で確保することとし、集会施設は旧上県町が建設したものでございます。両施設とも土地使用期間が満了となるため期間延長の協議を重ねてまいりましたが、期間を延長することができず、集会施設としての使用ができなくなったものでございます。

なお、両地区における集会施設につきましては、他の公共施設により確保されております。

以上、簡単でございますが説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　美津島地域活性化センター部長、長郷泰二君。

○美津島地域活性化センター部長（長郷　泰二君）　ただいま一括議題になりました議案第３７号について御説明申し上げます。定例議案集第２９ページ及び一部改正条例新旧対照表３１ページを御参考までにお開きいただければ助かります。

議案第３７号、対馬ふるさと伝承館条例の一部を改正する条例の提案理由と内容を御説明申し上げます。

対馬ふるさと伝承館は伝統文化の保存及び伝承を行うことを目的に、島型地域の広域連携による活性化の核施設として整備されました。平成１５年１２月より供用開始されましたが、時代の変遷とともに施設の利用目的も変更を余儀なくされました。地域の活性化を促すため特産品の販売、飲料の提供等を行うこととした長期利用財産処分報告書を昨年１１月長崎県に提出をいたしました。その後、長崎県を経由し、昨年１２月２４日に農林水産大臣の承認通知をいただいたところであります。

その結果を踏まえ、対馬ふるさと伝承館条例の第１条の条文に「並びに地域特産品等の流通」を加え、施設の活用の範囲を拡大していきたい。第３条第２項第３号中の伝承館の運営に関する事務のうち、「市長のみの権限に属する事務を除く業務」とあるのを、「市長が必要と認めた業務」に改め、弾力的な運営ができるよう改正するものであります。

なお、附則で施行日は平成２２年４月１日からといたしております。

以上で提案理由の説明を終わります。よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　豊玉地域活性化センター部長、中村敏明君。

○豊玉地域活性化センター部長（中村　敏明君）　ただいま一括議題となりました議案のうち、議案第３９号、対馬市営航路船舶使用料条例の一部を改正する条例について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

今回、条例改正の必要が生じましたのは、同条例第９条の料金の減免等についてであります。

渡海船ニューとよたまの利用者の中に、重度障害にもかかわらず他の障害者と同様の減免を受けることができない方がいらっしゃるため、新たに条文を追加し、対象に加えようとするものであります。

条例第９条第１号で身体障害者についての規定が、同第４号では知的障害者について規定されておりますが、これらの定義の中に精神障害者の方は含まれておりません。今回、同条に第５号として精神障害者についての規定を加え、障害の種別にかかわらずすべての重度障害者について料金の減免を行えるよう条例の追加改正を行うものでございます。

附則でこの条例は公布の日から施行すると定めようとするものであります。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　水道局長、阿比留誠君。

○水道局長（阿比留　誠君）　一括して議題となりました議題のうち、議案第４０号、対馬市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について、御説明させていただきます。

３５ページをお願いします。議案第４０号、対馬市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部改正は、施設整備事業の完成及び事業認可に伴う改正案で、今里簡易水道、尾崎簡易水道を統合

し、西地区簡易水道とし、給水人口を５３０人、１日最大給水量を１７０トンに、仁田地区簡易水道、伊奈簡易水道を統合し、仁田地区簡易水道とし、給水人口を1，３８０人、１日最大給水量を４５２トンに、舟志簡易水道、豊南簡易水道を統合し、豊南簡易水道とし、給水人口４５０人、１日最大給水量を１４３トンに、計の給水人口２万7，７３２人、１日最大給水量を１万７７２トンに改めるものであります。

附則で事業の施行日を公布の日と定めております。

参考資料３４、３５ページに一部改正条例新旧対照表を添付いたしておりますので御参照方お願いいたします。

以上で簡単でございますが説明を終わります。御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから各案に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　１点お尋ねをいたします。２９号議案と３０号議案に関するものですが。今回の改正では、職員の給与をもとに戻すというお話でございますよね。当初計画しておった公債比率の１８％、これに下げることができたんで、目的は達したから給与をもとに戻すということですかね。それでも、やはりこの島内必要な数がふえておるんですよ。そして、民間では賃金カットがどんどん進んでいます。そういった意味からすると、そういうことは果たして必要なのかというふうな気がいたします。

そして、せっかくそういうふうにしてカットしてきた金額、御説明ですと、一般職についても平成２１年は1億8，０００万円、今まではそのような金額を起債の償還に充ててきたわけですが、せっかくカットしたものならば、去年から対馬市、特にメーンとなる地域マネージャー制、これがございますよね。去年から本格的にスタートしたわけですよ。そういうお金があれば、地域マネージャー基金なるものをつくって、それでそのお金をそこに基金として入れると、そして、これから地域でいろいろとマネージャーの活躍が大きくなりますと、事業などというものが結構出てくると思いますよ。事業費やその活動費、これにこのカットした分を充てるというふうなことは多分考えておられるんでございましょうが、この辺の見解はどうでございましょうかね。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　ただいまの質問についてお答えいたしますけれども、まず５％のカットの職員給与につきまして今後も続けて、その財源をほかに、市民のために活用したらいいんじゃないかという御質問だと思うんですけども、この給与改正に伴いまして５％カットをもとに戻すかわりと言っては何ですけども、その他の手当等で削減の試みをいたしております。住宅手当につきましても持ち家3，０００円の廃止によりまして、２２７人の職員が該当しており

ますけれども、年間3万6，０００円ですけども、８１７万2，０００円の削減になります。

なお、通勤手当におきましても、国に準じた改正によりまして該当者が４６４人でありまして、年間にしますと4，３７５万3，０００円の削減であります。以上で5，２００万ほどの削減になります。職員につきましても生活給でありますので、５％削減をもとに戻し、職員手当等につきましては国に合わせると、国に準じた改正をするということで御理解をいただきたいと思ってます。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　ほかにも対策を講じておるということですよね。その金額が約５，２００万円ぐらいだということですよね。先ほど申しましたように一般の方は職をなくして、どんどん賃金をカットされてるんですよ。それは公務員はいいじゃないですか、首になることはないからね。そういう今のこのような対馬の厳しい状況の中で、じゃ何をするのかというと、この市のメーンは地域マネージャー制度ならば、それをさらに活発化するためには活動費も要るでしょう、そして、早く事業ができたところにはこのような基金から早く事業費を呈することもできるじゃないですか、そうすることが対馬全体の活性化につながるんですよ。公務員は首にならんからいいですよ、民間はどんどん首になるんだから。そういった意味で、カットした分は市民のために使うと、地域マネージャーという基金をつくって、その中でやるというふうにしたほうが市民のためになるんですよ。戻すのは職員のためになるかもしれんけども、市民のためにこの５％カットした分を、１億８，０００万基金をつくって、そして、地域マネージャーでやっていこうじゃないですか、市長どうですか、その辺の見解は。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、小宮議員のほうからお話がありました、提案がありました地域マネージャー事業への基金の造成ということもあるんじゃないかというお話ですが、実はこの問題につきまして組合のほうにも当然相談させていただきました。その中で、組合の中の話として地域マネージャー制度等への振り替えとかいうこともあるのではないかというふうな意見が職員の中から出てきたというふうにも聞いております。確かにそのような方法もあろうかと私も考えはいたしましたが、まずもってそれについてこちらが一方的にそれに振り替えていくということよりも職員の気持ちの発動の中でそのようなことが出てくれば幸いかなというふうに思っております。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　職員のほうから話が上がればやってもいいような話ですけども、こういうところこそ強いリーダーシップをとって、こうやるんだと、地域マネージャー制は日本で初めてなんだからやるぞと、逆にこちらのほうから説き伏せるぐらいのことをやらなければ、

地域マネージャーそのものは広がりませんよ。今回はこれになったかもしれないが、今後その辺を検討していって、お互いに苦しいときは分かち合わんといかんですよ、苦しみは。民間は大変なんですよ。そのことも考慮して、今後また職員の方とも協議していただいて、この基金の設立をお願いいたします。

以上。

○議長（作元　義文君）　答弁いいですね。――はい。

１番、脇本啓喜君。

○議員（１番　脇本　啓喜君）　今の３０号議案に関連で、先ほど組合の話が出ましたけど、特に交通費の件に関しては組合のほうとはどういうふうになってるんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　職員組合との交渉の問題ですけども、実は長い間協議をしましたけども、組合とはなかなか合意を得ることができませんでした。

しかしながら、先ほど部長が話をしましたように、５％を戻すためにはそれなりの財源が必要だということで、合意を得ないままに今日の議案として提出をさせてもらっております。

○議長（作元　義文君）　１番、脇本啓喜君。

○議員（１番　脇本　啓喜君）　わかりました。協議のほうは何回かしていらっしゃるということはお聞きしました。それで、先ほどから部長のほうからもありましたけども、５％カットの引き替えとしてというような言葉がよく使われてますが、これは対象者が全員に係る部分と、それから、これによってマイナスになる職員と、対象者が全然違ってくるはずですよね。それを引き替えというのはちょっと議論のすり替えじゃないかというところがあります。

それから、ちょっと３回しかできませんので長くなりますけど、大体対馬市の公共交通の脆弱さ、それから、本土との比較したガソリン代が割高なこと、それから、道路事情が悪くてタイヤ消耗がひどい、こういうことを考えると、９月の一般質問でも申しましたようにこれは地域マネージャー制度を活性化するための私は必要経費だというふうに言わせていただきましたけども、そういう考えがないのかということですね。これによって私、職員だけの問題だけじゃないと思うんです。この交通費カットというのは、地域の経済に与える影響も非常に大きい。こうなると、家族全員で転居しなきゃいけない人も出てくる。単身赴任手当も３万幾らですね。違う世帯で住むと、４人前の食事をするとしても、３人前と１人前とかけてたら全然経費は違ってきますね。これ家族じゅうで移転するとなると、大きなことが出てきます。地域の消防団、それから、郷土芸能、この担い手の多くは、若い人がこれだけいなくなった中、職員が担ってくださってるところがあると思います。

それから、家族で転居するとなると、児童生徒の転校も伴ってきます。大きな職員だけの問題

じゃなくて、地域の経済にとっても、地域の生活にとっても大きなことになってくると思いますので、妥結までいかない段階で、強引にこれを出してきたのはどうかなと。

それから、もう一つ、昔に比べて職員さんは長男の方が多いと思うんですね。そうなると、転居を伴うようになってくると、年老いた親の人が地元に残るような形が出てくると思いますね。そうすると、市長が２月１２日のブログに書かれた食の砂漠、フードデザートにさらされるお年寄りをみずからつくっていくようなことになるかと思います。この問題について、もう少し慎重にやっていただきたかったと、地域エゴと言われるところがあるかもしれません。特に、問題になってくるのは上対馬、上県の職員になってくると思います。こうなると、職員採用にまで何か影響が出てくるんじゃないかというところも心配されますので、もうちょっと慎重な手当の改善ということをお願いしたかったと思います。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　通勤手当につきましては、先ほど部長が説明をしましたけども、今までの通勤手当が国の基準、それから、県の基準があったんですけども、それ以上に対馬独自の通勤手当の支給をいたしております。それを今回、国並みに改正するんですけども、確かに今言われるように遠距離通勤について、確かに高額な通勤手当でしたから、それが約数万円減額されますので、遠距離通勤につきましては大分きついかなと思います。そういう中で、なるべく遠距離通勤者をなくすような、そういう努力というか、人事になるんですけども、そういう努力をしながら、職員にも理解をしてもらいたいと思っております。

○議長（作元　義文君）　１番、脇本啓喜君。

○議員（１番　脇本　啓喜君）　遠距離通勤者への配慮というお言葉が出ましたので、ただ、本庁に通うためには、上対馬、上県にいる人は逆に今度は本庁で勤務できないという形も考えられますので、やはりいろんな部署を経験していくことでスキルアップしていくということも考えられます。

それで、施政方針にもありましたように田舎らしさ、身の丈に合った市政を行っていきたいと市長はおっしゃられて、私も本当にそう思います。今までの右肩上がりの経済じゃないですので、ただ、それはこの前、新聞にも出てましたけど、７５１条項ですか、国の縛りを政府も外していくというようなことを言ってます。国の基準に合わせるという今までのやり方を変えていくということなんですから、いい方向に変えていくべきです。マイナスのほうに、悪いほうに合わせていくという必要はないかと思いますので、今回はもうこのくらいで、地域エゴと言われているかもしれませんけど、やはり職員、それから、地域のことを考えると、これはかなり抵抗がある議案だなというのは申し添えさせていただきます。

以上です。

○議長（作元　義文君）　質問が結構ありますので、昼食休憩して、午後から始めます。１時から午後の部を始めます。

午前11時59分休憩

……

午後０時57分再開

○議長（作元　義文君）　再開をいたします。

質疑を受けたいと思います。１９番、兵頭栄君。

○議員（１９番　兵頭　　栄君）　３０号の対馬市職員の給与に関する条例について、この条例は職員の通勤手当に関するものでありますが、この通勤手当が、先ほど午前中の質問の中でどれぐらいの割合でカットされておるか、その数字が出てなかったから、ちょっと市民の皆さんは多分わからないやろうと思います。この手当は５割から６割という非常に余りにもカット率が高い。ガソリン代においてもリッター、本土においては１２０円そこそこの価格でございますが、対馬市においては１６０円という非常に燃油も高い。そういった中で、この通勤手当がそういったことを考えてみても、本当にこの通勤手当は適正な価格で、皆さんの納得いくような価格であるかどうか、市長はどういうふうな考えを持ってあるのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、兵頭議員のほうから五、六割カットという表現がありました。先ほど部長のほうから説明の中で、国並みに準じてこの手当を決めたというふうに申し述べましたが、大幅なカットということは、要するに、裏返せば、それほど逆に大きな金額を通勤手当として今まで支給をしてきたというふうに私は感じております。

○議長（作元　義文君）　１９番、兵頭栄君。

○議員（１９番　兵頭　　栄君）　そうですよね。５割、６割カットすれば、それだけ経費が浮いてくるのは、それはだれもがわかるところでございますが、それでは県のほうよりも対馬市が高い。私は、これは交通機関、燃油、そういったことを考えれば、それは高いのが当たり前やろうと、そういうふうに考えております。それでは、今回の５割、６割というカットの基準はどこをもってそれだけのカットをされたのか、説明できればひとつ説明をお願いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　何度も申し上げましたように、国の基準に沿ってこの金額を今皆様にお示しをしてるということでございます。国の基準でございます。

○議長（作元　義文君）　１９番、兵頭栄君。

○議員（１９番　兵頭　　栄君）　国の人事院勧告による査定というようなことで、この人事院勧告も給与、いろいろ手当、通勤手当、そういったもろもろを含んであるわけですが、しかしなが

ら、これが何年やったですか、もう私も記憶ないんですが、３年か５年に１回ぐらいの見直しがあって、今までそのままほたってきたような状態やろうと思いますが、そういった中で離島、これは長崎県全土にわたってそういうふうな人事院勧告があっとるのか、対馬だけやっておるのか、そして、県のほうが対馬よりも低いと、私は県のほうが高かったんじゃなかろうか、私の勘違いかもわかりませんが、そういうふうに記憶しておったわけでございますが、それはそうとして、幾ら人事院勧告であるといいながらも５割、６割いうのは少しひど過ぎるんやなかろうかと、あくまでも人事院勧告を受けたからいうて、これを採択せにゃいかんのかどうか、そこのところを説明願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今回の議案提案につきましては、人事院勧告云々くんぬんの問題ではありません。あくまでもこれは独自のものでありまして、そういう中で国の通勤手当に準じて今回変更をしていきたいという考えであるというふうに理解してください。それと、県下のほかのことがあろうかと思いますが、県下ほかの市町村につきましては国並みで支給をされているというふうに聞いております。

○議長（作元　義文君）　いいですか。――はい。

５番、山本輝昭君。

○議員（５番　山本　輝昭君）　通勤手当について、また同じ質問になるかもしれませんが、６町合併時に通勤手当については本庁が当時暫定ということで、厳原のほうということで、豊玉、峰、上県、上対馬の職員は長距離通勤をしなければできない。その中で、合併時に国の基準を上回る通勤手当というのが当初出てきたと思います。今回は国の基準並みに戻すということですが、県下の他の市町は国の基準どおりだということでございますが、県の手当も国並みかということが１点ですね。

それと、組合との交渉の中で十分な協議が終わっておるのか、先ほどはお話の中では、１番議員の質問のときには、労使の組合との妥結はまだないということでございますが、その点をどのようにされるのか、その２点、県の分と。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　まず、１点目の県の手当の額です。これは国の国庫よりか高いところで県は決めております。

それから、当然合併時にそういう話があっとると思うんですけども、五島市とか、西海市にしても、当然遠距離の通勤者もおりますけども、その市についても国並みの手当で措置をしてるということであります。この通勤手当につきましては組合交渉をする中で、先ほど説明がありましたけども、５％のカット分をもとに戻す、それから、住宅手当をカットする、それから、今問題

になってます通勤手当を国並みにするというセットで組合と交渉をしてきた経緯があります。

その中で、最終的には５％をもとに戻します。通勤手当については、その財源の一部に充てたいということで交渉してきたんですけども、結果的には交渉の合意ができなかった。できなかったから議案として条例の改正をすることはできないかということになりますと、私はそうじゃない。組合と合意は得なかったけども、今の市民生活のことを考えると、余りにも高い通勤手当については改正をすべきだということで、今回の議会に提案をさせてもらったと思ってます。

○議長（作元　義文君）　５番、山本輝昭君。

○議員（５番　山本　輝昭君）　給与のほうの５％カットを復元すると、それとセットだということですが、職員にとれば、すべてがカットも復元でき、通勤手当についても、今の現行がこれ一番良いことだと思います。

しかし、それはできない中で、５％のほうを組合のほうはそれで理解をしたという解釈でいいですか、だから、給与のほうの復元で理解をしたと、それと、今回の給与のほうは復元しますが、かわりに通勤手当を戻しますということですね。それで、ほぼ理解ができたという解釈でいいということと、それから、一方で今回このように大幅な国の基準並みということですが、県並みということは考えられなかったのか、段階的に、将来的には国並みにするが、今回は県並みで手当ということは交渉、あるいはその中で考えはなかったのか、お願いします。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　職員組合からすると、５％をもとに戻してほしいというのが当然以前から、その財源については繰り上げ償還に充当するということをしてましたから、その充当がなくなった段階で、当然５％についてはもとに戻してほしいという希望があってます。

それから、通勤手当についても当然職員からすると、今の額のまんまが良いにわかってます。しかし、それを先ほども言いましたように５％をもとに戻すためにその分の充当をしたいという思いがこちらありましたので、それでセットで交渉させてもらったという思いです。

それから、交渉の中で、確かに組合のほうから今、山本議員が言われますように県並みではだめですかという話がありました。ありましたけども、今の、先ほどから何回も言いますように市民生活の状況を考えると、国並みが妥当だということで、組合からそういう要望がありましたけども、こちらとしては市民生活を考えたら国並みで皆さんにお願いをしたいということで、こういう結果になりました。

○議長（作元　義文君）　いいですか。２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　大浦副市長の今言葉ですけど、市民の生活を考えたときにはやむを得ないと今言われますけれども、市民の生活を考えるならば議案第２９号にいたしましても、市長の任期中は上げないとか、そのくらいの意気込みでやっていただきたかったなと私は思う次

第であります。昨日の所信表明におかれましても、未曾有の大不況であると書いてあります。そして、いつも言われます。財政は厳しいときでありますのでと話もされております。それだけに市長、副市長には、大変きつい状況の財政では、自分の財布もきついかわかりませんけれども、やはり痛み分けをしていただいたほうがよかったのではないかなと思う次第であります。

また、今この３０号にしましても、いろいろと意見が出ております。出張経費にしましても実費で今行われておる状況ですので、この削減率が、先ほど兵頭議員が言われますように５割から６割よりも、せめて２割か３割ぐらいにとどめられなかったものか、私は思う次第であります。恐らくこの件はうまくいかないんじゃないかなと私は思うんですけれども、２割、３割という案は出なかったものですか、副市長。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　先ほどから何回も話をしますように今までうちの通勤手当につきましては、国とか県の基準以上に市独自でつくってた条例であります。ですから、２割とか、３割をカットする新たな条例じゃなくて、国の基準に戻させてもらったということであります。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　先ほどの議案の第２９号、対馬市長等の給与の特例に関する分ですけれども、現状維持でできなかったものか、なぜ今この時期に上げなければできないのか、その説明を願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　市長等の給与条例の特例の改正でございますけれども、既に２１年中の給与につきましても、特別職の給与支給額よりも一般職の給与支給が上回るという逆転現象が生じておりました。そのために副市長の給与よりも一般職の給与が高いという逆転現象が起こりましたので、合併当初のカット額の２分の１をカットすると、合併当初からのカット率をそれぞれ市長の「３０％」を「１５％カット」に、副市長、教育長の「２０％カット」を「１０％カット」にということで提案をさせていただいております。

それに、通勤手当の件でありますけども、県下の市、すべて国の基準であります。国、県の指導もあっております。さらに、６０キロ以上につきましては赴任手当という制度がありまして、国の制度には４０キロ以上で２万９，０００円という国の基準しかありません。ですから、６０キロ以上につきましては、赴任手当という制度を利用していただければ通勤をしなくてもいい制度もありますので、そういう制度の活用で何とか御理解をお願いしたいと思っております。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　総務部長の説明によりますと、職員との逆転現象に給与があると言われますけれども、それは一昨年から出ておるときからわかっておる状況にありますので、

そういったことは要因にはなりません。やはり市長の財政状況が厳しいと言われるならば、それなりに襟を正していただきたかったなと私は思う次第であります。

終わります。

○議長（作元　義文君）　ほかに。１４番、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　１点、２点お尋ねいたしたいと思います。

私が唐突に条例として出てきましたけど、果たしてこれで大きくどれぐらいの職員に該当者が同じ痛み分けにしても、どれぐらいの痛み分けが出てくるのか、もし資料がありましたらその説明を、いきなりこう出てきて、極端に言うなら５０人も６０人もそういう該当者がおるにもかかわらず交渉ができずして議案として出したというような話であるのか、そう思いませんよと、そういう話なのか、ちょっと資料があれば教えてください。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　先ほど御説明したかと思いますけれども、通勤手当につきましては、市の職員で該当者が４６４名おります。国に準じた場合につきましては４，３７５万３，０００円の削減になります。

○議長（作元　義文君）　１４番、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　私がお尋ねしよるのは、例えば、３０キロ以上の方はどれぐらい、５０キロ、４０キロ以上はどれぐらいとか、これはずっと続く状況は予想はできますけど、異動によってそういうことができるだけないようにということですけど、上のほうは当然支所によっては二十六、七人ですから、当然減るには間違いないわけですよ。それでもあえて通勤せざるを得ない、そういう人が痛手を負うわけで、そこら辺をお尋ねしよるわけですよ。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　御説明いたします。

まず、６５キロメートル以上の受給してる職員が４名です。５５キロから６０キロまではいません。５０キロメートル以上、５５キロ未満の職員が現在３名です。４５キロから５０キロメートルまでの通勤距離の職員が１１名です。４０キロから４５キロメートル未満の職員が１２名。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　よろしいですか、１４番、糸瀬一彦君。（発言する者あり）

ほかに質疑はありませんか。（発言する者あり）はい、ほかの件で結構です。６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　議案第３４号、対馬市歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例について、この件についてお伺いをいたしたいと思います。

説明の中では、厳原町の郷土館を解体するということに伴う条例の改正のようにありますが、

この厳原町郷土館を解体された後、現在、展示されてある資料の展示及び管理等について、今後どのようにお考えか、お伺いをいたしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　収蔵品の展示管理ということでございますが、現在の（発言する者あり）今資料館にあります収蔵品につきましては、長崎県の歴史民俗資料館のほうと、それから、美津島文化会館に文化財課が入っておりますけども、そちらの建物のほうと、それから、今廃校の学校がございますけども、管理ができる、そういう建物のほうに、最初に言いました県の歴民のほうであれば、展示がやりやすいものといいますか、そして、そういうものをまず向こうに、そして、文化財課の入っております美津島文化会館のほうで次の展示まではしないけども、きちんと保管等をしなければいけないものというふうな形で、３カ所に分けて保管をしていく、そして、一部については、先ほど言いましたように県のほうで展示をしていただくというふうな考え方を現段階では持っております。

○議長（作元　義文君）　６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　何ですか、補正予算で解体費用が計上されておりますけれども、いろいろな財政事情もあろうかと思いますけれども、なぜ３月の補正でそのような急に解体をされなければならなかったのか、もう少し計画的に資料の保存管理などとあわせた計画といいますか、事業の実施はできなかったのかということが一つ思っておるわけですが、そのあたりについてまたよろしければ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、松本議員がおっしゃられるように唐突ではないかというふうなことでございます。平成８年の３月にあそこは宗家墓所等の整備委員会によって、あのゾーンにおけるガイダンスセンターをつくるべきだという報告書が上がってきまして、その後、平成１２年に当時の厳原町において日韓コアシティ２１という計画の中で、そのあたりの詳細計画をつくり、そして、平成１７年に国際ミュージアムですか、そういうふうな計画等がつくり上げられてきた経緯がございます。それについてある意味、計画はでき上がって答申もいただいてるにもかかわらず、その後、何も進んでいないのが実態だったと思いますけども、ある意味そのあたりのことも考慮しまして、少しずつでもそういう方向に長期間かかったとしても取り組んでいかなければいけないのではないかという考えのもとで、今回資料館の解体を、今回提案をしてるところであります。

○議長（作元　義文君）　６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　やはり文化財ですから、いろいろなこれは管理などにおいても難しいところがあろうかと思われますので、どうぞあとそのあたりをゆるがせになされないように

よろしくお願いをいたしておきます。

○議長（作元　義文君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　先ほどから話題になっております３０号について質疑はございませんか。

１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　もう少しわかりやすく言ってほしかったんですが、通勤の実態として半額程度になった場合に、自動車で通った場合、１リットル当たりのガソリンの何といいますか、車の距離、十五、六キロ行く車というのが軽自動車と思います。これで、なおかつ赤字だろうというふうな試算を私、ある筋から聞きまして、車通勤でガソリン代が赤字になるようなことは、これだけは何とかとんとんぐらいの線ができれば、これは折り合わすんじゃないかなと私は個人的にはそう思っております。

ですから、そこのところが非常に抵抗があるということが争点であろうと、その辺の実態を調べてみたら、そういうことを数名の方が積算されておりました。ですから、そこのところを少し、せめてとんとんの状態でいくのが今回の折り合いの案ではなかろうかと私は個人的に思っております。ですから、これが最終であるということになれば、問題であるというふうな個人的には気がしております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　答弁はいいですか。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　赤字であるという認識があるかどうか、これをひとつどういうふうにとらえておるか、ちょっと担当部長でも結構ですが、今の手当が半分になった場合、実費のガソリン代が通勤距離に非常に困っておる、赤字であるというふうなことをほとんどの方が思っております。その辺の認識をちょっと確認とりましょう。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　油代との価格の差ということでございますけれども、現在の１リッターの価格に距離数を掛けまして、通常リッター当たり十五、六キロの車に乗るといたしますと、国の基準とほぼ油代に見合う金額だと考えております。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　軽自動車だと何とかなるが、それ以外については多分そうにはならないというふうなことで認識されておりますか、一応そういうことで解釈しておりますね。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　軽自動車というよりも１，３００前後の排気量で油代イコールだと考えております。

○議長（作元　義文君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　採決に入りたいんですが、１人ちょっと今出ましたので、しばらくお待ちください。（「もう一件、別に尋ねたいんですが」と呼ぶ者あり）

はい、どうぞ。２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　議案第２７号ですけれども、対馬市の移動通信用鉄塔施設条例、これは３カ所でき上がったということでございますけれども、２２年度も新設で２，０００万ほど見てあります。

しかしながら、対馬においてはまだまだ不通話地域がかなりあります。これらをどのように考えてあるのか、この新年度の予算ではちょっと少ないんじゃないかなと思いますけれども、説明を願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　この移動通信鉄塔整備につきましては、熊本のほうにあります総合通信局のほうとも、そして、通信事業者とも話し合いをずっと行ってきておりまして、通信事業者のほうが入ってくるというふうな話にならないと、どうしてもこの整備が進まない状況がありますので、その事業者との協議で整った分については、私どもは順次整備をしているつもりであります。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　市長もこれまで走られて御存じのところが多いと思いますけれども、本当にまだ国道、県道、不通話地域が多うございます。なおさら行政のほうからもそういった通信事業者に対してでも説得をしていただいて、そういった地域がなくなるように働きかけをしていただきたいと思います。どうですか、その辺は。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今、中原議員がおっしゃられるように、こちらもそういうつもりで取り組んではおるつもりです。だから、通信事業者が納得をしていただけるように努めてもおりますが、通信事業者のほうがそれなりに思われたところについては、こちらは許す限りやってるつもりです。年に何基とかいうことは、だから、ある意味決めてない状況でして、向こうがいろんな営業の中でできるという、ペイできるという話になれば乗り込んできますので、そのときはこちらはもうすぐ対応をしてるつもりです。これからもそういうつもりで臨んでいきます。

○議長（作元　義文君）　よろしいですか。

○議員（２０番　中原　康博君）　はい。

○議長（作元　義文君）　はい。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題となっております議案第２７号から議案第４１号までの１５件は、会議規則第３７条第２項の規定により、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２７号から議案第４１号までの１５件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第２７号を採決いたします。議案第２７号、対馬市移動通信用鉄塔施設条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２７号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第２８号、対馬市自家用有償バス運行に関する条例の一部を改正する条例について御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２８号は原案のとおり可決されました。

議案第２９号はいろいろ意見も出ましたので、起立採決にしたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　議案第２９号、対馬市長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例について、採決をいたします。原案のとおり可決賛成の方は御起立を願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　はい、結構です。議案第２９号、対馬市長等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例については原案のとおり可決されました。

次に、議案第３０号、対馬市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について、採決をいたします。本案について原案のとおり承認することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　投票の結果、賛成・反対が同数です。したがって、地方自治法第１１６条第１項の規定によって、議長が裁決します。議案第３０号については、議長は可決と裁決します。

次に、議案第３１号、対馬市手数料条例の一部を改正する条例について、原案のとおり御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３１号は原案のとおり可決されました。

議案第３２号、対馬市スクールバスの運行及び管理に関する条例の一部を改正する条例について、原案のとおり御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと決定いたします。したがって、議案第３２号は原案のとおり可決されました。

議案第３３号、対馬市コミュニティーセンター条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３３号は原案のとおり可決されました。

議案第３４号、対馬市歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３４号は原案のとおり可決されました。

議案第３５号、対馬市犬取締条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３５号は原案のとおり可決されました。

議案第３６号、対馬市農林集会施設等条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３６号は原案のとおり可決さ

れました。

議案第３７号、対馬ふるさと伝承館条例の一部を改正する条例について、本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３７号は原案のとおり可決することに決定されました。

議案第３８号、対馬市公園等設置条例の一部を改正する条例について、本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３８号は原案のとおり可決されました。

議案第３９号、対馬市営航路船舶使用料条例の一部を改正する条例について、本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３９号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第４０号、対馬市簡易水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第４０号は原案のとおり可決されました。

議案第４１号、対馬市火災予防条例の一部を改正する条例について、本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第４１号は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２９．議案第４２号

日程第３６．議案第４９号

日程第３７．議案第５０号

○議長（作元　義文君）　日程第２９、議案第４２号、対馬市国民宿舎条例を廃止する条例、日程第３６、議案第４９号、市有財産の無償譲渡について、日程第３７、議案第５０号、市有財産の

無償貸与についての３件は、関連がありますので、一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。上対馬地域活性化センター部長、川本治源君。

○上対馬地域活性化センター部長（川本　治源君）　ただいま一括議題となりました議案第４２号、議案第４９号、議案第５０号について、その提案理由の御説明を申し上げます。

まず、議案第４２号の対馬市国民宿舎条例を廃止する条例でございますが、国民宿舎上対馬荘を効率的な運営と効果的なサービス提供により魅力ある宿泊施設とするため、民間に譲渡しようとすることに伴い、対馬市国民宿舎条例を廃止しようとするものでございます。

なお、附則としましてこの廃止条例は、平成２２年4月１日から施行するとしております。

次に、議案第４９号、市有財産の無償譲渡についてでございます。

市有財産の建物を無償譲渡したいので、地方自治法第９６条第１項第６号の規定により議会の議決を求めるものでございます。

国民宿舎上対馬荘は、昭和５５年１２月６日の開業以来、２９年間が経過しております。経営状況は開業から平成７年までは黒字でございましたが、近年は結婚式等の大型宴会の減少、観光客の減少などで経営状況はかなり苦しく、ここ一、二年の韓国からの観光客の減少は経営難にさらに拍車をかけております。

また、宿泊施設、備品等の老朽化が目立ち、安いというだけでは予約がとれなくなってきております。また、財政的には過去の黒字を旧上対馬町へ繰り出しをして、上対馬町振興公社の会計として自立させていないため、銀行からの借り入れが生じ、借入枠ができれば、また借り入れをする自転車操業に陥っており、納入業者への未払い金も発生している状況でございます。このままでは、さらに累積赤字が増加するものと思われます。北部対馬の振興を図る上で、１００人収容できる上対馬荘は代替施設等が建設されない限り存続させることが必要であります。このため、国民宿舎上対馬荘の効率的な運営により魅力ある宿泊施設とするため、民間に譲渡しようとするものでございます。

無償譲渡する財産の施設名称は、国民宿舎上対馬荘で、所在は、対馬市上対馬町西泊３９０番地、構造は、鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積2，４１７．８２平方メートルで、建物に附帯する設備一式でございます。無償譲渡する相手方は、対馬市上対馬町比田勝９５６番地１２、株式会社大川建設工業、代表取締役眞崎龍介氏でございます。

次に、議案第５０号、市有財産の無償貸与について、提案理由の御説明を申し上げます。

市有財産の土地を無償貸与したいので、地方自治法第９６条第１項第６号の規定により議会の議決を求めるものでございます。

無償貸与する財産は、国民宿舎上対馬荘の土地で、所在は、対馬市上対馬町西泊字ロノ網代３９０番、同じく４０１番、４０２番及び４０９番でございます。地目は、宅地及び公園で、面

積は4，７８７平方メートルでございます。

無償貸与する相手方は、対馬市上対馬町比田勝９５６番地１２、株式会社大川建設工業、代表取締役眞崎龍介氏で、無償貸与する期間は、平成２２年４月１日から平成３２年３月３１日までの１０年間としております。

以上、３議案でございます。簡単でございますが、提案理由の御説明とさせていただきます。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３０．議案第４３号

○議長（作元　義文君）　日程第３０、議案第４３号、対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。地域再生推進本部長、永尾榮啓君。

○地域再生推進本部長（永尾　榮啓君）　ただいま議題となりました議案第４３号、対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例について、提案理由とその内容を御説明申し上げます。

職員削減を視野に入れながら疲弊していると言われております対馬に元気を取り戻すための施策実現、さらに多様化する市民ニーズに対応するため、当分の間は大幅な見直しは必要としない機構組織として、平成２０年８月に機構改革の見直しを行ったところであります。

しかしながら、この間、予想を上回ります退職者の増加による職員数の減少、近年の政権交代によります国の行政運営手法の変化にも対応し、今後も引き続き対馬に元気を取り戻すための施策実現に向けて組織の一部を見直しをしようとするものであります。

組織的には、総務企画部地域振興課を廃止し、企画部門を地域再生推進本部へ、商工業部門を観光物産推進本部へ、統計業務部門を総務課へ、公園施設管理部門を管財課へ、自然保護部門は環境衛生のみならず、環境施策に取り組む課として拡充し、環境衛生課から名称を変更する環境政策課へ、さらに地域再生推進本部が所管します公聴及び行政改革部門を総務課へ、市民課が所管いたします墓地及び火葬場部門を環境政策課へ移管しようとするものであります。

条例の改正内容について御説明申し上げます。

第１条でございますが、対馬市部設置条例の一部改正で、設置条例第１条中第３号「総務企画部」を「総務部」に改め、設置条例第２条を再編しようとする各部への分掌事務にそれぞれ改めようとするものであります。

第２条から第５条につきましては、対馬市部設置条例の一部改正を行うこと等によりまして改正の必要があります条例の一部改正を行おうとするものであり、順次御説明申し上げます。

２条でございますが、対馬市地域審議会の設置に関する条例の一部改正で、第９条中「総務企画部地域振興課」を「地域再生推進本部」に改めようとするものであります。

第３条でございますが、対馬市総合計画等審議会条例の一部改正で、第７条中「総務企画部地域振興課」を「地域再生推進本部」に改めようとするものであります。

第４条でございますが、対馬市行財政改革推進委員会条例の一部改正で、第８条中「地域再生推進本部」を「総務部総務課」に改めようとするものであります。

第５条でございますが、対馬市個人情報保護条例の一部改正で、第４３条中「総務企画部」を「総務部」に改めようとするものであります。

なお、附則におきまして、適用日を平成２２年４月１日といたしております。

以上で提案理由の御説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。

暫時休憩します。２時５分から開会します。

午後１時52分休憩

……

午後２時04分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３１．議案第４４号

日程第３２．議案第４５号

日程第３３．議案第４６号

○議長（作元　義文君）　日程第３１、議案第４４号、対馬市ネコ適正飼養条例から、日程第３３、議案第４６号、対馬市厳原港国際ターミナル条例までの３件を一括して議案とします。

各案について提案理由の説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　ただいま一括議案となりました総務企画部所管の議案第４４号及び議案第４５号の２件につきまして、その提案理由と内容を御説明いたします。

始めに、議案第４４号、対馬市ネコ適正飼養条例について、提案理由とその内容を御説明いたします。

この条例は、動物愛護の精神に基づき、ネコの適正な飼養及び保管に関する事項を定めることにより、ネコの健康及び安全の保持を図るとともに、ネコが市民に迷惑を及ぼし、又は絶滅のおそれのあるツシマヤマネコに害をあたえることを防止し、もって対馬市の生活環境の保全及び生物多様性の確保に資することを目的に制定するものであります。

まず、第１条で設置目的、第２条で語句の定義、第３条で目的達成のための市の責務、第４条で市民の責務、第５条で飼い主の責務としての努力規定を、第６条では飼い主の遵守事項を設けております。第７条で飼いネコにマイクロチップの埋め込み、飼いネコの登録申請についての規定をいたしております。第８条は獣医師発行のマイクロチップの埋め込みに係る証明がない場合の登録拒否、第９条は登録料１，０００円の規定及び減免規定、第１０条で登録の変更、第１１条で登録の抹消、第１２条は飼い主所有がわかるように措置の規定、第１３条で屋内飼養の努力規定、第１４条は、第１項で屋外で飼養する場合の繁殖制限措置、第２項で屋内飼養の場合でも繁殖により適正な飼養が困難なときの繁殖制限措置を定めております。第１５条で汚物の適正処理、第１６条でおおむね５匹以内とする飼いネコ頭数制限、第１７条は遺棄の禁止、第１８条は飼養が継続困難となった場合の対処措置、第１９条で飼いネコ以外のネコへの給餌等の禁止、第２０条で飼い主の判明しないネコの保護収容及び譲渡、第２１条で登録事務等の委託規定、第２２条でマイクロチップ埋め込み等の費用の負担、第２３条で飼いネコについての報告及び調査、第２４条で指導、勧告、第２５条で委任事項を定めるものです。

なお、附則で、施行期日を平成２２年７月１日とし、経過措置として、この条例施行の際、対馬地区ネコ適正飼養連絡協議会が主催するネコの健康生活サポートキャンペーンに申し込み、マイクロチップ埋め込みを行っている飼い主は、第７条の規定により当該飼いネコの登録を受けているものとみなすと定めるものであります。

以上、簡単ではございますが、対馬市ネコ適正飼養条例についての説明を終わります。

続きまして、議案第４５号、対馬市教育施設整備基金条例について、その提案理由と内容を御説明いたします。

この条例は、主に小中学校の耐震化対策等に充てるものとし、財団法人長崎県市町村振興協会から交付された基金、市町村配分金を財源とし、教育施設整備事業を計画的かつ円滑に促進するための基金を設置するため、地方自治法第２４１条第１項の規定に基づき制定するものであります。

第１条で設置目的、第２条で予算で積み立てるとし、第３条で管理の方法、第４条で運用益の処理方法を定めております。第５条において繰替運用の方法、第６条で処分方法、第７条で委任事項を定めるものです。

なお、附則で、公布の日から施行すると定めるものであります。

以上、簡単ではございますが、対馬市教育施設整備基金条例についての説明を終わります。

以上、２件につきましてよろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　建設部長、斉藤正敏君。

○建設部長（斉藤　正敏君）　ただいま一括議題となりました議案第４６号、対馬市厳原港国際ターミナル条例の制定につきまして、提案理由を御説明申し上げます。

平成９年１０月に完成いたしました厳原港国際旅客ターミナルビルを平成１０年２月に長崎県から譲与を受け、以来現在まで２回ほど増改築を行い、上部の２階においては国内ターミナルビルの一部と複合した室内で出入国審査等を行っている状況であります。今回の条例制定におきましては、譲与を受けた時点で制定すべきであり、私ども事務手続の不手際により時期を逸し、今回に至りましたことを深く反省し、おわび申し上げます。

なお、当ビルの運営管理にかかわる件につきましては国内ターミナルビルと一体化しているところから、対馬市港湾ターミナルビルとしての管理条例を適用してきましたが、やはり今後においては国内と区別し、国際ターミナルビルとして管理していくための条例制定が必要であるとのことから、大変遅くなりましたが、このたび本条例を上程させていただくものであります。

本施設は、鉄筋コンクリート造陸屋根２階建てで、平成１２年度及び平成１９年度に増改築を行い、１階が１８７．４５平方メートル、２階が３１４．４０平方メートルで、延べ床面積は５０１．８５平方メートルであります。

それでは、条文の説明をさせていただきます。

第１条については、税関、入管及び検疫業務の円滑な推進と地域経済の浮揚を図るための設置目的とする旨を、第２条から第８条については使用料金を含めた利用にかかわる内容を、第１０条から第１２条については指定管理者制度の導入関連にかかわる内容について規定しております。また、第５条関係別表として使用料を表しております。

なお、この条例の施行期日は、公布の日からと定めております。

以上で対馬市厳原港国際ターミナル条例の制定についての説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　これから一括して質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３４．議案第４７号

○議長（作元　義文君）　日程第３４、議案第４７号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画についてを議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　ただいま議題となりました議案第４７号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について御説明申し上げます。

本件は、辺地に係る公共施設の総合整備のため、財政上の特別措置等に関する法律第３条第１項の規定により議会の議決を求めるものでございます。

今回提案しております上対馬町津和辺地ですが、唐舟志から比田勝線に使用するスクールバス購入事業の事業費及び国庫支出金の減額に伴う変更計画案でございます。括弧内の金額が変更前の事業費、財源内訳、辺地対策事業債の予定額でございます。今回の変更により事業費が１，０００円減の５６２万１，０００円、国庫支出金が６１万１，０００円減の２２０万円、辺地対策事業債予定額が６０万円増の３４０万円と変更するものであります。

以上、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定いただきますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３５．議案第４８号

○議長（作元　義文君）　日程第３５、議案第４８号、対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定についてを議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。美津島地域活性化センター部長、長郷泰二君。

○美津島地域活性化センター部長（長郷　泰二君）　ただいま議題になりました議案第４８号、対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

対馬ふるさと伝承館の管理運営につきましては、現在、財団法人美津島町振興公社を指定管理者として管理運営をしておりますが、平成２２年3月３１日をもって契約期間満了となります。対馬市公の施設の指定管理者の指定手続等に関する条例第２条により公募を行ったところ、6団体からの申請がありました。選定の結果、指定管理者候補といたしまして、有限会社上野食品、代表取締役上野正信氏を指定管理者として指定いたしたく、地方自治法第２４４条の２第6項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

指定管理者候補の選定にあたっては、対馬市指定管理者選定委員会により選定方法及び選定基準に沿って公平に審査した結果、募集要項の選定基準を満たし、かつヒアリング等により経営及び管理能力等を総合的に判断し、選定をいたしました。

なお、指定管理者期間は、平成２２年４月１日から平成２７年3月３１日までの5年間といた

しております。

以上で提案理由の御説明を終わります。よろしく御審議いただきますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

なお、議案第４２号から議案第５０号までの９件を会議規則第３７条第１項の規定により、お手元に配付の議案付託表のとおり、各常任委員会に付託します。各常任委員長の審査報告は３月２４日に行います。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第３８．議案第５１号

○議長（作元　義文君）　日程第３８、議案第５１号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（女連漁港）を議題とします。

農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君）　ただいま議題となりました議案第５１号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（女連漁港）の提案理由の説明をいたします。

本案につきましては、対馬市が事業主体で整備を進めております女連漁港地域基盤整備工事に伴う公有水面埋立免許出願に係る意見について異議のない旨、長崎県知事に答申するため、公有水面埋立法第３条第４項の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

埋め立ての必要性につきましては、別紙に埋立必要理由書を添付いたしておりますとおり、第１種女連漁港区域内におきましては大型船の船揚場や静穏な蓄養水域がないため、近隣の港湾施設を利用するなど作業効率が低下しており、あわせてコスト増大の解消が課題となっているところでございます。これらの課題を解決するために護岸、道路、船揚場、物揚場、漁港施設用地等の埋め立てを行うもので、埋立面積は４，６４６．７４平方メートルでございます。議案末尾に位置図、平面図を添付いたしております。

以上、簡単ではございますが、提案理由の説明を終わります。よろしく御審議の上、御決定賜りますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。議案第５１号は、会議規則第３７条第２項の規定により、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５１号は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。

これから議案第５１号、漁港区域内公有水面の埋立てについて（女連漁港）を採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５１号は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３９．議案第５２号

日程第４０．議案第５３号

日程第４１．議案第５４号

○議長（作元　義文君）　日程第３９、議案第５２号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少についてから、日程第４１、議案第５４号、長崎県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び長崎県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約についての３件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　ただいま一括議題となりました総務企画部所管の議案第５２号及び議案第５３号の２件につきまして、その提案理由と内容を御説明いたします。

議案第５２号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について、その提案理由と内容を説明申し上げます。

本市は、長崎県市町村総合事務組合に加入し、退職手当、消防補償、非常勤職員公務災害等の事務を共同処理しております。平成２２年３月３１日に佐世保市への編入合併に伴い、北松浦郡江迎町及び鹿町町が廃止され、また、平成２２年３月３０日をもって鹿町・江迎給食衛生一部事務組合、佐世保広域圏北部塵芥処理一部事務組合及び松浦地区消防組合が解散するため、長崎県市町村総合事務組合を組織する組合市町村からこれらの市町村及び組合等を減ずる必要が生じ、地方自治法第２９０条の規定に基づき提案するものであります。

改正内容について申し上げます。

長崎県市町村総合事務組合規約の一部を変更する規約でございます。別表第１、組合を組織する組合市町村から江迎町、鹿町町、鹿町・江迎給食衛生一部事務組合、佐世保広域圏北部塵芥処

理一部事務組合、松浦地区消防組合を削るものであります。

なお、附則において、施行日を平成２２年３月３１日としております。

続きまして、議案第５３号、長崎県市町村総合事務組合の規約変更について、その提案理由と内容を申し上げます。

平成２２年３月３１日をもって、南高北東部環境衛生組合が長崎県市町村総合事務組合の退職手当事業から脱退するため、長崎県市町村総合事務組合の共同処理する団体に変更が生じ、地方自治法第２９０条の規定に基づき提案するものであります。

改正内容について御説明申し上げます。

別表第２、組合の共同処理する事務と団体の中で、第３条第１号に関する事務、退職手当事業に関する事務について、除外する団体に南高北東部環境衛生組合を加えるものであります。

なお、附則において、施行日を平成２２年４月１日としております。

以上、簡単ではございますが、説明を終わります。議案第５２号、５３号につきましてよろしく御審議くださいますようお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　福祉保健部長、扇照幸君。

○福祉保健部長（扇　　照幸君）　ただいま一括議題となりました議案第５４号、長崎県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び長崎県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約について、御説明申し上げます。

平成２２年３月３１日に北松浦郡江迎町及び同郡鹿町町が佐世保市に編入合併されることになっております。このため、平成２２年３月３０日をもって長崎県後期高齢者医療広域連合から江迎町及び鹿町町が脱退することに伴いまして長崎県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数を減少し、また、本広域連合の議会議員の定数を減らすため、規約を変更しようとするものでありまして、地方自治法第２９１条の１１の規定により議会の議決を求めるものでございます。

長崎県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約につきましては、第７条広域連合の議会の議員定数を「２９人」から「２７人」に変更するものでございます。

附則で、施行日を平成２２年３月３１日といたしております。

以上、簡単でございますが、議案の説明を終わります。御審議の上、御決定くださいますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから各案に対する一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

ただいま一括議題となっております議案第５２号から議案第５４号までの３件は、会議規則第

３７条第２項の規定により、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５２号から議案第５４号までの３件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第５２号、長崎県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少について、議案第５３号、長崎県市町村総合事務組合の規約変更についてを一括して採決します。

お諮りします。各案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５２号及び議案第５３号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第５４号、長崎県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少及び長崎県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５４号は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４２．議案第５５号

日程第４３．議案第５６号

日程第４４．議案第５７号

日程第４５．議案第５８号

日程第４６．議案第５９号

日程第４７．議案第６０号

日程第４８．議案第６１号

○議長（作元　義文君）　日程第４２、議案第５５号、市道の廃止について（内山２号線）から、日程第４８、議案第６１号、市道の認定について（堂ノ内線）までの７件を一括して議題とします。

各案について提案理由の説明を求めます。建設部長、斉藤正敏君。

○建設部長（斉藤　正敏君）　ただいま一括議題となりました議案第５５号から議案第６１号まで

の市道の認定と廃止にかかわります７議案につきまして御説明申し上げます。

まず、議案第５５号から議案第５８号の４議案につきましては、内山坂トンネルの完成により所要時間も短縮されました今、さらなる効果促進のため、内山地区内を縦断する一般県道瀬浦厳原港線から大調地区方面への車両の円滑な走行を図るために整備する道路の認定と廃止の関連議案であります。

議案第５５号、市道の廃止について（内山２号線）でございますが、本案は一般県道瀬浦厳原港線から農道大谷線への連絡道として整備しようとする道路と市道内山２号線との重複区間を避けるため、市道を廃止したいので、道路法第１０条第３項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

裏面７８ページの参考図面をご覧いただきたいと思います。

濃い黒色の実線部分が市道内山２号線であります。起点は、対馬市厳原町内山字上ミ大段、終点は、同じく内山字段ノ平に至る延長６２９メーターを廃止するものであります。

次に、議案第５６号、市道の認定について（内山２号線）でございますが、本案は、一般県道瀬浦厳原港線から農道大谷線への連絡道を路線名、市道内山２号線として認定し、整備するため、道路法第８条２項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

裏面８０ページの参考図面をご覧いただきたいと思います。

濃い黒色の実線部分が市道内山２号線であります。起点は、対馬市厳原町内山字丸隈から、終点は、同じく内山字段畠に至る延長１，２００メーターをお願いするものであります。

次に、議案第５７号、市道の認定について（市道内山６号線）でございますが、本案は、先ほど議案第５５号で廃止をお願いしております旧道の起点から、議案第５６号で認定をお願いしております新道との最初の接点までを路線名、市道内山６号線として認定し、維持管理を行っていくため、道路法第８条第２項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

裏面８２ページの参考図面をご覧いただきたいと思います。

濃い黒色の実線部分が市道内山６号線であります。起点は、対馬市厳原町内山字上ミ大段から、終点は、同じく内山字段ノ平に至る延長２８０メーターをお願いするものであります。

次に、議案第５８号、市道の認定について（市道内山７号線）でございますが、本案も議案第５５号で市道廃止をお願いしております旧道の終点から、議案第５６号で認定をお願いしております新道との接点までを路線名、市道内山７号線として認定し、維持管理を行っていくため、道路法第８条第２項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

裏面８４ページの参考図面をご覧いただきたいと思います。

濃い黒色の実線部分が市道内山７号線であります。起点は、対馬市厳原町内山字段ノ平から、終点は、同じく内山字段ノ平に至る延長２２０メーターをお願いするものであります。

次に、議案第５９号から議案第６０号の２議案につきましては、主要地方道の道路改良工事により新たな路線が開通し、廃道となります旧県道につきまして対馬振興局長より市道への移管依頼がありましたので、今回市道の認定をお願いするものでございます。

まず、議案第５９号、市道の認定について（市道久田１７号線）でございますが、本案は主要地方道厳原豆酘美津島線道路改良工事、久田南工区の完成に伴う旧県道の引き継ぎによるもので、路線名を市道久田１７号線として認定し、維持管理を行っていくため、道路法第８条第２項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

裏面８６ページの参考図面をご覧いただきたいと思います。

濃い黒色の実線部分が市道久田１７号線であります。起点は、対馬市厳原町久田字ヨサル渕から、終点は、同じく字ヨサル渕に至る延長２７０メーターをお願いするものであります。

次に、議案第６０号、市道の認定について（市道久田１８号線）でございますが、本案も議案第５９号と同様で、路線面を市道久田１８号線として認定し、維持管理を行っていくため、道路法第８条第２項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

裏面８８ページの参考図面をご覧いただきたいと思います。

濃い黒色の実線部分が市道久田１８号線であります。起点は、対馬市厳原町久田字ヨサル渕から、終点は、同じくヨサル渕に至る延長２７０メーターをお願いするものであります。

次に、議案第６１号、市道の認定について（市道堂ノ内線）でございます。

本案は、対馬市クリーンセンター北部中継所入り口付近から、対馬市斎場浄華苑までの道路整備事業が完成いたしましたので、路線名を堂ノ内線として認定し、維持管理を行っていくため、道路法第８条第２項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

裏面９０ページの参考図面をご覧いただきたいと思います。

濃い黒色の実線部分が市道堂ノ内線であります。起点は、対馬市上県町佐須奈字河内道陽から、終点は、同じく佐須奈字堂ノ内に至る延長３０２メーターをお願いするものであります。

以上で市道の認定と廃止について説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　これから一括質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま一括議題となっております議案第５５号から議案第６１号までの７件は、会議規則第３７条第２項の規定により、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５５号から議案第６１号の７件は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから議案第５５号について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第５５号、市道の廃止について（内山２号線）を採決します。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５５号は原案のとおり可決されました。

次に、議案第５６号から議案第６１号までの６件について討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。

これから議案第５６号から議案第６１号までの６件について一括して採決を行います。各案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５６号から議案第６１号までの６件は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４９．陳情第１号

○議長（作元　義文君）　日程第４９、陳情第１号、核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の陳情についてを上程します。

ただいま上程しました陳情第１号については、お手元に配付の陳情文書表のとおり、総務文教常任委員会に付託します。

委員長の審査報告は３月２４日に行います。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で本日の議事日程はすべて終了しました。

あしたは定刻より本会議を開き、市政一般質問を行います。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後２時45分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――

平成22年　第1回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第４日）

平成22年３月11日（木曜日）

議事日程（第３号）

平成22年３月11日　午後１時02分開議

日程第１　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

出席議員（21名）

１番　脇本　啓喜君	２番　黒田　昭雄君
３番　小田　昭人君	４番　長　　信義君
５番　山本　輝昭君	６番　松本　暦幸君
８番　齋藤　久光君	９番　堀江　政武君
10番　小宮　教義君	11番　阿比留光雄君
12番　三山　幸男君	13番　初村　久藏君
14番　糸瀬　一彦君	15番　桐谷　　徹君
16番　大浦　孝司君	17番　小川　廣康君
18番　大部　初幸君	19番　兵頭　　栄君
20番　中原　康博君	21番　島居　邦嗣君
22番　作元　義文君	

欠席議員（１名）

７番　阿比留梅仁君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	橘　　清治君	次長	渋江　雄司君
参事兼課長補佐	長野　元久君	副参事兼係長	國分　幸和君

説明のため出席した者の職氏名

市長 ……	財部　能成君
副市長 ……	大浦　義光君
副市長 ……	齋藤　勝行君
政策補佐官 ……	松原　敬行君
地域再生推進本部長 ……	永尾　榮啓君
観光物産推進本部長 ……	本石健一郎君
総務企画部長 ……	平山　秀樹君
総務課長 ……	桐谷　雅宣君
市民生活部長 ……	近藤　義則君
福祉保健部長 ……	扇　　照幸君
農林水産部長 ……	比田勝尚喜君
建設部長 ……	斉藤　正敏君
水道局長 ……	阿比留　誠君
教育部長 ……	大石　邦一君
美津島地域活性化センター部長 ……	長郷　泰二君
豊玉地域活性化センター部長 ……	中村　敏明君
峰地域活性化センター部長 ……	大川　昭敬君
上県地域活性化センター部長 ……	武田　延幸君
上対馬地域活性化センター部長 ……	川本　治源君
消防長 ……	阿比留　健君
会計管理者 ……	糸瀬　良久君
監査委員事務局長 ……	主藤　繁明君
農業委員会事務局長 ……	永留　秋廣君

午後１時02分開議

○議長（作元　義文君）　こんにちは。報告します。阿比留梅仁君より欠席の届け出があっております。

開会に先立ちまして、理事者側から議案名の目次について訂正の申し出がありましたので、議長がこれを許可しております。その内容について、理事者側より説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　一昨日、提案理由を説明いたしました議案第５０号、市有財産の無償貸与については、さきに議長に提出いたしました資料では市有財産の無償貸付についてと記載しておりました。議案名どおり「貸与」が正しい文言でありまして、議事日程等関係資料を「貸付」から「貸与」に訂正していただきますようにお願いをいたします。御迷惑をおかけいたしまして、まことに申しわけございませんでした。よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　お聞きのとおりでありますので、配付しております議事日程第２号及び委員会審査付託表、議案第５０号の議案名末尾を「貸付」から「貸与」へ訂正を願います。

ただいまから本日の会議を開きます。

日程に入ります前に、報告させていただきます。

昨日は、テレビ報道等によりますと、対馬の気象観測史上、過去約１００年間で例のない大雪とのことであります。対馬全域の道路事情等により、昨日、議長判断により休会といたしましたことは、議員各位の御理解をいただいているものと思います。また、この大雪で事故が発生しなかったことも、幸いに思っているところであります。

次に、会期内の日程の変更が生じておりますので、これから議会運営委員会に日程等の調整について諮問をしたいと思いますので、議会運営委員長、よろしくお願いをしたいと思います。

傍聴者の皆様には御迷惑をおかけしますが、しばらくお待ちいただきますようにお願いいたします。

暫時休憩します。

午後１時04分休憩

……

午後１時22分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

議会運営委員会に諮問した結果について報告します。

お手元に配付のとおり、昨日の休会により、会期内の日程を変更しております。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１．市政一般質問

○議長（作元　義文君）　日程第１、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、午後から開会のため、３名を予定しております。届け出順に発言を許します。

１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　こんにちは。きのうは本当に大変な大雪で、対馬では本当に上から下まで珍しい雪に恵まれて、またよかったか悪かったか、私にとってはわからないのですが、といいますのが、きょうが私の誕生日でありまして、きのうの雪で私に天が恵みを与えてくれて、

一般質問を２２年の第１回目をやるということで、まして大雪でしたから、私の名前が初幸ですから、またそれでいいように解釈しているつもりです。

２つの質問をさせていただきます。

それでは、信念をモットーに、強く正しく美しくをモットーにしますので、市長、市民、島民のために一生懸命要望しますので、よろしくお願いします。

まず１問目、通告書に従いまして、お伺いします。

対馬から福岡までの運送体制について、現在、対馬からは厳原港から８時５０分発、午後の１５時２５分発が出航し、比田勝港から１５時５分発が出航、これは九州郵船のダイヤであります。同じ厳原港から旧大川海運、今は壱岐対馬フェリーとなっておりますが、ここから１５時１０分発が出航しております。

対馬は離島です。スルメイカ、ヤリイカ、ヨコワ等などが少し多くその日に魚の水揚げがあった日は、朝の出航便が九州郵船の８時５０分発だけです。旧大川海運の「やまと」が、会社の都合により２０年の１１月に売船をされ１便体制になったから、鮮魚の集荷はされても、朝の１便には乗り切れず、午後の便までじっと待機をしなければいけません。

当然、その朝の１便に乗れなかった鮮魚類は、スルメで１箱に４００円から５００円ぐらい、高級なヤリイカ等は１箱に１，０００円ぐらい単価が下がるそうであります。それだけではなく、せっかく厳原港から乗れても壱岐でおろされ、唐津経由で福岡市場等へ出荷されるケースが頻繁に起きております。一度乗船した車が壱岐でおろされ、唐津経由でわざわざ時間と高い油を使い、経費をかけて市場へ運ぶ、このようなことが本当に許されることでしょうか。

今まさに対馬の漁民が非常に困っているとき、せんだって壱岐対馬フェリー会社が日本で初めてのアルミ３胴船カーフェリーの導入計画が、壱岐日々新聞等で報道をされました。この３胴船は３４ノット、時速６３キロの高速船だそうです。乗客も４８４名、乗用車なら６３台も一度に運べるそうです。船建造費は４０億円、１割の４億円の頭金を壱岐市、対馬市の両市で負担をし、残りは国の船舶公団が低利融資をするとのことですが、市長はどのようなお考えでしょうか、お尋ねをいたします。

２つ目、浮き桟橋の新設について、対馬は言わずと知れた水産業の島です。対馬島内の中でも、浅茅湾という本当に独特の自然帯に囲まれ、東西に潮が流れ、潮通しのよい漁場があります。その浅茅湾を上手に活用し、古きにわたり魚類養殖を長年やっているのが美津島町の西海漁協組合です。魚類養殖の盛んなときは、ハマチ、タイ、ヒラマサ等などを中心に養殖がされておりましたが、時代の流れが変わり、現在は今一番脚光を浴びているマグロの養殖が中心となり、朝早くからマグロのえさ出しに、またマグロの出荷に、生産者も職員も毎日大忙しのようであります。

そのように、組合員にとってはなくてはならない浮き桟橋、組合員の利用度から見ても、今の

浮き桟橋は本当に小さ過ぎ、両側に１隻ずつしか作業船は係留できず、えさを積み終わるまでは次の船は沖合で待機をしております。組合の冷蔵庫からフォークリフトで浮き桟橋まで、えさを１回に５０箱ぐらいを行ったり来たりして作業をされております。

１日のマグロにやるえさの箱数は現在でも２，０００箱ぐらい、これから秋にかけては魚が一番成長する時期、えさの量も２，５００箱から３，０００箱ぐらいに増えるそうであります。１隻のえさの積み込みに時間がかかり過ぎ、最後の作業船が積み込みが終わるときは昼近くになるときもあるそうです。この小さいのと老朽化をしている美津島町西海漁協の浮き桟橋を、えさを積んだまま浮き桟橋まで車ごと行け、大型の浮き桟橋の新設をすることができないか、市長のお考えをお尋ねいたします。

よろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　こんにちは。答弁に入る前に、誕生日おめでとうございます。

２点、大部議員のほうから御質問がありました。

１点目は、水産物の九州本土への輸送に関する問題であります。大変、２０年１１月からですか、航路事業者のほうが減便体制をとられてから、特にイカの盛漁期に乗れない、もしくは壱岐のほうから唐津のほうへ積み替えて輸送しなければいけないという実態があっている、このことについては以前から議会のほうでも御指摘があり、私ども行政としましてもこの問題は大きな問題だということで、壱岐対馬の航路対策協議会のほうで、航路事業者も交えて協議をずっと進めてきたところであります。

そういう中で、壱岐対馬フェリーさんのほうが、新聞報道等で大部議員がおっしゃったような導入計画を持ってあるということが出されました。これについては、私どもの対馬市に対しても、事業計画の説明というものもございました。それは、航路対策協議会においての説明をいただいたところであります。

まず、この問題ですが、公設民営、いわゆる上下分離方式による高速カーフェリーの導入という提案でございました。市は、前もって航路対策協議会の前に、昨年の１２月２５日に事業計画概略、そのときは概略の説明でございましたけども、説明があって、２月の４日に先ほど言いました対馬市の航路対策協議会が終了後に、航路事業者のほうから各委員に提案をしていただいたところであります。

内容としましては、２，０００トン級の先ほどおっしゃいましたように3胴船、アルミニウム製であります。旅客数とか速力等についてはおっしゃられるとおりでありまして、４８４名、それから乗用車で６３台、速力が３４ノットと、厳原―博多、これは当然壱岐を経由するわけですけど、２時間４０分で１日２便往復するということでございました。

先ほど大部議員がおっしゃられたように、壱岐市、対馬市が２億円ずつ負担すれば、航海が可能であるかのように新聞報道では書かれておりましたが、実際は建造費４０億円に対し両市が２億円ずつまず当初負担し、残りの３６億円についても、両市が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構というところから長期借り入れを行い、船舶を建造することとなります。

また、両市が建造した経費については、航路事業者との間で船舶のリース契約を締結し、その徴収する使用料から先ほど言いました機構のほうへ返済することとなります。

仮に、新規参入ということになれば、一時的に航路が確かに充実し、住民の利便性向上、それから車両航走においても、幅広い輸送体制が確保されることとなります。しかし、近年、九州郵船株式会社では利用者の減少、燃油価格高騰の原因により、減便等を行っており、すべての航路がこのまま維持されることは到底考えられず、過当競争による減便、撤退、または事業者の共倒れが懸念されます。

さらに、昨年３月に取りまとめられた国の離島航路補助制度改善検討会の報告の中にも、先ほど言いました公設民営化の推進が掲げられておりますが、このことは厳しい経営状況にある離島航路事業者にかわって地方公共団体が船舶の建造、または買い取りを行うものであり、決して新規参入を促して競争を促進するものではなく、今回の提案とは乖離するものであるというふうに私は解釈しております。

したがいまして、現段階で市としては、提案事業者の事業計画や収支見込み、それから先ほど言いました鉄道運輸機構の考え方等も検討した結果、受け入れは難しいとの判断を行ったところであります。

しかしながら、水産物の本土輸送につきましては、対馬市漁業協同組合長会や鮮魚、物流などの島内陸上輸送業者との調整を図るとともに、同じ航路を利用している壱岐市の漁業協同組合長会との意見交換の場を設定することも考えているところであります。

今後においても、国、県を始め、航路事業者の水産業関係者との協議を精力的に行いたいというふうに考えていますので、御理解を賜りたいと存じます。

次に、美津島町西海漁協の浮き桟橋の問題でございますが、広さが利用度から見ても手狭で老朽化が目立つと、新しく製作して、ある意味設置できないかという趣旨の御質問だというふうに理解します。

現在の浮き桟橋は、平成元年３月に設置されたもので、ほぼ２１年が経過しようとしております。浮き桟橋の減価償却の耐用年数は５０年と長く、まだ半分にも達していませんので、老朽化が目立つということですが、耐久性に関しましては心配ないものというふうに思っております。

しかしながら、先ほど大部議員がおっしゃられたように、近年から始めたマグロ養殖も軌道に乗り、平成２０年には昼ケ浦地区、竹敷地区など、合わせて２７０トンの水揚げ量があっており、

繁忙期の折には現在の浮き桟橋が利用できず、時間待ちする待機漁船が発生するなど、支障を来していることも聞き及んでいるところです。

このことから、現状の浮き桟橋が幅１０メートル、長さが１５メートルの広さであり、島内の同様施設と比べましても若干小さ目でありますので、利用勝手が悪いということは十分に考えられますが、耐用年数などを考慮すると、新たな浮き桟橋を設置するためにはクリアしなければならない課題があろうかと思います。

市といたしましては、港湾を管理する長崎県対馬振興局に、竹敷港の浮き桟橋の早期整備についての要望書を昨年１１月に提出をいたしました。また、２月には、県管理の道路、河川、港湾、漁港に関する要望書の中にも、早期実現に向け取り組んでいただくようお願いをしているところであります。

しかしながら、竹敷港は完了港となっているものの、整備途中で中止している物揚げ場及び用地の完成を図るには、諸事情等を解決しなければならず、新しく計画し実施するには時間を要することになろうかと思われます。

この問題につきましては、今後とも地元地域と一体となった協力体制のもと、引き続き長崎県と協議を重ね、早期実現に向けた強い取り組みをしていきたいというふうに考えておりますので、御理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　まず、市長、第１点目の３胴船の話ですが、今、実際に現実的に対馬島民が一番困っているのが、先ほどから申すように、船の積み込みなのですよね。福岡魚市あたりさんが一番心配されているのが、魚がとれた日なんか、やっぱり市場としてはニュースが早いですから、情報はつかんでいるわけですよ。その魚の単価よりも、まず何車乗れるかというのが一番市場の担当者は気にされているわけなのです。きょうは何台乗れるかというのをですね、それをまず心配される。入札の単価どころではなくて、車に例えば５台あったら５台乗れるかとか、３台乗れるかとかいうのをいち早くキャッチをしなければいけないというのが今一番の悩みだそうです。

それと、過去に一番タイミング的に悪かったのが、こういうこともあるのですよ。大川さんが先ほど言うように１便体制になっていますから、１便に乗れなかったやつはどうしても２便になっているではないですか。あるとき、金曜日の集荷で、金曜日に集荷したら土曜に売りに行くのですが、土曜日が欠航したのですね。土曜日が欠航して、日曜日休み、市場は当然休みではないですか、月曜日が国民の何かの日で休みだったのです。火曜日が振り替え休日で、休みではないですか。結果的に５日間休みになって、車でそのまま寝ている魚があるわけですよ。名前は言えませんけども、運送屋さんはそれでばちかぶって、損害を幾らか払ったりとか、払ったからとい

って、組合員にまともに手元に来るわけないのですけど、そういう例が何回となく出ているわけなのですよ。

それとか、ドックに大川が入ったときは、完全に積み切れないのですよ。私たちも大型２５トン車を持っていますけども、比田勝に走るわけですよね。わざわざ比田勝まで行くわけですよ。僕らは船越ですけども、厳原から集荷された魚を比田勝まで、トラックで行ったら２時間ちょっとかかりますものね。やっぱり乗用車みたいにいかないものですから、そういうこともあるし、比田勝から乗れるかといったら、そのときもやっとかっと無理に乗せるというような態勢で、やはりせっかく漁師さんがとった魚がまともに売れていないというのが現状ですから、何とか市長、ここを先ほど話を聞いておったら、いろいろな協議を重ねてやっていくということですが、対馬組合長会でも自分たちで、これは現実には乏しいでしょうけども、中古の輸送船を買ってでも走らせようかというような、組合長会でも話が出ているということもお聞きしていますし、今は根津さんが組合長会でトップにおられますけども、そういう話もお聞きしているような状態ですから、もう少し対馬市として前向きに、前向きと言ったら失礼でしょうけど、もうちょっと組合員、漁民が聞いておっても期待が持てるような話というのはできないものでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　新聞報道に基づく御質問でしたので、新聞報道の中身について、それから提案を壱岐対馬フェリーさんから受けた提案に基づいて、それに対する市の考え方というもので回答を先ほどはさせていただいたつもりです。今、大部議員がおっしゃられるように、そのような状況が年末年始のこの時期に起こっているということは十分に理解はしております。

なかなか運輸機構の制度を利用して、現在、博多と対馬間を運航しております航路事業者に関しましては、機構の共有船方式という方式になりますが、皆さんがいずれかの船で共有船方式で導入をされてあるのが現時点の状況です。そういう中で、共有船方式を改めて使うというのが、機構のほうが正直言ってこれは難色を示しております。当然、船にもよりますけども、返済期間中でございます、融資分をですね。機構のほうは、融資が当然機構のほうに返ってこないと、焦げつきますと、これは税金でございますので、大きな問題だという思いが機構のほうにあるものですから、新たな計画を博多―対馬間において事業計画を組み立てる場合、どうしても機構の意向というのが色濃くなってくるということで、先ほどのような回答をしたところです。

なお、再質問の中の後段の部分で、漁協が中古のものを購入しようかという話もあるということでございますが、もし組合長会のほうでそのような話がまとまるようであるならば、私は今の対馬の輸送の状況を打破していくためには、行政としての支援はやぶさかではないというふうに自分自身は思っております。

ということで、１回目の回答につきましては、上下分離の共有船方式についての考え方を語ら

せていただいたというふうに理解していただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　市長の答弁でよくわかりますが、やはり対馬組合長会、漁協組合で中古船を持ってやるということも、計画中というわけではなくて、そういう計画もあるということですけども、これもやっぱりなかなか難しい話だと思うのですよね。組合とこういう船を持つということになればですね。市長の言われるように、組合で持つか、市で壱岐対馬フェリーの計画を進めてもらうようにしたほうがいいものか、私もよく検討してみないとわかりませんけど、できれば本当にこういう形がとれるなら、やはり壱岐日々新聞がうたっておるような３胴船を入れてもらえるというのが本当は対馬島民に助かると思うのですよ。

というのも、さっきから言うように、中古船で持ってきて、それをやっていくというのは、組合長会でこういう話をしたらしかられるかもしれないですけど、私は個人的には不可能に近いのではないかと思うのですよね。難しい話だと思うのですよ。せっかくこういう話があるわけですから、何とかそこのところをクリアできるような方法はないものですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私も、機構のほうと、上京の際に私が出向いて協議をさせていただいたところです。そういう中で、やはり先ほど言いますように、機構の考え方というのがなかなかクリアできないと。向こうも本当で今２隻に融資をし、それぞれ返済をしてもらっている段階です。だから、そちらが滞るような状況が生まれないのであれば、それは構わないのだというふうな考え方です。

だから、これで乗用車で６３台ですか、というふうな能力があるわけですけども、今現在の最盛期の壱岐での積みかえ実績というのだけを見ますと、３６５日のうちの１４日、それで延べ３２台という数字をこちらでは把握をさせていただいております。多い月で１月に５日間の１５台というのが、積み替えを壱岐でされているような状況です。

先ほどの話では、乗れない状況も当然積み替え以外にもあるということでありますが、どうしても先ほどの回答で申し上げましたように、九州本土と対馬との航路をどのように、今後どう考えていくのかということをやはり機構は言っていると思っています。共倒れしたとき、島民の人の足を本当にどうしていくのだと、そのことまで考えていただかないと、機構としては乗れないのですということまでおっしゃられてあります。

そうなった場合、では壱岐はこの話には乗らないということで、新聞報道にも出ておりましたけども、明言をされております。では、４０億円という金を、私ども対馬市が最終的にずっと返していくことになろうかと思います。その体力が自分らに、対馬市にまたあるかという問題も出てくるかとも思います。

今、離島航路の問題については、県のほうの取り組みとか、いろんな国のほうの考えとか、いろいろ交錯している部分があります。いろんな手法もあるのかとは思いますが、一番大事なのが、先ほど何度か言いましたように、九州本土と対馬の間の足を今後ともなくさないようにしていくということを国はもっぱら考えているということで、御理解をしていただきたいなと思っております。

なお、漁協だけでその船をどうのこうのとは、当然考えてはおりません。その場合、行政のほうも色濃くかかわっていかないといけないと思っておりますし、ただ車をあれするだけではなくて、不定期航路であれば１２名の旅客も乗せられるとも聞いております。そのあたりを加味しながら、漁協の中で運営をやっていこうかという話になるならば、それは今の航路とは全く別の話になりますので、機構のほうの考え方はまた別ですよという思いは持ってありますが、行政側から第三セクで物事をつくり込んでいくという時代は、若干今の世の中の流れとは錯誤しているのではないかというふうにも思っておるところです。

だから、先ほどから言いますように、行政としての支援はできるとは思いますが、表に立ってやっていくということにはなかなか難しいのではないかというような思いを持っております。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　先ほど言うように、壱岐市は受け入れをしないような答えを出したということはお聞きしているのです。ただ、対馬市民として、私たちも市議として、市会議員の一人として、壱岐市がそんなに簡単にそういう答えを出す、ある意味では壱岐は福岡―壱岐間は４便出ているのですよね、九州郵船が。私が一個人として考えられないのが、壱岐はそんなに対馬みたいに苦しむことは少ないと思うのです。

あるところでは、話が飛びますけども、ＯＲＣ関係では対馬市は黒字でも、補助をやっぱり壱岐市ＯＲＣに関しては出したような形をとったではないですか。自分たちは都合のいいときはぱっと答えを出して、自分に被害が少ないときは受けませんよという答えを出す。壱岐市の赤字のやつは、対馬市は空港は黒字でも、やっぱり補てんしながら何とかやっていこう、同じ長崎県民だということで、市議会もぶつぶつ言いながらも認めたという状況もあるのですけど、そこのところも市長よく考えながら、本当に対馬市と壱岐市が同じ離島でありながら、どちらが一番ひどく迷惑をし、そして支障を来しているのかということを考えて、今後、無理という難題課題は多いと思うのですが、そこのところも壱岐と同じような考えだけはしないで、前向きに進んでいただきたいと思います。ちょっとだけ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　確かに、壱岐と九州本土の間のフェリー、船便というのは多いという状況は当然です。その分、飛行機の便がないというふうな状況で、壱岐のほうは壱岐で航路対策協

議会が当然ありますが、すごい意見が、やっぱり激しい意見が出ているようにもあります。それは何も対馬に対する意見ではなくて、ダイヤ等に関する意見のやりとりがあっているようにも聞いています。

また、そういう壱岐と対馬との話し合いの中で、これはもしかすると言ってあることかもしれませんけども、現在、通っておりますフェリー「つしま」とフェリー「ちくし」の積載車両台数が違うところに着目しまして、ことしの下半期のダイヤにおいては、こちらから発の分をフェリー「つしま」から「ちくし」に変更を九州郵船もしようと。これで１０トン車１台でも多く積み込めるような状況をつくっていこうというふうなことで、話は現段階ではまとまっているような状況です。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　ぜひ、対馬島民、漁民が困っているということを市長は把握してもらいながら、進んでもらいたいと思います。よろしくお願いしておきます。

次に、２問目の西海の浮き桟橋ですが、市長もよく御存じだと思いますけども、先ほどの答弁をお聞きしておったら、非常に小さいというのは市長も認めていただいているようにあります。私たちも西海漁協にはよく行くのですが、やはりあそこは昔から魚類養殖には本当に真剣に取り組んでいる漁協の１つだと思うのですよ。しいて言えば、対馬で一番、平成９年やったですか、対馬市が３００億の水揚げがあったときに、魚類養殖で４０億ちょっと残ったときがあるのですが、やっぱり西海漁協さんが一番中心になって、魚類養殖は対馬ではやってきているわけなのですよ。

そういう中で、今、先ほど言うように、私たちもよく行って大変やなと思うのが、小さい狭い浮き桟橋で漁協のほうからフォークリフトで行ったり来たり行ったり来たりやっているわけですよね。それを見ておったときに、これだけ一生懸命やっている漁協で、よく常に言われるのが費用対効果というのをよく言われますよね。本当に費用対効果を考えてあられるなら、あれだけ頑張っている西海漁協であり、組合員であるわけですから、あの小さいのはまだ耐用年数が、聞けば５０年、まだ２１年ですからかなりあります。どこかまたほかに小さいやつを回してでも、大きい浮き桟橋を新設してもらって、そしてなおかつ今の時間短縮を、えさの積み込みに短縮できるような方法をとっていただきたいわけなのですよ。

何か今工事が中間で終わって、荷揚げ場ですか、その件で私も西海漁協の組合長さんとお聞きしましたら、あそこをＬで切ってもいいよと、それは県との話し合いでどんなになるかわかりませんけども、組合としては形はどういう形であろうが対応できますよと、対処しますよと、その浮き桟橋をとにかく大きいのをつくってもらいたいというのが今の西海漁協の組合の要望であることですが、市長、そこのところで。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　整備途中で終わっている部分というのが、今、大部議員さんがおっしゃられるように、すべてクリアしてしまっているならば、県のほうも取り組みやすいのかなというふうにも思います。そこについて、県とも調整を進めていきたいと思います。

西海漁協そのものにつきましては、大部議員がおっしゃられるように、一生懸命取り組んである実態は把握はしております。そういう中で、きょうのニュースでも出ておりましたけども、ＥＵ、アメリカがクロマグロの輸出をとめてしまうというふうな状況も見えておるようなことで、今、進めておられます養殖マグロ等の恐らく需要はこれから先伸びていくのではないかと思います。まさしく費用対効果と考えたときに、そのあたりはペイできるのではないかとも私自身も思います。

以前、黒岩組合長のほうからもそのあたりのお話があって、私も現地を見た次第です。どうにか進めなければいけないという思いはありますので、管理者であります県のほうにしっかりとこのことは伝えていきたいと思っておりますし、恐らく養殖マグロを推進しておる県ですので、そのあたり理解はしてもらえるものというふうに私自身は考えております。漁協のほうと一緒になってから取り組んでまいります。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　ぜひ、そういうふうに取り組んでもらえるような体制をとってもらいたいと思います。

私も水産業で同業者ですけども、魚の積み込みがおくれれば、どうしても１日にやる量というのは決まっているのですよね。でも、時間との戦いで、１日で５００箱消費しなくちゃいけないやつは、時間がなかったら、例えば４００に落として１日をやるということになれば、どうしても魚の成長がおくれてくる。いろんな魚の時間帯があんまりずれると、空腹感を持たせると、やっぱり魚が船を見ただけで、今度えさを食わせてくれるということがわかっているものですから、ゆっくり泳ぐやつが、最初の１発目にえさをやる時間がおくれることによって、マグロなんか時々がっと渦を巻いて走り回るわけなのですよ。そういうトラブルも出るものですから、やっぱり生産者は決まった時間帯に同じようにやりたいというのがあるのですね。そういうわけで、私もよくわかるものですから、こういうお願いもしよるわけです。

そしてまた、先ほど市長が費用対効果はちゃんと認めているよというような答弁ですし、あそこの組合員数が幾らやったですか、１５５名、その中でやっぱり１４億からの水揚げがあっていますよね。私たちの美津島漁協は、自分の漁協のことを言ったらまたしかられるかわかりませんけども、今は７００名弱ですけども、２０億ぐらいの水揚げなのですよね。それから考えれば、いかにやっぱり西海漁協は組合員が真剣に養殖業に取り組んでいきよるかというのがよくわかる

と思うのですよ。

ことしは、また昨年よりも数多く経営者が増えて、何人か増えていますものね。増えているし、放養尾数も数を持っていますよ。だから、今のことしの本当に秋口が、一番水温が二十二、三度ぐらいになってきたときが一番安全パイでえさをやれるものですから、一生懸命やろうとするわけですけど、そうなればどうしてもえさの量が加算しますから、早く行った船とおくれた船というのがかなり時間差が出ると思いますので、市長、そこのところでぜひ県との交渉をして、車ごと、それこそばっとつけて、本当１０分でも２０分でも早く漁場に走られるような態勢を整える浮き桟橋をぜひお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　対馬のマグロが、対馬の水産物が市場で全量新鮮なままはけるように、しっかりこちらも取り組んでいきたいと思います。わかりました。

○議長（作元　義文君）　１８番、大部初幸君。

○議員（１８番　大部　初幸君）　ぜひ、市長、これが現実化が一日も早くできるようにお願いしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　これで大部初幸君の質問は終わりました。

……

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。２時１５分から再開します。

午後２時05分休憩

……

午後２時14分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

１番、脇本啓喜君。

○議員（１番　脇本　啓喜君）　こんにちは。１番議員、会派協働の脇本でございます。

さて、当選１年目最後の定例議会に当たって、昨年の市議選中、市民の皆様あてにお送りした立候補のごあいさつはがきに掲げた４項目について、先におさらいしてみました。

１番目の対馬の均衡ある発展については、交通体系の整備改編が重要との観点から、９月と１２月の一般質問で、ＪＲ高速船の比田勝港寄航による経済活性化案の提案をしました。昨年末には、地元有志による「比田勝港にＪＲ九州のジェットフォイル就航を実現する会」が設立され、市は内閣府あてに国際線国内線混乗特区の申請の相談をしていただきました。しかし、関係法制度の壁は厚く、よい回答が得られませんでした。施政方針にもあったように、官民協働でこれからも粘り強い交渉の継続を期待いたします。

２番目の核関連施設誘致に断固反対については、９月の一般質問で市長より、高レベル放射性

廃棄物最終処分場の誘致に関して、従来どおり否定的見解の回答をいただきました。施政方針に示されたように、この問題に限らず、環境王国の称号にふさわしい姿勢を今後とも期待いたします。

３番目の対馬の特性を活かす産業育成と雇用確保については、水産業の再興、顧客ニーズに対応した観光事業の展開を具体策として提示していました。今回は、残されたこの項目について質問します。

４番目の住民自治理念の醸成・普及については、その促進策として、９月の一般質問で、生活基盤を中心に、本所から地域活性化センターへの権限移譲と職員の出身母体帰庁を提案しました。上対馬地域では、西泊地区等一部で地域マネージャー制度が動き出した地区もありますが、まだ本格稼動したとまでは感じていません。制度趣旨を理解し、意欲あるマネージャーが近隣に多く居住する地区の動き出しが早くなると思いますので、上記提案の早期取り組みを期待いたします。

さて、本日の質問の内容です。

１番目に、水産業振興の取り組みについて、１、海洋保護区設定に向けた取り組みについて。

海洋保護区設定をめぐる島内の最近の動きとしては、１月２３日に上対馬町漁業協同組合漁民代表が、赤松農林水産大臣あてに大中型まき網及び沖合底びき網漁業操業区域許可の見直しについての要望書を、来島中の山田農林水産副大臣に直接提出しました。また、２月８日に来島した現中村長崎県知事と対馬市議会議員有志の会が、海洋基本法に基づく対馬周辺海域における海洋保護区域の設定について、政策協定を締結しています。

国際的な動きとして、本年１０月には名古屋市で生物多様性条約第１０回締約国会議（ＣＯＰ１０）が開かれ、海洋生態系保全に向け新たな枠組みが決定される予定となっています。

対馬市も、清野聡子東京大学助教の指導のもと、このような対馬の海と漁業を未来につなぐ海洋保護区の可能性の検討というプロジェクトを進行中のようです。大型まき網や底びき網漁業の乱獲によって、島内の漁業者は窮地に立たされて久しくなります。市として、政府への海洋保護区設定に向けた具体的働きかけや、その進捗状況等をお聞かせください。

次に、２番目、いそ焼け対策の取り組みについて。

本年１月２３日に、対馬市交流センターで開催されたシンポジウム「森里海連環学　対馬から林業再生を考える」は大盛況でした。特に、京都大学社会連携教授Ｃ．Ｗ．ニコル氏のユーモアあふれる基調講演は興味深いものでした。昨年末にニコル氏と同じ肩書きを持つ畠山重篤氏の「鉄が地球温暖化を防ぐ」という本を地域の方に勧められて拝読していたので、講演内容がより素直に理解できました。本の帯には、「海に鉄をまく！？いそ焼けで荒れ果てた海が鉄の力で生命力あふれる海の森に・・」と記載されています。

著書の中で、畠山教授の理論を低コストで実践している宇部市の発明家杉本幹生氏が紹介され

ています。これを対馬でも実践できないかと思い、早速杉本氏にアポイントをとり、１月末に清風会、公明、協働の３会派議員７名で政務調査に行ってまいりました。杉本氏の取り組みは、先般、小学館の「小学４年生」３月号に、「海のサプリメント鉄炭団子で海がきれいになった」と題して、わかりやすく掲載されています。

島内でも、魚介類のえさになったり、隠れ場所、産卵場所となる海草が減少し、海の砂漠化が進んでいます。栄養素が豊富にあるだけでは、海草は育ちません。海草が減少した主な原因として、杉本氏は鉄イオン不足に注目しました。従来は、川などを通って地中に含まれる鉄イオンが海に運ばれていた際、広葉樹林でつくられた腐葉土に含まれるフルボ酸と結合し、植物プランクトンに吸収されやすいフルボ酸鉄の形になって海に供給され、海草が育ちやすい環境が保たれていました。

しかし、森林は腐葉土をつくらない針葉樹の植林が進んだ上に、道路の舗装や護岸工事で鉄イオンがせきとめられ、鉄イオン不足となった海には海草が育たなくなってしまったというのです。杉本氏は、３０年の年月と私財を投じて、鉄イオンを低コストで発生させる仕組みを２つ考案されています。

１つ目は、スチール缶と竹炭を結合させて、乾電池の原理を応用したもの。この方式は、畠山氏の著書の島内の読者が既に実践し始めた例もあり、効果が早速上がっているということです。空き缶を島外に輸送する費用を転用して、間伐材を利用した炭と結合させてつくることはできないでしょうか。

２つ目は、使い捨てカイロを利用した鉄炭だんごです。その実物がこれです。この方式は、数年来、毎年、赤潮に悩まされていた愛媛県宇和島地区でまいたところ、次の年から赤潮が発生しなくなったという効果が報告されています。総合的学習の時間を使って子供たちにつくってもらい、漂着ごみ回収のボランティアに参加した後、鉄炭だんごをまいてもらえば、すばらしい環境教育の教材にもなると思います。

対馬の漁業者の多くは、農林業者でもあります。自己資金で除草したり肥料をやることは、漁業では漂着ごみ回収や鉄炭だんごをまくことに当たると考えれば、漁業交付金を漂着ごみ回収の日当ではなく、この事業の費用に振りかえることへの抵抗は薄れるのではないでしょうか。

ところで、２００９年の対馬周辺の海難事故が過去５年間で最多の３４隻となり、前年から倍増していると、対馬海上保安部の報告が２月２６日の長崎新聞にありました。不漁続きで、時化に無理をして出漁せざるを得なくなったことや、あるいは９月の大部議員の一般質問の指摘にもあったように、漁師の高齢化も事故多発の原因の１つではないでしょうか。

対馬海上保安部交通課に分析をお願いしました。その結果、３マイル以遠での事故が６隻、事故者の平均年齢が６３．４歳、６０歳以上の事故者が１０人と初めて２けたになるなど、過去最

高を更新しています。先ほどの懸念が、的外れではないということがうかがえると思います。高齢の漁師が沖合まで出漁せずとも糧を得られるほど、沿岸に魚介類が戻ってくるような施策を講じる必要が高まっていると思います。

御存じのとおり、シェルナースや鉄鋼スラグによる藻場造成事業も全国各地で実施されていますが、それぞれ効果に疑問を呈されたり、かえって有害であるという研究結果も多く発表されています。これらの漁礁から溶出する有害物質は、食物連鎖の頂点に位置する人間に長年にわたって生物濃縮により蓄積します。現段階では、環境や生物にとって安全が保障されているわけではありません。また、コスト面から、身の丈に合った事業なのかとの検討も必要です。環境王国を冠する対馬においては、まず特許所有者の杉本氏に来島していただき講演してもらい、安心安全で初期投資が低コストな上にメンテナンスフリーという、この杉本方式の実施を検討してみてはどうでしょうか。

次に、大きな２番目、観光事業の振興の取り組みについて、観光客誘致に向けた航路活性化の取り組みについては、先ほどの質問とも関連しますし、産業建設委員会や国県道整備促進委員会でまた報告もあるようですので、割愛させていただきます。

２番目の対馬ＰＲに向けたメディア戦略の取り組みについて、対馬市福岡事務所のメディア戦略について。

本来であれば、特産品や観光客増加に直結する観光商品、観光ルート等を福岡事務所はメディアにＰＲすべきだと思います。しかし、売り込むものの選定や観光商品の確立が図られていないのが、対馬の現状だと認識しています。施政方針で、推奨商品の基準の確立や観光ガイド養成を継続的に行うとのことから、市長の認識も同様であるとうかがえます。市長がおっしゃるように、まずは対馬という地名の認知度を上げることに、メディア戦略の主眼を置くべきだと思います。

現在、ＫＢＣラジオのスポンサーになり、２月から３月まで毎週水曜日に８回、対馬のＣＭを流しているようです。島民はもちろん、島外の対馬人、さらには対馬人以外の方からの反響も好評のようです。また、ＣＭ以外でも、「とんちゃん部隊」やアナゴ料理など、メディアへの露出も多くなってきています。このことからも、メディアとの人脈も構築されつつあると思います。せっかく培った人脈を途切れさせては、投資効果も薄れてしまいます。ラジオＣＭであれば、数十万円程度の経費でしょう。来年度予算には計上されていないようですが、投資効果を上げるためにも継続を検討されてはいかがでしょうか、市長の見解をお尋ねします。

２番目、新たなメディア戦略の展開について。

１月末の政務調査では、捕獲イノシシの解体・加工施設「やまくじら」と、自治体ＰＲメディア戦略研究のために、武雄市役所を訪ねました。樋渡武雄市長は、「市長」と入力し携帯で検索すると、約１０万件の中で「武雄市長物語」というブログがトップに来るほど名物市長です。み

ずからフジテレビへ飛び込み営業を行い、「がばいばあちゃん」のテレビドラマのロケ地を誘致したことや、「いのしし課」や「がばいばあちゃん課」など、ユニークな名称の部署を設置したことでも、メディアを巧みに利用して知名度を上げました。

先日の２月２０日には、「がばいばあちゃん２」が放映され、ＴＮＣの視聴率は１９．７％と、同時間帯他番組を大きく引き離す高視聴率でした。ちなみに、武雄市独自の電話による市内視聴率調査では、８３．２％と驚異的な結果です。放送日翌日の日曜日には、ロケ地周辺の道路が渋滞するほどにぎわったそうです。

ロケ地誘致による市民の地域に対する誇りや一体感の醸成という社会的効果、知名度向上という宣伝効果、ロケ実施による直接的経済効果、さらには観光客増大による消費需要の増大効果ははかり知れません。

先日、アジアからの観光客でにぎわうニセコスキー場の報道がありました。金融危機以前に大量に入り込んでいたオーストラリア資本にかわって、中国の個人海外旅行解禁に伴い、中国資本が席巻しているという内容でした。中国では、個人海外旅行を題材にした映画が流行し、興行成績１位のニセコがロケ地となった映画で登場した普通の居酒屋が、大繁盛している場面も放映されていました。対馬でも、ドラマや映画の題材となる資源は豊富にあると思います。ロケ地誘致に取り組む価値はあると思いますが、市長のお考えをお伺いいたします。

以上、よろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１点目の海洋資源の保護について、新たな提案等をいただいたところでございます。今現在、海洋資源保護につきましては、いそ焼け対策という視点から、市も県も挙げて一生懸命取り組んでおるところであります。ありとあらゆる制度を活用しながら、集落のほうも一生懸命頑張っていただいているというふうに思っております。

最近のデータからいきますと、平成９年に漁獲高が２５７億であったものが１０年後の平成１９年に１４７億ということで、約４０％の減少というふうにもなっております。このような状況では対馬が生き残っていけないということで、先ほど言いましたように、ありとあらゆる機関、市民の方も危機感を持って取り組んでいただいておるところであります。

海洋保護区のことにつきましては、新知事の中村知事のほうと議員の皆様方が政策協定を結んであるというふうなお話を今いただきましたが、大変心強いなというふうに思っております。脇本議員が御存じのように、東大の清野先生とともに、今、海洋保護区の取り組みはしております。１月末に環境省の副大臣田島一成さんのほうを訪ねていって、この話、対馬市として手を挙げたいし、この秋にありますＣＯＰ１０までに政府としても１つの方向を出していただけないかということでした。

田島副大臣のお話によりますと、海洋保護区の手を挙げてくださる自治体が今のところない中で、対馬市から逆に挙げていただいたのは助かりますという言葉をいただいたところであります。その後、関係機関等も回って、海洋保護区への取り組みをお話をさせていただいたところであります。

漁獲高の先ほど言いました４０％減少しているという問題、これについてはやはり私どもの対馬の漁民の方たちが上げられる部分がどんどん減っていて、それ以外に収奪的漁法をされている方の水揚げ高は当然入っていない数字であります。この１０年の間に、実は単価も若干落ちているような状況です。

どうかしてそのあたりの収奪的な漁法をやってある方たちを、私どもは私どもの資源を守るためにしっかり取り組んでいきたいという思いでおりますし、ただ排除するだけではなくて、先ほど脇本議員がおっしゃられた杉本先生ですか、杉本先生が提唱されているような、そのような鉄炭だんごでしたか、そういうものも取り組む。今現在は、私どもはＥＭ菌のことから物事を取り組んでいこうということでやっております。

先ほどの鉄炭だんごにつきましては、ある意味、漁業集落の再生交付金等で地域のほうにこういうふうな方法がある、もしくは先ほど言われたように、その先生をお呼びして、皆さんに１回告知していくということも大切かというふうに思います。

そのあたりの取り組みについては、学校現場のほうでも子供たちが今環境ということについて一生懸命考えて、さまざまな取り組みをしてくれています。そういう学校現場のほうに対しても、話を持っていくことも可能かなというふうに思います。

１つの方法としてやれるのだろうと思いますし、鉄炭だんごの話につきましては、今現在、対馬の峰の東部のほうで取り組んでおりますことがございます。同じこと、考え方としては一緒だと思いますけども、フルボ酸鉄を要するに海中に沈設し、そこから出ていく部分で海草をふやしていくという手法もとっております。また、ありねよし１号を水際にどんどん沈設といいますか、埋めていっていると。そして、潮でどんどんありねよしの養分をいそ場に流し込むという方法で、唐舟志と女連と豆酘とでしたか、取り組みもやっております。

昨年の秋ぐらいから始めたものですから、それとの関連で、今これだけの効果が出ているということにはすぐ言い出しはできませんが、藻が戻ってきているところもあります。この経過もきちんとモニタリングしながらやっていきたいと思っていますし、私どもの処理場から出てくるありねよしの分については、農林副大臣のほうからも高い評価を受けたところでありますので、しっかりと取り組んでいきたいというふうな思いでおります。

さまざまな手法があろうかと思います。いそ焼けの問題については、ある人に言わせると、簡単に言えば温暖化の影響だと言われる方もいらっしゃいますし、いや、違うと、食害の問題、そ

れが大きな問題だと言われる方もいらっしゃいます。諸説紛々ありまして、どれがどうだという答えはないみたいにありますが、少なくとも私ども、先ほど食物連鎖の頂点に立つ人間がどうしていくかというお話がありましたが、私どもその頂点に立っている人間の人里のほうから取り組みをＥＭ菌を使ったことでやっていこうということで、ＥＭだんご等も河川等に投入することによって、いその回復にもつながればというふうな思いを持って、施政方針でも言いましたように、島民みんなが取り組まないと、うまいこといかないという思いもありますし、当然、林業との兼ね合いも出てくるというふうな多岐にわたる部分から、いそ焼け、海洋資源の問題についてはしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っております。

何かすみません、どこか漏れたら申しわけございません。

それと、観光振興に向けた取り組みの中のメディア戦略についてお話がございました。脇本議員が既に調査をされているとおり、今現在、ＫＢＣラジオ等でこの２月、３月、しっかりとやっておりますし、私どもだけではなくて市民の方もそこに参加していただきながら、一昨日は「とんちゃん部隊」の斎藤君が、私が後で見ましたら８分１２秒出ていたようにあります。ラジオというので、８分も使って対馬のこととととんちゃんのこと、さらにとんちゃんを食べさせるために、武末福岡事務所の所長もラジオの中に出演し、皆さんと対馬を売り込んでおりました。

そして、一昨日は、この８月１３日にやはり大丸裏のエルガーラですか、パサージュ広場で行われるラジオフェアですか、何かそういうものに参加をするのだと、部隊は参加するということで宣伝も行っておりました。いろんな方たちが、こちらが設定をしましたそういうメディア戦略の中に入ってきていただいて、自分らを、そして対馬を売り込んでもらうということがすごく大切だというふうに思っています。

もう一つの観光客の誘致のお話がございましたが、これについては何度も言いますが、対馬学への招待ということで、対馬のことを福岡市民、福岡市周辺の方々にしっかりわかっていただきたいと、わかった上でこちらに来ていただきたいという思いで組み立てておりますし、今も旅行社の方々とそこに受講されている方々をどのようにこちらに引っ張りこんで――言葉が適切ではないですね、どうして来ていただくかということに、今、策を練っているところであります。

新聞社もそうですし、ラジオもテレビもそうですが、向こうもニュースソースを欲しがってある部分も当然ありますし、こちらもそのあたりをお互いウイン・ウインの関係で物事がやっていけるようにおつき合いもしていきたいというふうにも思っていまして、そのあたりのやり方については、福岡事務所の職員が一生懸命私はやってくれているというふうに思っておるところであります。

ロケ地の話がありました。よく言うフィルムコミッションという考え方で、樋渡市長の話が出ましたが、恐らく彼はまだ若い４０ぐらいの市長ですが、行動力といい、アイデアといい、頭脳

といい、正直言って九州でナンバーワンの男だろうと私は思っています。戦略も持っています。一応市長会では仲よく懇談はいつもしているのですけども、正直言いまして、彼ほどの能力を私は持ち合わせていません。あそこまでの戦略家にはなっていません、私は。しかし、身近なところでいつも見る機会がありますから、樋渡君みたいな人間に自分自身も早いうちにならなくてはいけないという思いではおります。そのあたりはしっかり取り組んでいきます。

ロケ地の問題については、韓国のほうから昨年ですか、一昨年でしたか、ロケ地として使われるとか、いろんなことは取り組みの中で出てきてはおりますけども、なかなか難しい部分があるのかなと。もっともっと、施政方針で言いましたように、都会とのある意味地域差の顕在化みたいな部分を表に出していくことによって、ロケ地の誘致等がもっとできるのかなというふうにも考えております。

それ以外は何かありましたか、よろしいですか、まずは。申しわけございません。

○議長（作元　義文君）　１番、脇本啓喜君。

○議員（１番　脇本　啓喜君）　丁寧な御答弁をありがとうございました。

まず、樋渡市長の話をちょっとされましたので、今度の施政方針の中でもありました坂本龍馬の話があったのですけど、私は市長自身が坂本龍馬になる必要はないだろうというふうに思っています。市長の仕事としては、対馬各地に坂本龍馬を育ててあげていただく、それが市長の仕事だろうというふうに思っています。あえて言うなら、幕末に下級武士だった西郷隆盛や大久保利通、そして坂本龍馬、脱藩藩士を物心両面から支えていった薩摩の小松帯刀のような、そんな役人を地域マネージャーの中から出していただくような、そういう努力をしていただきたいと思います。

今、西泊あたりでも動き出していますので、それが波及していけばいいかなというふうに思っています。協力してやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

いそ焼け対策のことについては、詳しく答弁がありましたので、１点だけ、鉄を海にまくということは、御存じのように、地球温暖化の原因と言われている二酸化炭素の発生を抑制する効果も期待できます。鉄イオンを供給することで、海草類の光合成を活発化させて、二酸化炭素の消費を促進していきます。また、植物プランクトンが発生することは、貝類の増殖にもつながっていきます。貝殻は炭酸カルシウムの塊であり、二酸化炭素を貝殻の状態で海中に固定できます。

日本の島で最も長い海岸線を持つ対馬で本格的に取り組めば、市長がいつもおっしゃっていらっしゃるカーボンオフセット、この島の構想にも資する効果が大きいと思います。二酸化炭素排出量の取引価格が下がってきてはいますが、田舎らしさを発揮するには重要な構想だと思います。こうした視点からも、いそ焼け対策を杉本方式等の検討をもう一度お願いしておきます。

次に、ドラマ誘致についてなのですけれども、観光ガイドの養成について、今後の計画をお聞

かせいただきたい。これはメディア戦略の１つにもなってくると思いますので、市長は就任２年以内に、観光ガイド組織を構築するということを公約に掲げていらっしゃいました。対馬観光ガイドの会「やんこも」の大活躍や、この３月４日には北対馬観光ガイドの会「うみてらし」というものも設立されました。中地区でもガイド養成講座が好評で、市長の公約は立派に達成されつつあるのではないかなと思っています。今後とも、対馬ＰＲに活躍いただけるガイド組織の充実発展に御協力いただきたいと思いますが、その点について回答をいただきたいと思います。

とりあえずそこまで、お願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　龍馬の話が出ましたが、龍馬は若くして死にますので、できれば地域マネージャーは龍馬になってもらわなくて、私一人でいいのかなと思っております。それよりも、職員は大久保利通、もしくは伊藤博文みたいに、しっかりと最後の国づくりに取り組んでもらえればいいというふうな考え方で、犠牲的精神で龍馬にと考えておりませんので、御理解のほどを、決してこれは私が書いた句ではありません。他人様が書いた句ですので、御理解のほどをお願いします。

それと、いそ焼けの問題でございますが、今、取り組んでいる部分、多岐にわたっております。そういう中で、新しい提案というふうな考えで受けとめておりますし、農林水産部の所管しております再生交付金の事業の中ででも、恐らく集落等に提案をしていける事業だというふうにも考えます。そのあたりの取り組みは、積極的にやっていきたいと。

なぜならば、いそ焼け対策の１００％これがいいんだという正解は今のところ見出していないと思っておりますので、ありとあらゆる可能性があるならば、しっかりとやってみるということが大切だというふうに思っております。

次のガイド養成の件につきましては、今何名という話に計数的なものは担当部長のほうからお答えさせますが、「やんこも」、それから上のほうの「うみてらし」ということで、徐々に観光ガイドが島内を動き始めているというふうにも思っていますし、また今月来ます埼玉の高校修学旅行がたしか４つぐらいのメニューがあったと思いますが、それに応じて観光ガイドが別々に動いていくと、対馬の観光ガイドが対応していくというふうな、それも大変うれしい話だなということで、私は報告を聞いておりました。

これから先、市民の皆さんがそういう形でしっかり取り組んでいただくことによって、おもてなしというふうな部分も充実していくのだと思っております。その中で、対馬のよさを観光ガイドの人たちがまた発信もしてもらえるものというふうに思っております。今後も、しっかりそのようなガイド養成等々には力を入れていきたいと考えます。

以上です。

○議長（作元　義文君）　観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君）　観光ガイドの組織についてということでございますので、お答えいたします。

現在、厳原地区におきましては、「やんこもの会」という組織がございまして、これに大体登録者が２７名、それからこの２１年よりふるさと雇用によりまして、中対馬地区と上対馬地区でガイドの養成講座を行っております。一応、中対馬地区におきましては１４名、上対馬地区においては１６名、これはいずれも対馬観光物産協会の事業としてとり行っております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１番、脇本啓喜君。

○議員（１番　脇本　啓喜君）　坂本龍馬のことについてもお答えいただきまして、ありがとうございました。私は、役所の方に坂本龍馬になってほしいとは言っていませんので、同じ短命だったのですけど、小松帯刀のようになってほしいというふうに申しました。ただ、成人式で市長が言われたように、長く生きるのではなく、いかに人のために生きるかというのが大切だということですので、それも申し添えておきます。老婆心でした。

続きまして、観光ガイドの件ですけれども、あと２年間、たしか養成時期があると思います。その後、ある程度そこまで自立してできるような組織を目指して頑張っていらっしゃる、それぞれの方も頑張っていらっしゃると思いますが、その後の支援のほうもよろしくお願いします。

それから、少し時間があるようですので、ドラマのことについて、題材についてこういうのはどうだろうかなというのを考えたものがありますので、幾らか紹介させていただきます。

豊臣秀吉の朝鮮出兵の折に、義の立たない戦に嫌気が差し、兵を率いて朝鮮に降伏した沙也可という人物が、朝鮮の古い漢文「慕夏堂記」に登場します。沙也可は武功を重ねて、王寵をこうむって高官となり、土地を賜って、その族党、家臣が一村をなし、無事泰平の世を楽しんでいると記されています。この沙也可は、司馬遼太郎氏の「街道をゆく２　韓のくに紀行」で紹介されて有名になりました。

司馬さんは、沙也可の上陸日が小西行長軍のそれであること、またみずからを「島夷之人」、島の人と称し、当時、日本では儒教的考え方を持っていたのは対馬だけですけれども、儒教的教養も見られることから、沙也可を小西軍に属し、かつ朝鮮とも関係が深かった対馬の宗義智の支配下の武士だったのではないかと推理しています。これは全然歴史的事実とは違うかもしれませんが、あの高名な司馬先生がそういうふうに言ってあるのですから、これを活用しない手はないかなと。ＮＨＫのテレビシリーズ「街道をゆく」でも紹介されています。

自分が売りたいものを売るのではなくて、お客が買いたいものを売るのが商いの鉄則です。韓国人が、今でも断トツで最も嫌いな日本人として上げているのが豊臣秀吉です。それに反旗を翻

した人物が対馬の人だという説に沿った題材であれば、多くの韓国人から大きな興味を引くことができるのではないかと思われます。

それから、年末、ＮＨＫのドラマで「坂の上の雲」が放送されています。来年になりますね、ことしではなくて来年末、多分、対馬沖海戦も取り上げられるでしょう。ロシア兵を集落挙げて手厚く介抱した西泊住民の義行や、陶山訥庵先生のイノシシ退治も、ドラマの題材にふさわしいと思われます。市民の誇りや一体感の醸成など、「がばいばあちゃん」にもまさるとも劣らない効果を生み出せるかもしれません。

先日、３月７日、地域の魅力などを紹介する「ＮＣＣふるさとＣＭ大賞」のグランプリに、加志々中学校の「僕らがつくったかるたの旅ＩＮ対馬」がグランプリを受賞しているようです。ＰＲに大きく貢献してくれるのではないかと期待しています。

そのほかにも、今、観光物産推進本部が力を入れてつくっていただいた「孝行めん」、このＰＲの際に、原料のサツマイモを対馬に持ち帰った原田三郎左衛門の紙芝居とか、そういうものをつくったり、あと市民劇団による上演をまずやって、マスコミの関心を引いて、マスメディアに載せるというステップも考えられるのではないかなと思います。

そういう点について、何か御意見があればお聞かせください。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私と若干、沙也可の問題については認識が違っていまして、沙也可は私は対馬ではなくて、私はたしか和歌山の出身だというふうに自分が読んだ本では記憶しておりますが、何はともあれ対馬を通って朝鮮半島のほうに入り、そこに住みついたというふうなことだろうと思います。

幾つかのアイデアをいただきました。その中で、私自身はいつの日か、あれは二十四、五年前ですか、白石一郎さんが直木賞をとりました「海狼伝」なんかは、まさしく対馬を舞台にした、そして海のドラマですし、大変いい題材だというふうな思いは常に持っております。最近、白石一郎さんの息子さんも直木賞をとられましたし、そのあたりで対馬がどうかして脚光を浴びないかなというふうな思いも持っております。

今、「坂の上の雲」は確かにことしの１１月、１２月ではなくて、来年の１１月、１２月の際に、当然、秋山真之が主人公となって動く場面だろうと思いますし、対馬ウオーとしての世界的に認識されております日本海海戦をしっかり私ども売り込んでいくチャンスというふうには認識を持っております。

また、市民劇団のお話がございました。先日、３月７日でしたか、日曜日に市民劇団が初の公演をしました。自分らが書きおろした「絆」という、２０分ぐらいの演目でございました。黒田議員と長議員がずっと見ていただいておりましたが、しっかり取り組んでいただいているなと思

いますし、今現在、頼んでおりますジェームス三木さんですか、のほうで朝鮮通信使に絡んだ脚本等も今書いていただいているというふうにも聞いております。さらには、夏ぐらいに向けて別の脚本も書き上げていただくというふうな、対馬を題材にしたことで脚本を書いていただくというお話も進んでいるというふうな報告も聞いておるところであります。

最初の答弁ではございませんけども、いろんなメディア等のつながりを持ちながら、対馬の歴史とか文化とかいうものもきちんと発信していけるように、つながりをきちんとつくっていきたいと思います。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１番、脇本啓喜君。

○議員（１番　脇本　啓喜君）　ありがとうございます。私の愛読書の一つに、孫子の兵法というのがあるんですけど、その中に一つ、特に自分がまだ若いものですから、と思っていますから、そういう人たちを生かしていただきたいということで一つだけ。「将能にして君御せざる者は勝つ」という言葉があります。若い人――将ですね――に自由に発想してもらって、活躍してもらって、肝心なところだけ上の人が指示をする、そういうことを言っているんだと思います。

先ほど申しましたように、坂本龍馬みたいに短命では困りますけども、対馬各地に坂本龍馬を育て上げていく、そういうことを理事者側で一生懸命押していただきたいということをお願いして、本日の質問は終わらせていただきます。

○議長（作元　義文君）　これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

……

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。再開を３時１０分から。

午後３時02分休憩

……

午後３時10分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　よろしくお願いをいたします。新生クラブの松本暦幸です。初めて一般質問をいたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

財部市長におかれましては、平成２０年３月に就任以来、大変厳しい財政事情の中に、健全財政に向けて努力なされておられることに感謝を申し上げる次第であります。市政を預かりちょうど折り返し点となります。今後も厳しい行政運営が続くかと思われますが、市長のスローガンでもあります「対馬よみがえり宣言」「対馬改進」に向けて、さらに頑張っていただきますようよろしくお願いをいたします。

先日、市長のブログを拝見いたしましたけれども、ちょっとお疲れのようでしたから、健康管理には十分留意をなされて御政務いただきますようによろしくお願いをいたしておきます。

本日は、４点について質問をいたしたいと存じます。よろしくお願いをいたします。

まず１点目に、対馬市ミュージアム建設構想について、対馬の文化的拠点となる歴史ミュージアム建設構想についてお伺いをいたします。

現在、対馬市の歴史資料館は、厳原町郷土館・豊玉町郷土館・峰町歴史民俗資料館・上対馬町歴史民俗資料館と４館がありますが、このうち厳原町郷土館は解体に伴い閉館されるとのことでありますが、残る３館については、いずれもかなり貴重な資料が展示をされておりますが、どの館においても、ただ展示がされているというだけで、資料の収集・調査研究・レクリエーション等に資するための事業はほとんどなされていないのではないでしょうか。

このため、学術的には非常に貴重なものであることは論を待たないところではありますが、展示物も少なく、いつ行ってもいつも同じものが並んでいるといった状態であります。セールスポイントとして、来館される方にいま少しインパクトが弱く感じられます。広い意味での観る、魅せる、学ぶという観光振興の面からも、いまいちの感がいたします。

平成２１年度対馬市教育要覧では、対馬市教育努力目標でも文化遺産の保護と豊かさをはぐくむ文化の創造がうたわれております。また、教育委員会各課の重点施策として、長期的課題の中で「交流の歴史・伝統的民俗・育まれた自然を網羅した博物館を関係機関との連携を図りつつ、その実現を目指す」とあり、具体的推進施策として「文化財資・史料の整備充実と展示施設活用の促進」では、「対馬国際ミュージアム（博物館）の設置促進を図る」とあります。

厳原町郷土館も閉館となります。昭和４５年の開館以来、天然記念物の剥製や歴史資料、出土品など、多数展示された小さな博物館がなくなります。非常に寂しい限りです。

そこで、観光振興を始めとする地域振興の起爆剤とするため、また対馬市民が誇りとする文化的なよりどころとして、対馬市の歴史的、自然史的特性を生かした総合的な歴史ミュージアムの建設構想についてお伺いをいたしたいと思います。

次に、２点目でありますけれども、防犯灯の設置状況と基準についてお尋ねをいたします。

防犯とは犯罪を防ぐことでありますが、犯罪を未然に防止しなければならない場所において、地域からの防犯灯の設置要望にどのようにこたえられているのかお伺いをいたします。

さきの１２月定例会において、少しお尋ねをしたところではありますが、設定基準と申しますか、どのようなところであれば設置できるのか、まだよく理解できないところがありますので、もう一度お尋ねをいたします。

３点目につきましては、渡海船ニューとよたまの良さ、もっとＰＲをと係船施設の改良についてお伺いをいたします。

ニューとよたまについては、現在も定期航路の運行とあわせて、不定期航路が浅茅湾めぐりとして周遊観光航路に活用されております。このニューとよたまによる対馬浅茅湾周辺のＰＲと係船施設の改良についてお尋ねをいたします。

これは長崎新聞の「みんなの広場」欄へ投稿されておりました豊玉高校の藤田毅先生の対馬の観光に対する熱い思いを伝えるべく投稿された記事をそのまま紹介をして質問とさせていただきます。藤田先生におかれましては、対馬の観光を始めとする地域振興に日々御心労をいただき、本当にありがとうございます。

それではまず、平成２１年９月１３日に掲載されました投稿分から御紹介をいたします。

「渡海船の良さ、もっとＰＲ」と題して、

対馬では市営渡海船が豊玉から美津島間に就航しています。住民の方々の重要な生活航路であるとともに、風光明媚な浅茅湾の観光も楽しめる船です。ことし私の職場では、職員の親睦を兼ねてこの船に乗る会を実施いたしました。海からの和多都美神社など、日ごろと違う視点から対馬を見ることができ、参加した職員や家族は感動していました。さらに、船員や地元の利用客の方々の話から、島の歴史などを知ることもできました。また後日、仕事の帰りにこの船を利用したのですが、乗り合わせた観光客は次々と目の前に広がる島のすばらしさを感じ、下船の際には船員の方に何度もお礼の言葉をかけられていました。

ある動物の顔に見える山や海岸の可憐な花など、渡海船でなければ経験できない良さが航路の至るところにあります。

秋は浅茅湾の紅葉も楽しめるそうです。観光協会はガイドブックなどでこの船をもっとＰＲし、路線バスの連絡改善など、観光ルートとしての整備をすれば、より多くの人に渡海船のよさを知ってもらえるでしょう。また、対馬勤務の県職員は地域を知るため、積極的にこの船を利用してみてはと思います。

とあります。

また、２１年１１月１１日投稿の内容はこうであります。

「対馬の浮き桟橋整備支援して」と題して、

以前も書きましたが、対馬では市営渡海船が住民の方々の重要な生活航路で、豊玉の貝鮒・嵯峨・佐志賀地区はこの船が唯一の公共交通機関です。水崎地区と美津島鶏知の間は陸路で約１時間かかるところを渡海船は３０分で結びます。実際にこの船に乗ると、年配の方が通院や買い物で利用される様子を見ることが多いのですが、心配な点があります。それは、途中の貝鮒港に浮き桟橋がないことです。そのため、渡海船は貝鮒港で防波堤に直接設置された岸壁に接岸します。この岸壁は潮位変化に幅が狭いコンクリートの階段でしか対応しておらず、巧みな操船技術と手を添えての補助という２人の船員の方による連携で乗降の安全が担保されてい

ます。また、浮き桟橋がある港でも、桟橋と陸を結ぶ橋や、船からロープをかける支柱がひどくさびているところもあります。本土では、バリアフリーのために低床バスの導入などが行われていますが、渡海船の桟橋整備も目的は同じではないでしょうか。港や桟橋の管理者の問題がありますが、財政が厳しい対馬に対し、島民の安全のため、国や県・各財団などからの温かい支援を検討してもらい、各港の浮き桟橋が整備できないかと思っています。

とあります。

以上が投稿の内容です。

また、豊玉高校の生徒の方も同じ「みんなの広場」欄の学びや写真館に投稿され、ニューとよたまの写真と浅茅湾の写真がよく載せられております。２月４日の長崎新聞では、豊玉高校の写真部が渡海船から撮影した風景写真などを使って作成された「観光パンフレット」が寄贈をされております。本当によい対馬のＰＲになっていると思います。このような対馬のよさを愛する市民の方の思いに対して、ニューとよたまの良さと浅茅湾周遊のＰＲ、定期航路における港の係船施設の改良についてどのような思いを持たれておられるのかお伺いをいたします。

４点目に、豆酘崎公園の通年管理についてお伺いいたします。

御存じのとおり豆酘地区は日本の里１００選にも選ばれた風光明媚な地区です。この豆酘地区の最も南に位置します豆酘崎は、対馬の中でも屈指の景勝地であります。年間を通してかなりの観光客が訪れられておると思います。当公園は自然公園法の国定公園第２種特別地域に指定され、「良好な自然状態を保持している地域で、農林漁業との調和を図りながら、自然景観の保護に努めることが必要な地域」とあり、園地、野営場として利用がなされております。

しかしながら、必ずしも公園全体においてしっかりとした管理、整備がなされておられるかと言いますと、ちょっと首をかしげたくなるところでございます。市道美女塚線・市道尾崎山線の管理とあわせて、１年を通してどのような管理形態であられるのかお伺いをいたします。

以上、４点についてお伺いをいたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　松本議員の質問に答えさせていただきます。

よみがえり宣言ということで、うたって、私それに向かって一生懸命再生のためにと思って取り組んでいるところですが、ただし私だけ動いても無理がありまして、ここには必須条件がありまして、施政方針でも申し上げましたとおり、島民の方々も同じ思いになっていっていただいて、一緒になって動かないとよみがえりはなかなか難しいと思っております。そういうふうに議会とも一緒になって動きたいというふうに思っております。

まず１点目の歴史ミュージアム建設構想についてでありますが、この３月１４日に壱岐市のほうで一支国博物館がオープンいたします。私もこのオープン行事に参加が言ってきておりますの

で行こうかとは思っておりますが、正直言って悔しい思いをしております。

実は、平成８年に国際歴史ミュージアム構想の前身であります計画というのは、一昨日も話しましたが、平成８年に一度でき上がっておりました。その後に平成１２年に「日韓コアシティ２１」計画ということで、さらにそれを詳細な計画をつくり上げてきたところであります。

また、同様の計画ということで国際交流ミュージアムということで、平成１７年度に――年月で言いますと１８年３月でございますが、教育長が市長に提言書で答申を行っております。

そういう中で、対馬市の財政状況がまだまだうまく進んでいないという中で、この計画というのは遅々として進んでおりません。私は、この３月１４日にオープンします一支国博物館以上に、対馬市はさまざまな歴史資料もそうですが、自然も文化もふくそうしたものを持ち合わせていながら、このようなものがまだできていないことに悔しい思いを持っております。恐らく３月１４日、壱岐に渡りますが、また帰ってきて悔しい思いをしながら帰ってくるんではないかと、自分自身は何となく予想ができます。

今後の問題でございますが、この建てることよりも、やはりさまざまな資料、江戸時代の寛永年間からあります毎日記の問題にしてもそうです。

それから、今九州国博の最上階の一番いいところに対馬のものが飾られておりまして、九州国博に訪れる方々の動線の最後は、必ず対馬のものを見て帰ってあるというふうな状況です。

九州国博に二度ほど行きましたが、企画展と常設展があります。その企画展の進め方というのが大変上手であります。で、恐らくどこかが指定管理を受けてやってあるんだろうと思いますが、九州の持ち合わせているさまざまな資料等を魅せ込んでいく企画展のその企画力というものが、大変、館の運営上は試されるというふうに思っています。

通常、私ども学芸員はわかっておりますが、実は博物館には「キュレーター」という、日本語ではちょっと言葉がないんですけども、キュレーターという職名があります。で、そういうキュレーターの存在が博物館等の運営には重要な役割を担っているところです。

で、あとの展示のことを考えた上での建設のあり方とかいうものをしていかないと、建設ありきで行った場合、後での展示関係、企画展関係がうまく進まないとお客は呼び込むことはできませんし、観光客も呼び込めないというふうな考え方を持っています。今後そのあたりの運営計画といいますか、展示計画とか、いろんなものがあろうかと思います。そのあたりをしっかりと詰めていきながら、建設ができるような環境整備をしていきたいと自分自身思っておりますし、今島内にあります、今回解体した場合に残る３つの施設になりますが、その施設を含めての企画展というふうなやり方をやっていかないといけないのかなと思っております。

いつも同じような形で展示をしていても、人は寄りつきませんので、そのあたり先ほどから何度も言いますように、企画力がある人間をそこに、キュレーターとして雇い込んででもやってい

かないと、うまく進まないものと思っております。何はともあれ、この１４日の一支国博物館の今後の運営状況等もしっかり情報収集しながらいきたいというふうに考えております。

次に、防犯灯の基準の問題でございました。設置基準につきましては、類似団体の設置基準をもとに対馬市の設置基準を実は定めております。

まず第１に、小学校の通学路の全般及び中学校の通学路のうち、主要な箇所であること。第２に、道路照明等の光源からおおむね１００メートルにわたり照明のない場所であること。第３に、その明かりの光源の場所ですが、当然なんですが、間隔は１００メートルごとに１灯とすると。ただし、例外措置として、道路が曲がりくねっておりまして光源が届かないところ等がある場合は、その状況に応じて設置をするというふうな基準を設けております。現在、設置要望については、毎年２０数件の設置要望があっておりまして、現地調査を行った上で先ほど申しました設置基準に照らして新設を行っておるような状況であります。

次に、渡海船に関する問題、そして係船施設の関係でございます。松本議員がおっしゃられた藤田先生が新聞のほうに正直すばらしい視点でいつも提言をいただいているなというふうに思っております。また、豊玉高校の写真クラブの子供たちが、渡海船から見る浅茅湾の風景とかいうものを投稿し、それが新聞に掲載されておりますけれども、またあの写真については、先ほどおっしゃられたように、私どものほうに豊玉活性化センターのほうに届けられておりまして、先日地域支援課の担当がＣＡＴＶのほうに出演しておりましたけれども、その際も豊玉高校の学生さんからもらった写真を使いながら、自分の仕事の説明もしているところでありまして、大変地域の方々、そして子供たちも一緒になって私どもの対馬市全体のことを一生懸命考えてくれていると思って大変私自身感謝しております。

そういう中で、このとよたま丸の良さをということですが、実は昨年からＣＡＴＶのほうに職員が出てもらっております。私のほうから直接実は指示をしまして、それに出て、とよたまの渡海船の観光事業での収益を幾らかでも上げんといけないということもあり、ＰＲには努めておるところであります。

また、今ゲンカイツツジが咲き始めているはずですが、この時期に渡海船の船員さんたちが、またＣＡＴＶ等に出て、島民の方々に浅茅湾の良さをわかっていただくためのＰＲはする予定だということで話も聞いております。

で、貝鮒の問題が出ておりましたけれども、貝鮒の分につきましては、この２１年度改めて手すり等、設置をしておりまして、利用客の安全を図っております。まだ嵯峨と佐志賀ですかね、こちらが浮き桟橋が木製というふうな状況もあります。その傷みぐあい等をしっかりと見ながら改修等には安全な状況を確保していきたいというふうに思っております。

次に、豆酘崎の公園の問題でございます。これは、管理についてはシルバー人材センターと公

園等の維持管理委託に業務委託をする形で管理を今現在しております。シルバー人材センターにつきましては３月から１０月は週２回に、それ以外の月は週１回の割合で業務についていただいておりまして、トイレの清掃とか施設内のごみの収集等を行ってもらっております。

また、維持管理委託員につきましては、旧厳原管内にある公園のうち１２カ所の公園の維持管理をしておりまして、豆酘崎を含む公園内の草刈りや軽微な補修等を行っております。また、ボランティアでも除草等を行っていただいているというふうな報告も聞いております。

今述べましたとおり、この豆酘崎の管理につきましては、限られた予算や人員ではありますけども、２２年度以降につきましても、今まで以上の管理ができるように努力していきたいと思っております。まだ豆酘崎園地に行きます市道美女塚線や尾崎山線につきましては、毎年除草作業等を実施をし、２１年度は道路上に覆い重なっております樹木の伐採も行っているところであります。今後もできる限りパトロール等を実施し、車両の通行の安全管理を確保していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　質問が４点ほどいたしました関係で、時間がないようでありますので、簡単にもう一度ずつ質問をいたしたいと思います。

先ほどのミュージアム建設構想については、いろいろ市長の考え方などについては十分理解ができますけれども、建設の構想に向けたちょっと考え方といいますか、そのあたりがちょっとまだよく聞こえてこないような感がありますので、もう一度お願いしたいと思います。

それと、先ほどおっしゃられました１８年３月の宗家文庫資料等保存施設計画策定委員会の中から提言がされました中に、対馬市に対して、平成１７年３月に対馬国際交流ミュージアム（仮称）設置構想中間提言が作成され、対馬市もこれを受けて委員会の意図は十分理解したと回答されたとあります。その後において、市は何か取り組みがなされたのかどうかを１点お伺いいたしたいと思います。

それと、防犯灯の設置状況でありますけれども、実はこれは豆酘の区長会の太田会長さんより借りてきたものなんですけれども、その中に、市に対して道路改良などの要望とともに、防犯灯の設置についてもお願いをしたところでありますが、そのときの防犯灯設置要望においての市からの回答をちょっと読ませていただきたいと思います。

１番目に、ＮＴＴ柱に設置したいと思います。２番目に、設置できる柱がなく、予算面からも設置が困難ですので、設置は見合わせたいと思います。３番目に、要望箇所と距離が近いため設置ができません。４番目に、御要望の箇所は、夜間は人通りが少ないと思われますので、防犯灯の設置は見合わせたいと思います。５番目に、道路の終点に位置しており、夜間の利用

者は少ないと思われますので、防犯灯の設置は見合わせたいと思います。

何とぞ御理解くださいくださいますようお願いいたします。

とあります。よくここが理解できないんですけれども。これらの回答によれば、１つには設置できる柱がないところ、２つ目には距離が近いところ、３つ目には人通りの少ないところ、４つ目には道路の終点に位置しているところ、５つ目には予算面から設置が困難というようなことになってしまいますけれども、一体どういうところであれば設置ができるのかということになりますが、あまり防犯意識のないような回答のようにあるんですが、市民の皆様に公平な設置がなされていないということにもなりませんでしょうか。対馬市全地域的も同じ回答がなされているものと私は推測をいたします。

１点目と２点目がちょっと質問が続きになりましたけれども、よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１点目の歴史ミュージアム建設構想に絡んで１７年３月ですか、中間のやつ、その後の市の取り組みはどうなっているのかということでございます。その後、全く動いていないというのが正直な話です。

そういう中で、年次的なものは明示はできませんけども、そのあたりの環境整備をしていかなくてはいけないと。何年につくると仮に言ったとしても、つくるって言っておりますが、史跡整備委員会の考え方を基本に置きますと、今の県の歴史民俗資料館、それからビジターセンター、それから資料館のあの３つあります、あの全体としてのあの地域が金石城、それから清水山城、万松院、これらの３つの国指定史跡のガイダンス施設としての位置づけもあるから、そこにミュージアムをつくったほうがいいということでありますので、その考え方をもとに、私自身も持ってはおります。

先ほど言いましたように、年次的なことは明示は、私も今はできませんけれども、財源的な問題等々を考えたときに、私も言いきらないと思いますが、そういう状況が生まれたときに、すぐできるようにするためには、上の施設等を県の歴史民俗資料館を今の建物を収蔵庫としての考え方を生かしながら、どう営業していくかみたいなことも考えなくてはいけないと思いますし、用地を今のうちに少しずつ更地化していくことも大事だと思っております。

今のビジターセンターにつきましては、アスベストを含んだ施設ということで、施設としての利用ができない状況にあります。逆に、アスベストを含んでいるために解体するに相当の経費をかかる状況も生まれております。そのあたりもじっくり考えながらやっていかなくてはいけないという思いもあります。

また、金石城の入り口としてのやぐら門の近くにあります厳原幼稚園の問題も当然史跡整備委員会のほうから指摘をされ、さらにやぐら門を入った中のプールの問題も指摘をされております。

さらには、その奥にあります体育館、このことも厳しい意見を２０数年来ずっと言われ続けている問題であります。この問題を少しずつクリアにしながら、そのガイダンスセンターとしてのミュージアムというのをつくっていかなくてはいけないということがありますので、そのあたりの環境整備をまずきちんとやっていきたいなというふうに思っております。

次に、防犯灯の問題でございますが、これについては、当然私は、言い忘れておりましたけども、設置基準の中には既存の電柱ですね、そういうものを優先をしたいと。で、新設につきましては約６万円ほどの費用が１基当たりかかる状況があります。

そういう中で、年間で約２０基程度ずつつくっていっている状況であります。予算との関連も当然ございますので、そのあたりを考えた回答だったのかなと思いますが、すべてを否定しているというわけではないんですけども、先ほど言いましたように、子供の通学路を中心に物事を考えているというふうに考えていただければと思います。

○議長（作元　義文君）　６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　対馬市のミュージアムの整備構想については、先ほど来、市長がおっしゃられておりますように、壱岐にも立派なものができます。で、五島市のほうにおいても城郭風の立派な資料館がございます。これ対馬としてもかなりな文化財がありますので、よく活用していただきますように、また活用できる施設を早急に整備されますようによろしくお願いをしておきます。

それと、２点目の防犯灯の件ですけれども、もちろん児童生徒が優先されるのはもちろんでございますけども、やはりそれとは別に、高齢者の方もおられますし、いろいろ不便を感じられておる方もおられると思います。そういうしゃくし定規なことでは、先ほども申しましたけれども、ちょっと防犯意識がない中での回答であるような気がしてならないんですけれども、その点について、もう一度、その防犯灯についてお聞かせ願えればと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　防犯意識は、決してそれを持ち合わせていないというわけではないんですが、犯罪が起こってからでは実際遅いわけですけれども、未然に防ぐための措置としては当然考えておりますけれども、現時点において、年に先ほど言いましたような基数を増やしていっておりまして、全島で電気料だけでも２，０００万円を超えております。そして２１年度には２，１００万円を超えておるような状況でありまして、そのあたりの問題も含めて取り組ませていただいているというふうに理解をしていただければと思います。決して防犯に関してないがしろにしているということではございません。

○議長（作元　義文君）　６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　やはり地域からはかかる場所については危険であることから要望

があっていると思います。万が一つにも起こってはなりません。まだまだ防犯灯の設置の必要性のある箇所はあると思います。要望箇所ならず、昼夜よく調査をされて、犯罪を未然に防止する意味でも、地域の要望にしっかりとこたえていただきたいと思います。

そして、３番目のニューとよたまの件ですけれども、これは先ほど来、いろいろと御説明をいただきましてありがとうございます。いろいろニューとよたまの件と、それと係船施設、それと観光振興については、いろいろ御腐心を藤田先生がなされておりますので、このあたりについてはしっかりと受けとめていただいて対応していただくようによろしくお願いをいたしておきます。

それと豆酘崎公園の通年管理についてでございますけれども、一つだけお伺いをいたします。

私が、この通年管理の問題について通告をした後に、現地のほうを一度見られに行かれたのかどうかお伺いをして後の質問にさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私自身は、正直言って行っておりません。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　担当部長といたしまして現地のほうには私は調査に行っておりません。ただ、地域振興課のほうが担当でありまして、管財課のほうが管理のほうになりますけども、地域振興課のほうで現地には行ったとは私は聞いておりますけども。

以上です。

○議長（作元　義文君）　６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　ちょっと私心外ですけれども、このような通告をしとる中で、現地を把握されない中での回答ができるんでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私自身は、そこまで足を正直言って伸ばしてないというのが事実でありまして、内山とかには行ったんですが、それは別件のイノシシがのり面を崩落させているという話があったものですから足を伸ばしましたが、この一般質問に対しての現地には私自身は足を運んではおりません。申しわけございません。

○議長（作元　義文君）　６番、松本暦幸君。

○議員（６番　松本　暦幸君）　私はちょっと気づいた点が１０点ほどあるんですけれども、もう時間がありませんので、主なところだけちょっと紹介をさせていただきます。

この写真をごらんください。これは園地広場のほうに案内板の中で案内がされております。浜のほうにあります休憩所なんですけれども、全くやぶくらの中に建っておりますような休憩所です。途中の道路についても全くこのような状態です。そしてこれら東側のほうにおりる浜と接続する階段です。ひどいものです。これが豆酘崎園地の一番先にあります展望所の下の石積みの基

礎です。このような状態です。見えますでしょうか。

それと、トイレが、ドアが、もうぼろぼろです。見るに忍びないぐらいのぼろぼろです。この点を一度見ていただいてからの質問にしたかったんですけれども、どうも現場を見られてないようですから、もうこれで終わりたいと思います。現地を今後よく見ていただいて対応していただくようにお願いをいたしておきます。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　これで、松本暦幸君の質問は終わりました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で本日予定の市政一般質問はすべて終わりました。

明日も定刻より登壇者５名による市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後３時55分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――

平成22年　第1回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第５日）

平成22年３月12日（金曜日）

議事日程（第４号）

平成22年３月12日　午前10時00分開議

日程第１　市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　市政一般質問

出席議員（20名）

１番　脇本　啓喜君	２番　黒田　昭雄君
３番　小田　昭人君	４番　長　　信義君
５番　山本　輝昭君	６番　松本　暦幸君
８番　齋藤　久光君	９番　堀江　政武君
10番　小宮　教義君	11番　阿比留光雄君
12番　三山　幸男君	13番　初村　久藏君
14番　糸瀬　一彦君	16番　大浦　孝司君
17番　小川　廣康君	18番　大部　初幸君
19番　兵頭　　栄君	20番　中原　康博君
21番　島居　邦嗣君	22番　作元　義文君

欠席議員（２名）

７番　阿比留梅仁君	15番　桐谷　　徹君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	橘　　清治君	次長	渋江　雄司君
参事兼課長補佐	長野　元久君	副参事兼係長	國分　幸和君

説明のため出席した者の職氏名

市長 ……	財部　能成君
副市長 ……	大浦　義光君
副市長 ……	齋藤　勝行君
政策補佐官 ……	松原　敬行君
地域再生推進本部長 ……	永尾　榮啓君
観光物産推進本部長 ……	本石健一郎君
総務企画部長 ……	平山　秀樹君
総務課長 ……	桐谷　雅宣君
市民生活部長 ……	近藤　義則君
福祉保健部長 ……	扇　　照幸君
農林水産部長 ……	比田勝尚喜君
建設部長 ……	斉藤　正敏君
水道局長 ……	阿比留　誠君
教育部長 ……	大石　邦一君
美津島地域活性化センター部長 ……	長郷　泰二君
豊玉地域活性化センター部長 ……	中村　敏明君
峰地域活性化センター部長 ……	大川　昭敬君
上県地域活性化センター部長 ……	武田　延幸君
上対馬地域活性化センター部長 ……	川本　治源君
消防長 ……	阿比留　健君
会計管理者 ……	糸瀬　良久君
監査委員事務局長 ……	主藤　繁明君
農業委員会事務局長 ……	永留　秋廣君
教育委員長 ……	村井　成枝君

午前10時00分開議

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。阿比留梅仁君、桐谷徹君より欠席の届け出があっております。

なお、小宮教義君より遅刻の届け出があっております。

ただいまから本日の会議を開きます。

日程第１．市政一般質問

○議長（作元　義文君）　日程第１、昨日に引き続き市政一般質問を行います。

本日の登壇者は５名を予定しております。

２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　改めまして、おはようございます。まずこの場を借りまして、さきの２月２１日、任期満了に伴う長崎県知事選挙が執行されまして、前県副知事の中村法道氏が見事初当選を果たされました。心よりお喜びを申し上げたいと思います。

長崎県を知り尽くしてあります中村新知事に対しまして、我々対馬市議会議員有志の会も対馬の抱える諸問題に対して、大きく８項目の協定をさせていただいております。これからの県政運営の御活躍を御祈念申し上げます。

それでは、通告に従いまして、質問をさせていただきます。

１番目の対馬への観光集客事業の推進についてであります。１００年に一度の大不況によりまして、経済も著しく落ち込んでいる今日でありますが、対馬の経済状態は大変なときであります。このようなときにこそ交流人口の拡大を図ることにより、雇用促進にもつながるのではないでしょうか。行政において、観光客の増加に対してどのように取り組んでおられるのか、また今後どのように取り組んでいこうとしておられるのか、お尋ねをいたしたいと思います。

２番目の対馬の砲台跡についてであります。蒙古の襲来、日清戦争、日露戦争、第二次世界大戦等ほかにも幾多の戦争がありまして、多くの犠牲者があっております。そのおかげで今日の日本があり、今日の対馬があり、今日の私たちがあると思います。そのことをむだにしてはできないと思いますので質問をいたしますが、調べてみて初めてわかりました。対馬に３１カ所という砲台跡にただただ驚くばかりです。対馬に住んでいてわからないのは恥ずかしいばかりですが、現在は豊の砲台跡、上見坂公園の砲座跡しかわからないのが一般的なように思われます。

先人の築き上げられたものを大切にしていきながら、二度とあってはならない戦争を引き起こしてはなりません。それとともに、これらを皆様に見ていただけるように整備をしていけば、観光面においても社会的な勉強にも大いに役立つものがあると思います。今後、整備していかれる考えは持っておられないかお尋ねをいたします。

なお、再質問は後ほど市長答弁によりましてさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　おはようございます。中原議員の質問に答えさせていただきます。

１点目の観光客を呼び込むためどのように取り組んでいるのかというふうな御質問でございましたが、観光客の誘致につきましては、対馬市観光地づくり実施計画に基づき、国内・韓国両面

にわたって事業の推進を図っているところでございます。

まず、国内観光客の誘致につきましては、東京・大阪・名古屋圏の旅行業者を中心に３０社余りを訪問し、史跡めぐり・自然など体験できる旅行商品を目玉に営業し、エージェントの皆様に個人ツアー・団体ツアーの２本立ての旅行商品の推奨を図っているところでございます。

バスツアーでの入り込み実数ですが、１８年より年々増加傾向にありまして、２０年は１万３，０００人の入り込み数となっております。そのほとんどは九州郵船の高速艇が利用され、順調な誘客状況でございましたが、折からの燃油高騰による減便にて半年間のブランクが生じましたものの、九州郵船では営業拠点としての東京事務所のほか、これまでの大阪事務所と九州本社の兼務から大阪事務所の独立が図られまして、九州地域における営業が強化されました。これにより、対馬市福岡事務所との連携も密に図られることになり、同社の壱岐・対馬を目玉にした商品アイランドパックを始め、たゆみのない営業体制により、従来の２便体制への復元とともに徐々に好調の兆しと聞いております。

平成２０年度の実績内訳としては、その７割強が東京・大阪・名古屋圏からの団体旅行客であることと、単なる価格競争ではほかの観光先進地域には太刀打ちできない部分もありますので、特別にこだわりを持ったマニアックな旅行商品、すなわち対馬ならではの自然、歴史、国境等を売りにした商品で観光客を招く提案を推し進めているところです。

また、補助事業を活用し、エージェントや一般民間人を対馬体験ツアーに招待し、対馬の自然・歴史を味わっていただきました。

今後、体験ツアーでの御意見をいただきながら、対馬こだわりの旅行商品を広く紹介し、誘客を図っていきたいというふうに考えております。

また、以上のお客様に対応するための受け入れサイドの整備としては、観光ガイドの育成も行っております。

シナリオがあれば旅行者もやってくるわけで、旅のプロデューサーとして現地ガイドは重宝されます。現在、厳原地区で２７名で構成するガイドの会「やんこも」は既に実績を残して好評を博しております。

さらに、中対馬地区１４名、上対馬地区で１５名と実戦に向けた養成が行われており、旅行者の幅広いニーズにこたえるための体制の充実に励んでおります。

次に、ここ数年増加傾向にあった韓国旅行客についてですが、一昨年９月から円高ウォン安と新型インフルエンザによる影響で入り込み数が激減いたしました。

しかしながら、福岡市への入り込み数が５０％強の減に対し、対馬ではおよそ３８％の減少におさまり、現在徐々に回復の兆しが見えてきております。

平成１９年資料ですがおよそ6万5，０００人であり、１人当たりの消費額は約3万3，０００円

となっております。つまり、対馬での全体消費額は２１億円余りは島内で消費されている事実があります。

今年度も、韓国での宣伝事業として、パンフレット、ガイドマップ、観光ＤＶＤ、ポスターを作成し、旅行業者に配付したり、韓国語メールマガジンの配信や釜山市の地下鉄に対馬ＣＭポスターを掲示するなど、対馬観光のＰＲに努めているところであります。

次に、砲台跡の整備計画についてお答えします。

対馬は、大陸との間で交流を続けてきた歴史があります。逆にその反面、日本の防衛の最前線基地にもなっており、その代表的な史跡である古代の金田城跡と中世の清水山城については国の指定を受け保存整備を進めております。

日清・日露・太平洋戦争と築造されました近代の対馬における砲台跡についても、対馬の貴重な戦争遺産には変わりありませんが、箇所として２７地区に複合したものを含め３１カ所の砲台、望楼等が確認されております。その所有者、管理者についてもまちまちでございまして、国、県、地区の共有、個人まで、複雑な状況のようです。

観光地として現在でも利用されている砲台は、豆酘崎、竜の崎、上見坂、城山、棹崎、豊の６カ所が代表的なもので、砲台の延長で自衛隊が利用している箇所は竜の崎と海栗島の２カ所でございます。

今後、観光資源として利用可能な砲台は、利便性から考えますと幹線道路に近い厳原町の安神、美津島町の芋崎、姫神の３カ所程度かと考えますが、いずれも砲台の造形美、保存状況、築造の目的等、その特徴において観光資源になろうかと存じます。

しかしながら、現状では、全島に存在する砲台の保存整備についての計画は持ち合わせてはおりません。整備については砲台跡や望楼など、そのものの保存のための整備と案内板等の整備が必要ではなかろうかと思います。国土防衛の戦略や歴史にかんがみ、特筆すべき砲台やその築城工法を特定するなど、アクセントをつけて整備する方法もあろうかと思いますが、そこに至るまでには専門家の助言や地主さん、それから管理者の了承を得るなどのプロセスが必要となってきます。

この砲台跡の整備については、これまで観光資源活用策、文化財保護の両面においても関係者や関係機関が協議した実績はないようです。将来的には３１カ所すべての砲台の整備は無理としても、観光振興はもとより戦争を風化させないための対馬からの情報発信の材料として、箇所を絞って保存と活用、両面を考慮し、文化財審議委員会や軍事の専門家あるいは学会、必要であれば文化庁など関係機関・団体における働きかけを行っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　今回の質問は、観光客をいかに対馬に来ていただけるためにはどうすればいいのかという質問でありますので、私は対馬の砲台跡は観光面にプラスになると思いますので、一緒に引っくるめた感じで質問をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

市長、この砲台跡につきまして、何カ所ぐらい現地に行かれて見られたことがございますかね。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほど申し述べました中では、当然、上見坂はしょっちゅうですし、ある意味豆酘崎もそうです。豊にも何度も行っておりますし、もう砲台っていう感覚ではなかったですけども棹崎とかも行ったといえば行ったという形になろうかと思います。もう、それこそ３１カ所すべてを行ったわけでもありません。私も中原議員と同じで３１カ所という数字を聞いて、正直いって今回びっくりしたぐらいであります。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　はい。本当、これは平成１８年ごろですね、もと対馬支庁におられました方が２年間にかけて調べられて、大変なこう写真つきで非常に丁寧に書いてありましたし、たくさん調べていただいたなあと、本当対馬におってわからなかったっていうことで、本当にその方に感謝をしなければならないんじゃないかと思います。

まず、本当、豊砲台でありますけれども、本当にすばらしい砲台でありまして、昭和４年から昭和９年にかけまして約５年の歳月をかけてつくられて、世界最大規模と言われるような施設だそうでございます。昭和初期の時代にあのようなすばらしい施設ができていることに対しまして、私、先人たちの苦労を学びとることと、対馬要塞群は貴重な遺産であると思います。

まず、豊の砲台でありますが、１００円を入れれば中の明かりが３０分つきますと書いてありました。そこで１００円を投入してみましたところ、なかなかお金を入れるボックスが高くて、私が手を上げる状況で、この高さでお金を入れないとボックスがありません。ですから、女性にはなかなか届きにくいと思います。台が要るんじゃないかなあと思います。

そして、お金を入れようと２回ほど試みましたけれども、ボックス等お金の収納箱の外側にもう１カ所防水の箱みたいなものがあるもんですから、お金がなかなか入りにくいですね。落ちます。外に２回ほど落ちましたね。高いうえに入れにくいので、そしてまた二重にふたがなっておるもんですから、お金はなかなか入らずに外に落ちるような感じでした。あれは改善の余地があるんじゃないかなあと思います。高さとかお金を入れる状況ですね。

そして、やっぱ中に入ってみましたけど、明かりが暗くてですね、本当１人で入りましたところ、奥に行けば行くほど不気味でしたね。あの管理状況はあそこはどういった状況になっとるんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　管理状況につきましては、担当のセンター部長のほうにちょっと答弁をさせたいと思います。

○議長（作元　義文君）　上対馬地域活性化センター部長、川本治源君。

○上対馬地域活性化センター部長（川本　治源君）　お答えいたします。

定期的に確認といいますか、状況把握はしておるつもりでございますが、修理、今言われたような管理につきまして、もう少し管理していく必要があるのかなとこのように思っております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　なかなか答弁が歯切れが部長、悪いですけども、やっぱりきのうも松本議員が質問しておりましたけれども、質問を出しておるわけですから、やはりそういったところには現地に赴いていただいて、市長以下どなたでも結構です。担当部長にしても赴いていただいて、その質問内容等を把握していただきたいなあと思います。今後は気をつけていただきたいと思います。

豊の砲台に対しては市長に言うてもできんなら、上対馬の川本部長。奥に、左側の奥に何か水槽みたいのがありましたけれども、水がたまっていてフェンスが張ってありましたけれども、何かそこから飛び出てくるんじゃないかなあと薄気味悪い状況です。あれはくみ取られたほうがいいんじゃないかなあと私感じたわけですけれども。それとか手前に濾過池ですかねありましたけれども、もう水が満タンで、だからやっぱり観光客が見やすい状況にされたほうがいいんじゃないかなあと私感じましたけれども、よろしくお願いしたいと思います。その辺どうですか。市長、直接聞いていいですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私自身が豊の砲台には二、三度行ったことは――子供のときから言うたら何度も行ってるんですけども、今おっしゃられるような左側の場所、それから恐らく右側の濾過池ですかね。とかいうことは何となく漠然としか見えてこない部分があるもんですから、一度現地には行きたいと思いますので、御容赦のほどお願いします。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　そしたら、次に、緒方の姫神砲台にちょっと質問をいたしたいと思いますけれども、これは姫神砲台は、明治３３年から３５年にかけてつくられたと書いてありましたけれども、その先にまた折瀬ヶ鼻砲台が２カ所あるということでございます。

緒方の集落から上って１キロぐらい先にずっと道路が、市道が３，６００メーターですかありますけれども、１キロぐらい上ったところでかなり雨風ですか、道路が陥没しております。通れ

ない状況です。前ごろまでは自衛隊が演習にずっと使ってあって、緒方の方とずっと自衛隊演習で、緒方の方も定期的に出られて掃除も姫神砲台あたりはされてあったと聞きましたけれども、市道でございますのでやはり舗装でもするべきじゃないかなあと。それか車がいつでも通れる状況をするべきじゃないかなあと思いますけれども、これまた現地も見てなかったら返答ができないと思いますけど、市長どうですか、その辺。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私は正直言いまして、姫神砲台行ったこと全くありません。そういう中でどういう経緯で集落から姫神砲台までの３，６００メーターですかね。市道の設定をされてるのかがちょっとわかりませんが、今担当のほうへ聞きましたら、軽トラ１台ぐらいの幅員しかないんだと。今はですね。市道の幅員は。ということでございました。

陥没したところがあるということですので、そのあたり市道管理の立場できちんと補修はしていかなくてはいけないと思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　緒方の人に尋ねましたところ、そこ共有林が多いそうです。市有地は市有地ですよ。その道路はですね。はい。で幅員は軽トラどころやなくてですね、大型トラックでも何でも通れる状況であります。広いです。結構な道路です。ただ、１キロ先に陥没しておりますのでその先全く行けません。整備をお願いしたいと思います。できましたら舗装までしていただければ非常にいいんじゃないかなあと思います。そして市長の答弁にもありましたけれども、３１カ所もあります。そして案内板等が全くありません。できたら案内板を、どこの砲台にしましてもつけていただければと思います。

次に、上見坂公園にも行きましたけれども、砲座跡しかありませんけれども、歩道が見えないくらいに土砂が流出しておったところがあったんですね。奥の広場には大きな木が倒れて今、現在あります。その上見坂公園の管理状況はどのようになっておりますか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　昨日の松本議員のときにも答えさせてもらいましたが、嘱託員を１名雇用しておりまして、その方が何カ所もの観光地をずっとめぐって管理をお願いをしてるところでございます。その倒木のお話ですね。はいつの時点かわかりませんけども、観光地にふさわしいような管理ができるように指導もしていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　ぜひですね、今の状況では観光地としてふさわしくないように見受けられます。本当、私が申すのおかしいですけど、今の状況では来てもらうのに恥ずかしいんじゃないかなあと。トイレはきれいですよ。上見坂公園のトイレは。それは棹崎のトイレとは

また比べもんにならんくらい立派なもんです。

やはり木がかなり覆いかぶさってますよね。あの木は切れないものかなあと。公園ですね。もう本当、女性の１人や２人で歩くのは怖いんじゃないかなあと思うぐらい木が茂ってますよ。市長、１回、忙しいでしょうけど見ていただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今上見坂のお話ですが、あそこの所有者である財務局のほうになると思います。そちらの所有者との関連もあります。以前も観光地として見晴らしをよくするために伐採をしたいというお願いを以前もしたことあるんですけども、そのあたり大変難しい部分もあろうかと思います。ただし、園路の部分ですね。園路の部分が大変覆いかぶさって暗いとかいろんな状況というお話のようにありますので、そのあたり、また所有者のほうとも協議を進めていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　豊の砲台はまだ木がこうたくさん生い茂ってはおりませんけれども、上見坂のその砲座跡を見ましたときに、どこら辺を目標にその砲台を構えられたかというのが、木が生い茂っていて全くわかりません。極端な話、小茂田浜とか目標に置いてあったんじゃないかなあと。それを目的につくられたように思いますけれども、できますならばその砲台を見た場合に、そこに立った場合に、その目標の方向だけでもやっぱ木を切るべきじゃあないかなあと思うんですが、どうですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　切るべき、そういう見せ方っていいますかね、見せ方っていう――見せ込み方っていうのを含めて土地の所有者、木の所有者のほうに相談はしてみたいと思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　ぜひですね。あそこに子供のときに遠足に行った方、厳原の方に聞きましたけれども、ちっさいときはずっと浅茅湾も何も砲台跡から見えておったということを聞いておりますので、今かなりやっぱり木が伸び過ぎたんじゃないかなと思います。

観光面でありますので、砲台跡はそれぐらいにしまして、そして――それぐらいでできませんが、上見坂公園の兵舎跡を今、危険立入禁止という張り紙がされて、対馬市とそこまで書かれてロープが張りめぐらされております。本当に見た感じよくありませんけれども、どのように、屋根でも解体して壁をそのまま残すのかとかですよ、どのように考えておられるのか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　先ほどから申しますように、所有者である財務局等の考え方を聞かなくてはいけないと思いますし、以前文化庁のほうが近代戦争遺跡としての調査も入ったという話し

も聞いております。しかし、その後進展があってないようにもあります。

所有者の方々、それから市の文化財審議委員の方々等も含めて、この戦争の近代遺産というものをどのように残していくかということの論議をしてみたいと思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　はい。対馬市の看板ですからね、やはり早急にあれも対応していただきたいと思います。

それで今、対馬市のパンフレットがきれいなのができておりますけれども、この中に対しましても豊の砲台跡しか載ってないんですね。できますならば別番号でも打って、いろいろホテルとかタクシー会社とかガソリンスタンドとか書いてありますように、こういった書き方でも結構だろうと思います。３１カ所の砲台跡ですね、３１カ所の砲台跡は載せるべきじゃあないかなあと。そうすることによって、また、歴史家とか一般の観光客にもつながるんじゃないかなあと思いますが、どうでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今までの感覚で観光パンフレットをつくってきたと思います。今、中原議員のほうで新たに近代戦争遺産としてのこの砲台っていうものを観光に活用していったがいいんではないかという御提言でございますので、提言を受けまして、また関係部局とも詰めていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　観光面におきまして次に質問したいと思います。

教育長が不在でございますので、市長の見解だけで結構ですので、議長、通告にはありませんけれども遺跡に関してちょっと質問をしたいと思いますので、お許しをいただきたいと思います。

昨日、松本議員の質問にも市長、答弁によりまして、悔しい思いをしておるという答弁もあっておりましたけれども、遺跡に関しまして峰町三根の山辺遺跡御存じでしょうかね。そこが約１０年前に弥生中期の土器が出ましたという新聞等に発表がありました。そのときの発見はすばらしいもので、大々的に取り上げられましたけれども、民間の土地でありますのでそのままますぐ埋め戻しをされております。その後、全く発掘をされておりません。学芸員の話によりますと約４万平米ぐらいのところに対して七、八千平米ぐらいしかまだ採掘をしてないということでございます。それだけのこのインターネット等にもありますけれども、集落跡を発見できたのはこの山辺遺跡だけだそうです。対馬においてですね。それだけに今、壱岐の原の辻がこの１４日にオープンで、合わせまして３９億の予算で博物館ができております。その三根の山辺遺跡に限らず、どの遺跡に関しましても最後まで掘られてないのが現状ではないかなあと思います。予算等もありましょうけれども、やはりこの山辺遺跡は福岡大学の教授まで来て、すばらしいものだ

と絶賛をされて、今後の遺跡発掘に対して関心を見ていくと、調査を見守りたいとまで話しありましたけど、その遺跡に対して市長、市長の見解をちょっと伺いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私、実は高校時代に郷土社会部っていう部がありまして、そういうクラブに所属をしておりました。そして、高校時代からある場所の発掘調査のお手伝いにも駆り出されたこともございます。

そういう意味において、私自身もすごく興味のある部分でありまして、山辺遺跡が発掘された当時も、自分自身――埋め戻す前ですね、私も足を運んで、担当の方々から詳細な話も聞いたことも今思い出しました。

確かに、発掘調査が中途半端に終わってるじゃないかという御指摘ですが、どういう理由で山辺の発掘調査がとまったのか私はわかりません。

しかし、この遺跡っていうものはこの対馬において、実は弥生のみならず縄文も実際はあるはずなんですけども、対馬のこの平地の広がりが少ない中でどんどん複層してきてる実情がありまして、どの時代まで掘り下げていくかというふうな難しさも対馬の場合は抱えております。そういう意味におきまして、遺跡というものをどの時代に焦点を絞り込んで対馬を見せていくかということも大切な視点だというふうにも思っております。今現在、金田城、それから金石城周辺ですね、を国庫補助事業で一生懸命取り組んでおります。どうしても国の補助もそうですが、市の財政も苦しい部分がありまして、発掘調査が伸びない、そしてその整備が完了しないという状況も今あります。もっともっと私どもの財政が許すならばそのあたりを見せ込んでいけるのになあという、ある意味一支国博物館ではありませんけども、悔しい思いもしてるところです。

しかし、そういうものが対馬には存在してるということを決して忘れてはいけないという思いでおります。長い目できちんと見せ込むことができるように頑張っていかなくてはいけないというふうに感じております。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　ぜひ、今度教育長が選任されますならば、そういったところも力を合わせていただきたいと思います。

福岡大学の教授の話によりますと、やはり中国の史書魏志倭人伝に記された対馬国の中心集落であった可能性もあると言われております。ぜひ山辺遺跡、ほかの遺跡に関しましても、壱岐の原の辻に負けないぐらいの遺跡を発掘していただきたいと思う次第であります。

で、この遺跡も対馬において今のところ５６カ所発見されておりますね。この５６カ所が主に峰とか豊玉とか西海岸沿いの湾内に多く存在しておるのがよくわかります。今後の遺跡発掘に期待をいたしたいと思いますが、合併した今日、きのうも答弁されておりましたけれども、各町に

あります歴史資料館にあります。展示してあるその出土品をビジターセンター等に、きのうもいろいろと話をしてありましたけれども、そういった一堂に集めるときに来ておるんじゃないかなあと思います。それと言いますのは、峰町の歴史資料館を参考にさせていただくならば、いろいろと国内とか韓国から学者が訪問されるそうです。その際に、今公民館に２人おりますけれども、市役所職員に尋ねられますけれども、学者と対等にできる見識は持ってないということです。今学芸員は美津島の文化会館におられるんですかね。だから、対等にその学者と渡り合える専門的知識を持った方がそういった資料館におらないと、せっかく見に来られてもお互い気まずい思いをして、お互いが帰らなければならないと思うところです。市長、その辺どうですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　学芸員は、どうしてもそういう施設の案内人という役割ではございませんので、今抱えておりますさまざまな事業の専門的な分野でずっと掘り下げていってくれております。その意味におきまして、今あります各施設の案内等につきましては、専従職員はおりませんけども、そこに、峰でありましたら教育委員会が入っておりますけども、教育委員会職員がそのあたりの勉強もして、学者さんに対等に話すということは不可能だと思いますけども、その専門の部分については文化財課の学芸員のほうと時間をとって話し合っていただきたいと思います。文化財課の学芸員は、観光案内人はちょっと難しいというふうな考え方を私自身は持っております。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　一堂に対馬の出土品を集めることによりまして、やはり観光客にとりましてもいいことだし、歴史家にとりましても一堂で対馬の現状がわかりますので、やはりそういった方向でしていくのがいいんじゃないかなあと私は思うところです。そしてまた、学芸員はそれは遺跡発掘等に専門的にやっていただかなければならないかわかりませんけども、またそういった資料館に居合わしたとき等に説明ができるんじゃないかなあと思います。今の現状においてはちょっと、ただの、資料館を飾っておるだけであまり意味がなさないと思うところです。

次に、福岡で主に、長崎でも物産展を開いてありますが、ただただその商品を売るばかりだろうと思います。あとはインターネット等で商品の注文もあっておるかもわかりませんけれども、それよりも同じ物産展を開くならば、対馬の歴史に残っている蒙古の襲来のよろい・かぶととか、いろいろな仏像とか宗家の古文書とか、持ち出せる物は持ち出して、経費もかかりましょうけれども、歴史と文化を広くその国内の方にわかっていただくような宣伝をしながら、同時にその物産展を開いてみたらどうかと思うんですが、市長、どうですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　新しい御提案ですが、少なくとも文化財的なものにつきましては、今ちょうど新潟市の美術館でいろんな問題が起っております。国宝を動かす、企画展で預かり受けるという予定みたいでしたが、それを国宝の管理者でありますほうが拒絶をしてると。それは管理の問題が、その程度の管理ではだめだというふうなことで問題になっております。文化財を持ち出してどうのこうのしていくとかいうことは大変難しい問題があろうかと思います。すべての品物に関しましてレプリカ等があればいいんでしょうけども、なかなかそういうふうな状況でもありませんし、写真とかそういうものを張り出していくことは可能でしょうけども、実物を外に出して物産展といいますか、そういうものっていうのは難しいと思います。そういう点におきまして、逆に対馬学への招待っていうことで、福岡のほうで２カ月に１回今進めておりますが、そのあたりで皆さんにわかっていただけるようにある意味してるつもりでもあります。物産展とタイアップはしてませんけども、そういう取り組みはやっております。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　持ち出せない物を持っていきませんかとかいう意味じゃあなくて、そのようにいろいろと、ただ、こちらにある水産業とか農林業にある品を持って、ただ商品を売るだけよりも、そういった形をとられたら、今後対馬のＰＲになるんじゃないのかなあ、なるんじゃないですかという提案でございますのでぜひ考えていただきたいと思います。その中におきましても、対州そばとかろくべえとか、実体験ができるようなそういったのも一緒に入れていただければなおＰＲになるんじゃないかなあと思うわけです。どうですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私のとらえ方が間違ってたのかもしれませんが、私はてっきり文化財的なものをと思っておりましたが、今のお話聞きますと農業とかさまざまな物産に絡んでいくそういう体験っていいますか、文化の部分をお客様に実体験をさせたらどうかっていうお話で理解しました。

　そのあたり今後、今までは取り組んでない部分です。やれる状況があるならば取り組んでいけば、当然向こうの方も喜んでいただけるのかなあというふうには思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　そういったところを考えていただきたいと思います。

　それで、今、平成２０年度の観光客数ですけれども、五島市は約１２１万４，０００人、対馬においては７９万４，０００人、壱岐におきましては５８万９，０００人。これは本当の観光客ではありませんけれどもこういった数字になっておりますけれども、五島市と比べますと約４１万人ぐらいの差が出ておりますけれども、この差は市長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　行政の取り組み不足もあろうかと思いますが、それ以上に私は観光っていうのは民間事業者の問題もあろうかと思っております。物見遊山的な観光っていうのは終わっておりまして、マニアックな商品を今つくろうとしておりますし、そちらの方向で官民一体挙げて取り組んでいきたいと思っております。観光地とか景勝地とかいうものではもう観光客は私は呼べないというふうな考え方持っておりますので、先ほど申しましたような展開を推し進めていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　今大手旅行代理店に３０カ所余り訪問しておるということでございましたけれども、旅行客は対馬に１便の飛行機で来て、３時のフェリーで壱岐に渡ってとかいう、その宿泊するお客さんは少ないように見受けられますけれども、対馬に宿泊するようなお願いをその旅行会社にしてあるんでしょうかね。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私自身がエージェント回りをしたことはまだありません。細かいことでですね。しておりませんので、実際エージェント回りをやっている担当部長のほうにお答えさせます。

○議長（作元　義文君）　観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君）　失礼いたします。今中原議員さんの御指摘ありました部分ですけども、もちろん宿泊がなければいけませんので、宿泊を込んでセールスはしております。今主に日帰りで、対馬に入って壱岐に渡る部分につきましては、ある大手の業者が壱岐と対馬という部分で売っておりますので、対馬で昼食をとって壱岐に向かってるっていうエージェントが２社ぐらいございます。

以上です。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　２月にモニターツアーを開催しておられます。その状況をちょっと説明をしていただきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君）　失礼いたします。２月に実施いたしましたモニターツアーは、壱岐・対馬航路活性化協議会のもとで形成いたしました壱岐と対馬のこの観光を新たに古代史に知るというテーマでございまして、九州郵船さんのほうともタイアップをいたしまして、壱岐の原の辻に匹敵する分では、ちょうど価値的には城山の金田城が国指定の特別史跡でございますから、そういう部分をストーリー性のある部分で、これまで東京からの実績のある会社であるとか、これから大阪で展開していく上で興味のあるエージェントとかという部分を九州郵船の

営業と協議しまして、それで選択しまして、さらに九州でも希望されるエージェントがございましたので、そういう部分で対馬に１泊、壱岐に１泊ということで２泊３日で設定して行いましたが、人数的には１３社の１６名だったかと思っております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　２０番、中原康博君。

○議員（２０番　中原　康博君）　はい。そういった大手旅行代理店にどしどしアプローチをしていただきまして、対馬の売り込みをしていただきたいと思います。

時間になりましたけれども、以上で質問は終わりますけれども、最後に人、物の交流を拡大を促進をしていくことが対馬の活性化、また雇用の確保につながるものと思いますので、これからのますますの奮闘をお願いいたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　これで中原康博君の質問を終わります。

……

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。再開を１１時５分にします。

午前10時52分休憩

……

午前11時05分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　皆様、改めまして、おはようございます。一般質問の機会をいただきましたので通告の２点を質問をさせていただきます。

まず、その前に、２月２１日に行われました長崎県知事選挙において、中村法道新知事が誕生されました。中村知事は、平成１４年、１５年度に当時の対馬支庁に支庁長として勤務されており、どの候補者よりも対馬の事情は十分承知してくれているものと信じております。対馬のことは私どもが言うまでもなく、いろんな施策で優遇をしてもらえるのではないかと心から期待をいたしているところであります。

それでは、通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

今回は、市長と教育委員長にお願いをしておりますので、よろしくお願いをいたします。

まず、１点目のスポーツの県大会を対馬市に誘致、または開催することについてお尋ねをいたします。

観光立島を目指す本市は、もっと県内外に対馬をアピールして、よく知ってもらうためにも、小中学生から高齢者までの各種スポーツ大会の県大会を誘致、また開催するお考えはないのかお尋ねをいたします。

また、そのことによって観光客の誘致にも一役買えるのではないでしょうか。

２項目めが、市が借り上げている民間の駐車場についてお尋ねをいたします。

私は、昨年６月定例会の一般質問で取り上げた市役所本庁及びミドリ薬局の屋上駐車場、豊玉活性化センターでの借り上げている民間の駐車場についての再質問です。

市長は、答弁の中で、今後内部で検討していくとのことでありましたが、その結果を再度お尋ねいたします。

私が今回の質問は２項目ですけども、議長から一般質問の受け付けがあったときに、実はもう１点しておりました。通告をいたしておりましたが、それは職員の通勤手当でありましたので、今回条例の改正があり可決されましたので、そのことは事務局に受け付けの段階で取り下げをさせていただきました。

以上２点、よろしくお願いをいたします。

○議長（作元　義文君）　教育委員長、村井成枝君。

○教育委員長（村井　成枝君）　ただいまの御質問につきましてお答えいたします。

対象範囲の広い県大会、例えば中学校総合体育大会、子供を対象とした大会等につきましては、施設設備、交通機関、宿泊、役員不足等により開催不可能と考えられますが、その他の各競技種目ごとに競技団体が実施しております一般を対象とした県大会につきましては、競技種目によって実施可能な競技もあり、これまでにも平成１５年に軟式野球、ソフトボールの一般の大会を美津島、厳原会場で実施した経緯がございます。今後におきまして、各競技団体、関係機関と連携を図りながら実施に向けて働きかけをしてまいりたいと考えております。

ちなみに、体育協会の傘下団体ではありませんが、あるスポーツでは九州大会規模の大会開催の動きもあっているように聞いております。今後とも経費節減と合わせまして、検討してまいりたいと考えておりますので、御理解をお願いいたしまして答弁とさせていただきます。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　三山議員の質問に答えさせていただきます。

昨年の６月定例会における三山議員の御質問の市役所本庁及び豊玉地域活性化センターの民間借り上げ駐車場に関するその後の市の対応についてでございます。

御案内のように、本庁駐車場には公用車や職員車両、来客用駐車場のほか、社会福祉協議会や商工会などの関係車両が多く駐車しておりますので、限られた駐車スペースをより有効に活用するため日々適正な配置、運用に努めているところでございます。

しかしながら、現在におきましても、民間駐車場をお借りしなければ駐車場の確保が困難な状況でありますので、御理解いただきたいというふうに思います。

本庁の駐車場については、今後の職員の配置状況等を見ながらさらに検討を重ねていきたいと

思います。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　まず１点目のスポーツの県大会をということについて質問をさせていただきます。

教育委員長の先ほどの答弁では、誘致なり開催なりは気持ちはあるということであります。ただ、対馬の競技場という面で陸上大会などの大規模な大会は無理だというようなお話で、それは対馬の事情を私も十分知っているつもりですので、そのことはやむを得ないと思いますが、誘致するあるいは、もしくは開催をするお気持ちがあるのなら、例えば対馬島内から県に派遣される選手の例えば県レベルに達している個別の競技というのがあると思うんですね。いつも子供たちは、例えば県大会に長崎なり佐世保なり諫早なりに行って出場するわけですけども、やはり地元の利といいますかその辺がありませんので、各種団体、小中学生が父兄に伴われて行くわけですので、地元の利というようなことを得れるような競技をお考えいただきたいと思いますが、その辺はどうでしょうか。

○議長（作元　義文君）　教育委員長、村井成枝君。

○教育委員長（村井　成枝君）　ただいまの件に関しましては教育部長がお答えいたします。

○議長（作元　義文君）　教育部長、大石邦一君。

○教育部長（大石　邦一君）　三山議員の質問にお答えしたいと思います。

県レベルの個別の競技ということですけれども、まず平成１５年ですか、軟式野球とソフトボールが対馬で行われているんですけれども、この２つについては結構レベルも高くて、県大会でもまずいいところまで行っております。それで、これから先も競技によって受け入れてもいいよっていう大会も多々あるんですけれども、なかなか会場とか宿泊施設の問題がありまして、現実的にはできてない面もあります。特に軟式野球等については、いつでも受け入れますよっていうことは代表者の方は言ってあります。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　私も過去に対馬で県大会が、ソフトボールなり、あるいは軟式野球が行われたということは聞いております。

私が言いたいのは大人といいましょうか、一般の方の県大会よりはできれば小中学生ですね、児童・生徒を対象にするような、そういうような県大会を開けないかなあと。

例えばこれは１例ですけども、小中学生の剣道、中学生の駅伝、これは私が聞いた範囲、あるいは調べてた範囲では県下の水準に達していると言いましょうか、県大会でもいつもトップクラスの成績を上げているんだと。こういう子供たちを、例えば剣道であれば美津島の体育館なり、

あるいはシャインドームなり、どこでも開けるような気がするんですね。特に、今日韓交流が叫ばれている世の中ですので、剣道であれば韓国あたりからもあるいは対馬市あたりが要請すればそういうことは可能じゃなかろうか。そういうことは検討される予定はありませんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　教育部長、大石邦一君。

○教育部長（大石　邦一君）　今確かに剣道もそうなんですけれども、子供たちの大会をするとなるとどうしても日にちが限られてきますので、交通の便とか考えて、もし悪天候になったときにはどうするのかなというのが、どうも主催者側もそこら辺を考えるとどうしても誘致することができなくなってしまうというようなところもあるようです。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　天候のことを言われますと、なかなか離島はしけとか何とかのことがありますので、なかなか私も強くは言えないんですけども、ただこう県大会へいつも行っている常連の学校といいましょうか、そういうところの父兄は、ぜひそういう競技を対馬で開催をしてほしいという気持ちの方がほとんどといいましょうか結構いらっしゃるんですね。そういう人のことを考えてみますと、やはり何年にか１回ぐらいでも対馬で開催してほしいなあと。もちろん対馬でするにしてみても開催はするよと、ただし、人的な確保も十分必要でしょうし、公式の競技ですので、審判員なり何なり必要だと思いますが、やはりできることは私は何とか努力してほしいなあと思ってます。

先ほども言いましたように中学校の駅伝といいましょうか、こういうものも私は駅伝競技は一般の国道なり市道なり使っても十分開催できると思いますので、合わせて検討はしていただけないかなあと思ってますが、いかがでしょうか。

○議長（作元　義文君）　教育部長、大石邦一君。

○教育部長（大石　邦一君）　中学校の駅伝については今諫早総合運動公園内で行われているんですけれども、私もＰＴＡとかの役員しているときに佐護が連続ずっと出場してましたので応援に行かしてもらいました。

そこは周回コースで、皆さんがほとんど全体を見ながら応援できるっていうコースなんですよ。それで、対馬でもし開催するとなるとやっぱりできればそういうところがいいと思うし、もう一つ問題なのは中学生が地区とか市の代表で来る場合に、選手、スタッフだけじゃなくて応援の方もかなりいらっしゃると思うんですよ。そういう場合に果たして、会場だけじゃなく宿泊施設とか交通機関等で大丈夫なのかなっていうことを考えます。そういうことがクリアできれば開催はできるかと思いますが。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　ちょっと市長に今の大石部長の答弁を振ってみたいと思うんで

すが、例えば私は、そういうことによって観光客の誘致にもつながるんじゃないかというような関連を出しているんですが、宿泊施設とか交通機関のことを言われますと教育委員会では無理かなあと思うんですが、そういうことに市が積極的に支援をするようなお考えというのはありませんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　申しわけございません。そういうところに支援と言われると、宿泊施設とか交通機関の問題等への支援という意味でございますか。

○議員（１２番　三山　幸男君）　いや、そうじゃない。確保はできないかという。

○市長（財部　能成君）　その確保はできないかっていう場合いろんなアイデアがあるんでしょうけども、既存の宿泊施設とプラス公共施設でいろんな取り組みもできろうかと思います。それは。しかし、それでいいのかどうか、そういうことの受け入れ方でいいのかどうか。基本的には民間の方々が今企業誘致条例の中は、島内・島外を問わず一定規模の資本投下をされる。さらに、雇用人数を確保していただけるならば企業誘致条例の適用も当然あるわけでして、宿泊業についてもその範疇に入れておったはずですから、そのあたりを活用していただきながら、そのあたりの確保に努めていきたいという思いでおります。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　私は、今考えている、私が思っていることは、例えば一般人を対象とした県大会というのは当事者だけだと思うんですよ。で、それではなかなかこう観光客と言いましょうか、対馬に来ていただく方の数も限られていると。そのためには小中学生を対象としたそういうスポーツ大会をすれば父兄が同伴しますので、そういうことによって観光客の誘致に一役買えないかと。そのためには市がその大会の期間の宿泊施設は確保するよと、あるいは教育委員会なり体協が確保するよと。

例えば空港なり厳原の港からはそれ専用であれば貸し切りバスといいましょうかシャトルバスでも出すというようなお考えはないのかとこうお尋ねしたんです。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　その大会規模にもよろうかと思います。そして、こちらにお越しの人数にもよって、そのあたりの措置をするかしないかというのも決まってくるかなあというふうに思います。

しかし、それが観光客を呼び込むためのきっかけづくりにもなるんだというふうなお話、確かにそういう一面も持ってるかと思います。やはりその規模にもよろうかと思っております。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　そのあたり、開催をすることができれば市のほうも積極的に取

り組んでほしいと思っています。

もう１点といいましょうか、教育委員長ではどうかわかりませんので、市長、ちょっとよろしいでしょうか。

例えば陸上競技などするときに、対馬での１００メートル走なり、あるいはトラックを使って競争をする場合、対馬ではほとんど土のグラウンドですね。県大会に行きますと全天候型舗装というそうですが、ゴムのこう１００メートル走なりコートがあったり、あるいはトラックがあるということですが、現在対馬にはそのような１００メートル走ができる、あるいはトラック競技ができるようなそういうところがないわけですが、今後そういうものをどっかに入れようというお考えはありませんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　全天候型、何というか私も詳しい内容はわかりませんが、何はともあれそういう舗装はともかくとしまして、公認をもらわないことには正式な大会というものは開けないと思っております。これは以前の数値で申しわけないんですけども、公認をとるためにはいろんな整備を図って、毎年図っていかなければなりません。公認料も含め、以前、１０年ほど前の話ですけども、厳原の久田のほうに公認トラックをとろうということで動きがありましたけども、それを維持するために４，０００万円ほど要るというふうな予算要求を当時受けた記憶がございます。４，０００万をかけることと、それが間違いなくそれに見合うだけの大会というものが、そして宿泊のキャパがあるかとかいろんなことを考えたときに、４，０００万の投下を断念した記憶があります。そこの公認との兼ね合いというものも考えていかないといけんのかなあと思います。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　ちょっと私の質問の仕方が悪かったのかもわかりません。私が全天候型のトラックなり、あるいはそういう舗装をするような予定はないかということ、私が言いたかったのは、現在、対馬でそういう全天候型の舗装をしている学校は豊玉高校と上対馬高校の走り幅跳びあるいは走り高飛び用にあるそうです。でね、私が言いたいのは、例えば小学生の陸上大会あるいは中学生の陸上大会が県であるときに対馬では土の上でしか練習ができないんですよね。県大会に行けばもうそういうゴムのマットみたいなグラウンドで競技をされる。その辺のハンディーを考えたときにそういうことはできないのかと。公認がどうこうという市長の答弁は私にはちょっと、私の質問の仕方が悪かったと思ってますので、そういうことはないでしょうか。計画なり予定はないでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　申しわけございません。質問の趣旨を飲み込まずに回答してしまいまし

たが、確かに本土のほうで正式な大会でする何ていうんですか舗装面ですか、と通常の練習の状況が違うことのハンディーをどのように解消していくかというふうなことでしょうけども、すべての学校とか中学校なんかにそういうのを設置するというのは、私も金額等を全く頭に入っておりませんので何とも言えん部分がございますが、すべての学校に設置するというのは不可能かと思いますけども、どっかの競技場みたいなところに、そこに大会の、極端に言えば１カ月前とか、そういうところに行ってから慣れ親しむということは、子供たちも本大会を前にして大切なことかなというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　私がお聞きして、例えば全天候型のトラック、これ仮に４００メータートラックとして、１レーンの舗装が約９，０００万ぐらいかかるそうです。１レーン張るのに。で、あれ県大会なり何なりを開くとしたら８レーンか９レーン必要でしょうから、どの学校にもということじゃなくて、例えば対馬の会場、例えば峰の、峰あたりの競技場あたりに１カ所でもできないかなあと。

ちょっと聞いた話では、合併前に峰町ではそういうような動きがあったそうですが、合併を目前にして、それが計画が中止になったというようなお話も聞いてるんですが、金額のことを言えばなかなかできることじゃああありませんが、やはり日ごろの練習をするときにやはり違和感があると思うんですよ。専門的な指導をする先生にお尋ねしたときは、スパイクの針を変えればいいんだと。土のグラウンドとそのゴムのグラウンドでは針を変えるだけですとは言ってましたが、ただ、やはりそういうちょっとしたことで優秀な子供たちの記録が、ちょっとでも０.何秒でも違うようなことがありますので、今後整備をもし検討していただけるならどっかの運動公園なり何なりに１カ所つくってほしいなあという気持ちで質問をさせていただきました。

市長、よろしいでしょうか。一応そういう考えを持ってほしいということで終わらしていただきますが、市長の行政報告にもありましたが、補助事業を有効的に使ってテレビ・ラジオで対馬のことをＰＲしていくんだと。私も２月の１６日でしたがＫＢＣラジオを聞いてたときに、長崎県対馬市がお送りしますと。きのうの脇本議員の一般質問にもありましたけれども、３月の１０日にも同じような放送と言いましょうか、ＫＢＣラジオをたまたまつけたときに、長崎県対馬市がお送りしましたというようなことを聞きました。これは福岡のエリアを中心にテレビあるいはラジオの放送で対馬のＰＲをしてるんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ＫＢＣラジオにお願いをしてやっておりますので、ＫＢＣのラジオが届く範囲というのは結構な範囲届いてるんじゃないかというふうに思います。どっからどこまで厳密に届いてるかっていうのは私も承知しませんが、恐らく山口のほうまでも当然聞こえるだろう

し、佐賀も入っていると思います。熊本も入っているんじゃないかと思います。決して福岡都市圏だけの話しでは決してありません。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　私が疑問に思ったんじゃなくて、私は対馬を売り出すためには一つの方策だろうと思ってます。で、福岡エリアでいいと思うんです。ＫＢＣラジオの範囲と言いましょうか、例えばＫＢＣは福岡を中心とした放送局ですけども、対馬にもＫＢＣのラジオなり何なりがこう電波が流れているわけで、対馬市がそういうＰＲをしてる。あるいは同じＫＢＣラジオの中でも長崎県の小浜温泉でしたか、１５０メーターの足湯ができたということを同じようなことでお送りしますということが言ってましたのでそれでいい。それで十分効果を上げることができると市長、思ってらっしゃいますでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　すぐにそれで投資効果があるかと言われると、目に見えてあるかと言うと、私は正直言ってないと思ってます。

しかし、人間耳から入ってくるものから刷り込まれていく部分があります。２カ月にわたってもう何度も何度も対馬のＰＲソングっていいますかね、それを含めて流しております。対馬っていうものの認知度を上げるためには、十分にこの２カ月間は効果は上がるものというふうに期待もしております。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　すぐ波及効果が出るということではなく、長期的にやはり対馬を売っていって、１人でもまず対馬の地名を覚えていただいて、いいところであれば行ってみようというような、そういうことが聞いた人の心にともるような、そういうようなＰＲ活動を今後も積極的に進めていただきたいと思います。

もう１点、これに関連をして、例えば対馬市がアジアに発信する歴史海道都市をキャッチフレーズにしてるわけですから、福岡近辺だけでなくて、もうしてるでしょうけども、さらには韓国なり東アジアに向けてそういう情報の発信を今以上に強力に推し進める必要もあるのではなかろうかと思ってますが、今してることを教えていただきますでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　観光物産推進本部、それから協会等が韓国のほうに向かってエージェント回り、エージェントをみんな集めての対馬を売り込むこともやっておりますし、釜山市のほうで広報活動もやっております。対馬はもう御存じのように半島のほうとそれから九州本土のほうとのつながりなくしては生きていけないという考えを持っておりますので、これからも韓国のほうも含めて、釜山事務所を中心として物事を、対馬認知度をアップしていくための取り組みを続

けていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　まず対馬に観光客を呼び込む第１番は、私は航空運賃あるいは船舶運賃の低廉化だと思うんです。このあたり、この前西日本新聞を見ておりますと、韓国の航空会社が韓国福岡間を往復１万３，０００幾らぐらいの航空券で飛行機を飛ばすというようなことも出ていました。で、今例えば福岡から対馬に来ますと１万３，０００円ぐらいでしょうか、一般の人であれば。そういうやはり運賃ではなかなか対馬に行くよりは東京なり大阪なりに行こうかという気持ちになる人が結構いると思うんです。ただ、私がここで市長に質問してみても、この問題は市長のお考えだけではすぐどうこうなる品ではありませんし、もうここ何年来対馬市を挙げて航空会社なり九州郵船にそういうお願いをしてるんですけども、なかなかそれが実現しないと。

そういうことを今後は最優先して取り組んでいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　航空運賃のこと、この交通運輸の問題は対馬にとっては大変な問題でございます。私どもが利用するばかりではなくて観光客も利用する中で、この高値をどうして下げるかっていうのはこれから先も取り組んでいかなければいけないと思いますが、若干私は光は見えてるのかなと思っています。て言いますのは、空港の着陸料が空港整備特会のほうに流れ込んで、それからまた新たな空港をつくっていたということが今表に出ておりますけども、そこの空港特会の着陸料が減免とか、いろんな形にこれから先なっていくと思うんですね。日本全国に今１００近い空港が必要かという論議があっております。新たな空港ができないようになるならばそのあたりの着陸料の分がそちらに減免されていくんではないかなあというふうな自分自身予想も立てております。そうなるとそれが運賃にはね返ってくるものだというふうな思いもしております。ところがこれは日本中の着陸料が下がることでありまして、私どものこの対馬空港利用の航空運賃だけが下がることじゃあないですから、それによって利点が、対馬に行く利点というのが改めて出てくるわけではないですけども、幾らかでもそのあたりのはね返りを私自身は今期待しているところであります。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　今後とも航空運賃の低廉化には極力努力をしていただきたいと思います。

次に、市が借り上げている民間の駐車場についての質問に変えたいと思いますが、先ほど市長の答弁の中では、やはり現在のところはいたし方ないというような答弁でしたが、本当に考えたときもう対応の仕方はないんでしょうか。ちょっとお願いします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今職員に公共交通機関の運行が勤務に合ってない部分がありますので、どうしても自家用車を利用してもらいながら通勤をお願いを、ある意味する形になるわけですけども、ほんとで駐車場を借り上げをやめてしまう、ある意味ぐっと減らしてしまうとかいうことにする方法として何かないのかというお話ですけども、今、島内の公共交通機関というのが脆弱である。そして観光のことも含めてだめだと、うまく進まないと。ならば職員の、極端なこと言えば職員の通勤等に別建てで朝、それから夕方、深夜とかいろんな形でバスを出す。それに乗ってもらう、それに補助金を流し込む、そして通勤手当を自家用車からそちらに振りかえてもらうことによって駐車場を減らすとかいうことも考えられると思いますけども、それのまだ比較等もしてません。正直言いまして。しかし、相当の経費がかかるもんだと思っております。どちらを選択していくかというのも今後の研究かなあとは思います。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　ちょっと私が記憶している範囲で、今市役所が借り上げている民間の駐車場代金といいますか料金といいましょうか、ちょっと読み上げてみますので、もし間違いがあればちょっと教えてほしいと思うんですが。

市役所本庁の裏にある駐車場が年間１２０万、ミドリ薬局の屋上の駐車場が３６８万５，５００円、豊玉地域活性化センターの駐車場代金が１１９万７，０００円と記憶してるんですが、間違いありませんでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　三山議員が今おっしゃった金額に相違ありません。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　その金額合わせて６０８万２，５００円の金額を今市のほうが払っていると。これちょっと私頭よくないんですが、例えば年間１台当たりどのくらいかかっているのかなあと。例えば市役所裏に借りてる駐車場は２０台分ということでしたので月５，０００円で年間６万円、１台が６万円、ミドリ薬局の屋上にある駐車場は３９台ということで３６８万５，５００円を割りますと９万４，５００円、豊玉活性化センターの１１９万７，０００円は９２台ということですので１台当たり１万３，０１０円、これはちょっと少数が出ますけども大体１万３，０１０円です。

私よくよくちょっと調べてみまして、ミドリ薬局の屋上の駐車場を何で借りる必要があるんだとこう一人疑問に思ったときに、ある前の担当部長にお尋ねをしてみました。そのときその人は、交流センターを建設するときに、交流センターの収容人員と駐車場の車の台数で基準が足りなかったそうです。私の言ってることがちょっと理解できないかもわかりませんが、そのためにすぐ

隣接するミドリ薬局の屋上の駐車場を借りないと駐車台数がなかなか合わなかったらしいというようなお話で、当時は当然それでやむを得なかったのかなという気持ちはしてるんですが、市長、そのあたりは御存じでしたか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ミドリ薬品の上の駐車場が現在３９台借り上げをして、そのうち２５台を職員用として実際使っております。１台公用車分がありまして、残りの１３台を来客用として確保している状況です。

そういう意味で、これは借り上げを当然２５台、職員だけでも２５台はここで使っておりますので必要だという認識でおりますが、今おっしゃられる、前段でおっしゃられた交流センターの収容人員に対して駐車場の不足があったから、ミドリ薬品のほうの隣接地の駐車場確保が必要だったといういきさつですよと、知ってるかということですが。

私も直接の担当ではありませんでしたけども、下の交流センターの地下の駐車場はたしか１５０台ぐらいだったんじゃないかと思いますけども、それではあそこの入り込み客数といいますか、移動する人たちのことを計算したとき、あの地下だけでは足りないという話は聞いたことはございます。それがミドリ薬品の隣接地のほうに確保したとか、それはまた別としまして、あの２万平米の建物に対して、若干足りないという指摘を国や、県側からされたということは何となく聞いたことはございます。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　駐車場のことなんですが、例えば職員が朝出勤をしてきまして、夕方勤務が終わって帰るまで職員の自家用車を使うような、使っていくような公務というのは常識的に考えられるわけでしょうか。どうでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　基本的には自家用車を公務に使うということは勧めてはおりません。突発的なことで、どうしても公用車が足りないとかいうときに私用車を使っているケースはあろうかと思いますが、できれば公用車で対応していただければというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　本来それが本当だろうと思うんですね。勤務時間中に自家用車を使って仕事に出向くという、やむを得んときはあるでしょうし、公用車もすべて職員が使えるほど十分確保していることもないかもしれませんので、やむを得んときはあるかもわかりませんが、基本的には私用車で公務に出かけるということは考えられないんでしょう。

そうしたらですよ。例えば、私以前からそういうことを思って、例えば今職員用の駐車場として借り上げをしている２０台分、これはどうかしたら私、何とか入れそうな気はするんですが、

市役所の裏の駐車場あたりにですよ。

変なことを言うわけじゃなくて、例えばここに事例として第３駐車場があります。もちろん、通路が車が出入りできるようにはなってます。同じ例えば総務部であったり、農林水産部であったり、建設部である職員が１０人なら１０人いるとしたら、その人たちを同じところに入れるようなことはできないんでしょうかね。

そうすれば、例えば２０台ぐらいは、朝出勤して夕方勤務を終えて帰るまでは自家用車を動かすことがないという前提ならば、私は考え方によればできそうな気はするんですが、いかがでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　済みません。部ごとにゾーン分けをしてというお話のようにありますが、そのことによって駐車場が有効に使える、もしくは２０台の借り上げをしているところも必要なくなるんじゃないかと言われますが、ちょっと今その手法が私が、よくわかりませんでした。再度申しわけありません、教えてください。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　もう１点。例えば――もう時間がありませんので、例えば、今２０台を借り上げている裏の駐車場でミドリ薬品の屋上の駐車場が１３台あいてると言いましたか、私が議事録を見たときは１６台あいているというような答弁があったと思うんですが、まあ１３も１６も変わりないですが。そこに借り上げている裏の駐車場２０台分を、そこに移すというようなことはできませんか。

私の考えとして、例えば公民館あるいは図書館を利用する方々は、市民の方が図書館を利用する人たちというのは、ある程度私は生活が裕福な人が昼訪れるんじゃないか。小中学生とか高校生がたまに見かけますけども、そういう人が車に乗ってくるわけじゃありません。図書館を利用する人たちというのは、下の駐車場を利用してもらってもいいんじゃないかと私は思うんですが、その辺の考え方というのはどうでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　三山議員が交流センターができる段階での地下駐車場だけでは足りないという指摘の中で隣接地を求めたという経緯からいきますと、やはりいろんなイベント等とかが行われておりますし、ＴＩＡＲＡさんもいろんな営業活動されてて、あの下の駐車場というのも当然満車になることもございます。

せんだって３月７日のイベントのときも、私自身も満車で結構な時間待ってから駐車するぐらいでございました。やはりそういうとき、図書館利用者の方々も含めて隣接地の駐車場を利用できるように、ミドリ薬品の入り口といいますか駐車場入り口のところには、たしか図書館利用者

の方の駐車場ということで大きな張り紙といいますか看板も出しておりますけども、そちらを利用しないと地下駐車場だけで足りないということですので、そこを職員駐車場で全部埋め込んでしまうということになれば、センター利用者の駐車場確保がまた難しくなるんではないかなというふうにも思いますけど。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　最後に。交流センターでイベントがあるときは当然満車になると思うんですが、私も月に何回、５、６回は交流センターの駐車場に行ってますけども、満車の状況に遭遇したことはまず、普段はないんです。普段はですよ。

そういうことを考えてみますと、９０分は料金無料であそこを利用できるわけですから、９０分で足りない人は１００円ぐらいの駐車料を払っても図書館に行けば図書が自由に見れるわけですから、そのぐらいは支払っていただいても結構じゃないかと思うんです。

それと、答弁は結構ですので、３月９日の朝日新聞に載ってました。「九州の各県が職員駐車場有料化の動き」ということで、既に九州でも福岡、佐賀が検討中で、ほかの５県というのは料金を取っているそうです。

やはりこれからは、この理由としては自主財源不足が――ということで、やはりこれからはそういうことも検討していく、それが当然の時代になってくるんじゃなかろうかと思いますので、今後の駐車場を借り上げる。あるいは駐車場を確保するときには、そういうことも十分考慮していただいて駐車場の確保には考慮してほしいなと思って質問を終わります。

どうも、ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　これで、三山幸男君の質問を終わります。

……

○議長（作元　義文君）　昼食休憩とします。午後は１時から開会いたします。

午前11時57分休憩

……

午後０時58分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　失礼いたします。１０番議員の小宮教義でございます。私の持ち時間は５０分と非常に短うございますが、よろしくお願いいたします。

この２日前に、対馬は大変な大雪でございました。記録によると１９０１年に６センチの積雪の記録があるそうですよ。それからすると、約１０９年ぶりぐらいの大雪になるそうでございます。この３月に雪が降るということは、これだけの雪が降るということは異常だそうですね。異

常ということだそうですよ。

まあ、この私どもの対馬議会、先の１２月の定例議会でもございましたが、産業建設常任委員会で全会一致で否決をされた案件を、即原案の撤回ということに相成ったわけでございますが、これも一つ考えてみると、これも異常ではないかというふうな気がいたします。

さておき、来月からは、４月からは新しい年度が始まるわけでございますから、そのような異常がないように、市政のほうをお願いをしたいと思います。

先月の２月２１日に長崎県知事選がございました。これはもう実際に民主党と自民党の戦いでございました。昔のことわざに「江戸のかたきを長崎で討て」という言葉がございますが、まさに江戸――東京のかたきを長崎で一刀両断、ばっさりとやられたわけでございます。かたきを討たれたわけでございますが、この討たれたほうもだらしがない。

小選挙区が４つと参議院がございますが、６選挙区全部民主党の独占でございます。そして比例区から２人を入れますと、何とこの対馬は８人の国会議員がおったわけでございますが、まあ何というていたらくでございましょうか、もう言葉にならない。のうたれの極みでございますが。(笑声)

今回の新しく通られました中村候補――知事ですね、この方は選挙用のポスターが非常にいいじゃないですか。真ん中に船の櫓の絵がございまして、下に海があるんですね。その海のところに船が１そう浮いとるんですね。多分こぎ出せということなんでしょう。タイトルが「こぎ出せ！長崎」、こぎ出せ、長崎ということなんですよ。ぜひ新知事におかれましては、この長崎県民のためによりよい方向のほうに櫓が壊れんぐらいの力で、ぜひこいでいただきたいと思います。

そして、この知事がいわくには、私は不偏不党だと、要するに民主党でもないんだと、自民党でもない。国民・県民党だというふうな話をされておられました。そしてもう一つは、金子県政の検証と改革もうたっておられます。

先ほど「こぎ出せ！長崎」、これは非常に言葉が悪うございますが、この対馬の第１次産業は何といっても漁業でございます。漁業なくして、この対馬は語れないわけでございます。ぜひ新知事におかれましては、まかり間違っても「こぎ出せ！源福丸」、こぎ出せ、源福丸にならないように私は強く要望する次第でございます。

市長のほうはどうですかね、今度の新しい知事の方に何か要望でもあれば、何を望んでいかれるのかという考えあれば、ひとつお聞かせを願いたいと思います。

では、さきに通告しておりました４点について市政一般質問をさせていただきます。

まず、第１点は、離島における航路体系の確立ですね。

この対馬で航路――航路というのは海、船でございますね。これをどうして確立するか。まず安く、速く使えるということがございます。今は高速道路も１，０００円などと、これからは無

料の方針も出ているようでございますが、なぜこの対馬と本土を結ぶ国道、これが高いのか。今でもジェットフォイルは片道７，７００円。せめて２，０００円ぐらいにしなければ、この島の振興はあり得ない。

じゃあ、どうしてそのような体系がつくることができるか。よく考えると、今は九州郵船がございます。これは１社独占事業でございます。こういうところにお願いしても、まずもって無理でございます。ならばどうするか。ならば対馬市と一緒になって第三セクターをつくることでございます。

第三セクターをつくるということは、第三セクターで船をつくるということでございます。今話題の高速カーフェリー、これは４０億かかるそうでございます。じゃあ、それをつくるとすれば財源をどうするのか。まず、今国の地域活力基盤創造交付金がございます。これは県のほうに今予定としては２５０億積まれると思います。それと合併のときの合併特例債、この２つを生かすということでございます。

まず４０億の財源の内訳は、今先ほどの活力交付金は、五島においては既に３５億で船をつくるように着手をしております。対馬においても３０億程度の金額を見ておるわけでございますが、その３０億を第三セクターがもらうと。そうして、残る１０億を壱岐と対馬の合併特例債でやるということです。

御案内のとおり合併特例債というのは、７０％は約７割は国が処置をすることでございます。残り３割でございます。その中で現金として必要なのは各それぞれ持つとすれば約２，５００万円、この現金があれば船はつくれるようになるわけでございます。

そのような船をつくって、そして委託は公募制にすると。指定管理者制によって九州郵船であれ、九州商船であれ、公募をかけると。その中で指定管理者を選択すれば、さらに安定的な値段で運用ができるわけでございますが、そのようなお考えはないのか、第三セクターをつくってですね。それが第１点でございます。

第２点目は、対馬物産開発に関する建物の解体の件でございます。

これは場所は空港の下にございますが、面積が約６４平米、坪数にすると約１９坪ございます。構造がスレートですよ、１階建てですね。そして、もう既に２０年以上たってます。今の市の計画によると、それを解体するんだと。その費用が約３５０万かかるそうでございます。

そして、今争っておるようでございますが、その費用、弁護士の費用、これが大まか１２０万かかるそうでございます。トータルですると約４７０、約５００万のお金がかかるわけですよね。そういうお金をかけるよりも、無償でやればお金は要らないわけですから、ぜひ市民の感覚として無償ができないのかということでございます。それが２点目ですね。

第３点目でございますが、これについてはさきの私の一般質問で、１２月のときに回答をいた

だいております。それで壇上での答弁は要りませんから、後この席にて一問一答させていただきたいと思います。それは補佐官と副市長はもう要らんのじゃないかと。銭が無駄遣いだということの答弁はいただいておりますから、その一問一答は後でさせていただきます。

最後になりますが、４点目はあそうベイパーク、これの管理委託の件、これはこのような、いつぞや新聞に折り込みがあるんですが、見られたと思うんですけどね、ここに「対馬新報」と書いてあります。「あそうベイパーク、指定管理者契約を即時解約せよ」というふうに大まかになっておるわけでございますが、これが公正・公平に行われたのか。これについては答弁はイエスかノーかでお願いをしたいと思います。

以上です。４点。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１点目の高速フェリーを第三セクターでというお話でございました。

その前に新知事への何か要望があるのかということでございましたが、もっとも今これから先の対馬のことを考えますと、海洋保護区のこと、これは私は、先ほど小宮議員の質問の中にもありました水産業が基幹産業だとおっしゃられました、未来永劫そうだと思いますし、そのためにもこのことはしっかり取り組んで、一緒になって取り組んでいただければという思いが強うございます。ほか、何かもろもろございますが、その１点だけで、小宮議員の質問のほうに入らせていただきたいと思います。

第三セクターで高速フェリーをつくるということは考えられないかという話でございますが、昨日の大部議員の一般質問の中で、まず共有船方式という――鉄道運輸機構によるですね。これは難しいとの答弁を行いました。という中で、今度は第三セクターの設立による運航はという話でございますが。

まず、この新たな提案でございますので、壱岐のほうもそのあたり、壱岐との協議も重ねておりません。対馬市単独で仮に４０億というふうなことであった場合、大変な借金を抱えるなという思いがあります。なぜ借金を抱えるというかと言いますと、県が今制度設計の中で２５０億を予定をし、五島のほうが今年度から着手をしている。その３０億円を先に充当し、残りに起債をというお話でございました。

その県が制度設計をしております制度に、この話がのるかどうかというふうなことですが、離島の航路の運賃低廉化のことで全員協議会の中でも何度も話をさせていただいておりますが、この地域活力基盤創造交付金というものは離島航路に就航をしている船舶のリプレイスと、代替建造というもの、もしくはリフレッシュであります。リフレッシュというのは長寿命化に要する経費をこの交付金で支援していこうと。そして運賃を低廉化を図っていけないかということで、県は制度設計をしております。

そういう中で、博多行き対馬航路に就航しているフェリーのニューつしまの代替船の建造を予定をしております。このフェリーの代替船建造をやめて、そのお金を第三セクターで活用し、高速フェリーをつくってはどうかということですが、この事業はもっぱら県が組み立てをやっております。県のほうともそういう可能性について相談もしたところでありますが、基本的に県はリプレイス、リフレッシュに対する助成という考え方であるので、事業目的の趣旨を逸脱している提案であると。県としてはその提案は受け入れがたいというふうな回答が来ております。

そうなった場合、じゃあ市が４０億、仮に壱岐と対馬が話し合いが持たれて、ともにやってみようという話になった場合、合併特例債等を使っていかがかという話がありますが。まあ合併特例債についてはもう既に御存じだと思いますが、新市建設計画に基づく事業であるということがまず大前提になっております。新市建設の変更というものが必要でしょうし、そのことによって実質公債費比率等も当然上がってくると思います。

それと、この起債そのものの話でございますが、起債の根本的な考え方というのが、料金収入等により元利償還費の相当分を賄うことが適当と認められるものは、起債の対象としないという大原則もそこにはあります。そういう意味で、この起債が適債性があるのかどうかということも検討をしていかなくてはいけないんではないかというふうに思ってます。

それでもう一つ、この船舶の建造ということにつきましては、合併特例債の場合は当然総務省の審査というものがありますし、その前段として離島航路を所管しております国土交通省の海事局とのこの博多行き対馬航路における新船建造の可否の調整というものが一番重要であるとも考えております。

小宮議員も以前から、将来的な財政負担を生じさせないような取り組みというのが財政運営上重要であるということは常日ごろ言っていただいておるわけですが、さらに平成２６年度以降、普通交付税の減額、それは合併後１０年を経過した後ですね、ずっと落ちていくということは小宮議員も十分にそれについては御存じですが、そのあたりも念頭において、財政運営を行っていかなければいけないというふうな考えを持っております。

それと、２点目が物産、建物の問題でございました。この問題につきましては、昨年の１２月８日の議員全員協議会において皆さんに協議をし、裁判所への仮処分の申請ということを出しますということについて皆さんにお諮りをし、そして提出を今しているところであります。

第１回目の審尋が２月２６日に、第２回目の審尋が３月９日に開催され、最終が３月１８日に予定をされています。

議員全員協議会で説明させていただいたように、昨年の４月１日以降の土地使用貸借契約ができない状態では、公売に付すことは行政として無責任との判断のもとで、土地所有者に解体費を差し引いた価格で引き取っていただけないか協議をしましたが、無償でないと引き取らないとの

回答であったため、地方自治法の第２３７条第２項にあります「適正な対価なくして譲渡してはならない」の条項から土地所有者及び代理人に対しては解体する旨を伝え、特に依存はない旨を確認し、解体を決定したわけです。ぜひ御理解をお願いいたします。

あそうベイパークの指定管理委託について、公正に行われたかということについては一言で答えて、イエス、ノーで答えてくださいということですので、公平に行われたというふうに私は理解をしております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　第１点目のこの離島の航路体系の確立ですね。これは今説明があったように、かなり難しい問題がいっぱいあるんですよ。ただ、難しい問題だけを先にとらえていくと、物事がなかなか進まなくなるんですよね。言われるように活力の交付金の使い方もいろいろございますけども、それと新市の計画の問題もございます。でも、新市の問題については、私が確認しておるところによると新市の計画で十分対応できると思います。

それと、今後壱岐と協議を重ねていきたいというお話がございましたよね。――ですね。この分については壱岐との協議も必要だと。はい。壱岐と対馬で、壱岐対馬航路活性化協議会なるものがございますよね。たしか１０名の人がおられます。当然壱岐対馬入って、そして国関係もオブザーバーで入っておるんですが。このような活性化協議会があるわけですから、これでぜひ論議をしていただきたいと思います。このメンバーでですね。

ただ、このメンバーの中に九州郵船が入ってますから、これは業者ですから、この業者を省いた、業者がおるということは自分の会社の利益のために発言するわけですから、この九州郵船を省いたところで壱岐対馬航路活性化協議会をしていただいて、その中での議題として取り上げていただきたいと思いますが、どうでございますか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　確かに九州郵船の社長も委員の一人であります。今壱岐対馬の航路対策協議会という形で話し合いを何度も何度も進めておりますが、これは九州郵船の社長が入っておられようがおられまいが、すごい論議がありよります。何も九州郵船さんが入っているからといって、その発言が弱まっているわけではなくて、逆に厳しい話し合いをされていると。私は常にそのときの会議の議長という立場でございますが、白熱した議論がいつもされております。だから、おられても別段問題ない私は議題だと思います。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　入っとっても支障ないということであれば、その活性化協議会の中でぜひ論議をして、新しい筋道をつけていただければと思いますが、よろしくお願いいたし

ます。

それと、先ほどの対馬物産開発の問題ですが、確かに１２月の８日ですか全協しましたよね、この席なんですけどね。その中で私どもも、この資料をいただいております。どうしてそうしたかというのは、先ほど市長が説明したとおりでございますが、そのときに私申し上げたと思うんですが。

先にこの協議会というのはお互いの意見を聞くという立場での協議会であって、決定機関ではございませんからね。お互いの意見を聞くというのがこの協議会なもんですから、決定ではございませんよ。その中で私も２００万を向こうが払わんならば、もう撤回しようという話でございました。

その中で２００万の価値とは何なのかとお話したときに、機械も入っておるような話をしておりましたから、中の機械がですね。ああ、そんならば２００万ぐらいしてもいいんじゃないかということで私は、この自分の席からは話をしたかと思いますが。後で調べてみると、この機械は入ってないということで、建物だけということでございましたから、それにしてはちょっとおかしいんじゃないかということを後で気づいたから今しておるんですが。いいですか。

約５００万も使うわけですから、ね。５００万も使うんですよ、税金を。５００万というと、普通の人の１０年、２０年分の税金ですよ。５００万使うわけですから。でも、これは先ほど言われた地方自治法の２３７条の２項ですか、それによってやるということであれば、逆に７６条ですかね、譲渡を無償でやればやることもできるわけですから、それを今の上対馬荘もそうですよね、無償でやるわけですから、これを無償でやれば、市が５００万出さんでもいいじゃないですか。税金なんですよ、これは。５００万。どうですか、その辺は。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今まで、るる説明をしてきて、この今の現段階に至っているというふうに私は思っておりまして、機械が入ってないじゃないかというお話ですが、冷凍設備はあそこの中には当然入っているはずでございますが、それを機械と表現するのか、建物の設備と考えるのか、そこはまた見解の相違があろうかと思いますが、冷凍設備はきちんとあそこには一体的に残ってる――でありますが。

それと、今までの経緯というのも今まで説明もしてきました。私どもも真摯に交渉も重ねてきたつもりですし、そういう中で昨年の９月でしたかね、立ち入りを認めないという旨の向こうからの行動があったという中で、土地の問題もうちも解決したい、継続して借りたいという話もし、その代理人の方とも真摯にやってきた結果、そういう暴挙に出られたということの経過も十分に踏まえた上で、議員全員協議会で皆様の同意をいただいたつもりでございます。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　確かに全協では、そういう話になったかもしれませんが。問題はですよ、訴訟を起こさんでも取り下げれば、ここの報告にあるように無償だったら引き取りますということなんですから、ね。５００万を使わんでもいいじゃないですか。無償でやればお金は要らないんですよ。無償でせんかったら５００万要るわけでしょ。無償でやればいいじゃないですか。これは一般的にそう思いますよ。あえてけんかする必要はないですよ。何かあるか私はわからんけども。

市民の立場から言うと、無償でやれば５００万要らんわけでしょ。５００万要りませんよね、無償でやれば。どうなんですか、その辺は。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　無償であれば、確かにそういうことが。しかし、今までの交渉経過等を考えたときに、公共の施設というものをそのような、ただ金の力だけで判断するのもいかがかなという感じを思いますね。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　私も建物見てきましたよ。シャッターの下が腐ってますよね。そして、といもかなり落ちてますよ。屋根なんかはもう２０年もたってるんですからね、もうカビが生えて人が乗れない状態ですよ。そういう建物なんですよ。極端に言うと価値はないんですよ。

ここでね、適正な価格というふうにうたっておるが、適正な価格２００万というのはどういう根拠なんですか。私が見ても、あれは０円に等しいですけどね。適正な価格はだれがどう評価し、どう決定したのか。だれなんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　その価格につきましては、担当部長のほうから答弁をさせます。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　答弁しても、せんでも、だから、わかってることですから言わないが、ただ、これについては弁護士のほうにも相談してますよね。弁護士、ここに私ももらった資料がございますが、弁護士はこう言ってるんですよ。これは森弁護士ですかね。ここに「顧問弁護士に見解を求めた結果」ということで、３つぐらいあります。③に、

市にとって、もっとも負担が少なくかつ早期の解決策は、土地所有者に無償譲渡し譲渡の日までの借地料相当額を免除してもらうのが一番いい。

と弁護士はこう言うとるんですよ。弁護士が、顧問弁護士が。専門家がそう言っとるんですよ。何で戦うんですか、こういうことで。どうなんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今３つ目のというお話でしたね、顧問弁護士からの。３つの選択肢の中の１つが、それがあるということでしょ。

○議員（１０番　小宮　教義君）　そうです、そうです。

○市長（財部　能成君）　そうでしょ。その中で３つの中から私どもは、今までの相手方の不誠実な対応に対して、私どもは毅然とした態度で臨まなければいけないというような判断をした次第です。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　３つの選択じゃなくて、弁護士にはこういうふうになってますよ。土地はね、妨害されたりしては得策ではないと。それで弁護費用は約４０から１２０かかるんだと。その３点目に、そういうふうで上げておるんですよ。

それはね、感情的なものはあるかもしれないが、相手側は無償ならば受けとると言いよるわけですから、無償でやれば５００万要らないじゃないですか。そこは市民のことを思えば、おのれの感情的なものは捨てて、譲渡すればいいじゃないですか、５００万ですよ。譲渡する考えはあるのか、ないのか、もう一回お尋ねします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今になってですよ、そういうふうな話を蒸し返されること自体が私には理解できない。今まで何のために皆さんに諮ってきて、仮処分の方向でということもここでお諮りし、そして皆様の方向性を出していただき、その方向で動いている、にもかかわらず今になってそれを言われても、じゃあ私どもは、議員全員協議会は……

○議員（１０番　小宮　教義君）　わかりました。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　ほうほうほう、じゃあ過去の経緯があるということですよね。いいですか。おととしですよ、２０年の１２月議会において、この施設の加工施設の管理運営の条例が――つくりましたよね。２０年にね。いいですか。

そうしてね、これは今までの経過ですよ、言われた経過書いてあります。いいですか。２０年の９月３０日、これは上迫氏に打診しているんですよ。市が使わせてくれないかと。ね。今後は対馬市で直接使用したいという市の申し入れを入れたところ、土地の両サイドに分けて別々の借地があると。他に賃借の希望があるのでできないよと断ってるんですよ、９月３０日に。条例をつくる前に。そうして、１２月には条例つくっているんですよ。このときに十分把握できたんじゃないですか。「できない」と書いてあるんだから。おかしいでしょ。

条例をつくるということは、そういう説明なしにつくっておるんだから、議会軽視も甚だしいですよ。９月３０日、ここに資料ありますよ。裁判資料ですよ、これは。どうなんです、その辺

は。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１２月、一昨年の１２月に、この施設条例を確かに出しました。私ども恐らく、これ平成元年の施設だったと思いますけども、公共施設として条例を持たないのが、まずもっておかしいんではないかということで、２０年たってるけども、さかのぼってといいますか施設条例を整備をしたいということで、施設条例を、提案をそのときはさせていただいた次第です。ほたってていいという問題でもないと思います。（発言する者あり）

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　だから９月３０日にね――いずれにしても譲渡はしないということでいいんですよね。もったいないと思いますよ、５００万円、捨てるようなものですよ、裁判まで起こして。大変なお金ですよ、５００万は。はい。だから市長は今まで公務員しよったからね、税金のこと、あんまりわからんかもしれんけども、個人的には大変な金額ですよ５００万というのは、それを捨てるようなものじゃないですか。もう、それを捨てるというのでは仕方ないですけどね。

じゃあ次に行きますけど、このあそうベイパークの件についてお尋ねしますけどね。もう公平に行われたんでしょ。これは指定管理者の選定がございました。まず私の資料によると、平成２０年の１１月７日に1回、１４日に2回目、１９日に3回目していますね。そして１１月２０日に結論を出しております。

そこでまず確認をしたいんですけどね。選定委員会の会議録、ここにございますが。１４日の選定について、事務局と委員長、大浦副市長ですよね、委員長は。間違いないですね。このように言ってるんですよ、いいですか。「事務局ははっきり誤り等によるものは受け付けますが、単純につくり直すのは受け付けがたい」、そして続けて副市長はこう言ってるんですよ、委員長。「訂正されているのは、消費税を入れた、入れさせたとか会費を取っているとか、黒字の収支報告書など」などいうふうな発言をしておりますが、その発言は間違いないですかね。――いや、もう手を挙げんでいい。間違いないですよね。わかりました。

じゃあ、この１４日にこういうふうなことも言ってますよ、いいですか。――いいですか。これ委員長ですよね、副市長ですわ。「収支計画の委託から黒字部分を差し引くことになると。会費等は条例にないものであると。会費黒字は削除して委託料を減額しなければならない」というふうな指示を出しているんですよ。ですね。

そうすると、会費とその利益の分、これは７９万しかならないんですよ。しかし、この出された契約書は１４７万の減になっとるやないですか。指示したものと全く違う内容で入ってきているんですよ。それで間違いありませんよね、内容は。１４７万の減はどうなんですか。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　計画書の再提出については、確かに当初の申請と再提出の金額については、それぐらいの差があったと思っています。

今、小宮議員が言われた当然指定管理料というのは、こういう収支になりますから、これだけの委託料をもらわないと運営ができませんよということなんです。ですから、先ほど言った最初から黒字が出るような収支計画ではだめですよと、それから条例ではないものはだめですよということで言ったんです。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　そうですよね。会費と利益があると１９万円、それと７９万円ですよね。本来ならば、それだけを削除すべきなんですよね。それを１４７万も減らしておると。わかっとって減らしたということを認めたわけですよね。いいですか。

それとね、この新しく出された中には、飼育委託料として１３７万円も増えているんですよ。さっき最初に申した事務局と委員長の指示、簡単なものはいいけどもほかのは認めないよというのと、この飼育委託費の１３７万円増を認めたわけでしょ。入っとるんだから実際。便宜を図ったんじゃないですか、これは。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　この再提出については、確かに今言われたようなことで再提出してもらったんですけども、これは我々の選定委員が総意で、このことについては再提出してください、そうして再提出をされたものについては皆さんで「これでよろしいですね」ということにしたんです。

予算というのは歳入がどっか違えば、当然歳出全体を見直して予算をつくりかえるというのが当然じゃないでしょうか。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　このＧという会社なんですがね、今指定を受けているところは。ここは運営方針が計画書に載ってますよね、ずっと、ずらりと。どういう形でやっていくのかということをずっと載っとる。その中でこの会議録にもありますが、会費とボランティアで主にやるということを言っておるんですよ。それがメインだということで説明してますよ。その会費を条例違反だからだめだということを切り外せば、計画そのものは白紙なんですよ。それを認めたということは、この業者に対して便宜を図ったと一緒じゃないんですか。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　どうしてそういうとらえ方になるんでしょうかね。先ほどから何回も言ってますけども、条例とか収支計画に間違いがあって、そのことについてはだめですよといっ

てやったんですから、それが不正に、あたかも何かこちらからグリーンアイランドだけに指示をして、収支計画の訂正をさせたごとく言われるみたいですけど、そうじゃなくて、皆さんで審議をした結果、これとこれについては再提出をしてもらいましょうということでやったんですから、全然不正な行為はあってないと思ってます。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　このときは４業者おられますけどね。ほかの業者についても訂正する事項はそれだけだという指摘をしておるんですよ、ほかの業者にも。ここは指摘をしながら、そして新しくまた１７０を追加させたわけですから、ね。そしてそこに決定をしたわけだから。

そして言われた会費は事業計画書の運営の主ですよ。それも削除したということは、計画そのものが成り立たないんですよ。そういう段階で決定をしたということは、だれが見ても、だれが聞いても、これは業者に利便を図ったということしか理解できないと思いますよ。最後に。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　指定管理制度自体は、小宮議員はよく御理解してあると思っているんです。当然委託料の額は選定の重要な部分にあると思っています。しかしながら、指定管理制度自体が、より安く、より有効な使い方をするために民間の力を借りながら指定管理を委託をしましょうということなんです。

確かに４つの業者が申し込みされました。そこの中で今まで市が１００％出資しておりました振興公社が、こちらが期待することをしませんと、そこについては管理をしませんと言ったこともあるんですよ。だから、総合的に判断をして、今の指定管理者が適当だということで、全会一致でこのことについては選定をいたしました。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　まあ言い方いろいろあるんでしょうけどね、飼育費などを１７０万という金額を入れたりしとる。それによって、そしてまた会費も削除したけども全体のトータル的なものが下がった、金額が。金額もその審査の対象になるんですからね。そういった意味ではだれが見てもね、これは便宜を図ったとしか思えませんよ。また後で、これについては大浦議員が話をするそうですから、いいですが。

それとですね、この前言ってました補佐官の問題、補佐官の問題については、市長のこの前の答弁は、補佐官の採用については卓越した行政経験があるからということを言われたが。ということは、元公務員ということで理解してもよろしいんですか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　行政経験だけをとれば、元公務員というのは当然だろうと思います。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　ちょっと時間なくなりましたけどね、この法律というのは、当然地方がつくる前に国もつくるんですよ。国の審議の中でこういう条例ができてくるんですよ。いいですか。

国の――ここに平成１４年の総務委員会の資料がございます。ここでこの目的も政府側はこと細かく説明しておるんですよ。その中にこういうふうなことがなってるんですよ。いいですか。

これは片山総務大臣ですかね、何とかの罷免に対峙された人ですけども、こういうふうに大臣は答弁しているんですよ。いいですか。

この任期付の主たるねらいは、地方行政の専門化、高度化、複雑化に対応するための人材。能力ある人に入ってもらい、来てもらい、即戦力になると。それとやはり民間的な処理の仕方、発想、考え方、地方団体の職員に影響を与える、感化する、こういう意味で職場全体が活性化、地方団体がものごとの処理に活性化するんだと、そのためにこの法律をつくった。

と言っているんですよ。民間人のために、民間から入れるために。ですよ。

ということは、今の施行している段階においては、基本的には国の法律から外れているんじゃないですか。どうですか、その辺は。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　民間的発想で行政運営を図っていかなければいけないというのが、その指針の方向性だろうというふうに思っております。民間人だけを想定はされているというふうには私は理解はしませんけども、そして組織の活性化ということがもっとも大きな題目なのではないかと私は思います。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　あのね、これはね、この条例による高度な知識とか高い見識を持つ人間しか採用したらいかんということは、だれが見ても民間なんですよ。いや、そういうふうに国の説明もそうなっとるじゃないですか。それはあなたはね、それは国よりもえらいかもしれんけども、ね。こういう法律をつくった時にそういう趣旨でやっとるんですよ。だれが見てもね、今の補佐官制度は異常だ。早く撤回する考えはないんですか。法律違反ですよ、これは。もう一回。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　違法行為をしてるならば、何らかの処分は出てくるもんだというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　ぜひ国のほうにも照会をして、対応を決めていただきたいと思

います。

それと、この副市長の問題、今２人ですけども、私がずっと調べてみると、この離島――五島も、壱岐もそうですが、１人なんですよ。ね。そして対馬市は財政が厳しいという、それでも２人だ。ほかは１人、１人なんですよ。

そして実質公債費比率は１３．５ですよ、壱岐はね。五島は１５ぐらいだけども、対馬市は１７じゃないですか。非常に財政は圧迫しとる。そして壱岐も五島も１人で頑張っておるんですよ。なぜかと言うと、コメント等を見ると財政が厳しいんだと。１人でやらねばならんということを明言しとるわけですが。１人でもいいんじゃないですか、２人も雁首そろえんでも。１人で。どうなんですか、その辺は。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　雁首というのもちょっといかがかと思いますが、この広域な対馬を抱えて行政運営をやっているということと、ほかの離島の市と同じようにはいかない部分もあろうかというような御理解をいただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　ほかの離島はそれで頑張っておるんですよ。少しは自分たちも汗をかかんと。ほかはそれで頑張っておるんですよ。財政も厳しいんでしょ。ならば、余分なところは削除していって、市民にその姿勢を見せんといかんじゃないですか。

ちなみに、副市長が４年間勤務すると退職金があるんですよ。退職金、私なり計算してみたら、８８１万２，８００円もあるんですよ、４年間でやめれば。そういうむだなお金は要らない。１人で十分なんですよ。壱岐も五島もそれで頑張っておるんだから。少しはね、痛みを分かち合わんと。どうですか、市長。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　いろんな御意見もあろうかと思います。今の形で私は進んでいきたいというふうに思っております。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　最後やね。０００になりましたけど、ちょっといいかな。財政が厳しいということであれば、やはりそれなりにね、自分たちが襟を正すこともまた財政の務めなんですよ。財政厳しいんですから。

それはね、公務員はじっとしておけば銭もらえるかもしれんけども、民間の方は大変なんですから、その辺に目を向けて。ぜひ市長、副市長は２人も要らないから１人に、そして条例に反するような政策補佐官は排除していただくように、強く強く要望して終わります。

以上。

○議長（作元　義文君）　以上で、小宮教義君の質問は終わります。

……

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。２時から開会します。

午後１時51分休憩

……

午後２時00分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　こんにちは。公明の黒田昭雄でございます。

質問に入る前に、おとといの大雪、何かできないかなと思い、歩いて地元の美津島地域活性化センターに寄ってみました。建設業者の方々が朝早くから道路の復旧に汗を流しており、職員の方も、建設業者の迅速な対応に感謝されておりました。「地元に優先して仕事を！」先輩議員が入札制度の改革を、再三再四訴えていますが、私も同感いたしました。

それから、去年の６月、私にとりまして初めての一般質問で、特別支援学校高等部・分教室の設置をお願いしました。うれしくも、来月２２年度から対馬高校において、実践的研究校として集団学習ができるようになりました。

財部市長、河合前教育長始め執行部の皆さまに、政策の実現に向けて感謝いたします。生徒・先生・保護者・地域・行政が一体となって、教育成果が最高に発揮できるよう、見守っていきたいと思っております。

前教育長におかれましては、いつも優しく活力に満ちて御活躍されておりましたが、これからは奥様とともに健康で希望に満ちた第３の人生を送られますよう、心から祈念いたします。

それでは通告に従いまして、順次質問をいたします。

だれもが一生のうちで避けて通ることのできない介護。介護保険制度の施行から１０年を迎え、介護現場では深刻な問題が山積しております。核家族化が進み、老老介護や一人で暮らす高齢者の介護を社会がどう支えるのか、課題は目白押しです。

公明党は昨年１１月から、超高齢社会に突入し、介護の充実こそ最重要課題と位置づけ、私も含め全国３，０００人の議員が一丸となって介護総点検を実施しました。その際、施設長、ケアマネの方々には、お忙しい中、時間を割いて御意見や御指導をいただきました。この場をお借りいたしまして、調査に御協力いただいた要介護者とその家族、介護事業者や従事者、市の担当者の皆様に、心より感謝申し上げます。

その調査をもとに、公明党・山口代表を通して「新・介護公明ビジョン」を総理に提言させていただきました。報道もされておりますが、鳩山総理から「大いに政府として参考にする。具体

的な内容については早速、厚労省に検討を促したい」という発言がありました。

私自身、この調査で、２００件以上の現場の生の声を聞いてまいりました。法律上、本市だけではできないことが多かろうと思います。しかしあえて、本市は何をすべきなのか、何からしなければならないかを、市民の皆様や、議員の先輩方、理事者の方々と課題を共有し、その課題解消のため、介護保険の保険者である市長に質問をさせていただきます。

初めに、高齢者福祉計画及び第４期介護保険事業計画について。

１番目に、特別養護老人ホーム・老人保健施設など、介護施設の待機者の実数把握はきちんとなされているか。

また、その待機者解消策に向けて、実効性のある実施計画が策定されているのか、お伺いします。

２番目に、在宅介護の支援強化を急ぐべきであり、「通い」、「訪問」、「宿泊」といったすべてのサービスを提供する地域密着型の小規模多機能型居宅介護を今後、高齢者介護政策の中心に据えなければならなくなってくると思います。

本市として、今後の整備の進め方をどのように考えているのか、お尋ねします。

３番目に、調査で、要介護認定者やその家族に介護保険に対する不安や不満を聞くと、介護保険制度がわかりにくいが格段に多く、次に介護認定の方法・基準に不安があるが続きました。

また、介護事業者に、介護保険制度の見直しを聞くと、要介護認定のあり方の見直しを望む声が格段に多くありました。みんなで支える介護保険としてスタートしました。被保険者や事業者、本市などそれぞれの立場で、制度を支える努力を怠らないことが必要となります。

老老介護などの家庭にあっては、制度自体を理解することは容易ではないと思います。行政として市民の皆様に要介護認定を含めた介護保険制度を理解してもらう努力が必要と感じますが、いかがでしょうか。

４番目に、従事者の意見で、介護職は低賃金・重労働、職業病として腰痛を患っている人が多いと聞きました。入浴や食事のときなど行動障害の利用者が多く、見守りが大変。特に夜勤の２人勤務が一番大変で、身体的拘束廃止によって痴呆の方が転倒しないよう常に目を配る必要があります。

調査の中で、多くの従事者に「現揚をわかってほしい」、「処遇改善は現場の声を聞いてからにしてほしい」という意見がありました。経営者が望んでいるかどうかはわかりませんが、短期でもいいので実態調査のために市職員を介護事業者へ出向を検討できないか、お尋ねします。

５番目に、将来を見据えた財政運営の立場から「税の減収」と「社会保障費の増大」を乗り越えて、市民を守らなければならない現実があります。その財政面での答えは、予防と健康づくりであると思います。健康で活力ある高齢社会を行政が積極的につくることを、どのように評価さ

れ、位置づけられているか。また、それ以外に解決する糸口はあるのか、お伺いします。

次に、高齢者標準社会について。

国立社会保障・人口問題研究所の最近の推計で、４０年後には６５歳以上の高齢者の割合は全体の４１％になると見込まれております。対馬市は想像もできません。若者や中年層を標準に考えてきた社会の仕組みを見直し、高齢者標準の構造へシフトすることが、これからの行政には求められます。

また、高齢者標準は単に行政にとどまらず、高齢者が快適と感じる新しい商品やサービスにより、需要と供給の両面から経済成長を促すことになります。なにしろ高齢者は１，５００兆円と言われる個人金融資産の６割を握っております。先進地高齢化という課題をどう乗り越え、離島対馬の発展をどう導くのか。現時点での総合的戦略的なお考えをお伺いします。

最後にがん対策の強化について。

乳がんと闘い２４歳で生涯を閉じた長島千恵さんをモデルにした「余命１カ月の花嫁」が先日、対馬でも上映されました。女性特有のがんであってか、このがんの怖さの割に、このがんに対する情報量が極端に少ないことが映画を通してわかりました。この女性特有のがんは、早期発見により完治する可能性が高く、受診率の向上が不可欠となっております。

そこで、公明党は受診率向上に向けた取り組みを推進し、乳がん・子宮頸がん検診の無料クーポン配布を実現させました。本市でも、昨年１０月から、対象者に配布、検診もスタートし、大変に喜ばれております。

財源が厳しい中、本市がこの女性の命を守る予算づけを来年度まで継続させたことに大変に評価をしております。ただ残念なことに、受診率が低すぎます。本年度は残りわずかですが、来年度を目指し、制度が浸透するためにどのような取り組みをされているのか、お伺いします。

今回の質問を通して、法と法の狭間で、また法の中で制度と制度の狭間で、漏れている方または苦しむ方がおられることがわかりました。そういったことをくみ取って市長に訴えていくのが我々の役目で、そのすき間に目をそらさずに、人とお金の投入を決断するのが市長の役目であろうかと思います。市でできないことは県と国へ訴えていくとの思いで御答弁をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ただいま黒田議員から御質問いただきました。多岐にわたる質問でございましたけども、ちょっと長時間になろうかと思います。お答えさせていただきます。

昨年の衆議院選挙によりまして政権交代が起こりましたが、このことは福祉保健部門においても大きな政策転換があったことは、皆様も御承知のことと思います。

既に支給に向けて予算計上しておりました子育て応援手当の給付の中止、それから子ども手当

の財源確保に関する地方負担の問題など、地方の実情が十分考慮されないままに短期間に目まぐるしく国の方針が変わっており、さらに今後においても、後期高齢者医療制度、障害者自立支援法など福祉保健サービスの基本となる法律が改正されて行くことが予測されます。

したがいまして、これから私が申し上げます見解はあくまでも、現在、対馬市が策定しております高齢者福祉計画及び第４期介護保険事業計画を基本ベースにおいた考え方で、今後については、その時々の国の基本方針に沿った取り組みを行っていくということを前提に御理解を賜りたいと思います。

まず、１点目の介護施設の待機者の実態把握の件がありました。

平成２１年３月に策定いたしました高齢者福祉計画及び第４期介護保険事業計画は、平成２１年度から平成２３年度を計画期間として策定しておりますが、この計画策定に当たっては、第３期事業計画中における実績をもとに介護保険の対象者となる要介護者の人数、介護保険給付のサービスの種類ごとの量の見込みや介護給付費の財源等の確保の方策等々、制度の円滑な実施を目指したものとなっております。

御質問がございました介護施設の待機者については、この事業計画策定時においても基礎資料として把握いたしており、その時点での特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及びグループホーム等の入所待機者は１３９名でありました。また、平成２２年１月末現在で１４９名であります。

しかし、本市の要介護２以上の認定者に対する特別養護老人ホーム、老人保健施設及びグループホーム等介護専用居住系サービスの割合は、平成２０年９月末日現在４９．２％であります。平成２６年度の国の目標値は３７％でありまして、大幅に上回っている状況でした。

したがいまして、本計画においては当該サービス施設の新たな設置は行わないこととし、その対策として、平成２２年度に新たに要支援１から要介護５の認定者が利用できる施設として、議員が先ほどおっしゃいました小規模多機能型居宅介護事業所１施設及び介護専用型以外の特定施設入居者生活介護事業所１施設の設置枠を拡大することといたしております。

また、平成２４年度以降の施設整備につきましては、入所待機者の状況、介護保険料の状況等を十分勘案しながら、第５期事業計画策定時において検討し、施設の入所待機者解消に向けた実効性のある計画にしてまいりたいというふうに考えております。

次に小規模多機能居宅介護というものを、これから先の介護施策の中心に据えなければならないんではないかという御質問ですが、この施設につきましては、要介護認定者、認知症高齢者の在宅における生活支援という観点から、家庭的な環境と地域のもとで「通い」を中心に、随時「訪問」や「泊まり」を組み合わせた施設ということで、議員御指摘のように、今後、在宅介護を中心として考えた場合、必要となる施設であろうという認識をしております。

先ほど説明申し上げましたとおり、第４期事業計画に基づき１施設を設置することといたしており、現在、実施事業者を選定委員会において選定中であります。

さらに今後の当施設の整備につきましては、第４期計画期間における施設の利用状況や、認定者の状況を参考に次期計画において検討していきたいというふうに考えております。

次に、介護保険制度がわかりづらいというお話がございました。介護認定のあり方につきましては、２１年４月に認定基準の見直しがありましたが、この見直しにより要介護認定者が不利益を受けないよう経過措置が設けられており、さらに１０月に再度見直しが行われたところです。

また、要介護認定は、全国一律の基準に基づき、公正かつ的確に行われることが重要であり、自治体間や個人間の要介護認定のばらつきを是正するため認定調査項目の拡大や、調査及び審査の過程において、質問・要望等が多く寄せられた項目等を中心とした審査員及び調査員の研修会を、県及び専門の講師を招いて実施をいたしております。

また、認定申請の数も徐々に増加しており、認定審査に支障の出ないよう２２年度から調査員を２名増員し、７名体制で行う予定をいたしております。さらに、介護保険制度に対する市民の皆様の理解を高めていくために、市の広報誌等を活用した啓蒙活動をさらに積極的に取り組んでいきたいというふうに考えます。

次に、市職員の介護事業所のほうに短期ででも出向し、実態というものをしっかり把握したほうがいいんではないかという御質問でございましたが、対馬市も直営の介護事業所として特別養護老人ホーム「浅茅の丘」、それから「日吉の里」を運営しております。

したがいまして、実態把握のための職員出向を行うまでもなく介護職員の厳しい勤務状況については認識をいたしており、介護業務に従事する職員には大変苦労をかけていることについて、施設の設置者として常日ごろから感謝の念を抱いていておるところでございます。

また、社会福祉法人が運営する介護事業所が開催する運営委員会等には市職員も出席し、施設の状況や入所者の状況など報告を受けております。

また、介護職員の低賃金の対策としては、国の施策として本年度より介護報酬改定によって介護職員の処遇改善が図られたところでもありますが、他の業種との賃金格差をさらに縮め、介護が確固とした雇用の場として成長していけるよう、介護職員の処遇改善に取り組む事業者へ資金が交付されるよう措置が講じられておるところであります。

次に、健康で活力ある高齢社会を行政がどのようにつくり込んでいくのかというお話がございました。

対馬市における高齢化率も増加の一途をたどり、６５歳以上の人の割合も２９％近くに及んでおります。高齢化の波が今後も進んでまいりますと、必然的にその世代の医療費が増大します。それがひいては、市の財政を圧迫することにつながってまいります。

高齢者の皆様が、自分の能力を生かし、健康で地域社会に積極的に参加されることは介護予防という観点においても非常に重要なことであり、高齢者の健康づくりを社会全体の活動として取り組んでいかねばならないと考えております。

現在、対馬市では、介護保険事業計画に基づく地域支援事業の一環として、一般高齢者を対象に転倒予防の教室やそれらの活動を支援していただくボランティアの養成を行っております。

これからも高齢化による下肢筋力低下や転倒による骨折を防ぎ、高齢者みずからが運動面における健康づくりを実践するための動機づけと運動継続ができるよう、支援してまいりたいと思います。また、あわせて特定健診の活用も図っていきたいと思います。

御質問の中に、高齢化時代の財政を解決する糸口という、大変難しい問題が提起されましたが、やはり予防に勝るものはないと考えます。限られた財源の中ではありますが、健康づくりに有効な施設を今後どう活用していけばいいのかを含めて、今後とも市民の病気やケガの予防に努めてまいりたいと思います。

しかし、抑制しても予防に努めても、どうしても抗しきれない社会保障費の増大にどうするのかは、第一義的には年金や医療の制度設計を国に示していただきたいところです。我が国の経済のパイが年々縮小する中、かたや経済成長著しい中国を近隣に控え、この国はどのような方向を目指していくのか、早急に国のあり方を示してもらわねばなりません。

現在、この福祉に関する分野の台頭は国が主導権を握って推し進めてきたところであり、地方の組み立て方が入る余地は微々たるものであります。基本的人権の最たる部分に当たります福祉とか、医療の将来像を明確にする議論を国のほうには期待するものであります。

次に、高齢者標準社会についてでございますが、議員御指摘のとおり、青年期・壮年期の世代を標準としてとらえた世代から、高齢者を標準とした社会へシフトしていくのが今後の対馬市に限らず、すべての自治体の課題であろうかと思われます。

高齢者に対するさまざまな施策につきましては、平成２０年度に高齢者福祉計画の見直しを行っておりまして、「高齢者が暮らしやすい環境の整備」という項目を含めまして、７項目の視点から市の考え方を取りまとめております。

認知症対策や高齢者虐待あるいは住環境、生きがいづくり、健康維持とどの分野をとりましても高齢者には必要不可欠の施策であり、その施策を鋭意進めているところでございます。

４０年後に限らず対馬市の高齢化率は平成１７年の国勢調査で２６．２％と、全国に比べても６．１ポイントも高く、２２年、本年２月末では２８．８％となっており、また、対馬市全体を見ても地域によっては高齢者に偏った地域が存在する状況でございます。

定年を迎え、あるいは６５歳以上の高齢者でも、漁業・農業等の一次産業においては、ほとんどの方が現役であり、就労活動をしている状況でもございます。元気な高齢者が、就労や社会活

動に参加し、生きがいをもった生活ができるよう支援を行ってまいりたいと考えております。

そのような中での対馬の発展にかかる総合的な戦略でありますが、一つには、バリアフリーに伴う住宅改修事業の拡大、介護分野における民間事業者等の事業参画等が考えられますし、当然、元気な高齢者につきましては、その就労についても考えられるところでございます。

いずれにいたしましても、高齢者標準社会が想定される中で、今の現役世代の健康寿命を延ばすことにより、医療・福祉の負担を減らす健康教育等の予防事業、あるいは介護予防事業が今後ますます重要になってくるものと考えます。

最後に、がん対策の件でございます。

女性特有のがん検診事業は、昨年１０月から、がん検診受診率の向上及び国の経済危機対策の一環として開始されました。５月に実施しました集団健診では、乳がんで１，５１９名、１２．３％、子宮がんで1，５２２名、９．９％の受診者がありました。

事業内容の概要は、２０歳から２５、３０と５歳きざみの６０歳までの女性の方々に対し、議員が言われたように無料クーポン券を発行して乳がん検診及び子宮頚がん検診を受診していただくという事業です。この事業の対象者、つまり無料クーポン券の発行者数は、乳がんで1，３１８名、子宮頚がんでは８２０名でした。集団検診と女性特有のがん検診事業を合わせたがん検診受診者数は、２月末日現在で乳がんで1，７００名、子宮頚がんで1，６１３名が受診されています。なお、無料クーポン券発行者に対する受診率は、乳がんで１９．９％、子宮頚がんで１４．１％で、集団検診の受診率よりは高いものの、議員御指摘のとおり、まだまだ低い状態にあります。

２１年度においては、個人通知に加え県と共催で、先ほど議員が言われたように「余命１カ月の花嫁」の無料上映で広報活動を実施しました。２２年度においてはこの制度の普及と受診率向上のため、広報紙及びケーブルテレビを利用した制度説明と広報活動の強化はもとより、５月の集団検診に合わせた無料クーポン券の発行を行います。また、市内の受託医療機関である対馬いづはら病院と上対馬病院との緊密な連携を図り、未受診者に対し電話による受診勧奨の取り組みを実施してまいりたいというふうに考えています。

対馬における死亡原因第１位はがんであり、率にして約３０％、年間１４０人を超える市民ががんで亡くなっています。がんによる死亡者を減少させるためには、がん検診を受けていただき、がんを早期に発見することが極めて重要であります。市民の皆さんにより一層健康に対する関心を持っていただき、健診受診率が向上するよう取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　最後のがん対策については、こちらから電話をされるということで積極的な取り組みに評価したいと思っております。この福祉計画、介護計画、何回も読みまし

たけれども、介護保険の知識の浅い私でも保険料は厳しそうだと、地域で見守りをつくって在宅にしていきたい、こう読み取ることができました。でも、私自身、現場で調べてきたことがこの計画と一部乖離している現実がありましたので、そのようなことを踏まえて再質問をさせていただきます。

調査で一般に介護を受けたい場所は圧倒的に自宅が多いものと思っておりましたが、意外と入所施設の要望が高く、自宅も入所施設も４割強という同じぐらいの比率でした。ただ、介護サービスを受けている方の７割強は自宅で介護を受けている現実があります。在宅介護で困っていることは、「介護する家族の負担が大きい」が多く、次に「具合が悪くなったときに一時入所できる施設がない」との回答が多くありました。家族に迷惑をかけたくない、家族も支え切れないとの思いが反映しているとも考えられます。一方で、家族になるべく負担をかけなければ、病院や施設に入るよりも住み慣れた我が家で介護を受け続けたいと希望している人も数多くいました。

そこでお尋ねいたします。この計画書の中で、地域において地域包括支援センターを中心にどこどこと連携し、体制の構築を推進しますと地域の見守りシステムづくりを執拗に執拗に明記してあります。計画どおり進んでいるのか、お伺いをいたします。

また、高齢者にとって住み慣れた我が家は、実は体の衰えとともに非常に危険な場所ともなります。自宅で過ごせるためにはハード的な支援の強化も必要になります。福祉用具や住宅改修サービスなど、要介護者が在宅で安心して生活できるような、計画どおり進んでいるのか、このソフト面とハード面で在宅で安心して過ごせるように計画どおり進んでいるかどうかをお伺いしたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　計画の実施状況というお尋ねでございますので、担当部長のほうから回答をさせます。

○議長（作元　義文君）　福祉保健部長、扇照幸君。

○福祉保健部長（扇　　照幸君）　計画の実施状況につきましては、私は計画どおり、まあ完全じゃないにしても進んでいるんじゃないかなというふうに理解をしております。

○議長（作元　義文君）　２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　今の部長のお答えですが、私は計画どおりにはいっていないと思っております。と言いますのも、やっぱりこの入所施設という、その皆さんですね、調査した中で、どうしても皆さん入所施設に入りたいと、その裏には、先ほど私が申し上げました、どうしても家族にも迷惑をかけると、家族も支え切れないと、いわゆる在宅で生活が安心してできてないということが反映しているんじゃないかなと思っております。これ、私が現場で生の声を、利用者の方、その御家族、事業者の方、その従業員の方、これもずっと聞いてきた中で、やっぱり

在宅ではまだ安心して生活ができないという、こういう状況を確認をしております。

まあ、小規模多機能型居宅介護ですね、これも在宅が基本であります。在宅しながら、先ほど市長がおっしゃいましたように、通ったり、訪問してもらったり、で、ときによっては家族が旅行に出かけたり、家族が病気したとき、そういったときにショートステイ――急遽泊めてもらう、そういう形になるわけですが、あくまでもこれ地域密着型ということで、家庭、在宅を基本としながら地域が支えていくという、そういう体制が整わないと、小規模多機能型居宅介護というのは、これは成功はしないと思いますので、是非この点は市のほうもそういうことを認識していただきたいなと思っておりますが、その点についていかがでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　在宅というのがまあ基本は、基本で掲げていきたいと思っております。しかし、入所の部分についても、ある、これほど高齢化社会が進展していきますと、当然、今の参酌基準を超えて国も見直しをしていただかないといけない状況もあろうかと思います。

で、在宅での部分につきましては、今議員がおっしゃられたように、地域がどのようにかかわるかということも重要なポイントだと私は思っております。１家庭の１家族にだけでは、とてもでありません。不可能な状況があります。いろんなものの選択肢を地域の中につくりこんでいきながら在宅を進めていくということを考えていかねばいけないと思います。で、地域社会の皆さん、市民の皆さんのほんの３０分ずつでもかかわっていただくとか、いろんな、お互いがそういう状況にゆくゆくはなっていくということを常に考えて市民の皆さんの協力を仰ぐシステムをつくっていくことが重要なんではないかなというふうに日々思っております。

○議長（作元　義文君）　２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　はい。そこで、地域の見守りということで、最初に地域包括支援センターを中心に、まあいろいろな民生委員の方とか、自治体の方とか、そういった人と協力しながらというか、一緒に見守っていただきながらしないと、地域包括支援センターだけでは到底それは無理なことでありますので、まあそういった介護が定期的に行われているということも聞きましたけども、そういったときに市長とか部長が、高齢者のために見守りをということで力強くお願いしていただきたいなと思います。と言いますのも、私もＰＴＡのそういった子どもに対する見守りの中で、やっぱり最終的には校長先生の「子どものためにどうかお願いします」という、そういう一言で皆さんが快く動いてくれますので、そういう点よろしくお願いしたいと思います。

で、まあハード的な面と、ソフト的な面で、配食サービスについてですね、申し上げます。

御存じのように介護保険制度は高齢者福祉制度の中ですべてのサービスを備えたものではありません。ケアマネがケアプランを作成する際には、総合的な生活支援の視点から、必要に応じて

その計画に介護保険制度以外のサービスも組み入れることが求められています。その中の一つに、ひとり暮らしのお年寄りや家族が仕事などで不在になる世帯の高齢者に対し配食サービスを実施しております。この配食サービスについては、平成１８年度に年齢制限など大変厳しい制度改正をして前年比約３分の１の取り扱いとなって今日に至っております。対象者をせめて６５歳以上にできないものかと考えて思います。と言いますのも、栄養ある食事を食べて元気で在宅が可能になります。配食サービスの小さな助成金を惜しむことによって、食事から健康を損ね膨大な費用がかかる入所施設に入るリスクがあります。もう少し利用できるように対象者の基準を緩和できないかお伺いをいたします。

○議長（作元　義文君）　福祉保健部長、扇照幸君。

○福祉保健部長（扇　　照幸君）　配食サービスにつきましては、議員が言われるように７０歳以上ということで規定をしておりまして、これは合併の当初からそんなふうにさせていただいております。それと、１食当たり５００円、これも週に４食ということでしているわけでございますが、２２年度におきましては５００円ということで予算措置をいたしております。この年齢を７０歳から６５歳に下げるということでございますが、下げれば当然財政的な面も出てまいりますので、まあ、この分につきましては検討させていただきたいと、今どうしますということは言えませんので、ちょっと検討させていただきたいと思います。なかなか難しいとは思っております。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　関連して答えさせていただきます。

配食サービスの拡大というお話がありました。この問題につきましては、いつでしたかね、２月でしたか１月末でしたか、ＮＨＫの「クローズアップ現代」の中で食の砂漠化という問題が取り上げられておりまして、高齢者の栄養の偏りとかいうものが起こっているということで、対馬の中でどういう状況なんだろうということである地域に話を聞いて、その方たちがその地域をずっと話、アンケートではありませんけど聞き取り調査をしていただいております。で、やはりその結果、そういうふうな家庭では偏りが出てきているということが出てきておりますので、そういう配食サービスとはまた違う形で、実は今年度の予算でも食のデザート解消事業ということで、２３万円ほど予算を組みたてております。できれば配食サービスとは別の形で、きちんとしたバランスある食事を取っていただくためのことを地域の中でもやっていただきたいし、スローフードの方向性の中でそういうものを表に出していくということも兼ねて食のデザート解消事業ということを組み立てておることも申し添えておきます。

○議長（作元　義文君）　２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　はい。この配食サービスというのは、御存じのように見守りとい

う、そういう役目も果たしております。食事を持っていくときに「どうですか」と、また食事を終えて食器を回収するときに「どうですか」と、また、その留守をされるときに業者の方が玄関先にどっかに買い物に行っておりますよと、そういった安否確認ができるという利点があります。嫌がられなくて、食事を持ってくる人に嫌がる人はいませんので、やっぱり民生委員の方もやっぱり頻繁には行きづらいというお話を聞いておりますので、こういった、まあお金は、予算を使うかもしれませんけれども、まあ、見守り、安否確認という意味でも是非進めていただきたいなと思っております。

で、私、配食サービスの小さな助成金ということで、市長から厳しい財政ということで何が小さな財源だとお叱りを受けるものと思っておりましたが、まあ根拠を申し上げますと、これ市民の皆様にこの財源論を話していただきたいなと思うんですが、ざっくりした金額で例えます。施設に入所して介護保険で月３万円、食事やおむつ代など個人負担で３万円かかるとします。家族は言います。ありがたいねと。月６万円でおばあさんを預けてもらえると。面倒見てもらえると。しかしそれは費用総額の１割であり、残りの９割は介護保険で賄っていることが忘れられております。月に約３０万円、年にすれば１人のおばあさんに約３５０万円かかっていることが忘れられております。大学生を養う以上のお金が４年間にとどまらず永遠にかかることになります。本市は是非この財源の説明を積極的に、まあ事ある、御老人の行事の中でもしていっていただきたいなと思います。その上で、予防や健診を受けて、健康になりましょうねと、そういうそのお願いの効果が出てくるんじゃないかなと思いますが、こういった財源についての説明についてはいかがでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　得てして行政のほうの説明の場合、年間のトータル金額等で、それでまあ人口に割戻したときの金額をばっと出すのが常套手段でありますが、今黒田議員がざっくりとした話だけどもという中で話、説明をされましたが、まあそういうふうな説明の数字の提示の仕方ですね、そういうのというのもこれから先心がけていきたいなというふうに思います。

○議長（作元　義文君）　２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　もう時間も残りわずかですので、最後の質問にさせていただきたいと思います。

先日の衆議院予算委員会で菅財務相が介護や医療を重視して雇用に結び付けていくと、経済対策の転換を叫ばれました。社会保障というとどうしてもこれまで経済成長とか経済発展を阻害するというような従来的な考え方がありますが、今は安心感を与えることこそが地域の活性化、地域の発展につながるという考え方も一部であります。対馬も今後介護福祉、また新病院建設計画など、雇用経済に結び付けられるように考えていかないとと思っております。そういった面での

市長のお考えを聞いて最後に終わりたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　コンクリートから人へということを標榜されておるその中心にいらっしゃる菅財務大臣がそのような発言をされたということですが、まあ、高齢化社会を当然迎えてくるわけでして、これは避けて通れません。そういう中で、経済と言いますか、日本をどのように持っていくかという話もまた大切なところであろうかと思います。特に先ほどの答弁の中でも申し上げましたように、この年金の問題、それから医療の問題、さらに言いますと教育の問題、これらを方向性というものをきちんと示していけば、今先ほど議員がおっしゃられました１，５００兆と言われるうちの金融のため込みがあります。その６割という数字でおっしゃられましたけども、高齢者の方がそこまでため込まない社会というものをつくるためにも、安心な生活のベースというものをつくり込むことが私は大切だというふうに思います。そのベースは、先ほど申し上げましたように年金であり、医療であり、教育問題、この３点がきちんと整った暁には、新たな経済の進め方というのは生まれてくるものというふうに私も期待はしております。

○議長（作元　義文君）　２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　３分ありますので、最後に一つだけ。

今回の従事者の調査で、７割以上の方が今後も仕事を続けたいと望んでいることが分かりました。反面、収入が低い、心身の負担が大きいと大多数の方が感じてもおりました。また、子どもを保育所などに預けられず働けないという若いお母さんもいました。女性が働きやすい島の環境づくりが必要と感じました。一方、事業者の方から、介護事業者のメンタルケアの充実を行政側からも図ってほしいとの要望がありました。どの業界でも方程式は同じですが、夢と希望を持てない職種に優秀な人材は集まりません。ひいては、そのしわ寄せはよいサービスを適切な価格で利用したい多くの高齢者のもとに最終的にやってきます。調査の中で、高齢者の笑顔を見てやりがいを感じる方も多数おられました。こういう方たちを介護業界から去らせないためにも、職場環境の改善、給与水準、待遇面を中心としたインフラ整備がもはや待ったなしの状況となっております。どうか保険者の立場、行政からの視点で何か対策を講じていただくようお願いいたしまして質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　以上で黒田議員の質問を終わります。

暫時、休憩します。開会を３時から。

午後２時50分休憩

……

午後３時00分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　通告に従い市政一般について質問を行います。

まず、離島ガソリン対策についてお尋ねをいたします。

一昨年、ガソリン価格は異常に高騰し、対馬では１リットル２００円近くに達したことは記憶に新しいことであります。このように離島のガソリン価格は本土の価格と比較し我々が納得のいくような単価ではないと個人的には思っております。最近では価格はやや落ち着いているようでありますが、本土では１リットル約１３０円前後でございまして、対馬では１６０円を推移しているところでございます。海上輸送コスト、油槽所の維持管理費を含めた１３０円を上回る根拠は、私はいまだ確認したことはございません。離島ガソリン価格をいかに安価にするため、現在設置している対馬市石油製品流通合理化支援事業検討委員会はどのようなことに取り組まれておるのかお尋ねを申し上げます。

市は、民間流通とはいえ高すぎる離島ガソリン対策に、今後何かを講ずることがございましたら、伺いたいと思います。

次に、指定管理者の選定についてお尋ねします。昨年の９月、１２月定例会においてあそうベイパークの指定管理における選定委員会の行動について、私はいろいろと指摘をいたしましたが、さらに見積書等の関係資料と会議録を照らし合わせると、明らかに誤った処理がなされていると思われます。この問題処理を何もなしで終わらせようとするか否か、市長の見解についてお尋ね申し上げます。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　大浦議員の御質問にお答えさせていただきます。

１点目の離島ガソリン対策についてであります。

議員の質問の中にも出てきておりましたけども、一昨年の世界的な原油高騰に伴い、一気に石油製品の価格が高騰し、市民の生活に大きな打撃を与えました。そうした中、国は石油製品販売業構造改善対策事業費補助金を制定いたしました。この補助金は、離島地域における石油製品価格が構造的に高く、地場産業や住民に影響を与えている現状をかんがみ、離島地域における石油製品の流通合理化を促進することを目的としたものです。対馬市は、この補助事業を活用し、石油製品販売業関係者の協力のもと、対馬市石油製品流通合理化支援事業検討委員会を設立いたしました。この委員会では、島内にある油槽所３カ所を１カ所に集約し、海上輸送、島内配送を共同化することにより合理化を推進し、運送費用の低減を図る目的で事業を展開してまいりました。しかしながら、油槽所を１カ所にするためには、リニューアル経費等で多額の投資が必要である上、価格低減へは約１リットル当たり１円と効果があまり見込めないことが判明し、また、１カ所になることによる安全面の確保及び近隣地域に対する配慮等が必要不可欠であること等により断念せざるを得ないとの結論に至りました。ただし、対馬石油製品流通にかかわる関係者が一堂

に集まり流通合理化に向けた検討を行うことにより、対馬における石油製品流通の現状及び課題を可視化し、その課題を解決するための対応策を共有したことは、大変有意義な取り組みであったと考えております。また、流通合理化の検討過程において、関係企業からさまざまな意見、提案がなされ、お互いの考え方を共有することにより、今後関係企業が流通合理化に向けた取り組みを行う際、企業の枠を超えて連携した流通合理化を行い得る関係を構築することができたことも成果の一つであったと考えております。今後においても、石油製品の需要の減少が見込まれるため、検討調整は必要であると考えております。また、離島地域の生活と産業経済の安定向上のため、離島振興対策協議会、全国離島振興協議会において、離島に係る揮発油税の完全廃止の早急な実施を国に要望をしておりますので、御理解賜りたいと思います。

次に、あそうベイパークの指定管理者選定委員会の審査処理に対する市長の見解について御質問でございますが、これまでも申し上げておりますように、審査処理については公正かつ適正に行われているものと私は判断をしております。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　私もちょっとしつこいなと思います。９月の定例議会、１２月、そして３月、非常にこの問題を中途半端で終わらせたくない、このたびが一つの区切りであろうと、いままで時間時間でとうとう５０分がわずか二、三十分で済んだような思いでございます。ここでちょっと、小宮議員のきょうの質問と私の質問はなるだけダブらんようにせないかんと思うとります。で、問題は選定委員会の会議録、そしてそのかかわる資料、これがすべての私の発言でございます。私見は入っておりません。選定委員長の副市長大浦副市長にまあ話はほとんど軸は移るわけですが、また財部市長はそのまあ最高責任者という形にはなりますが、一応選定委員会であったことをこの場で再度チェックをいたしたいと思います。

まず１点目。公募する際に、あそうベイパークの公募をしたと。で、その際に各、まあ応募する業者については平成１９年度のあそうベイパークの決算の中身をすべて、いわゆる数字を詳細に出た決算書を添付して、それをもとにどのような見積もりを、あるいは計画を企画をするか、こういうことでございます。そのときに、一部事務局費の２８８万というふうなことが資料に出てきます。２８８万というふうな事務局費の金額が出ておりますが、あそベイパークには事務局員はおりません。ですから、この数字は実質架空の金額でございます。事務局の局長として担当は総合公園に陣取っております。ですから、決算書としてあそうベイパークに事務員が存在するというふうな決算は、これは間違いでございます。これにより通知をしたということ、これは完全な事務ミスでございます。ですから、総額の根拠がまずおかしいということは、これは事実でございます。その点につきまして、認識をもう１回確認取りますが、事務局が美津島活性化センターから出たから知らんということではなく、最終的にこのことを選定委員会はどのようにとら

えておったのか、まあ、これは市長が御存じなければ副市長でも結構です。このことをひとつ、まず確認取ります。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　まあ事務局が美津島の活性化センターですから、当然公募については美津島のほうで実施をいたしております。今私が理解できないのが、美津島の振興公社が以前やってて、それの決算、１９年度の決算を参考にしながら、それぞれの申請者が申請書を出したということが、ちょっと私理解ができないんですけども、当然、美津島の活性化センターに行って、申請の説明なりヒアリングを受けた中で、美津島振興公社自体が美津島の活性化センターにあるんですから、それまで自分たちでそこを管理してたということからしても、そういう説明なりがあったと思いますけども、その美津島の決算をもとに各申請者が申請をしたということが私には少し理解ができない部分であります。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　理解ができないのは、逆に応募された方、あるいは市民の方が思うことでございまして、途中気がつくことになると思うんですね、途中。副市長は最初わからんやったけども、途中、事の事情というのは分かったと思います。そして、誤ったそのベースの金額をもとに４業者が見積もったと、そういうことになろうかと思います。ですから、ここで間違いであったということがはっきりするわけですが、副市長、その後からの問題で申しわけないんですが、間違いでありますよね。この決算の数字が２８８万上がるということは、これ間違いですね。実績としてその上がることはおかしいでしょ。現場に職員がおらんわけですからね。そういうことになりませんか。常識で考えりゃなるんですよ。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　それは、振興公社の話をされてあるんですかね。振興公社は、（発言する者あり）事務局の職員を持ってますから、当然今まで指定管理しとったところ、それから自分たちで直営で管理をしてもらっていたところを含めて、伝承館もそうですけども、そういうところのために事務局を持っとったわけですね。当然、そういう経費の中から事務局費代を支出をしないとだめですから、指定管理をした、それから直営をしたところから自分たちで賄うというのは当然だろうと思ってます。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　選定委員長さん、要は事務局長はグリーンパークに居座って全体のその指揮をしとったわけですよ。ですから、その金額は２８８万であって、ですからあそうベイパークの金額の決算にここに上げることが全額することということは、もう間違いなんですよ。それは理解できるでしょ。もう間違いなんですよ。これは事務局の今の阿比留理事も認めており

ますよ。間違いであることは。ですから、大きなベースが間違うて入札の執行の金額をやったということは、一応判明しております。ただ、表に出す出さんは別ですよ。いや、そういうことなんです。そこの見解がずれるはずないんですがね。職員はおらんとですよ。あそうベイパークには。（発言する者あり）いや、おらんとですよ。実質今までそういうふうな処理は数字をしとったけども、職員はグリーンパークにおったわけですから、経理をした場合には総額があそうベイパークにその２８０万を計上すること自体がもう大きな間違いなんですよ。それをやっとったわけですよ、結果的には。ですから、まず根拠がおかしいということがはっきりしております。その点、市長、話し合うたらわかると思いますよ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　今のやり取りを聞いておりまして、美津島振興公社の事務局費というものの捉え方だと思うんですが、振興公社の職員がどこにおる、おらんとかいう問題ではないと思います。公社本体にとって事務局費は必要であるという考え方であって、そのときどこかに手を挙げる際に事務局費がない、何て言いますか、管理っていうのはあり得ないんではないかということで、恐らくこのあそうベイパークの事務局のほうに計上すると。そうしますと、これをしないと美津島振興公社の事務局費はどこでどのように組んでいけばいいというふうにお考えですか。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　総額全部ここに計上してはまずいということを言っておるんですよ。１人の人間の事務費をあの、全部で４カ所あったんですよ、事業所が。事業所４カ所、今まで。それはあの総合公園、あそうベイパーク、それから真珠の湯温泉、元ですよ、元、それから伝承館、この中のコントロールを１人の方がやっておったと、事務局長として。そして、まあ総合公園の事務所に居座っとったと。で、それはあくまでも分散せないかん。２８８万という金額は。で、それを全部決算のあそうベイパークの１９年度に全部これをほたり込んどる。その中で、かかった経費が総額が８００数十万ですか、そのベースによって見積もりをくださいと、こう来ておるわけですよ。ですから、スタートがまず間違いです。それは副市長、気づいとるでしょうが。当初からわかったでしょ。いや、あのね、このことに時間をあんまりおきたくないんですよ、まず。いや、気づかんですか。（発言する者あり）どうぞ。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　その事務局費のことを、振興公社のことをうちのほうに聞いてあるんですけども、それは振興公社の事務局、自分たちの公社のその経理の仕方であって、何でそれをこちらにそのことを振るんでしょうか。それは振興公社で大浦議員が監事をされてあった振興公社の決算の仕方なんです。そして、申請をされたものについては、それを事務局費をどこに持っていくかということですから、それは公社ほうがちゃんと考えて、この経費は分散をして出すと

か、どっかにまとめて申請をするとかいうのは、公社のほうじゃないですか。こちらじゃなく。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　とにかくね、予算総額が根拠が算出が間違っております。で、次に進みますよ。それは市長、いいじゃないですか。ゆっくり話せばわかりますから。で、その時間をさきに私は言わないかんことがございますからお尋ねします。

資料からいきますよ。選定委員長さんの、指摘。その他がいろいろ小宮議員があった会議録をそのとおり省略いたします。その中で、大きな一つのミスがあっております。ミスというのは、もちろん１９年度の段階であそうベイパークには飼育委託費として馬の６頭と鹿の１頭が管理されておったと。これを当然実績として上がっておりますよ、本予算が。ところが、その指定管理を決定された業者は、当初の段階ではこれは飼わない格好でゼロになっております。これ見ますとね、収入の部分、支出の部分、ゼロですよ。これについて副市長、選定委員会は気づかなかったのか、ちょっと指摘をしたいと思いますが。資料見りゃわかりますね。持ってますか、資料。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　私はその事務局じゃない分だけですね、大浦議員が言われてある分が少し理解をしてない部分があるんですけども、最初に出された計画が飼育の委託料が上がってなくて、そして変更の収支計画の中で飼育委託料が上がってると、それがおかしいじゃないかということなんですか。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　だから認識はどうであったかということですよ。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　当初出された計画と、それから変更で出された計画をそれぞれ選定委員会の中で審議をした上で、それは認めようということでしとるですから、変更された収支計画がおかしいということでは、こちらは理解はいたしておりません。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　あのね、非常にそこが大きなポイントになるんですが、あくまでも会議録がすべてですよ。会議録の中では指摘しているのは、さっき小宮議員が言うたとおり、会員制のその６０万のカットとか、あるいは収支の黒字を出しちゃいかんとか、そういうことをきちんと書いてますよ。そして、ほかの業者にも指摘以外のことを書き直してはならないというふうな指摘をしてます。ところが、それを委員長としてのそういう指導をしながら、当業者の今の問題については指摘がございません。全然ございません。普通やったら、この問題は気付かないかんし、会議録に載っとかないかんですよ。いいですか、変更後の金額は１３５万を組んできておるんですよ、ゼロから。あり得んでしょうが、こういうことが。それは言い訳にならんですよ。これはおかしいです。会議録にないんだから。全然その後のチェックが。ほかの業者はみん

なチェックされとるですよ。何が悪い、これが悪い言うて。私は、市長はそのわかられんかったかもしれん、この中身を、詳細を、会議録見らなわからんです。で、この議会の場で論じることがすべてで僕はないと思います。ゆっくり話せば僕はわかると思います。で、いまのことをいろいろ私も、そこに参加した業者の意見も聞いてみました。どう思いますかと。そんなことであれば、だれでもとおるじゃないかと。という言い方をされてますよ。で、市長、私は対馬市がスタートして、いろんな問題あったけども、やはりあなたのその政権においては、やはりクリーンであるべきでありますし、そう思ってますよ、僕は。ですから、そういうことが事務処理の中であったということは事実なんですから、それを私は１回修正するべきであろうと、そういうふうに思いますね。自分はそう思いますよ。と言うのは、先ほどの算出の２８０万、総額が全部決算の中に入っとったから、これをベースに見積もりを出して下さいというたことも、２８８万については分散した形で４カ所の事業費を割り出して、そして事務局費として分散すれば、私も当たり前だと思います。ところが、４施設、その全事務局費の総額をあそうベイパークの予算の中にぶち込んで、それで見積もってくださいと、こう来ておるわけですね。これは、私は誤っておるというふうに思います。で、この二つのいわゆる書類を修正に指摘以外のことが書かれたこと、これについて市長、これが明らかであればどう思われますか。それでも正しいと思われますか、市長。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　明らかであればという仮定のお話でありますよね。あくまでも仮定のことについて、今言及することは私にはできません。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　まあ、それは対立した格好で話がつかんということでございますね、お互いに。しかし、議会というのはそういうことが数字の中でこのように明らかになって、これで済ませるということになれば、議会のチェック能力はないことになります。市長はそれで突っ張るのはわかりますけども、しかし私らはそのチェックをする、これが仕事でございます。この一般質問でこのことがはっきりできなければ、私は個人的にはこの３月の定例会の中で調査委員会を立ち上げないかんというふうなことに本当はしたくないです。でも、ここで話をお互いにチェックをしてみようということでやるならば、私は来週でもその話し合いはしてみたいと、市長思っていますよ。しかし、突っぱねて、いや問題ないとなれば、私はこの２０数名の皆様にそういうふうなことを伺うことになろうかと思います。そのへんの思いがございます。ですから、あなたのほうは間違いないと、聞かれないというふうなことであれば、私もそうせざるを得ません。最後にどうでしょうか。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私どもが聞かないじゃなくて、大浦議員も自分の今組み立ててあるストーリーといいますか、その中から全くこちらの話というのを突っぱねて、自分の考えは固執されていると、私は逆に思ってまして、その事務局費の問題というのが、分散して、四つの施設に分散したときに、その１名の仮に従業員の方ですか、の人件費を分散して雇えるんでしょうか。それは不可能だと思うんですよね。だから、どこかに持っていかなければいけないというのは、それはいたしかたない話じゃなかろうかと私は今のお二方のやり取りとか、この人件費の扱いの問題ですね、というのは私はそう思うんですが、それを大浦議員は四つの施設に分散、人件費を分散してしまえ、ところが分散したとしても、それがすべてその管理できるようになるならばいいですけども、そうならなかった場合は、やっぱりその人の人件費というのを賄うことができなくなってしまうんではないかという、私は疑問を、お話を聞きながら思っておりますけども、それをまた別建てで事務局費を持つと、振興公社が、そしたらそれはどこからその金は生みだすのかということのお話はどのように考えて、逆にあるのかなというふうな、私はその辺りの部分を大浦議員とは１回きちんと話をしないと、この問題いつまでたっても解決せんのじゃないかなというふうな思いに至っております。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　時間の中でこの問題が余計食いすぎても私はいかんと思うんです。市長、いずれにしろ過大見積もりになることは事実なんです。あそうベイパークの総額が過大に、いわゆる決算が出たということになります。いいですね。それは後で私もじっくり話しますよ。

　で、先ほどの件、大きなポイントは、馬が６頭って、鹿が１頭って、これを飼わないというふうな書き方をされた、まあ見積書、副市長、これ選定委員会の中でなぜチェックできんやったんですか。ほかにおられるでしょう、何人か、そのときの選定委員。なぜチェックできんやったんですかね、これ。何も出てませんよ。ところが、それどころか意見交換の中では馬の話が出てますよ。いろいろ。だから、これおかしいんですよ。選定委員会の中身と見積もった資料のチェックが十分されておらないという大きな矛盾がありますよ。二、三遍読めばそのことは気づきます。副市長、どうしてそのことが選定委員会の中で出なかったか言ってください。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　選定委員会で何で出なかったかって、最終的に申請者が変更の中でそれを出してきたんですから、そのことによって管理がうまくいかないとかいうことじゃないんですか。そのことが出てきたことによって管理を、皆さんから期待されるような管理をするということで申請をこちらは受け取ったんですから、それでいいんじゃないですか。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　副市長、そういう言い方ありませんよ、あなた書いているじゃないですか。指摘以外のことは変更するなと、厳しく書いてますよ。（「そうだそうだ」と呼ぶ者あり）そういうものをこの場ではあなたみんな忘れた発言ですね。だからそうじゃなくて、このようになった以上、私は、市長この件については再度、私は出直して、そして再度そういうふうなことにするべきであるというふうに思いますよ。それで、そのままうやむやにするようなことであれば、私も議員としてまずそれだけの力がないし、議員としても失格ですよ。ですから、そうであれば私は最終日に２２名の皆様にお伺いを立てたいと思います。それだけの根拠があるんですから、対馬島民の皆様がその見られて、そういう数字を見て、よう対馬市議会それチェックしきらんやったなというふうなことを私はかぶるようなもんです。そういう中をかわしてまでおりたくない。堂々とぶつかりたいですね。ですから、時間があと２０分しかない。この場で終わるんじゃなくて、私は来週でもいいですがね、市長と副市長にじっくり話し合いをしまして、本庁に行きまして、そういうふうなことはやってもいいと思いますよ、やりたいですね。いつも議会の時間で事が終わるんであれば、大したことじゃないじゃないですか。私はそう思いますよ。どうでしょうか、そういう機会を持たしてください。もう、いつも時間がないんですよ。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　私も大浦議員の固執される考え方というのを氷解していただきたいという部分もありますので、そういう場面は大いに結構でございます。来週、お互いが合う日程調整の上で、じっくりとお互いの考え方をぶつけ合っていきたいと思います。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　もう１点の件は、非常に流通業界のことで行政が介入できにくい世界ではありますが、島民は非常にガソリンがこんなになぜ高いんだろうかという思いをしております。それで、ひとつの問題提起、あるいは勉強で終わるかもしれませんが、認識を私はお互いに持っていきたいと思います。

で、私は石油製品流通合理化計画という資料を見させていただきました。そして、例えばガソリンがなぜこんなに値段がするかという根拠がこれに全部書いてありますよ。非常にわかりやすく。私は初めてこの資料を見て、この三、四日前ですよ、この資料見たのが。これは皆さんに知ってほしいなというふうな思いがございまして、その一部を御紹介いたします。

現在、１リットル１３０円の本土のガソリンの価格が、それは大小ありますが、小売の方が利益をどのくらい受け取ろうかということで、１３０円のうち２０円ぐらいじゃなかろうかという言い方をされておりました。そのうち、税金が、ガソリン税が５３．８円、残りはメーカーの業者へ請求する金額と小売業者の経費が５６円ということで、１３０円の分解はそうなるそうでございます、おおむね。違うこともありましょうが、おおむねそうなるそうです。で、じゃあ対馬

の１６０円はどういうことかと。ここでまず山口県のほうから海上輸送として５００キロリッターのタンカーを使って運びます。これが１リッターあたり２円、２円かかるそうでございます。これは資料に載っております。キロリットル１，９２８円、２円だそうです。これ、専門の方がはじきあげた数字ですから、根拠はきちんとしておるそうです。それから、油槽所の管理、島内に緒方の新出光の６基、それから久田の新日本石油５基、久須ヶ浜のコスモ石油が５基、この油槽所の管理費が１リッター当たり約これも２円、１円９０銭ですからおおむね２円、それから、タンクローリーによる油槽所から小売店の配送コスト、これが１円５０銭、これを足すと５円５０銭というふうな数字になるそうでございます。そうしますと、先ほどの小売価格が２０円、税の５３．８円、メーカー渡しの、そして小売経費の５６円、これ引きますと、先ほどの５円５０銭を６円としまして、島の元売り業者の利益が２４円になるだろうというふうな数字が、あくまでも数字です、前後はしておりますけども、おおむねこういうふうな数字が出ております。そこで、先ほど市長が申されました、タンクを１カ所に集中管理したら１円もなるかならんかでありますと。しかし、共同配送による、タンクローリーを集約した場合には、１円５０銭の、リッター当たりコストダウンになるというふうな数字がその報告書に書いております。そして、最後に油槽所の統廃合については――ああ、そうか、６０銭ですね、タンカーの大型１，０００キロリットルのタンカーをこれによって使った場合には１円２０銭と、こういうことですか。しかし市長、これが話が断念したということで、非常に私は残念に思いますが、これに要した計画の経費というのは幾らぐらいかかって、そこらあたりについてもし御存じであればお聞かせ願います。

○議長（作元　義文君）　総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山　秀樹君）　この委員会、検討委員会に対する費用でございますけども、最終的な決算は出ておりませんけれども、予算額で１，５００万程度でございます。その内訳といたしましては、委託料が１，０７０万でありまして、あとは報償費、石油流通の外部の委員さんの謝礼等で７４万、それに伴う費用弁償等が２００万程度でありまして、総額１，５００万程度でございます。

以上です。

財源内訳は、すべて国費の補助金であります。

以上であります。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　私この資料見た中で、委員会の構成が行政のトップ、まあ委員長が副市長、それから総務企画部長、あとは業界の方がほとんどでございまして、石油関係の方、それとアドバイザー、そういうことなんですが、対馬の消費を代表する、そういう方の構成が

１人でもこのメンバーになぜ入っとらんかなという、私は非常にこう残念なとこありますが、これはどうもならんやったんでしょうか。１１名の構成ですかね。そのうちの消費者代表というのはなかったんですか。

○議長（作元　義文君）　副市長、大浦義光君。

○副市長（大浦　義光君）　実は私が委員長でした。大浦議員と何か派が合うかどうかわかりませんけども、私、大浦議員の質問に対しては私ほとんど委員長をしているということです。これは消費者からは入ってないんです。現在タンクを持っている鈴木、それから新出光、それから新日本石油の関係者は入ってますけども、消費者の代表というのは入っておりません。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　私は３０円が本土より高いという根拠が正しいかどうかはわかりませんが、そのかかる経費の内訳と業者が島内の石油の卸売業者の利潤がこの程度でいいのかというのは業界の権利でありましょうが、消費者の思い、考えはその３０円というのは高すぎるんじゃなかろうかという思いが私はあろうかと思うんですけども、しかし、それが３業者の協定という中にあるのか、話がつくられているのか、この辺について市長、あなたの思いは現実をどう見ておられますか。３業者のいわゆる対応。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　この油の問題ですが、本土とのギャップがあると、まあこれについてどこに原因があるのかということで、私が伝え聞くところによりますと、ＳＳが島内に多すぎるという話も聞きます。それを逆に今の、何ていう、石油小売の方々ですね、３社ですか、４社ですか、ありますが、その方たちが逆にそれを統廃合を、ＳＳの統廃合をしていけばおのずとこれは単価は下がるんではなかろうかというふうな話も聞いたことはございます。しかし、ＳＳの統廃合が進めば、今度は消費者が利便がすごく悪くなっていくという逆の面もまたこれには内包しているというふうな話も今まで聞いたことはございます。

今回のこの取り組みについては、業界の皆さん方はどうかしてこの機会に、国のほうも公立の補助を用意をし取り組んでいきたいという意気込みがございましたので、皆さんも真剣にこのことについては討議し、それぞれの資料を出し合いながら話し合いを進めていただいたということは聞いております。ただし、最終的に仮に１円には届かなかったものの、若干でも効果が出るならばと思いで予定されていた地域にお願いに行ったところでありますけども、なかなかさまざまな今までも問題を抱えているということで地区のほうからは難色を示され、石油関係の皆さんも最終的には断念をされたというふうに私は理解をしております。

○議長（作元　義文君）　１６番、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　非常に、資料を見る限りにかなり詰めた、対馬で今までにない

私は算出根拠をきれいに出されて、これをもとにどうあるべきかということがよくよくわかります、私もこれ見まして。かなりプロの世界でつくられた資料だと思いますよ。よくできてますよ。しかし、これはベースとして、やはり本土との格差をどうするか、これが政治課題ですよ。で、業界に物申すも限界がありましょうが、私は２年前にちょうど政務調査のことで、まあ国会のほうにちょっと勉強に行ったんですが、ちょうどそのときが３月でガソリンがピーク時で、何も離島の、その全国から集まってもう大騒動があってましたよ。たまたまその抗議行動の中に引っぱり込まれてプラカード持たされて、いや、そういうことがあったんです。ここにおる中原議員と私と、それと宮原議員と３人がそういう目に遭ったんですが、やはり業界の中でその価格の差が非常にそのコントロールされとるということをみんなおっしゃってます。特に佐渡あたりがそういうようなことを言ってましたけどもね。しかし、これをどうするかというのは政治の課題ですから、ここのところは手綱は緩めることなく、やはり私は認識を常に持たれて、業界にやはりその厳しい目というのも私は持っておくべきであると、このように思いますよ。ですから、このことをつくられたことをよくよく今後生かされていただきたい。非常によくできてますね。わかりやすい。まあ、そういうふうなことで、ガソリンというふうなことを山田代議士やったですかね、離島ガソリン税をゼロにすると、とてもそういう話がなるような日本の経済じゃないようにあります。暫定税率もこれもとっぱらいましたしね。だから私は、これやはり住民の運動でひとつそうならないように、安価になるような認識を今後も持つように、行政もそういう中で位置づけていただきたいとこのように思いまして一般質問を終わります。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　以上で大浦議員の質問を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で本日予定の市政一般質問はすべて終わりますが、議員から通告されている内容等について、市長が調査できない部分については担当部署で調査し、質問に対し的確に答弁し、市政に反映できるように努力をしていただき、このように申しつけ加えておきます。

本日はこれにて散会します。お疲れさまでした。

午後３時47分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――

平成22年　第1回　対　馬　市　議　会　定　例　会　会　議　録（第17日）

平成22年３月24日（水曜日）

議事日程（第５号）

平成22年３月24日　午前10時00分開議

日程第１　対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告

日程第２　議案第13号　平成２２年度対馬市一般会計予算

日程第３　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入

歳出は、１款・議会費、２款・総務費

９款・消防費、10款・教育費

議案第21号　平成２２年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算

議案第23号　平成２２年度対馬市風力発電事業特別会計予算

議案第42号　対馬市国民宿舎条例を廃止する条例

議案第49号　市有財産の無償譲渡について

議案第50号　市有財産の無償貸与について

議案第43号　対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例

議案第44号　対馬市ネコ適正飼養条例

議案第45号　対馬市教育施設整備基金条例

議案第47号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について

日程第４　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入

歳出は、３款・民生費、４款・衛生費

議案第14号　平成２２年度対馬市診療所特別会計予算

議案第15号　平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算

議案第16号　平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算

議案第17号　平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

議案第18号　平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算

議案第19号　平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

議案第20号　平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

日程第５　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、６款・農林水産業費、７款・商工費
８款・土木費、11款・災害復旧費
議案第22号　平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算
議案第24号　平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算
議案第25号　平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算
議案第26号　平成２２年度対馬市水道事業会計予算
議案第46号　対馬市厳原港国際ターミナル条例
議案第48号　対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定について
日程第６　陳情第１号　核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の陳情について
日程第７　議案第62号　湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について
日程第８　議案第63号　工事請負契約の締結について（豊玉中学校校舎耐震補強・大規模改造工事）
日程第９　同意第８号　対馬市教育委員会委員の任命について
日程第10　発議第１号　対馬市議会委員会条例の一部を改正する条例
日程第11　発議第２号　永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める意見書について
日程第12　発議第３号　自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を求める意見書について
日程第13　常任委員会の閉会中の所管事務調査について
追加日程第１　発議第４号　核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書について

本日の会議に付した事件

日程第１　対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告
日程第２　議案第13号　平成２２年度対馬市一般会計予算
日程第３　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）
歳入は、所管委員会にかかる歳入
歳出は、１款・議会費、２款・総務費
９款・消防費、10款・教育費
議案第21号　平成２２年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算
議案第23号　平成２２年度対馬市風力発電事業特別会計予算

議案第42号　対馬市国民宿舎条例を廃止する条例

議案第49号　市有財産の無償譲渡について

議案第50号　市有財産の無償貸与について

議案第43号　対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例

議案第44号　対馬市ネコ適正飼養条例

議案第45号　対馬市教育施設整備基金条例

議案第47号　辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について

日程第４　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入

歳出は、３款・民生費、４款・衛生費

議案第14号　平成２２年度対馬市診療所特別会計予算

議案第15号　平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算

議案第16号　平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算

議案第17号　平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算

議案第18号　平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算

議案第19号　平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算

議案第20号　平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算

日程第５　議案第３号　平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）

歳入は、所管委員会にかかる歳入

歳出は、６款・農林水産業費、７款・商工費

８款・土木費、11款・災害復旧費

議案第22号　平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算

議案第24号　平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算

議案第25号　平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算

議案第26号　平成２２年度対馬市水道事業会計予算

議案第46号　対馬市厳原港国際ターミナル条例

議案第48号　対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定について

日程第６　陳情第１号　核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の陳情について

日程第７　議案第62号　湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について

日程第８　議案第63号　工事請負契約の締結について（豊玉中学校校舎耐震補強・大規模改造工事）

日程第９　同意第８号　対馬市教育委員会委員の任命について

日程第10　発議第１号　対馬市議会委員会条例の一部を改正する条例

日程第11　発議第２号　永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める意見書について

日程第12　発議第３号　自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を求める意見書について

日程第13　常任委員会の閉会中の所管事務調査について

追加日程第１　発議第４号　核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書について

出席議員（21名）

１番　脇本　啓喜君	２番　黒田　昭雄君
３番　小田　昭人君	４番　長　　信義君
５番　山本　輝昭君	６番　松本　暦幸君
８番　齋藤　久光君	９番　堀江　政武君
10番　小宮　教義君	11番　阿比留光雄君
12番　三山　幸男君	13番　初村　久藏君
14番　糸瀬　一彦君	15番　桐谷　　徹君
16番　大浦　孝司君	17番　小川　廣康君
18番　大部　初幸君	19番　兵頭　　栄君
20番　中原　康博君	21番　島居　邦嗣君
22番　作元　義文君	

欠席議員（１名）

７番　阿比留梅仁君

欠　　員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長	橘　　清治君	次長	渋江　雄司君
参事兼課長補佐	長野　元久君	副参事兼係長	國分　幸和君

説明のため出席した者の職氏名

市長 …… 財部　能成君
副市長 …… 大浦　義光君
副市長 …… 齋藤　勝行君
政策補佐官 …… 松原　敬行君
地域再生推進本部長 …… 永尾　榮啓君
観光物産推進本部長 …… 本石健一郎君
総務企画部長 …… 平山　秀樹君
総務課長 …… 桐谷　雅宣君
市民生活部長 …… 近藤　義則君
福祉保健部長 …… 扇　　照幸君
農林水産部長 …… 比田勝尚喜君
建設部長 …… 斉藤　正敏君
水道局長 …… 阿比留　誠君
教育部長 …… 大石　邦一君
美津島地域活性化センター部長 …… 長郷　泰二君
豊玉地域活性化センター部長 …… 中村　敏明君
峰地域活性化センター部長 …… 大川　昭敬君
上県地域活性化センター部長 …… 武田　延幸君
上対馬地域活性化センター部長 …… 川本　治源君
消防長 …… 阿比留　健君
会計管理者 …… 糸瀬　良久君
監査委員事務局長 …… 主藤　繁明君
農業委員会事務局長 …… 永留　秋廣君

午前10時00分開議

○議長（作元　義文君）　おはようございます。報告します。阿比留梅仁君より欠席の届け出があっております。

なお、議場内の撮影を許可いたしております。

これから、お手元に配付しております議事日程第５号により、本日の会議を開きます。

日程第１．対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告

○議長（作元　義文君）　日程第１、対馬市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評

価の報告を行います。

提出者の報告を求めます。教育部長、大石邦一君。

○教育部長（大石　邦一君）　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価等について御説明申し上げます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第２７条において、教育委員会は毎年、この権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検、評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することになっております。点検評価報告書をごらんください。

あわせて、学識経験者の知見の活用を図ることになっており、３人の学識経験者に依頼し所見をいただきました。その方法については点検評価報告書の１ページのとおりでございます。

点検内容につきましては、教育委員会及び教育委員の活動についてを４ページから５ページに、６ページから８ページには教育委員会が管理または執行する事務で教育長に委任できない事務についてを載せております。次に、教育委員会から教育長に委任される事務のうち、社会教育の推進に関する事務についてを９ページから２０ページに、学校教育の推進に関する事務についてを２１ページから３１ページに載せております。

それぞれの点検項目について、各課、各担当により自己点検を行い、その結果について所見をいただきました。学識経験者の所見につきましては、２ページから３ページに提示しております。評価できる点、改善を要する点、それぞれ８項目の所見をいただきました。

また、その他として学校給食の運営形態についての努力点や、無形文化財指定の取り組みと観光資源の結びつき等について指摘を受けました。今回の所見、指摘を尊重し、対馬市教育方針を柱として今後の教育振興に取り組んでいく所存でございます。

以上、簡単でございますが、教育委員会の点検、評価報告書の説明を終わります。御承認賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．議案第１３号

○議長（作元　義文君）　日程第２、議案第１３号、平成２２年度対馬市一般会計予算を議題とします。

本案について、平成２２年度一般会計予算審査特別委員長の審査報告を求めます。予算審査特別委員長、糸瀬一彦君。

○議員（１４番　糸瀬　一彦君）　皆さん、おはようございます。今、議長のほうから特別委員会の報告をするようにというお話がありましたけど、私のほうから――テレビはどうでもいいですけど――市長及び執行権者のほうに一言申し上げたいと思います。

実を言いますと、私、けさ、ここに出てきまして、同僚議員の皆さんから指摘を受けました。もう予算委員会は終わって、既にテレビで放映があったじゃないかと、委員長、どういうことかと。「それはないだろう」、私はこう言いました。だけど、多数の人が、もうテレビで見ましたということですから、いかに議会を、もう少し気配りがあってしかるべきじゃないかと私は思っております。予定とか、どういう説明があったかわかりませんけど。今から私が報告をして、初めて議決をされて、原案として市長の執行権に移っていくと私は思っております。（「そうだ」と呼ぶ者あり）それでは、今から報告をいたします。

対馬市議会議長作元義文様、平成２２年度一般会計予算審査特別委員会委員長糸瀬一彦。

平成２２年度一般会計予算審査特別委員会審査報告書。会議規則第３７条の規定に基づき、当委員会に付託されました議案第１３号、平成２２年度対馬市一般会計予算の審査内容について、同規則第１０３条の規定により報告いたします。

当委員会は、平成２２年3月１５日から１７日までの３日間、議場において各担当部長、課長、地域活性化センター部長等関係職員の出席を求め、細部にわたり審査を行いました。

３月１６日及び１７日は阿比留梅仁委員が欠席でしたが、いずれも定足数に達しており委員会を開催いたしました。その審査概要と、特に質疑、意見、指摘等については以下のとおりであります。

まず、歳入については、政権交代による地方財政対策として１兆１，０００億円の増額がされ、地方交付税の総額は６．８％程度伸びる見込みで計上されたことと、市民税については、昨年来の景気低迷による現年課税分に対する件、固定資産税、法人税等の徴収率の問題等、意見が集中いたしました。

また、多額の公債費についての質疑がありましたが、依然として厳しい財政状況下ではあるが、健全化の方向に進んでいるとの説明でありました。

次に、歳出では、主な内容は次のとおりであります。

１款議会費では、議員の費用弁償、報酬ほか職員５名分の経費と全国市議会議長会等負担金についての質問がありました。

２款総務費では各費目同様ですが、職員給与の正常化と通常経費の計上が主で、中でも福岡事務所についての質疑と市長の主な施策、地域マネージャー制度、企業誘致等、活発な質疑が行われました。「環境王国」という真の確立を目指した施策の展開等に取り組む方向であるとの説明であります。

特に、市民協働推進費で新規ビジネス応援事業、わがまち元気創出支援事業についての質問が集中したことも特記しておきます。

３款民生費は、特筆すべき事項はありません。

４款衛生費１項１目保健衛生総務費、長崎県病院企業団負担金に対する財源についての質疑で７１．９％が交付税措置とのことでありました。５目診療所費の備品購入費は、胃カメラの購入（豊玉診療所）とのことでありました。２項２目塵芥処理費の燃料購入に関し、入札制度の効果について、またクリーンセンターの対応、斎場管理について厳しい意見があったことも指摘しておきます。

地域グリーンニューディール基金事業、いわゆる漂着ごみ処理について大いに期待すると同時に、環境施策推進に対しても真剣な取り組みを期待しています。

６款農林水産業費１項１目農業委員会費については、特記事項はありません。１項３目農業振興費の農家所得パワーアップ事業による、ふるさと雇用促進に大きな期待を寄せています。イノシシとシカの駆除対策強化と加工場建設を検討してはどうかとの意見もありました。２項２目林業振興費では、対馬の観光・自然保護の意味からも、松くい虫の駆除対策範囲拡大と経費増額を検討してはどうか。３項１目水産業総務費の漁協青壮年部への補助金が減額されている件について活動休止団体が多いとのことですが、後継者育成の意味からも、休止の原因調査と指導に取り組んではどうかなどの意見が出ました。３項２目水産業振興費の離島漁業再生支援交付金の効果的な執行を期待します。

７款商工費では、各種イベントの適正な開催と、ひとつばたご祭りの補助額の増と、シーカヤックマラソンの内容を検討してはとの意見がありました。

８款土木費では、比田勝港ターミナルビル完成の見通しはとの質問に、平成２４年度完成予定、厳原港臨港道路の完成年度の質問には、平成２４年度と聞いているとの回答でありました。基本的な意見として、工事発注は地元優先で考えるべきとの意見が強く出ました。

９款消防費では、職員の居住区の改善に努力されたい、本年度予算では救助工作車購入経費が多額を占めています。

１０款教育費では、文化財保護審議会の審議意見は十分反映されているかとの質問に、年２回、６月と３月に開催しているが、時期的に声が反映しにくいとの答弁でありました。５項３目文化財保護費、対馬まるごとデジタルアーカイブ事業委託料についての質問で、長崎県産業労働部のふるさと雇用再生特別基金事業で、ＤＶＤ作製の人件費と機材費であるとの説明がありました。

以上、議案第１３号は、慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

理事者におかれましては、景気低迷の中、また国政・県政ともに新しい体制の中ではありま

が、市民生活の安定確保に向け、速やかな予算執行に当たられますよう強く要望いたします。

これで平成２２年度一般会計予算審査特別委員会の報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第１３号、平成２２年度対馬市一般会計予算を採決します。この採決は起立によって行います。本案に対する委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、議案第１３号は委員長報告のとおり可決されました。

お諮りします。議案第１３号が可決されましたので、平成２２年度一般会計予算審査特別委員会を終結したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、平成２２年度一般会計予算審査特別委員会は終結することに決定しました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３．議案第３号・議案第２１号・議案第２３号・議案第４２号・議案第４９号・議案第５０号・議案第４３号～議案第４５号・議案第４７号

○議長（作元　義文君）　日程第３、総務文教常任委員会に付託した議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）から、議案第５０号、市有財産の無償貸与についてまでの１０件を一括して議題とします。

なお、議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）は各常任委員会に分割して付託しておりますので、産業建設常任委員長の審査報告後、一括して審議することにしますので御了承願います。

各案について総務文教常任委員会の審査報告を求めます。総務文教常任委員会副委員長、初村久藏君。

○議員（１３番　初村　久藏君）　おはようございます。委員長が病気欠席のため、副委員長の初村が報告いたします。

総務文教常任委員会審査報告書。平成２２年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により本委員会に付託されました案件については、議長あて報告しており、既に皆様のお手元に配付されております。その経過と結果を、同規則第１０３条の規定により報告いたします。

当委員会は、平成２２年3月１８日、阿比留梅仁委員長は欠席でしたが、豊玉地域活性化センター3階第1会議室において、議会事務局、市長部局、消防本部、教育委員会の説明員の出席を求め、慎重に審査をいたしました。その結果を報告書の2ページから報告いたします。

議案第3号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第7号）のうち本委員会に係る歳入については、１款市税で収入見込みによる5，３０２万7，０００円の減、１０款地方交付税３億４，０６１万2，０００円の追加、１２款分担金及び負担金は、１項分担金及び2項負担金の事業費確定により増額、減額であります。１３款使用料及び手数料1項使用料1目総務使用料で移動通信用鉄塔施設使用料２８０万円の減、7目教育使用料で幼稚園使用料及び保健体育使用料の実績見込みによる１４３万7，０００円の減、１４款国庫支出金2項国庫補助金1目総務費国庫補助金で地域活性化・経済危機対策臨時交付金及び地域活性化・公共投資臨時交付金決定による増減と、地域活性化・きめ細かな臨時交付金追加による6億1，６２０万5，０００円の追加、8目教育費国庫補助金1節教育総務費補助金で事業実績による1億６４万8，０００円の減、3節中学校費補助金で豊玉中学校校舎及び体育館耐震化工事費3，２７３万3，０００円の追加、１５款県支出金2項県補助金1目総務管理費補助金で移動通信用鉄塔施設整備事業補助金等事業確定による3，５１０万1，０００円の減、3項委託金1目総務費委託金2節徴税費委託金1，２７３万9，０００円の追加、4節選挙費委託金1，０５７万8，０００円の減、１７款寄附金で一般寄附金と指定寄附金６２０万円の追加、２０款諸収入5項雑入で市町村振興協会基金配分金5，０００万円の追加、２１款市債1項市債1目総務債で移動通信用鉄塔施設整備事業債等確定による2，０００万円の減、8目教育債3節中学校債で豊玉中学校校舎及び体育館耐震化工事の追加による9，０３０万円の追加が主な内容でございます。

歳出については、1款議会費は、地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業における地デジ対応テレビ購入に係る執行残8万7，０００円の減額であります。

次に、2款総務費は、1項総務管理費5目財産管理費１５節工事請負費で地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業による豊玉地域活性化センター庁舎等改修工事4，８２８万6，０００円の追加、7目企画費１５節工事請負費でＣＡＴＶ施設整備工事等事業費確定による4，６６６万3，０００円の減、１８節備品購入費で移動通信用鉄塔施設備品購入費2，０００万円の減、１９節負担金補助及び交付金で対馬市地域交通検討委員会負担金等６７２万7，０００円の減、2項徴税費は、住民税年金特徴電子申告システム導入委託料の執行残１５１万2，０００円の減、

４項選挙費は、事業費確定による１，０５７万６，０００円の減額が主な内容となっております。

次に、９款消防費は、１項消防費３目消防施設費で上県出張所ほか７件の新築及び改築に伴い、１３節委託料で測量調査・設計監理等委託料１，７３１万８，０００円の追加、１５節工事請負費で２億１，２９７万５，０００円の追加が主な内容となっております。

次に、１０款教育費は、１項教育総務費２目事務局費２５節積立金で６，０００万円の追加、２項小学校費１目学校管理費１８節備品購入費の５，３５８万４，０００円の減及び３項中学校費１目学校管理費１８節備品購入費の４，８７１万２，０００円の減はＩＣＴ環境整備事業の実績によるものであります。４項幼稚園費１目幼稚園費１５節工事請負費で豆酘幼稚園維持補修工事費９８４万２，０００円の追加、５項社会教育費３目文化財保護費１５節工事請負費で金石城跡環境整備工事費１，３００万円の追加、６項保健体育費２目体育施設費１５節工事請負費で上対馬総合運動公園テニスコート照明点灯盤取替工事ほか２施設分として９２８万１，０００円の追加、１７節公有財産購入費で上県ふれあい広場用地購入費として１，２３２万３，０００円が主な内容となっております。

議案第２１号、平成２２年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算は、歳入歳出それぞれ３，６５３万１，０００円であります。

歳入については、１款事業収入は、１項旅客運賃及び２項貨物運賃の３１１万９，０００円、２款国庫支出金１，６６３万５，０００円及び３款県支出金６８０万６，０００円は国県の赤字航路事業補助金として、４款繰入金で一般会計繰入金として９８５万９，０００円、５款財産収入で基金利子として１万２，０００円、４款繰越金で前年度繰越金１０万円となっております。

歳出については、１款総務費１項総務管理費で嘱託職員の報酬、職員及び船員の人件費並びに旅費、旅客船協会等の負担金として２，８５１万円、２款施設費１項施設費で旅客船の運行に必要な燃料費、修繕料、ドックの際に必要な代替船舶の傭船料等の経費として７９２万１，０００円、４款予備費で１０万円となっております。

議案第２３号、平成２２年度対馬市風力発電事業特別会計予算は、歳入歳出それぞれ３，２７０万円であります。

歳入については、１款売電事業収益３，２４３万７，０００円、２款財産運用収入で財政調整基金利子１６万３，０００円、４款繰越金で前年度繰越金１０万円となっております。

歳出については、１款電気事業費１項営業費で嘱託職員の報酬、共済費等人件費並びに修繕料、保険料、施設点検業務委託等の風力発電施設の維持管理経費として１，５２４万４，０００円、２項営業外費用で消費税４６万７，０００円、２款公債費で元金及び利子の償還金として１，４９８万９，０００円、３款諸支出金１項基金費で財政調整基金積立金１５０万円、４款予備費で５０万円となっております。

議案第４２号、対馬市国民宿舎条例を廃止する条例については、国民宿舎上対馬荘を、効率的な運営と効果的なサービス提供により魅力ある宿泊施設とするため民間に譲渡しようとすることに伴い、廃止しようとするものであります。

議案第４３号、対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例については、予想を上回る退職者の増加による職員数の減少と国の行政運営の変化にも対応し、今後も引き続き、対馬に元気を取り戻すための施策実現に向けて組織の一部見直しをしようとするものであり、総務企画部地域振興課を廃止し、企画部門を地域再生推進本部へ、商工業部門を観光物産推進本部へ、統計業務部門を総務課へ、公園施設管理部門を管財課へ、自然保護部門は、環境衛生のみならず環境政策に取り組む課として拡充し、環境衛生課から名称を変更する環境政策課へ、さらに地域再生推進本部が所管する広聴及び行政改革部門を総務課へ、市民課が所管する墓地及び火葬場部門を環境政策課へ移管しようとするものであります。

議案第４４号、対馬市ネコ適正飼養条例については、動物愛護の精神に基づきネコの適正な飼養及び保管に関する事項を定めることにより、ネコの健康及び安全の保持を図るとともに、ネコが市民に迷惑を及ぼし、または絶滅のおそれのあるツシマヤマネコに害を与えることを防止し、もって対馬市の生活環境の保全及び生物多様性の確保に資することを目的に制定するものであります。

議案第４５号、対馬市教育施設整備基金条例については、主に小中学校の耐震化対策等に充てるものとし、財団法人長崎県市町村振興協会から交付された基金、市町村配分金を財源として、教育施設整備事業を計画的かつ円滑に促進するための基金を設置するため、地方自治法第２４１条第１項の規定に基づき制定するものであります。

議案第４７号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画については、上対馬町津和辺地の唐舟志から比田勝線に使用するスクールバス購入事業の事業費及び国庫支出金の減額に伴う変更計画案であり、今回の変更により、事業費が１，０００円減の５６２万１，０００円、国庫支出金が６１万１，０００円減の２２０万円、辺地対策事業債予定額が６０万円増の３４０万円と変更するものであります。

議案第４９号、市有財産の無償譲渡については、国民宿舎上対馬荘を民間に無償譲渡しようとするものであり、地方自治法第９６条第１項第６号の規定により議会の議決を求めるものであります。

同施設は、昭和５５年１２月６日の開業以来、２９年間が経過しております。経営状況は、開業から平成７年までは黒字でありましたが、近年は結婚式等の大型宴会の減少、観光客の減少などで経営状況はかなり苦しく、ここ一、二年の韓国からの観光客の減少は、経営難にさらに拍車をかけております。

また、宿泊施設、備品類等の老朽化が目立ち、安いというだけでは予約がとれなくなってきている状況であります。

このような中、指定管理者として運営を行っている財団法人上対馬町振興公社としては、今後運営ができない状態であります。北部対馬の振興を図る上で、１００人収容できる上対馬荘は、代替施設等が建設されない限り存続させる必要があると判断します。このため、国民宿舎上対馬荘の効率的な運営により、魅力ある宿泊施設とするため民間に譲渡しようとするものであります。

各委員の懸念としては、無償譲渡後、万が一経営が行き詰まり倒産し、土地の有効利用をするため建物の解体の必要が生じた場合、譲り受けた相手方が責任を持って解体できるのかという問題が投げかけられましたが、解体費用に見合う金額を、譲り受け者の現有不動産に抵当権設定することにより不測の事態に備えることとしているとのことであります。

議案第５０号、市有財産の無償貸与については、議案第４９号により無償譲渡する国民宿舎上対馬荘の土地を無償貸与しようとするものであります。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第２１号、議案第２３号、議案第４２号、議案第４３号、議案第４４号、議案第４５号、議案第４７号、議案第４９号及び議案第５０号の１０議案につきましては、慎重に審査し、採決の結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定しました。

以上で総務文教常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから、議案第３号を除く９件の副委員長報告について、一括して質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第２１号、平成２２年度対馬市旅客定期航路事業特別会計予算、議案第２３号、平成２２年度対馬市風力発電事業特別会計予算、議案第４２号、対馬市国民宿舎条例を廃止する条例、議案第４３号、対馬市行政機構の改革に伴う関係条例の整備に関する条例、議案第４４号、対馬市ネコ適正飼養条例、議案第４５号、対馬市教育施設整備基金条例、議案第４７号、辺地に係る公共的施設の総合的な整備計画について、議案第４９号、市有財産の無償譲渡について、議案第５０号、市有財産の無償貸与についてまでの９件を一括して採決します。この採決は起立によって行います。各案に対する副委員長報告は可決であります。各案は副委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、各案は副委員長報告のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第４．議案第３号・議案第１４号～議案第２０号

○議長（作元　義文君）　日程第４、厚生常任委員会に付託しました議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）から、議案第２０号、平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算までの８件を一括して議題とします。

各案について厚生常任委員長の報告を求めます。厚生常任委員長、大浦孝司君。

○議員（１６番　大浦　孝司君）　厚生常任委員会の審査報告を行います。

平成２２年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により本委員会に付託されました案件は、議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）のうち、歳入は所管委員会に係る歳入、歳出は３款民生費、４款衛生費、議案第１４号、平成２２年度対馬市診療所特別会計予算、議案第１５号、平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算、議案第１６号、平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算、議案第１７号、平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算、議案第１８号、平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算、議案第１９号、平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算、議案第２０号、平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算、以上８件の審査の経過と結果を、同規則第１０３条の規定により、次のとおり報告します。

当委員会は、３月１８日、豊玉地域活性化センター３階小会議室において、全委員出席のもと、市長部局より近藤市民生活部長、扇福祉保健部長並びに各担当課長の出席を求め、付託議案について慎重に審査を行ったところであります。

議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）、歳入は所管委員会に係る歳入、歳出は３款民生費、４款衛生費であります。

歳入の主なものは、１４款１項１目民生費国庫負担金８，５９８万３，０００円の減額、２項２目民生費国庫補助金４，５６４万円の減額であります。

歳出の主なものは、３款民生費１項１目社会福祉総務費１，３９７万７，０００円の減額、５目老人福祉費１，０７４万６，０００円の追加であり、主に２０節扶助費の養護老人ホーム入所措置費の決算見込み不足額による増額、２項１目児童福祉総務費３，７４９万８，０００円の減額、３項生活保護費２目扶助費４，４７５万円の減額。これは、保護世帯が見込みより少なかったことによる減額であります。４款衛生費１項１目保健衛生総務費１億８，７１２万６，０００円の追加は、長崎県病院企業団負担金が主なものであります。２項清掃費３，１１３万４，０００円は、

主に入札執行残による減額補正であります。

審査の中で、生活保護費に関連し報告しますと、昨年１２月末の対象者は1，０３８人に達し、扶助費は１４億2，２７１万3，０００円を見込んでおります。経済の低迷は深刻な状態で大変な時節でありますが、福祉保健部が窓口となり、今後より一層の適切な事務処理での対応を望むものであります。

議案第１４号、平成２２年度対馬市診療所特別会計予算、予算総額は、歳入歳出それぞれ３億６，８７５万1，０００円と定めるものであります。

歳入の１款診療収入２億5，７２２万6，０００円につきましては、豊玉、仁田診療所の収入見込みであります。歳入全体は、前年度対比1，５６２万6，０００円の増額となっております。

歳出につきましては、市の管轄する診療所は公設民営を含め１７カ所存在しており、これを運営する経費で、嘱託職員７名、嘱託医３名、各病院からの医師、看護師の派遣委託料、公設民営診療所の運営補助金が主なものとなっております。

議案第１５号、平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算、予算総額は、歳入歳出それぞれ５５億6，３１３万1，０００円と定めるものであり、対前年比２億5，７６３万1，０００円の増額であります。

歳入につきましては、１款国民健康保険税１３億1，０９５万8，０００円が計上されておりますが、平成２１年度の国民健康保険税徴収率は、現年分９０．７９％、滞納繰越分は１３．２１％が見込まれており、２２年度においては、さらに徴収率を高める努力を望むものであります。

歳出につきましては、２款保険給付費３５億3，５５３万円、３款後期高齢者支援金等６億９，４０１万9，０００円、６款介護納付金２億9，８６０万6，０００円、７款共同事業拠出金８億2，７７３万5，０００円であります。

審査の中で、４項出産育児諸費１目出産育児一時金3，７８０万円については、１件当たり４２万円の９０件分となり、通常の分娩費用は、ほぼ賄われるものと思われますが、さらに市独自で、これに追加した予算計上を、ぜひ検討していただきたいとの強い要望があっておりますので、あわせて報告します。

議案第１６号、平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算、歳入歳出総額は１６１万4，０００円と定めるものであります。

御承知のとおり、この老人保健制度は平成２０年度より後期高齢者医療制度に移行しており、本会計は過誤調整の最終年となっております。

議案第１７号、平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算、予算総額は、歳入歳出それぞれ3億3，５７８万5，０００円と定めるものであります。

歳入につきましては、１款後期高齢者医療保険料１億8，８７７万8，０００円となっており、

平成２１年度の徴収率は９８％を見込んでおり、２２年度においても同様に徴収率の向上を望むものであります。

なお、島内に該当する被保険者は５，４１３人を見込んでおります。

歳出の主なものは、２款１項１目後期高齢者医療広域連合納付金２億９，７４６万６，０００円となっております。

議案第１８号、平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算、予算総額は、歳入歳出それぞれ３１億５，５７２万２，０００円と定めるものであります。

歳入の主なものは、１款保険料４億４，５６４万９，０００円で、平成２１年度徴収見込みは９８％で高い推移を示しており、平成２２年度においても引き続き徴収率の安定を望むものであります。

歳出については、２款保険給付費２９億５，５８４万５，０００円が主なものでありますが、島内の６５歳以上の該当者は１万３９９人となっており、要介護認定者数は２月末で２，１７９人となっております。

議案第１９号、平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算、予算総額は、歳入歳出それぞれ１億２，０７４万５，０００円と定めるものであります。

歳入については、１款繰入金９，２４６万５，０００円、３款１項サービス事業収入２，８１８万円が主なものであります。

歳出については、１款１項地域支援事業運営費９，０９６万２，０００円が主なものでありますが、島内事業運営については、豊玉の地域包括支援センターに保健師を含め４人、北福祉保健センター（上県）に３人、南福祉保健センター（厳原）に４人の体制で行われているものであります。主な業務は、高齢者が要介護状態、要支援状態となることを予防するとともに、要介護、要支援状態となった場合でも、可能な限り地域で自立した日常生活を営むよう支援するものであります。

議案第２０号、平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算、予算総額は、歳入歳出それぞれ４億７，４７６万１，０００円と定めるものであります。

歳入については、３款繰入金１億２，０８４万７，０００円、５款１項介護給付費収入３億２５７万５，０００円が主なものであります。

歳出については、特養浅茅の丘５０床に係る管理費が２億２８８万７，０００円、特養日吉の里管理費２億４９７万８，０００円が主な内容となっております。

ちなみに、現在の入所待機者は、ともに１４人であります。

審査の中で、特養浅茅の丘の管理は、平成２３年４月１日より民間への指定管理へ移行する説明で、平成２２年１２月定例会までには指定管理者を決定し、３カ月の準備期間を経て行うとの

ことでありますが、委員会の意見としては、もっと早い段階でこれを決定し十分な準備期間を設けるべきとのことであり、これを参考にされまして事業の推進に当たってほしいと思います。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第１４号から議案第２０号までの８議案につきましては慎重に審査を行った結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

以上、厚生常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから、議案第３号を除く７件の委員長報告について一括して質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第１４号、平成２２年度対馬市診療所特別会計予算、議案第１５号、平成２２年度対馬市国民健康保険特別会計予算、議案第１６号、平成２２年度対馬市老人保健特別会計予算、議案第１７号、平成２２年度対馬市後期高齢者医療特別会計予算、議案第１８号、平成２２年度対馬市介護保険特別会計予算、議案第１９号、平成２２年度対馬市介護保険地域支援事業特別会計予算、議案第２０号、平成２２年度対馬市特別養護老人ホーム特別会計予算までの７件を一括して採決します。この採決は起立によって行います。各案に対する委員長報告は可決であります。各案は委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、各案は委員長報告のとおり可決されました。

暫時休憩します。開会を１１時１０分より行います。

午前10時56分休憩

……

午前11時10分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第５．議案第３号・議案第２２号・議案第２４号～議案第２６号・議案第４６号・議案第４８号

○議長（作元　義文君）　日程第５、産業建設常任委員会に付託しました議案第３号、平成２１年

度対馬市一般会計補正予算（第７号）から、議案第４８号、対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定についてまでの７件を一括して議題とします。

各案について産業建設常任委員長の審査報告を求めます。産業建設常任委員長、小川廣康君。

○議員（１７番　小川　廣康君）　産業建設常任委員会の審査報告を申し上げます。

平成２２年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により本委員会に付託されました案件は、議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）、歳入は所管委員会に係る歳入、歳出は６款農林水産業費、７款商工費、８款土木費、１１款災害復旧費、議案第２２号、平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算、議案第２４号、平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算、議案第２５号、平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算、議案第２６号、平成２２年度対馬市水道事業会計予算、議案第４６号、対馬市厳原港国際ターミナル条例、議案第４８号、対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定についての７議案であります。

その審査の経過と結果を、同規則第１０３条の規定により報告いたします。

当委員会は、３月１８日、豊玉地域活性化センター３階第２会議室において、全委員出席のもと、市長部局より、平山総務企画部長、比田勝農林水産部長、斉藤建設部長、阿比留水道局長、本石観光物産推進本部長と美津島、豊玉、峰、上県及び上対馬の地域活性化センター部長並びに担当課長の出席を求め慎重に審査をいたしました。

議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）のうち本委員会に係る歳入については、１２款分担金及び負担金において、農業施設分担金、林道事業分担金の追加、漁港整備事業分担金の減、漁港県工事事業分担金の増、急傾斜地崩壊対策事業分担金の減、農地農用施設災害復旧事業分担金の減により１７万円の追加、１３款使用料及び手数料において、道路占用料、公営住宅使用料で６２９万円の追加、１４款国庫支出金では１項国庫負担金４目災害復旧費国庫負担金において、道路災害復旧事業負担金と河川災害復旧事業負担金で２，８９１万円の減額、１５款県支出金では２項県補助金４目農林水産業費県補助金で地域活性化・きめ細かな臨時交付金等で７，９９０万８，０００円の追加、９目災害復旧費県補助金で５０６万９，０００円の追加であります。また、１６款財産収入は家畜導入牛売払収入による２３０万９，０００円の追加、２１款市債では農林水産業債、土木債、災害復旧債を４，６４０万円減額するのが主な補正であります。

歳出については、６款農林水産業費のうち農業振興費で工事請負費の減額と、イノシシ捕獲補助金、有害鳥獣被害防止対策事業補助金４，００２万４，０００円の追加等により３，８９４万１，０００円の追加、農地費では維持補修工事の追加等で３，１５６万６，０００円の追加、林業振興費でも維持補修工事の追加等で２億１，６８５万２，０００円の追加、漁港建設費では４漁港

の整備改修工事等で６，１５０万円の追加、７款商工費は、観光費で維持補修工事、国民宿舎上対馬荘清算補助金等で４，５９５万１，０００円の追加、８款土木費では、道路維持費で維持補修工事の追加等で１億９０５万９，０００円の追加、道路新設改良費で道路改修工事の追加等で７，８６８万７，０００円の追加、港湾建設費で比田勝港湾関連施設整備工事等の追加で３，０４６万円の追加、住宅管理費で維持補修工事の追加等で４，１１０万６，０００円の追加、１１款災害復旧費は、農林水産施設災害復旧費と公共土木施設災害復旧費で５，４９３万５，０００円を減額するのが主な補正であります。

議案第２２号、平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算は、歳入歳出それぞれ３８７万２，０００円で、歳入は一般会計からの繰り入れで、歳出は償還金利子であります。

議案第２４号、平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算は、前年度予算から２億１，５００万４，０００円減の９億２，７２４万３，０００円であります。歳入の主な減は一般会計繰入金と簡易水道事業債で、歳出については公債費の減によるものであります。

議案第２５号、平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算は、前年度予算と同額の歳入歳出それぞれ２，３６０万円とするものであります。

議案第２６号、平成２２年度対馬市水道事業会計予算は、収益的収入及び支出の予定額を、水道事業収益で２億４，００８万４，０００円、水道事業費用で２億３，４３４万４，０００円に、また資本的収入及び支出の予定額を、資本的収入で１億４，９５４万５，０００円、資本的支出を１億７，９２２万２，０００円と定めるものであります。

議案第４６号、対馬市厳原港国際ターミナル条例については、国境の町にふさわしい国際交流の拠点及び対馬南部の玄関口という位置づけを明確にすることにより、税関、入管及び検疫業務の円滑な推進と地域経済の浮揚を図るため、本条例を制定するものであります。

議案第４８号、対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定については、契約期間満了に伴い公募したところ６団体の応募があり、選定の結果、対馬市厳原町今屋敷７５０―１、有限会社上野食品、代表取締役上野正信氏を指定しようとするものであります。

なお、指定の期間は、平成２２年４月１日から平成２７年３月３１日までの５年間であります。

以上、本委員会に付託されました議案第３号、議案第２２号、議案第２４号、議案第２５号、議案第２６号、議案第４６号及び議案第４８号の７議案につきましては慎重に審査し、採決の結果、いずれも賛成多数により原案のとおり可決すべきものと決定をいたしました。

なお、審査の過程で委員から出されました意見を申し添えますので、今後の行政運営に反映されますことを望みます。

まず、イノシシの被害対策につきましては、厳しい財政状況の中、今回も１，７００頭分の捕獲補助金が追加され、合計６，２００頭分が予算計上されたことになります。昨年度は２，３４０頭

でありました。急増する農業被害とあわせて、今や市民にまで危害を与えようとする今日、抜本的な被害対策を講ずるべきであると思われます。

また、当委員会の所管する事業で、地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業、地域活性化・公共投資臨時交付金事業、合わせて６０事業、約５億１，７００万円が追加されています。

また、同事業による所管外の事業で３９事業、約３億７，４００万円が追加されていますが、このほとんどが建設部へ事業委託されることが思慮されます。執行権や人事権に介入するものではありませんが、初日の所管事務調査の報告で申し上げましたように、本市の危機的経済状況を考慮し、全職員一体となって早めの執行を望むものであります。

しかし、平成２２年度対馬市一般会計予算によりますと、土木総務費において職員の２名減の予算計上がなされています。本補正による事業は次年度に繰り越され、２２年度事業と合わせると事業件数は増大するものと思慮され、次年度においても執行の遅れが危惧されます。よって、このことにつきましても特段の配慮をされますことを強く要望をいたします。

以上で産業建設常任委員会の審査報告といたします。議員各位の御賛同を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから、議案第３号を除く６件の委員長報告について、一括して質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第２２号、平成２２年度対馬市公共用地先行取得特別会計予算、議案第２４号、平成２２年度対馬市簡易水道事業特別会計予算、議案第２５号、平成２２年度対馬市集落排水処理施設特別会計予算、議案第２６号、平成２２年度対馬市水道事業会計予算、議案第４６号、対馬市厳原港国際ターミナル条例、議案第４８号、対馬ふるさと伝承館の指定管理者の指定についてまでの６件を一括して採決します。この採決は起立によって行います。各案に対する委員長報告は可決であります。各案は委員長報告のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、各案は委員長報告のとおり可決されました。

次に、各常任委員会に分割して付託しておりました議案第３号、平成２１年度対馬市一般会計補正予算（第７号）について質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第３号を採決します。本案に対する各常任委員長の報告は可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３号は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第６．陳情第１号

○議長（作元　義文君）　日程第６、総務文教常任委員会に付託しておりました陳情第１号、核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の陳情についてを議題とします。

総務文教常任委員会の報告を求めます。総務文教常任副委員長、初村久藏君。

○議員（１３番　初村　久藏君）　総務文教常任委員会審査報告書。平成２２年第１回対馬市議会定例会において、会議規則第３７条の規定により本委員会に付託されました案件については議長あて報告しており、既に皆様のお手元に配付されております。その経過と結果を、同規則第１０３条の規定により報告いたします。

当委員会は、平成２２年３月１８日、阿比留梅仁委員長は欠席でしたが、豊玉地域活性化センター３階第１会議室において慎重に審査をいたしました。その結果を報告書の２ページから報告いたします。

陳情第１号、核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書の陳情については、広島市と長崎市が主宰する平和市長会議では、２０２０年までの核兵器廃絶を目指す「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を発表しております。この「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を、本年５月開催のＮＰＴ再検討会議において議案として提案し採択されるように、日本政府に働きかけを求める陳情であります。

本市は、原爆により多大な被害を受けた長崎市とは、同じ長崎県の自治体として核兵器廃絶を願うものであり、陳情の趣旨は深く理解するものであり、賛成多数により採択すべきものと決定しました。

以上で総務文教常任委員会の審査報告といたします。

○議長（作元　義文君）　これから副委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから採決を行います。この採決は起立によって行います。本案に対する副委員長報告は採択であります。お諮りします。陳情第１号について採択とすることに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、陳情第１号は採択とすることに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第７．議案第６２号

○議長（作元　義文君）　日程第７、議案第６２号、湯多里ランドつしまの指定管理者の指定についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。美津島地域活性化センター部長、長郷泰二君。

○美津島地域活性化センター部長（長郷　泰二君）　ただいま議題になりました議案第６２号、湯多里ランドつしまの指定管理者の指定について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

湯多里ランドつしまの指定管理運営につきましては、現在、社会福祉法人米寿会を指定管理者として管理運営を行っておりますが、本年３月３１日をもって契約期間満了となります。公の施設の指定管理については原則公募を行い、透明性や公平性を確保することが重要であることは認識をいたしておりますが、議員皆様におかれましては、既に議員全員協議会において説明し御理解をいただいておるところではありますが、湯多里ランドつしまについては、現在、対馬市の所有でない設備が存在し、指定管理者を一般公募により募集する環境にはございません。したがいまして、対馬市公の施設の指定管理者の指定手続等に関する条例第５条の規定により非公募といたしました。

しかし、指定管理者指定申請書の提出を求め、指定管理者選定委員会により事業関係を審査したところ、計画は妥当であることを認めました。候補といたしまして社会福祉法人米寿会、理事長米田征四郎氏を指定管理者として指定いたしたく、地方自治法第２４４条の２第６項の規定により議会の議決をお願いするものであります。

なお、指定管理期間は平成２２年４月１日から平成２３年３月３１日までの１年間といたしております。

以上で提案理由の説明を終わります。よろしく御審議いただきますようお願い申し上げます。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。本案は会議規則第３７条第２項の規定により委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第６２号は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第６２号を採決します。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第６２号は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第８．議案第６３号

○議長（作元　義文君）　日程第８、議案第６３号、工事請負契約の締結について（豊玉中学校校舎耐震補強・大規模改造工事）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。建設部長、斉藤正敏君。

○建設部長（斉藤　正敏君）　ただいま議題となりました議案第６３号、工事請負契約の締結について、その提案理由と内容を御説明申し上げます。

本案は、豊玉中学校校舎耐震補強・大規模改造工事（建築主体）にかかわる工事請負契約の締結であります。別紙入札結果一覧表のとおり、去る平成２２年３月９日、１２社を指名いたしましたが、そのうち２社が辞退したため、１０社により指名競争入札を執行いたしました。その結果、田中建設株式会社、代表取締役田中輝司雄氏が落札されましたので、契約金額２億１，８８６万４，１００円、うち消費税相当額１，０４４万２，１００円をもって請負契約を締結いたしたく議会の議決を求めるものであります。

工事概要につきまして御説明申し上げます。別紙添付の参考資料及び平面図等をごらんいただきたいと思います。

建築面積１，０６８平方メートル、延べ床面積２，９２２平方メートルの鉄筋コンクリート造３階建てであります。既設校舎の耐震補強工事として鉄骨ブレース補強工事１９カ所、鉄筋コンクリート耐震壁増設工事６カ所並びに大規模改造工事として屋根防水の改修７７６平方メートル、

外壁の改修１，３２３平方メートル、内部の改修はトイレ、建具取替、床改修、内部塗装などを施行しようとするものであります。

なお、工期につきましては平成２２年３月３１日までとしておりますが、次年度への繰り越しを予定しております。

以上、簡単ではございますが提案理由の説明を終わります。御審議の上、御決定賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。本案は、会議規則第３７条第２項の規定により委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、議案第６３号は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第６３号を採決します。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第９．同意第８号

○議長（作元　義文君）　日程第９、同意第８号、対馬市教育委員会委員の任命についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　ただいま議題となりました対馬市教育委員会委員の任命について、その提案理由を御説明いたします。

前教育委員の河合徹氏が平成２２年２月２８日付をもって辞職されましたので、その後任の教育委員として、対馬市厳原町天道茂４９２番地、梅野正博氏をお願いしようとするものでございます。

同氏は平成１６年３月に鶏知中学校を退職されるまでの間、公立中学校にて３７年もの間、教職を勤められております。退職後は教育委員会の自己点検・評価に係る外部委員など各種の行政

委員を始め、地区の役員などを積極的になされておられ、現在は公民館講座などで講師を務められるなど生涯学習にも幅広く携わられていらっしゃる方でございます。人望も厚く、識見ともに申し分なく、教育委員として適任と考え、議会の御同意をお願いする次第でございます。

なお、任期は平成２２年４月１日より、残任期間の平成２４年４月３０日でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。本案は、会議規則第３７条第２項の規定により委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、同意第８号は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから同意第８号を採決します。本案は原案のとおり同意することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。したがって、同意第８号は原案のとおり同意することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１０．発議第１号

○議長（作元　義文君）　日程第１０、発議第１号、対馬市議会委員会条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について提出者の趣旨説明を求めます。９番、堀江政武君。

○議員（９番　堀江　政武君）　発議第１号、対馬市議会委員会条例の一部を改正する条例について、対馬市議会議長作元義文様、提出者、対馬市議会議員堀江政武、賛成者、対馬市議会議員大浦孝司、賛成者、対馬市議会議員小川廣康。

上記の議案を、別紙のとおり地方自治法第１１２条第２項及び会議規則第１４条の規定により提出します。

対馬市議会委員会条例の一部を改正する条例（案）、対馬市議会委員会条例（平成１６年対馬

市条例第２３７号）の一部を次のように改正する。

第２条第１号中「総務企画部」を「総務部」に改め、「（観光商工に関する事項を除く。）」を削り、同条第３号中イを削り、ウをイとし、エからキまでをウからカまでとする。

附則、この条例は平成２２年４月１日から施行する。

以上のとおりであります。御審議の上、御同意賜りますようよろしくお願いをいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。発議第１号は、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、本案は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第１号、対馬市議会委員会条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、発議第１号は原案のとおり可決されました。

昼食のため、暫時休憩します。午後は１時から開会します。

午前11時46分休憩

……

午後１時01分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。急遽、議会運営委員会に諮問したいことが生じましたので、暫時休憩します。１時３０分から開会します。

午後１時01分休憩

……

午後１時55分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１１．発議第２号

○議長（作元　義文君）　日程第１１、発議第２号、永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める意見書についてを議題とします。

本案について提案者の趣旨説明を求めます。１３番、初村久藏君。

○議員（１３番　初村　久藏君）　ただいま議題となりました発議第２号について発議案を読み上げます。

発議第２号、平成２２年３月２４日、対馬市議会議長作元義文様。提出者、対馬市議会議員初村久藏、賛成者、対馬市議会議員大浦孝司、同小川廣康。

永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める意見書について、上記の議案を、別紙のとおり地方自治法第１１２条第２項及び会議規則第１４条の規定により提出します。

外国人参政権付与法案に反対する意見書（案）、「永住外国人に対する地方公共団体の議会の議員及び長の選挙権の付与に関する法律案」、通称「外国人参政権付与法案」を提出する予定と伺い、対馬市議会として反対の意見を申し上げます。

同法案は、日本国憲法の第１５条第１項は、公務員の選定・罷免を国民固有の権利と明記しており、また同法第９３条第２項は、「地方公共団体の長、その議会の議員及び法律の定めるその他の吏員は、その地方公共団体の住民が直接これを選挙する」と定めています。

この「住民」の解釈をめぐっては議論がありましたが、平成７年の最高裁判決は、「日本国民を意味するもの」と結論を下しました。つまり、外国人への参政権付与は憲法上問題があると言わざるを得ません。

この「外国人参政権付与法案」の危険性やその背景について、多くのことはさきの衆議院予算委員会で自民党の稲田朋美議員が質問をされております。民主党のマニフェストから削除して選挙をし、国民に信を問わず、国民主権の憲法を無視した「外国人参政権付与法案」を上程することは、日本国民、ひいては、対馬市民に対する裏切り行為です。「国境の島　対馬」という地理的な環境から、市民に不安を与える法案はくれぐれも慎重にしていただきたく存じます。

以上のことを踏まえ、今後の十分な審議のもとに、「永住外国人に対する地方公共団体の議会の議員及び長の選挙権の付与に関する法律案」、通称「外国人参政権付与法案」の反対と廃案を望み、反対の意見を申し上げます。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出いたします。

平成２２年３月２４日、長崎県対馬市議会。内閣総理大臣様、衆議院議長様、参議院議長様。

以上のとおりでありますので、御同意賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。発議第２号は、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、本案は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。反対ですか。２番、黒田昭雄君。

○議員（２番　黒田　昭雄君）　私は、発議第２号、永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める意見書の採択に反対の立場から討論いたします。

先般、松原一征氏が民間外国人として韓国から最高の勲章を受けられました。朝鮮通信使等に関する同氏の長年の活動に対する評価だったと思いますが、私は、対馬の歴史的な位置づけをいま一度確認する思いでありました。

皆様御存じのとおり、対馬は韓半島と友好を結んだときのみ発展してきた歴史を持つと言われております。豊臣秀吉の朝鮮出兵以来、我が対馬藩は韓半島と江戸幕府の友好をつなぐために多くの苦労をなしてきたことは御存じのとおりであります。

現在、永住外国人に地方選挙権を付与する法案が国会で問題となっておりますが、これからの日本そして対馬にとって、多文化共生の道を歩む以外に活路がないことをまず申し上げたいと思います。

では、現在問題となっている永住外国人とはどのような人々でしょうか。永住権は日本に１０年以上在住し、納税の義務を果たし犯罪も犯していない善良な外国人に付与されるものであります。１０年間といっても決して短い期間ではありません。日本で暮らし、日本語を習得し、納税し、まじめに働く外国人が、地域住民の一員として地方選挙権を通し日本の民主主義に参加する、このことのどこに問題があるというのでしょうか。

外国人選挙権は、短期で日本に来る旅行者に与えられるようなものでは決してありません。日本人と同じように地域に根づき、同じ人間として地域社会に生きている人々にどう意見反映の仕組みをつくるかという問題にほかならないのです。まして、歴史的経緯を持って日本に滞在する在日韓国、朝鮮人を中心とする特別永住者は、既に３世、４世の世代となり、日本で生まれ育ち学び結婚をして子をもうけ事業を起こし、この国に骨をうずめていこうとしている人たちです。生活実態は私たち日本人と全く変わりません。そういう地域住民に対して、住民自治の観点から地方選挙権のみを付与する制度であります。

既に世界では約４０カ国が何らかの形で外国人に地方参政権を付与しています。実はＯＥＣＤに加盟している３０カ国のうち、外国人参政権も二重国籍も全く認めていないのは日本だけなの

です。残念ながら国内の世論には、参政権が欲しければ帰化すればよいという無理解な主張も見られます。また、外国人に選挙権を与えると、日本人に害をなすと考える極端な意見も見られます。しかし、これからの時代を生きていく上で、対馬が対馬として、韓国人も日本人も同じ人間として生きていく社会づくりが必要だと考えております。そうした制度を形成していくのが何よりも我々政治の役割だと考えております。

本意見書は、日本国民ではない永住外国人に対し、地方公共団体の議員及び長の選挙権等を付与する法律の制定は憲法違反と断じておりますが、最高裁判決をきちんと読んだ人の意見とは到底思われません。平成８年２月２８日の最高裁判決は、法律をもって地方公共団体の長その議会の議員等に対する選挙権を付与する措置を講ずることは、憲法上禁止されているものではないと解するのが相当であると明確に述べております。つまり最高裁判例では、日本国憲法は外国人に地方選挙権を最初から保障しているわけではないが、仮に国会で議決した法律によって付与しても憲法違反ではない。つまり、立法府の裁量権の問題と明快に説いております。よって、永住外国人への地方参政権付与の法制化を憲法違反と断じることは絶対にできません。

既に国会では、十数時間にわたり審議されてきた法案です。自民党もそのことを容認し、自自公連立政権では政策合意に含めた問題です。国会はこれまで１２年間にもわたり憲法違反の法律を審議してきたというのでしょうか。今さら憲法違反などとよく言えたものだと思います。私は、国会において、永住外国人への地方参政権付与の法制化について真摯に議論をしていただきたいと念願しております。

そして、この法律の制定を憲法違反の可能性があると断じているこの意見書については、不採択とすることを主張し、私の反対討論を終わります。

以上でございます。

○議長（作元　義文君）　賛成の方の討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　これで討論を終わります。

これから発議第２号、永住外国人への地方参政権付与を反対するように日本政府に求める意見書についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　起立多数であります。本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１２．発議第３号

○議長（作元　義文君）　日程第１２、発議第３号、自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を

求める意見書についてを議題とします。

本案について提出者の趣旨説明を求めます。１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　ただいま議題となりました発議第３号、日本政府に提出する意見書について、提案理由とその内容を御説明をいたします。

対馬における自衛隊の責務は朝鮮半島有事の際の防備であり、そのために人・物資等の運送に航空機の滑走路を持つ飛行場の建設が必要条件であります。その自衛隊の飛行場を核に、米軍海兵隊普天間基地の訓練機能の分散による一部分の部隊として、ヘリコプター部隊等の訓練のために、対馬に誘致することを求める意見書を日本政府に提出するものであります。

以下、その内容について御説明を申し上げます。

発議第３号、平成２２年３月２４日、対馬市議会議長作元義文様。提出者、対馬市議会議員小宮教義、賛成者、対馬市議会議員齋藤久光、同大浦孝司。

自衛隊増強と米軍普天間基地飛行場移設の誘致を求める意見書について、上記の議案を、別紙のとおり地方自治法第１１２条第２項及び会議規則第１４条の規定により提出をいたします。

自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を求める意見書（案）、日本国の西北端に位置する国境の島、対馬は、古来より防人の島として、防備の先端をつかさどってきました。現在、陸上自衛隊、海上自衛隊及び航空自衛隊の３基地を有しており、朝鮮半島を近くに臨むまさに大陸との国境防衛の要であります。その重要な位置にありながら、滑走路を伴う航空自衛隊の基地がいまだに整備されていません。

沖縄の米軍普天間飛行場の移設をすることで、日米共同の基地利用が可能になり、東アジアにおける国防上の役割も期待できます。対馬は、南北に８２キロメートルを有し、外国人観光客も年間約７万人来ており、憂慮の念はないと言えます。

疲弊した離島対馬は、近年急速な人口減少の一途をたどり、民間の企業誘致は皆無に等しく、現実問題として国策に頼らざるを得ない状況です。基地の誘致等により、雇用の確保、公共事業及び国の振興策により島の活性化が図られるとともに、日米間の信頼の構築にもつながります。

よって、ここに、「自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を求める意見書」を提出をいたします。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出いたします。

平成２２年３月２４日、長崎県対馬市議会。提出先、内閣総理大臣様、防衛大臣様。

以上でございます。１人でも多くの御賛同を賜りますようにお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　提出者にお尋ねをいたします。今の意見書の内容を見てみますと、普天間基地を誘致して島の雇用あるいは景気対策に買おうということでありますけれども、

現実は今、連日のようにマスコミ等で沖縄の普天間基地の移設問題が取り上げられております。こういう状況の中で、候補地として上がった自治体の長はそろって反対をしているのが現状だと思っております。あえてこの時期に対馬に誘致しようとするその真意をまずお尋ねをいたします。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　お答えをさせていただきます。今回の普天間基地の飛行場の誘致でございますが、この普天間基地というのは議員御案内のとおり第１海兵航空師団に属するわけでございます。その中で第３６航空群、ＭＡＧ３６と言うんですが、それが主になってやっておるわけでございます。

私が申し上げたいのは、機能そのものが来るということはこれは基本的にはできないと思います。その中で先ほども申しましたが、訓練機能の分散ということをすれば、先ほどの今までの米軍の犯罪等についても対応できるんじゃないかと思います。と申しますのは、どのような形で分散をするか、機能を分けるかということでございますが、この部隊の配列を見てみますと、これは第１航空師団ですね、その中におきましては８個の訓練の飛行隊がございます。その中の一部を移すということでございます。その中に、８個ございますが、その第１が第１海兵航空師団の司令部が一つございます。そして第２に、ＭＡＧ３６の普天間航空基地飛行隊、第３が同じＭＡＧ３６の１５２の飛行隊、そして同じく２６２の中型ヘリコプターの飛行隊、そして５番目に同じくＭＡＧの中型ヘリコプターの飛行隊、そして６番目が攻撃ヘリの飛行隊そしてヘリコプター飛行隊、これは群重の分です。そして第８番目が、これは別のやつになりますが、ＭＡＧ３１のその部隊の中に２６２及び２６５の中型ヘリコプターの混合飛行隊がございます。全部で８ございますが、その中の４番から５番のヘリコプター飛行隊、これを対馬に誘致を、訓練機能の分散を図るということでございます。これかどれかを対馬のほうに来ていただくと。そして、そもそも冒頭申しましたが、飛行場は航空自衛隊が核になり航空自衛隊が管理をして、定期的に先ほどの機能分散のところから練習に来て、そして終わればまた沖縄などに帰るというふうなことでございますので、議員が御指摘の米軍による犯罪とかそういうものは発生しないんじゃないかと私は理解をしております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　詳細な説明をいただきまして、私が申し上げてるのは、機能の分散とかなんとかいうよりは、対馬に普天間基地を誘致しようという動き自体に問題が一つあるのではないかと。確かに島の振興策には一つの選択肢として考えられることはあると思いますが、まず島内の市民の理解が得られるのかどうか、例えばヘリコプター部隊あるいはその他の戦闘機あたりは今のお話では来ることはないかもわかりませんが、騒音問題、アメリカ兵によるトラブ

ルといいますかあるいはいろんな事件が連日のように報道されている、そういう中で対馬の治安が果たして守られるのか、そういうことを考えますと、この問題は時期尚早ではないかなと私はそう思っております。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　お答えいたします。なぜこの対馬に必要なのかということでございますよね。この対馬は先ほど申しましたけども、朝鮮半島に非常に近うございます。そして一番懸念とするところは北朝鮮の動向でございます。有事の際に、じゃあ対馬がどうあるべきなのか、これは有事になりますとたくさんの難民が寄せてくるわけでございます。それにどう対処するかということは、ある一定の人・物を運ぶ場所が必要でございます。そのためにはやはり、これを契機に飛行場の建設をする、それによって対馬が有事の際に対応ができるというふうに思います。

それと、いろんな犯罪でございますが、先ほど申しましたように、これは常駐であれば確かに犯罪等も生ずるかもしれませんが、普天間基地の訓練機能の一部を例えば中型ヘリコプターとか大型ヘリコプターですね、ＣＨ５３ですか、そういうようなものの１０機、２０機が来て、１カ月に何回か来て、そしてそこで訓練を終えて帰るわけですから、訓練中は特別なことがない限りそのエリアから出ることはないと思います。訓練が終われば帰るわけですから。そうすることによって日米においての信頼の構築にもつながると。ひいては、この対馬が有事の際にはそれしかございません。私も自衛隊増強特別委員会のときに申し上げておったんですが、ならば、対馬空港があるじゃないかというお話でしたが、これは私どももいろいろ調査研究しましたら、運送の飛行機、大きい運送機についてはその機能を達してないということがございます。厚さが足らないそうでございます。そういった意味では、ぜひこの対馬の有事のためにもこの飛行場をつくって、その飛行場を管轄するのはこれは航空自衛隊、日本の自衛隊がするわけです。そして練習に機能練習の普天間基地なりそこから来て、そして一定の練習を終えて帰るということでございますから、議員御心配の犯罪等も発生しないと。ひいてはこれは対馬の国境における警備の重要な位置づけになるんじゃないかと思っております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　１２番、三山幸男君。

○議員（１２番　三山　幸男君）　確かにあの朝鮮半島に有事が発生したときは、対馬に難民が押し寄せてくるそういう可能性はあるかと思います。しかし逆に、普天間基地の一部を対馬に誘致することによって、北朝鮮に対する脅威が増してくるんじゃないかと、そういう懸念も心配を私は持たざるを得ないと思います。で、部隊の訓練だけということでありますけれども、そうなれば対馬市民はヘリコプターの騒音に悩まされる可能性が大いにあります。そういうことからして、

私はこの問題には私の考え方として反対をさせていただきます。（発言する者あり）

○議長（作元　義文君）　質疑ですか。９番、堀江政武君。

○議員（９番　堀江　政武君）　提出者に１点お尋ねします。今の話では、ヘリコプターの訓練基地を対馬にという話のようでございますが、私が報道されていることを聞いた範囲では、普天間基地より沖縄の周辺の島でさえ、少し離れたらそういう基地はつくれないという米軍の話だと聞いておりますが、普天間からここまでわざわざ訓練に来ることが可能なんですか。私は今言いましたように、沖縄から少し離れたところでも到底訓練基地はできないというように聞いておりますが、それはどういう見解でしょうか。

○議長（作元　義文君）　１０番、小宮教義君。

○議員（１０番　小宮　教義君）　訓練する基地が沖縄から少しでも外れることは誘致をできないという話ですよね。御存じだと思いますけども、大阪の知事さんもこの機能分散については賛成をしておられます。特に、山口に岩国基地がございますが、ここはＭＡＧ１２の部隊がおるわけですが、ある程度の機能の分散ということも実際に山口県においてもされておられます。

そういうことからしますと、この対馬は沖縄からかなり近いというふうな位置になろうかとは思いますが、先ほど沖縄の中においてもその基地は難しいというお話がございました。多分、名護市の近くの島があるんですが、勝連半島というところです。そこに計画がございましたが、御案内のとおり名護市もこういうふうな状態でございますから難しいということで聞いております。

以上です。

○議長（作元　義文君）　はい、ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　これで質疑を終わります。

お諮りします。発議第３号は、会議規則第３７条第２項の規定によって、委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、本案は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。９番、反対ですか。賛成ですか。反対討論、９番。

○議員（９番　堀江　政武君）　発議第３号、自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を求める意見書について、反対の立場で意見を述べさせていただきます。

この普天間飛行場の移設につきましては、毎日、新聞、ラジオ等で報道がなされており、皆様十分御承知のとおりでありますが、このことにつきましては、前政権のもとで十数年かけて米国、

沖縄県との協議がなされ、ようやく名護市キャンプ・シュワブへと決定がされたところであります。しかし、政権が変わり鳩山政権において、県外、国外へと計画が進められてきたところであります。が、今もってその場所は決定されておりません。沖縄には駐留米軍の７割があると言われております。戦後六十数年間にわたり、沖縄県民の方々は騒音と事件、事故に悩まされてこられました。早く撤退をしてほしいと言われる県民の方々のお気持ちは十分理解でき、大変お気の毒とは思いますが、国と国との約束事であり、政府も沖縄県民の方々、名護市の方々に理解をしていただくよう努力すべきだと思います。

また、日米安保条約は堅持すべきと思いますが、次の早い時期に駐留米軍の大半は徹底していただくべく協議をしていただきたいと思います。このような多くの外国の軍隊が駐留する国はどこにもないと言われているところであります。そこで、この普天間飛行場を対馬にということでありますが、先ほど申し上げましたとおり、沖縄県民の方々は本当に長い間騒音と事件と事故に苦しめられてこられました。多くの方々が被害に遭われつらい日々を送られてきたと言われております。対馬ではそのような犯罪は絶対に起こらないという保障はどこにもありません。また、この問題は非常に大きな問題であり、議会といえども市民の方々の意見を聞くこともなく、誘致を求めるべき問題ではないと思います。

よって、発議第３号、自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を求める意見書について反対するものであります。

以上。

○議長（作元　義文君）　賛成討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　これで討論を終わります。

これから発議第３号、自衛隊増強と米軍普天間飛行場移設の誘致を求める意見書についてを採決します。この採決は起立によって行います。（「投票」と呼ぶ者あり）

投票の宣告に対して賛成の方の起立を求めます。投票に賛成の方、起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（作元　義文君）　会議規則第７０条第２項の規定により、２人以上の賛成がありましたので、無記名投票採決を行います。

議場の出入り口を閉じます。

〔議場閉鎖〕

○議長（作元　義文君）　ただいまの出席議員は２０人であります。

投票箱を点検します。職員は議員に向かって投票箱を見せ、異状のない旨を議長に報告してください。

〔投票箱点検〕

○議長（作元　義文君）　異状なしと認めます。

投票用紙を配付します。

〔投票用紙配付〕

○議長（作元　義文君）　投票用紙の配付漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　配付漏れなしと認めます。

これより投票を行います。本案について、可とする議員は、賛成と、否とする議員は、反対と記載の上、１番議員より順次投票を願います。

〔議長点呼・議員投票〕

……

１番	脇本　　啓議員	２番	黒田　昭雄議員
３番	小田　昭人議員	４番	長　　信義議員
５番	山本　輝昭議員	６番	松本　暦幸議員
８番	齋藤　久光議員	９番	堀江　政武議員
１０番	小宮　教義議員	１１番	阿比留光雄議員
１２番	三山　幸男議員	１３番	初村　久藏議員
１４番	糸瀬　一彦議員	１５番	桐谷　　徹議員
１６番	大浦　孝司議員	１７番	小川　廣康議員
１８番	大部　初幸議員	１９番	兵頭　　栄議員
２０番	中原　康博議員	２１番	島居　邦嗣議員

……

○議長（作元　義文君）　投票漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　投票漏れなしと認めます。投票を終了します。

議場の出入り口を開きます。

〔議場開鎖〕

○議長（作元　義文君）　開票を行います。会議規則第３１条第２項の規定によって、立会人に山本輝昭君及び松本暦幸君を指名します。両議員の立ち合いをお願いします。開票してください。

〔開票〕

○議長（作元　義文君）　投票の結果を報告します。

投票総数２０票、これは先ほどの出席議員数に符合しております。そのうち有効投票２０票、

無効投票０。有効投票中、賛成、３票、反対、１７票。

したがって、発議第３号は否決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１３．常任委員会の閉会中の所管事務調査について

○議長（作元　義文君）　日程第１３、常任委員会の閉会中の所管事務調査についてを議題とします。

総務文教常任委員会、厚生常任委員会、産業建設常任委員会より、お手元に配付のとおり閉会中の所管事務調査の申し出があっております。

お諮りします。地方自治法第１０９条第６項の規定による閉会中の所管事務調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、閉会中の所管事務調査は申し出のとおり決定いたしました。

暫時休憩します。

午後２時42分休憩

……

午後２時45分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

お諮りします。各議員へ配付のとおり、発議第４号が提出されました。これを日程に追加し、追加日程第１として議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、発議第４号を日程に追加し、追加日程第１として議題とすることに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

追加日程第１．発議第４号

○議長（作元　義文君）　追加日程第１、発議第４号、核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書についてを議題とします。

本案について、提出者の趣旨説明を求めます。１３番、初村久藏君。

○議員（１３番　初村　久藏君）　ただいま議題となりました発議第４号について説明を申し上げます。

発議第４号、平成２２年３月２４日、対馬市議会議長作元義文様、提出者、対馬市議会議員初村久藏、賛成者、対馬市議会議員大浦孝司、同、小川廣康。

核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書について、上記の議案を別紙のとおり地方自治法第１１２条の第２項及び会議規則第１４条の規定により提出します。

「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のＮＰＴ再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書（案）。

人類史上最初の原子爆弾の惨禍を経験した広島市は、この悲劇が再び起きることがないよう全世界に対し一貫して核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。昨年４月のオバマ米国大統領の「核兵器のない世界」に向けた演説以降、米国とロシアとの第１次戦略兵器削減条約の後継条約の交渉開始、核不拡散・核軍縮に関する国連安全保障理事会首脳級会合における全会一致での決議の採択、同会合での鳩山総理の核兵器廃絶の先頭に立つとの決意表明、我が国が米国などと共同提案した核軍縮決議案の国連総会での圧倒的多数の賛成を得ての採択など、核兵器廃絶に向けた世界的な流れは加速しています。こうした歴史的な流れをさらに確実なものとし、核兵器廃絶を早期に実現するためには、明確な期限を定めて核保有国を始め、各国政府が核兵器廃絶に取り組む必要があります。このため広島・長崎両市と世界の３，５６２都市が加盟する平和市長会議では、２０２０年までに核兵器を廃絶するための具体的な道筋を示した「ヒロシマ・ナガサキ議定書」が２０１０年のＮＰＴ再検討会議で採択されることを目指しています。よって、国会及び政府におかれては、「ヒロシマ・ナガサキ議定書」の趣旨に賛同し、２０１０年のＮＰＴ再検討会議において、同議定書を議題として提案していただくとともに、その採択に向け核保有国を始めとする各国政府に働きかけていただくよう強く要請します。

以上、地方自治法第９９条の規定により意見書を提出いたします。平成２２年3月２４日、長崎県対馬市議会、提出先、内閣総理大臣様、総務大臣様、外務大臣様、衆議院議長様、参議院議長様。

以上のとおりでありますので、御同意よろしくお願いをいたします。

○議長（作元　義文君）　これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。発議第４号は、会議規則第３７条第２項の規定によって委員会への付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、本案は委員会への付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　討論なしと認めます。

これから発議第４号、核兵器の廃絶と恒久平和実現に関する意見書についてを採決します。

お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

お諮りします。本会議における議決の結果、条項、字句、数字、その他において整理を要するものがあろうかと思料されます。その整理権を会議規則第３４条の規定によって、議長に委任願います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（作元　義文君）　異議なしと認めます。したがって、整理権は議長に委任することに決定しました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（作元　義文君）　以上で、本日の議事日程はすべて終了しました。

市長よりあいさつの申し出があっておりますので、受けます。

市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　閉会に当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本定例会におきましては、３月８日から１７日間の長きにわたりまして慎重に御審議いただき大変ありがとうございました。おかげをもちまして、御提案申し上げましたすべての議案につきまして御決定賜り、厚く御礼申し上げます。

また、追加議案として御提案申し上げました対馬市教育委員会委員の任命についての同意議案につきましても、御同意賜りありがたく感謝申し上げます。

本定例会にて議決いただきました案件につきましては、適正な事務処理に努めまして速やかに対処してまいりたいと存じます。

また、本定例会、一般質問での大浦孝司議員のあそうベイパークの指定管理者の選定についてのお尋ねの件につきましては、会期中の３月１８日に大浦孝司議員と小宮教義議員を交え市役所にて詳細にわたり御説明をさせていただきました。結果、事務処理の中で一部誤解を与えるような事務処理がございましたが、疑念を抱かれるようなことではなく、議員は御理解いただいたところでございます。今回のように皆様へ誤解を与えるようなことになりましたのは、事務処理の処理手続きが一因となったものとお断り申し上げる次第でございます。

次に、昨年より十八銀行佐須奈出張所ＡＴＭの廃止の問題について、皆様へ御心配をおかけしておりました件についてでございますが、地域の皆様の存続に向けた熱い思いを十八銀行の執行役員へ伝え、粘り強く協議を続けてまいりましたところ、このたび上県地域活性化センター敷地

内へ移転存続の形で協議が整ったところでございます。このことにつきましては、センター部長より、４月９日より上県地域活性化センター地内にてＡＴＭが利用できるようになりますと報告を受けたところでございます。地域の皆様の熱い思いをくんでいただき、今回の決断をされた十八銀行の関係者の皆様に深く感謝申し上げる次第でございます。

また、本日の冒頭、糸瀬一般会計予算審査特別委員長から、ＣＡＴＶに平成２２年度の予算の概要が放映されたことに対して注意がありましたが、議会運営委員会、それから開会日には議案の内容について説明をしてるところであり、国・県においても審議直前に概略を国民、県民へ広報されていることを考慮していただきたいというふうに思います。

平成２２年度も目の前に迫ってきておりますが、今定例会で審議いただきました組織機構の改正議案が議決いただきましたので、あす３月２５日に職員の人事異動の内示を予定しております。異動の規模は部署名の変更にかかるものも含め、１７９名となっております。業務が複数の課に分散されていた問題や、環境問題などに対処していくため、地域再生推進本部の拡充さらに「環境衛生課」を「環境政策課」として環境問題を一体化して取り組んでいけるよう強化したものとなっております。

さて、対馬市は本年３月に合併７年目を迎えるようになりました。私も平成２０年３月２８日就任以来、市政を担当して３年目になるわけでございます。折り返しの節目の年に当たり、いま一度初心に返り市政にしっかりと取り組んでまいる所存でございますので、議員皆様のいま一層の御指導、御協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の御健勝と今後ますますの御活躍を祈念申し上げ、閉会のあいさつといたします。どうもありがとうございました。

○議長（作元　義文君）　閉会に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

平成２２年の第１回定例会は、未曾有の大雪もありまして、一部日程の変更も行いましたが、議案全般にわたり熱心に御審議をいただきまして、ここに滞りなく閉会の運びとなりました。議員各位はもとより、市長以下市幹部の方々の御協力に対して心からお礼を申し上げます。

また、審議の中で出ました貴重な意見や指摘事項、また各委員長報告の重点指摘項目等は各担当部で十分検討され、急を要するものは早急に配慮し、検討を重ねるものについては、十分検討して今後の行政運営に生かされることを要望しておきます。

皆様方の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、閉会のあいさつといたします。

会議を閉じます。平成２２年第１回対馬市議会定例会を閉会します。お疲れさまでした。

午後２時58分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議　　長　作元　義文

署名議員　小田　昭人

署名議員　長　　信義

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

議　　長

署名議員

署名議員